丹波志 上巻

南桑田郡

京都府立総合資料館所蔵

特
992
31
2

○北村先生編　丹波誌　一部拾五卷

先生に請ひて二部を淨寫し
京都帝國大學圖書館と京都
府立圖書館に各一部を寄託
す

大正拾四年七月一日

北村龍象先生喜壽會

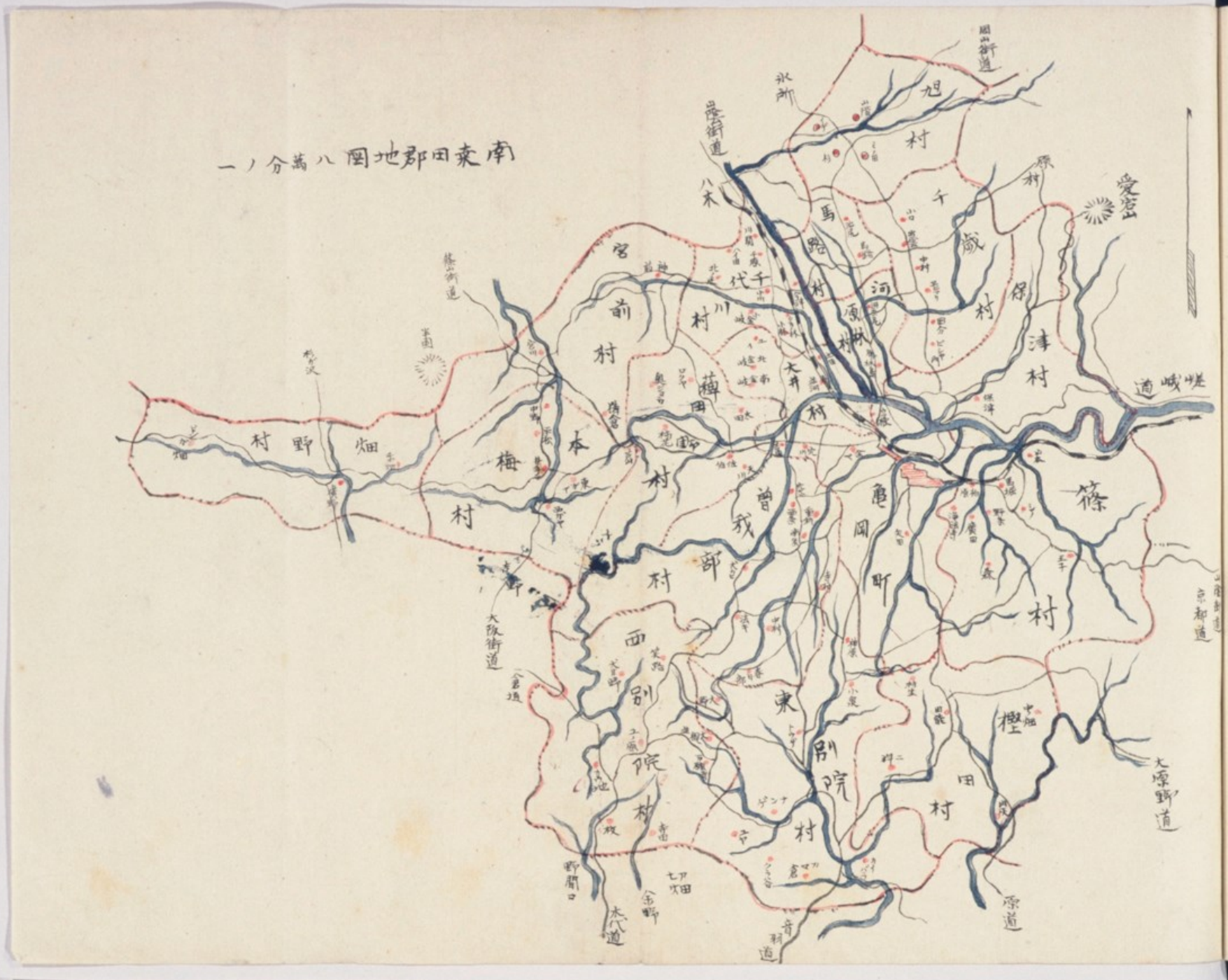
（北村先生喜壽會結末報告書を添附す）

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

坐猿
右手ヲ伸ス
張

京都府立総合資料館所蔵

丹波誌

南桑田郡

文政元年主基方丹波国庭鳥台帖和歌十八首

ミ内

桑田里家ゝ養蠶　右少將西園寺隆光

むかしの母なる世乃しるしとて年ゝみ桑田乃里ゝまゆひすらなり

郡名ハ桑ヲ産スル田野ノ義ニシテ延喜式ニ載スル所綾羅絹絲ヲ奉貢シタルニテモ知ルベシ口碑コレヲ傳ヘ古歌コレヲ證ス　池邊莊ハ大堰川迤北拾壹箇莊名ニレラ小川莊トハ馬路村千代川村方面ノ名ナルニ似テ口碑ニ於テモ舊記ニ於テモ大同小異ナリ延喜式ニ供氷丹波國桑田郡池邊ノ

京都府立総合資料館所蔵

氷室トアリ　南桑田郡ハ其ノ原一郡ナリシヲ明治十二年政治區ノ改正ニヨリ之ヲ二分ス本誌亦コレニ倣ヒ先ヅ南郡ヨリ記載ス　歌題主墓ノ丁　総論及ビ大嘗會抜穂ノ條等所々ニ散見ス

本郡ハ丹波國ノ東南ニ位シテ伏竜ノ右手ニ當ル（総論丹波國地勢論参看）東ハ一帶ノ山脈ヲ以テ山城ノ葛野乙訓両郡ニ疆シ西北ハ船井郡ニ接シ南ハ摂山相層リテ攝津ノ嶋上能勢二郡ニ突出シ北ハ旭村ヲ以テ北桑田郡神吉村ト相隣ル

郡内北部ハ概ネ平曠ニシテ肥田沃野相連リ耕耘ニ從事スルモノ多ク採樵漁獵舟楫ニ從事スルモノ聊相錯ル其ノ亀岡ハ專南半南ノモノ多ク郡中富有ノ町トシ人口一國ニ冠タリ其ノ南方ハ山嶽重疊シテ耕地ニ乏ク採樵ニ生計スルモノ少カラズ村落散在シ人烟稀少ノ所多シ細野村ノ如キ舊三村ヲ合セテ新一村ヲ造リ彼ヨリ此ニ及ブノ里程殆ンド一里而シテ其ノ中間山林草野モラ塞ガルノ奇觀モアリ他郡ニハ枚擧ニ遑アラザルモ本郡ニハ希有ナリ

和名類聚抄以下古書ニ地名ヲ記ス或ハ萬葉假字ヲ附シ或ハ字傍ニ片假字ヲ附ス左ニ之ヲ掲グ

桑田郡　小川（乎加波）　桑田（久波多）　漢部　宗部

川土（加波無土）　荒部　池邊　弓削　山國　有頭

横作　佐伯

京都府立総合資料館所蔵

仁德天皇十六年戊子七月朔天皇以宮人桑田玖賀媛示近習舍人等曰朕欲愛是婦女若皇后之妬不能合以經多年何徒棄其盛年乎即歌曰

瀰儺水雷庶赴經於瀰匡能鳥苫咩女鳥

多例誼椰始儺播務

於是播磨國造速待獨進之歌曰

瀰箇始報嚴潮破利摩播磨波椰摩智速待以播區耶者崩輸伽之古俱等望雖可畏阿例吾椰始儺破務養

即日以玖賀媛賜速待明日夕速待詣于玖賀媛之家而玖賀媛不和乃強迫惟內時玖賀媛曰妾寡婦以終年何能爲君之妻乎於是天皇聞之欲遂速待之志以玖賀媛副速待送桑田則玖賀媛發病死于道中故於今有玖賀媛之墓也

小泊瀨天皇天武烈皇崩無嗣迎足仲彥天皇五世孫倭彥王於丹波國桑田郡王見迎兵懼失色遁去

本郡ノ東南ニ方ニアリテ隣州ヲ隔斷スル一帶ノ山脈流レテ波線高低ヲ爲ス其ノ大ナルモノ高キモノハ國木ガ鼻寶山大峠明神嶽湯屋嶽ハ攝津ニ接シテ國界ヲ爲シ萬緩峠ハ山城ニ界シ矢田中山鷺山等コレニ伴隨ス

國府トシテ一國ノ政治ヲ執リタル丹波守丹波介以下屬官僚吏ノ居處ハ本郡ニ在リタルモ其ノ遺蹟知ルベカラズ拾芥抄和漢三才圖會ニ桑田郡ニ

京都府立総合資料館所蔵

アリト記セリ而ルニ船井郡北屋賀村ニ於テ之レ
アリタルノ碑ヲ存ス　和名抄ニ丹波國府在桑
田郡行程上ッ一日下リ半日管六郡トアリ是レニ
因レバ南桑田郡ニアリシナラン船井郡ニテハ下
リ半日ニシテ當着スル難ケレバナリ今日道路
改修セラレテ猶且然リ況シヤ往前ノ險惡ナルニ
於テヲヤ國府址ノ廢滅其ノ早キモノハ山城大和
摂津ニシテ丹波モ亦アノ中ニアリ
桑田神社ハ篠村ノ山本ニアリ桑田寺ハ曾我部村
ノ寺村ニアリ（山本寺村ノ部参看）
古來桑田郡名所トナリ歌詠文章等ニ入リタルモ
ノハ増井　川人里　慶敬岡　八千代池　稲春岡

小松嶋　神吉郷　桑田郡　穂津村　足穂村
並河村　川関津　石代山　星尾山　月呼森
鳥居村　千年山
和名抄ニ川人郷ヲ載セ註シテ加波無土ト呼バセ
又荒部郷横作郷等ヲモ記セドモ今ハ判然タラズ
石代山モ亦然リ増井川関月呼千年鳥居並河等ハ
本郡篠村千代川村馬路村千年村北桑田郡山國村
等ニ別記ス名字ヲ以テ調査セヨ

文政元年十月主墓丹波國御屏風和歌十八首ノ内

石代山採日蔭草　右少辨山五位菅原朝臣　隆光

ひかけくさ動る故に代乃為志とて いもーろ山よとりそなるあける
見原巷軒が此の歌ハ京ニ近くーて大江乃坂の山もとりつ

京都府立総合資料館所蔵

隔たり[illegible]れと民俗人家すべて[illegible]あこゝ方よりはりていぶせく
いやしと言へりしハ人家ノ屋根ガ藁葺ニシテ檐低
クヽ其ノ横面ナルベキヲ正面トシ而モ町並ノ揃
ハヌ所ヤ城下ナルニ婦人ノ服裝ガ無下ニ鄙振リ
タルヲ詳セシナルベシ明治ノ御代ニ入リテ俄然
面目ノ更新セリ而シテ横面家屋モ寥々タリ
方里　東西五里三十一町ヲ最長ノ所トシ南北五
里七町亦同ジ
面積　八方里九分三釐
耕地　四千百十町一段　九年調査
地價　貳百五萬貳千四百拾七圓拾貳錢　十四年調査
村數人口高附小學

正保年間　南北合郡　百八十七村　高四萬九千五石八斗四升九合
元祿年間　同　二百十四村　高五萬三百八十五石三斗四升五合六勺
明治元年　南桑田郡　一町九十二村
同　年　同　一町十七村　町村制施行ニ付沿革ス
同十四年三月　同　現在戸數七千五百六十一個
同十五年　同　七千六百六十一個　人口三萬五千七百五十餘
同三十一年　同　人口　三萬九千四百五十　戸數七千三百二十
内　男二萬八十七人　女壹萬九千三百六十三人
同四十年十二月　人口　三萬九千五百三十四　戸數七千百六十六
内　男壹萬九千八百四人　女壹萬九千七百三十人
同　年　小學　二十一所
南北桑田郡高帳並納所　文久年度改

京都府立総合資料館所蔵

高合五萬二千六百七十七石八升一合六勺　南桑田郡郡萬一千八百六十六石

内

七千三百二十三石九斗三升八合五勺　御代官所

千五百五石八斗六升九合六勺　禁裏御料

三百石　梶井御門迹領

壹萬九千五百二十三石六斗七升四合　松平豊前守領

三千六百七十四石　永井兎驛守領

五千百七十八石六斗七升九合　小出信濃守領

三千四百五十五石五斗六升七合五勺　杉浦若狭守知行

三千五十八石八升八合五勺　武田河内守知行

七百七十四石　前田半右衛門知行

千十六石二斗六升三合五勺　津田好之丞知行

九百七十四石九斗三升　能勢惣十郎知行

五百石　佐々民之助知行

八百四石二斗五升　村上三十郎知行

五百石　村上志摩守知行

三百石　村上左門知行

千三十七石一合　松田善右衛門知行

二百二十四石　平野勝三郎知行

百四十五石七斗五升　和田八郎知行

二百五十石　妻木辨次郎知行

五十石　常照寺領

町村名

京都府立総合資料館所蔵

亀岡町　別ニ一冊アリ
馬路村　大字　馬路　池尻　大芝原　新田
保津村　大字　北保　保津　南保津
千歳村　大字　出雲　毘沙門　中　江嶋里　國分
旭村　大字　杉　印地　美濃田　山階
篠村　大字　篠　山本　王子　馬堀　柏原　森　廣田　浄法寺
曽我部村　大字　川上　中　犬飼　寺　春日部
樫田村　大字　田能　二料　杉生　出灰　中畑
東別院村　大字　小泉　神原　南掛　東掛　大野　鎌倉　倉谷　栢原　湯谷
西別院村　大字　笑路　神地　牧　柚原　太日野
薭田野村　大字　佐伯　芦山　太田　鹿谷　柳花　奥條　天川
畑野村　大字　土ヶ畑　廣野　千ヶ畑

宮前村　大字　宮川　神前　猪倉
千代川村　大字　千原川関　北ノ庄　湯井小林　今津　灰田小川　高野林
吉川村　大字　吉田　穴川
大井村　大字　大井　並河　土田
河原林村　大字　河原尻　勝林嶋
本梅村　大字　東加舎　西加舎　平松　中節　井手

禁猟區　南桑田郡馬路村以西ヨリ船井郡界ニ及ブ二百四十町餘ノ地域トス
鴨雁雉ヤマガラノ繁殖ヲ圖ル為ニ其ノ獵獲ヲ禁止セシム此ノ地方ハ水田ニ養鯉ヲ為スニ付弊害ナキヤ否ヲ調査シタルニ一年生ノ鯉ハ毎年六月下旬ヨリ九月中旬ニテ水田ニ放置スルヲ以テ苗ヲ蔽遮物トスルニ由リ害少シト云フ

京都府立総合資料館所蔵

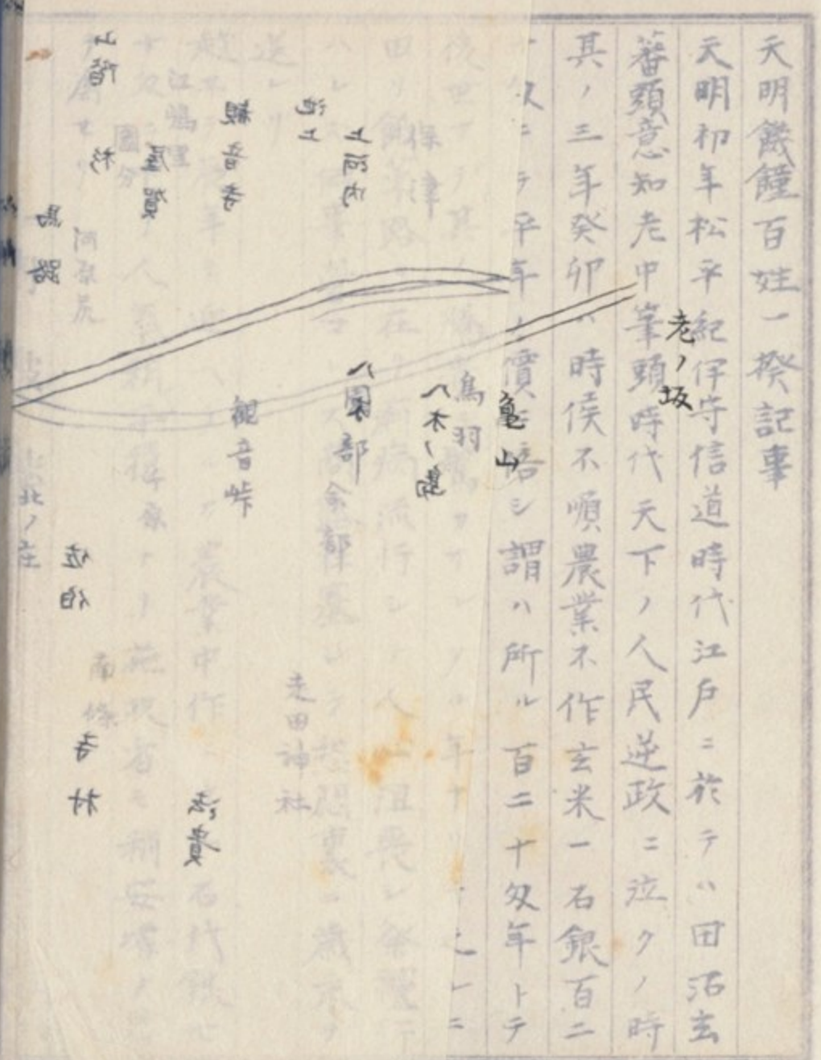
百姓一揆記事

天明飢饉百姓一揆記事

天明初年松平紀伊守信道時代江戸ニ於テハ田沼玄蕃頭意知老中筆頭時代天下ノ人民逆政ニ泣クノ時其ノ三年癸卯ハ時候不順農業不作玄米一石銀百二

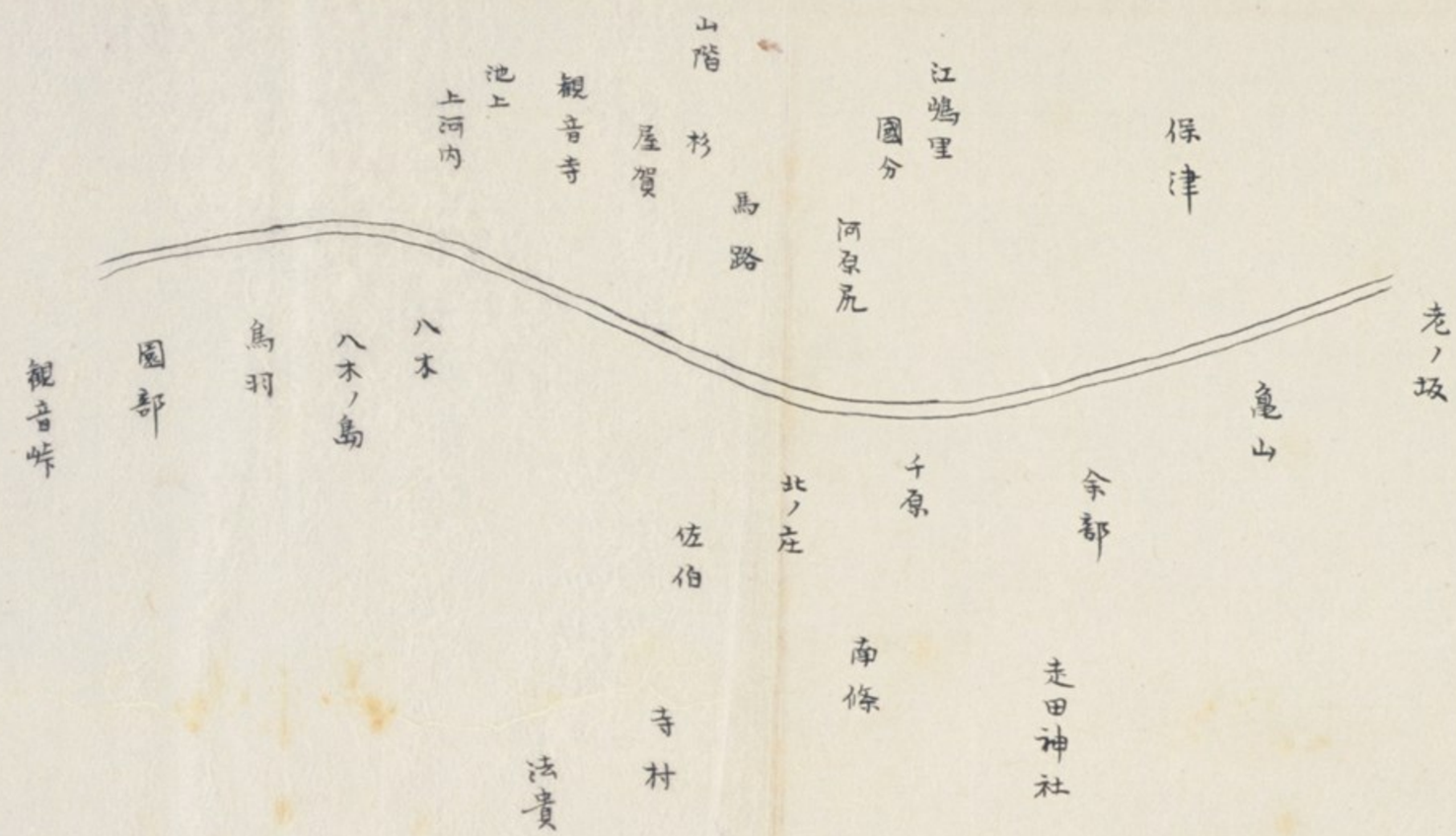
老ノ坂

謂ハ所ル百二十匁年トテ

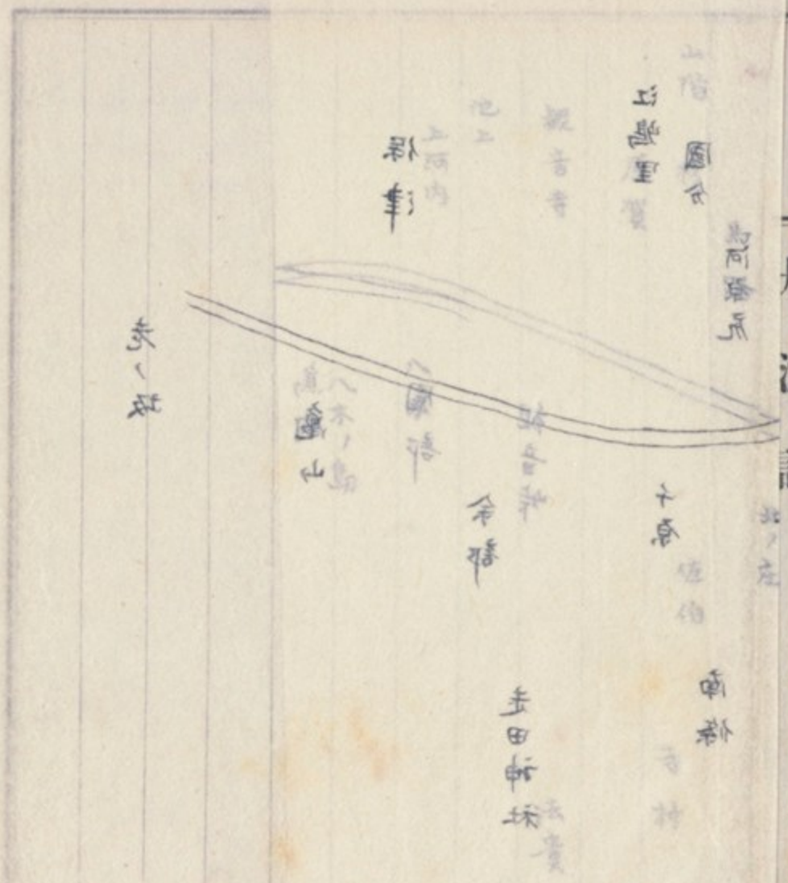


京都府立総合資料館所蔵

百姓一揆乱妨町村



京都府立総合資料館所蔵



天明饑饉百姓一揆記事

天明初年松平紀伊守信道時代江戸ニ於テハ田沼玄蕃頭意知老中筆頭時代天下ノ人民逆政ニ泣クノ時其ノ三年癸卯ハ時候不順農業不作玄米一石銀百二十匁ニテ平年ノ價ニ倍シ謂ハ所ル百二十匁年トテ後世マデ其ノ騰貴ニ驚カサレタル年ナリキ之レニ由リ餓莩路ニ在リ疫病流行シテ人心沮喪シ祭禮行ハレズ佛事營マレズ商路杜塞シテ愁悶裏ニ歳末ヲ送レリ

越エテ辰年ヲ迎ヘタルガ農業中作ニテ一石代銀七十匁ニ下リ人氣稍〻平穏トナリ施政者モ稍安堵ノ思ヲ為セリ

京都府立総合資料館所蔵

其ノ六年正月元日ハ午ノ日ニテ午ノ歳ノ初日ナレ
バ今年コソ厄年ナテメト取越シ苦労ヲ為ス折柄京
都ニ白鳥飛翔シ丹波ニ向フテ飛ビ来ル所司代領主
等ヨリ令シ獵師タリトモ此等ノモノヲ打チ取ル可
ラズ犯者ハ嚴罰セラル可シトノ觸書出ツ是ハ只事
ナラズト恐レ合ヒタルモ白鳥ハ多ク顯ハレザシテ
夫レ丈ハ安心ナシクリ然レドモ米價ハ次第ニ奔騰
シ一石銀百匁ヨリ一日ニ三匁ヅヽ高騰ヲ報セリ
江戸ニテハ將軍德川家治薨ジ家齊立チ征夷大將軍
トナリ田沼玄蕃頭意知ヲ黜罰シテ其ノ弊政ヲ改革
スルノ故ニ天下ノ人心ヲ安靜ナラシメルモ時季節
序ヲ失シ夏日ニ冷氣アリ江戸ニ火災水難アリ諸國

亦往々水難アリ幕府救恤ニ勞シ米商ニ令シ貯穀ヲ
禁止シ大名旗本ノ凶禍ニ罹カル者ニ恩貸シ代官所
ニ令シテ注意セシメタリ京都ニテハ町奉行代官所
ヨリ米屋ニ命シ左ノ價以上ノ賣米ヲ禁止セリ

一白米百文ニ四合　一升二百五十文

同七年五月十二日大坂町人蜂起シテ米商及ヒ金滿
家豪商ノ家ヲ破壞シ近國亦コレニ附和雷動シテ所
々ニ狼藉行為流行ス大坂城代同町奉行等鎮撫ニ務
メ近國大名應援シテ事漸治マル亂期凡ソ十五六日又
一揆ノ江戸ニ起コルアリ二十日ヨリ二十三日ニ至
リ平グ然レドモ天下洶々トシテ人心安定セズ關東
郡代伊奈半右衛門令シテ諸國ノ米穀ヲ江戸ニ運搬

京都府立総合資料館所蔵

セレノテ其ノ飢民ヲ救恤ス

米價金壹兩ニ一斗八九升　江戸

米一石價銀百九十匁　京都大坂

幕府ノ閣老策ノ出ヅル無ク時ノ名人名奥州白河ノ城主松平越中守定信ヲ起コレ強ヒテ老中加判上座トシ即日コレヲ公布ス此ニ於テ人心稍穩ナリ

京都ニテハ人民日夜皇居ノ四圍ヲ巡廻シ南門東門西門ニ至レバ羅拜シ之レヲ御千度ト呼ビ日毎ニ其ノ數ヲ加ヘ果ハ婦人小兒サヘ加ハリ何日(イツ)果ツベクモ見エザルニ由リ町奉行ヨリ禁止シ數日夜ニシテ止ム六月以後ノ相場

江戸一石銀三百五十匁　金壹兩ニ壹斗八升

大坂一石銀二百五十匁ヨリ三百匁ニ至ル

京都一石銀二百四十匁ヨリ二百五十匁ニ至ル

丹波一石銀二百二十匁所々多少不同アリ

十一月十三日船井郡百姓一揆勃發シ南桑田郡ニ及ブ（船井郡天明騒動参看ノ）馬路村ノ油屋ニ來リテ先ツ油商ノ門家ニ藏ヲ鋤鍬等ニテ破壞シ同意シテ人數ヲ出ダサシム此所ハ旗本杉浦氏ノ領邑ニテ左マデノ危難困窮無キヲ以テ其ノ需ニ應ゼザリシカバ暴徒ノ渠魁大ニ怒リ村役人傳右衛門傳次ノ兩家ヲ潰シ建築用ノ積材ニ火ヲ掛ケ烟炎中ヨリ國分村ヘ押寄セ猶八ノ家屋ニ藏數棟ヲ崩シ八方ニ暴力ヲ揮ハントスルヲ見テ馬路村河原尻村ハ酒ニ飯ニ菜類ニ漬物類

京都府立総合資料館所蔵

ニ草履艸鞋ニ至ル迄暴徒必需ノ物品ヲ供給シ厚禮
卑言以テ其ノ驩心ヲ買フニ勉メタレバ二村ニ入テ
ズ保津ホ川原ニ於テ相迎ヘ饗應シタルニ由リ其ノ
方面ヲ避ケ將ニ東南行レテ龜山城下ニ入ラントス
ル樣子ナレバ前日來日付ヨリ差シ出シ置ケル水道
日付隱密番人等ヨリ注進櫛ノ齒ヲ引クガ如シ
十一月三日家老奥平彌五兵衛馬上ニテ小嶋市太夫
ヲ從ヘ二騎領地江嶋里ヘ出張シ早ク無事ヲ圖リ暴
徒ヲ慰撫シ物品ヲ供給シテ寸時モ早ク引取ラセヨ
ト令シ歸途夜ニ入リタレバ迎ヒニ來レル高張挑灯
手挑灯ニ火ヲ點ジタルニ俄ニ騷々敷キ人聲シテ一
揆來レリト叫ブヲ聞キ挑灯ノ火ヲ消サセ間違ヒナ

リ未來ラズト聞キラ挑灯ノ火ヲ點ジタレバ村民サ
ヘ之レヲ嘲笑シタリ且村民ヲ使役シテ探問ヤ雜役
ニ勞疲セシメタレバ何人カ左ノ落首ヲ張リタリ

小目付をらーやうしこる奥平

弥五ゑもんの名ふ村ハ役人

大名ハ名ハ小名が火を消ス

皆一目なにげる江嶋里

翌四日一揆容易ニ退散セザルヲ以テ人選シテ荒川
源助ニ命ジ行キ諭サレム源助大川ヲ渡リ川原ニテ
其ノ渠魁ヲ呼ビ出シ之レニ言フ樣ハ願フ所アラバ
穩ニ申シ出デヨ聞届ケ下サルヽモアラン箇樣ナル
所為ハ穩當ナラズト彼等曰ハク返事ハ追ツテ此ノ

京都府立総合資料館所蔵

方ヨリ致スベシトテ要領ヲ得ズ空ク歸城シ暴徒ノ勢容易ナラズト報ゼシカバ足立儀太夫ニ命ジ再度ノ懸合ヲ為サシム彼等曰ハク御上ヘ敵對スル心ハ毛頭之レ無シ只米屋酒屋ノ私慾ヲ懲ラス為ニ吾等ハ參ルナリト儀太夫曰ハク其ノ儀ナラバ其ノ方共ノ難儀ニナラヌ樣取リ計ラフ可ケレバ早ク退散シ面々村々ヘ歸ルベシト彼等曰ハク桂村ノ鍋八ガ多分ノ米穀ヲ買入レ貯藏スルヲ以テ彼レヲ打懲ラス可シト儀太夫曰ハク汝ハ容易ナラヌナリ只今天子樣ガ大嘗會トテ御大切ナル御祭ヲ執リ行ハセラル、折柄ナレバ平日ト違ヒ山城ノ御膝元ヲ騒ガス可ラズ若シモ城下ヲ通リ行キナバ第一當藩ノ落度ト為リ殿樣ハ如何ナル御處分ヲ蒙ラセ給フモ計ラレズ此ノ譯合ヲ能クク聞キ分ケ引取ルベシ左無キニ於テハ後日其方共モ大ニ迷惑スルヿアルベレト懇々諭シケレバ暴徒ノ立聞キシタ者モ此ノ理解ニ服シ左レバ仰セニ從ヒ申サントト曰ヒシニ由リ儀太夫急キ復命シ一城始ノテ安シ何人ガ落首ヲ張紙セリ曰ハク

荒川ヲ水ヲ出ざるる百姓ガ
儀太夫ぢ〜ぢんとら水た

前日ヨリ城中城外人心洶々藩中惣出仕ニテ戰時情態トナリ武器ハ門内ニ列ナリ兵粮炊事ハ始マリ町村ハ警戒セラレ藩中ノ婦女子ハ往々村里ニ避ケク

京都府立総合資料館所蔵

ルモ町民ハ一揆ノ為メ所只米商釀酒家ヲ冦視スル
ニ在ルヲ聞知スルモノカラ右二商ヲ除ク外ハ大周
章セズ却テ之レガ為ニ米價ノ下落スルヲ豫想シテ
心竊ニ驩迎スル輩モアリタリ又之レガ為ニ非人乞
食等傳聞シテ来集シ一揆ノ餘餘殘飯ニ飽滿シタレ
バ乞食ノ御正月ト云ヘリ
與平與三左衛門ハ物頭二名士卒四十餘名ヲ率ヒ京
街道ヲ扼守シ峠ニ在リ往來ヲ嚴檢シ東向スルモノ
ヲシテ容易ニ通行セシメズ何レモ兜頭巾火事羽織
野袴着用士卒何レモ非常服ヲ着シ弓銃槍ヲ携帶ス
鯨波ノ響シバ〳〵保津河原ニ起コル
一揆ノ者ハ數日ヲ經テ退散セザルモノカラ二十一

日夕刻河原町ヨリ刻烟草草鞋其ノ他多數ノ物品ヲ
贈ルト行キ違ヒニ一揆ノ先手數十百人川ヲ渡リ余
部ニ向ヒ造酒家ヲ襲ヒ先ツ次郎兵衛方ヨリ始メ建具
屏風襖等ヲ破壞シ土藏ニ入リ刀劍器物衣類ヲ出ダ
シ刀劍類ハ庭石ニ當テ、折リ又ハ曲ゲ其ノ他ハ土
足ニテ踏破シテ鯨波ヲ揚ゲ南條ニ向フ先手ハ南條
ニ入ルモ後勢ハ猶河原ニアリテ時々鯨波ヲ揚グ南
條ノ定石衛門ハ禮服着用ニテ村ノ入口ニ跪キ嘆願
スラク酒食ト御用品ハ如何樣トモ差シエグ可ケレ
バ家潰シ丈ハ御免ヲ蒙リ度キ旨懇願シタルニ由リ
亂妨セズ寺村ノ與市方ヲ目懸ケ突進ス與市ハ平素
ノ豪滿ニ引キ換ヘ恐怖シツヽ低頭平身シテ門外ニ

京都府立総合資料館所蔵

居クルニ一揆ハ惡マレモノ是レ見ヨトテ先ツ其ノ錢藏ヲ破リテ金銀錢札ヲ散撒シ一方ノ土藏ヨリハ緋縮緬緞子綾絹紅木綿錦金木綿等ノ儲藏商品及ビ所用ノ夜具衣服等ヲ寸斷シ他方ニテノ荒テシ樣ノ一段烈シカリシハ與市ガ諸大名ヘ金銀ヲ貸シテ御用商人ノ羽振リニ誇リタルノ反動ナリ此ノ時ニハ一揆ノ手々ニ武器ヲ携帶シタルハ村々ノ門閥家ニテ奪略シタル所トカヤ此ノ時ニハ暴徒ノ暴モ頂天ニ達シタリトカヤ

此ノ夜ハ久シ振リニテ雨降リケレバ暴徒ハ思ヒ々々寺院又ハ人家ニ乱集シタルモ多人數ノ一トテ過半ハ霑濕シ簑笠ヲ村々ヨリ調發シ番傘唐傘ヲ略奪シテ一夜ヲ凌ギ翌朝ハ其ノ物ヲ捨置キタレバ取片附ケニ迷惑シタルハ寺村ノ人々ナリキ

法貴村ノ權石衛門方ハ斯クアルベシト期シ居タル所ヘ押シ寄セ證文ヲ書カセタリ如何ナル文句ノモノニヤ此ノ證文ヲ一見シテ直ニ一令有ルヤ無シニ家屋土藏ハ土烟ノ下ニ平ラゲラレタリ其ノ退去ノ後ニ調査シタル村役ノ說ニ焚火ノ迹寺村法貴村ニテ二百八十四箇所アリテ藁薪炭割木等コレ有ル家ハ一戸モ無カリシト云フ夜中正午ヨリモ明ルク遠方ヨリハ火災ノ如ク見エタリトゾ

佐伯村ニテハ良助ノ家太田村ニテハ一學ノ家襲ハレタリ一學ノ家ニハ大伴壇アリタルガ其ノ本尊ヲ

京都府立総合資料館所蔵

引キ摺リ出シ佛サン寒カロ火ニ當タリテハレト云ヒガマ火中ニ投ジテ木像ノ焚燒スルヲ見テ呵々大笑セリ其ノ内ニ並河ヲ荒ラセト叫ブモノアリ鯨波起コリ其ノ方差シテ進ミ行キクルニ並河ハ御料地ニテ並河村記事参看ノコト前日注進アリタルヲ以テ京都ヨリ役人來リ御所御警衛用ノ金棒ヲ備ヘ置キタレバ一揆ノ先手來ルヤチリンチリント鳴ラセクリ皆駭キ訝リ鋒ヲ轉ジ千原村ヘト向フ千原ノ村役人兵右衛門等並河村ノ所為ヲ羨ミ其ノ頭智ヲ稱賛シ如何ニシテカ之レニ習ヒ亂妨ヲ免レンカト相談中ハヤ押シ寄セラレ千原小林ヲ同時ニ荒ラシテ園部ニ向ヘリ船井郡總論ニ出ダス参看アルベシ

廿二日高槻藩鎮撫隊寺町着

廿四日篠山藩使者龜山城ニ來ル

廿五日前夜ヨリ暴徒捕縛始マル此ノ事件ノ初發ヨリ領主代官等ヨリ所司代町奉行等ヘノ注進矢ノ如ク日一日ヨリ多キモノカラ京都ヨリ番人非田院番人ノ管理所ニシテ京都町奉行所ノ支配出張アリ當藩ヨリ代官町奉行水道目付同心等密行探問シテ多クハ夜中其ノ渠魁ト目定セラレタル家々ニ丹キ戸外ヘ呼出シテハ捕ヘ行ク先ニテハ縛シ篠村ノ德兵衛清八山本村ノ林助以下十五名ヲ入牢ワセ翌日林助ノ外ハ村預ケトシテ庄屋名主ニ保管セシメ玉子村ノ猪右衛門馬路村ノ久右衛門國分村ノ四人入牢トナル就レモ町奉行

京都府立総合資料館所蔵

ノ詰問ニ對シ白狀シタルニ由ル今津村ノ者園部藩ノ捕縛本日送リ來ル即時入牢北町ノ牢獄狹隘ナルヲ以テ小屋ニ入レ番人ヲシテ晝夜看守セシム孰レモ繩付又ハ手錠付トス

十二月七日京都牢獄ヘ送ル可キ達書所司代ヨリ到着夜四ツ時今ノ十時頃後人家就眠後ヲ計リ六角牢獄ニ送ル寒氣酷烈今ノ暦ニテハ正月初旬ナルヲ以テ格別ノ御憐愍ヲ以テ蓑笠御免ナサルヽニ由リ有リ難ク思ヘノ一言アルヤ一同拜謝ス其ノ數二百餘名ト更ニ園部ヨリ送付シ來レルモノ七十名陸續東行ス風邪ト腹痛ノ病人續發シ送ル大ニ困却セリ

數日シテ町奉行所ヨリノ報告アリ保津西田馬路屋賀保津觀音寺六ヶ村罪人中二十四名死亡シタルニ由リ死骸受取人上京スベシト即時右村々役人呼出シ藩吏附添ヒ六角獄ニテ受取リ人夫ヲシテ荷ヒ返ラシム孰レモ四斗樽ニ入レ荒繩ニテ縛ル

保津三人西田三人馬路二人屋賀八人保津六人觀音寺一人

老ノ坂以西觀音峠以東兩郡平地ニ在ル村邑ニシテ一揆ノ害ヲ受ケザル所トテハ無ク塒雞池魚何者ニカ奪取セラレ夜明クルモ曉ヲ報ズルノ雞聲無ク物品ヲ購ハントスルモ行商無ク邑里蕭條道路寂寥タリ

十二月下旬ニ至ルモ餅ヲ搗ク用意スル家莫ク煤拂

京都府立総合資料館所蔵

ハ曰ノニ及バズ七五ノ三飾門松サヘ遠慮シ城内屋敷ノ外正月前ラシキ所ハ無シ

八年戊申ノ正月ハ來レリ二郡火ノ氣無明屋ノ如ク罪人ラ出ダセル家又村ハ猶更ノ〻祝詞ヲ叙ブル人ハ城内城下多少之レアルノミ村祠野社ノミ燈明ノ影朝ボラケニ見ユ梵鐘百八ノ音カスカニ聞コユ

正月晦日京都大火東方ヨリ焼ケ廣ゴリ六角大宮ノ牢屋ニ及バントスルヤ一揆ノ罪囚ハ珠數繋ギニテ三條川東ノ悪田院假牢ト大津ノ牢獄ニ送致セラレタリ

五月十四日丹波四十三ケ村役人呼出シトアツテ京都千本御池ノ奉行所ニ集マル入牢罪人村預ケノ輕犯等ヲ合セテ二百四十人白洲ニ蝟集俯伏ス奉行池田筑前守公事方與力二名下坐ニハ同心悪田院ヒジデト呼ブハ悪田院ヲ悪田寺トモ云フニ由リテナリ縄取等モ平伏スレバ與力一名縁側ヘ出デ左ノ文ヲ讀ミ渡ス

此の度丹波ノ國百姓騒動ニ付被潰ル者共ヘ申渡す義ニ承ラレ

元来困窮ニ時布を顧ミずして米酒を嫁め第ヲ立ニ妻代なすが故ニ石祈ニ弱勢ニ陥ル因ル遂なる故急度ク為ニ由ヲ偽なる然ルども御慈悲を以て必ず不届ニ致さべし向後急度可相慎ものも

次ニ又一文ヲ讀ミ聞カス

京都府立総合資料館所蔵

此度万性騒動ニ付ハ其ノ科軽カラズ死罪ニモ
行フベキ変ナレドモ
御慈悲ヲ以テ牢舎ニ籠ル寿村ニ於テ藏ノ部ノ出ダ
ス一揆ノ発意者ニ馬路村ニ清七渠魁ニシテ馬路村川原ニ
外ニ人都合四人ニ追放ヲ申渡ス四人ニハ先達テ牢
死ニ付ハ下シ置カズ当又牢死ニ
牢死ニハ死骸下シ置カレニ付村帰ラベシ未
存生ニテ帰ルトモハ急度呵リヲ申渡サルベシ一
田帰村致スベシ
一同拝伏シ奉行與力等ノ退去ヲ見テ公事宿御池大宮ノ訴訟人宿ノ所ヘ引ク罰銭トシテ上田王子山本川上四ケ村
ニ三貫文外村ニ夫レ々々出銭言ヒ渡シアリタリ

日夜巡警トシテ代官目付同心水道目付番太等村々
ヘ出入来往シタルガ此ノ裁判アリテヨリ止ミタリ
然レトモ亀山町ヘ買物ニ来ル村人少ク商賈ハ不景
気ニ泣ケリ
亀山園部二藩ヘ一揆死骸受取ルベキ通知アリ由リ
テ両藩ノ留守居役人下役人足等町奉行所ヘ出テ牢
屋敷ニテ大壺ニ入レタル者ヲ持参ノ桶ニ入レト替ヘ
荷ハセテ丹波ノ村々ヘ運送スル所二十三桶アリハ
十三名ノ内牢死五十二人ハ送ラル、時ニ風雪ニ
中テラレタルト牢内ニテ喰ヒ慣レタ食物ト牢瘡ノ
傳染シタル結果ニテ帰村シタルモノモ衰容枯木ノ
如ク責苦打撲ノ迹身體ニ遍ク見ル者ヲシテ轉悲哀

京都府立総合資料館所蔵

ノ情ヲ惹キ起コサレノヽ壺ヨリ桶ニ入レ替ヘハ穢多コレヲ為ス一個手間賃壹貫五百文穢多ニ渡ス

丹波ニテハ領主大名知行禄本外御領御代官所ヨリ村役ヲ呼出シ向後ヲ慎ムベキ旨丁寧告戒シ農作大切ノ折柄ナレバ村々ノ者ヲ一同呼出サズ由リテ其方共ヨリ漏無ク申シ聞カスベシトアリテ一大事件ハ終末ヲ告ゲタリ公評ニ由レバ亀山ハ半知高半減ノコト輕クシテ壹萬石ノ罰祿九無クバ家老奉行ノ切腹ハ免レザル可シト言ヒ合ヒタルガ九ハ無クテ依然トシテ城郭ト共ニ存續シタルハ松平越中守定信ノ内旨道德政治ニ因ルモノトス賄賂ノ力ナリナド云フハ當時ノ賢相合議内閣ニ有ル可ラザル所ナリ

中執政家
松平越中守定信
本多彈正少弼忠籌
加納遠江守久周
松平伊豆守信明
松平和泉守乗完
本多小若守乗[illegible]

大井村

大井村　大字大井並河土田金岐

本郡ヲ以テ座猿トスレバ（前ニ示セル南栗田郡其ノ全圖黑影ヲ參看セヨ）胸部ニ當タリ龜岡ヨリ園部ニ向フ山陰道中ニ在ル村ナリ北ハ大堰川ニ臨ミ南ニ吉川村アリ西北スレバ千代川村ヨリ船井郡ニ入ルベシ錢道村東ノ一部ヲ貫通ス村名ハ社名ヨリ采ル

大字大井高九十四石一斗五升三合

大字並河高八百石餘天保調百八十戸

大字土田三十三石三斗三升　仙洞御料

同村三百五十六石六斗六升　亀山藩領

大字金岐　南金岐　北金岐　三金岐高合五百石

金岐十戸隱坊

京都府立総合資料館所蔵

北金岐高百八十石二十五戸天保
南金岐高九十三石七斗七升三十戸亀山佐々分領
金岐夙村高不詳二戸津田美濃守佐々隼之助等旗
下士知行當時四十戸アリシト云フ夙トハ往古
ノ劣等人種ナリ

正一位大井大明神社　並河ニ在リ鄉社ノ資格ナリ
勸請年代詳ナラズ並河大井土田等ノ産土神タリ
本社拜殿鳥居等具ハリ馬場アリ末社アリ鐘楼アリ
祭神月讀命古稱中津大神末社ハ大原大明神愛宕軻
偶津智神稲荷大明神蛭子大明神トス鳥居ノ傍ニ社
出雲大神ト池中ニ辨財天女等ヲ祭ル社北ニ阿彌陀
石像ヲ安置ス曰ハク明神ノ本地ナリト本地トハ兩

部神道ニ云フ前身ナリ石像高サ五尺藥師堂アリテ
藥師如來ヲ本尊トシ不動明王毘沙門天弘法大師等
ヲ併セ安置シ役行者ハ行者堂ニ在リ東光寺ト呼ブ
一宇アリテ社僧コレニ住シ朝夕社壇ニテ勤行セリ
鳥居ノ額ハ片桐市正ノ寄附ニテ鰐口ハ高槻城主遠
山與惣右衛門尉長貞ノ寄附ト云フ境内ニ無數ノ石
地藏アリシガ維新ノ際ニ教部省ヲ置カレテ神佛混
淆ノ弊習ヲ折破センガ為ニ是等神境ニ在ル佛體法
具ヲ取リ除カシノタルヤ鑄器ハ鑄物商ニ賣リ木像
木具ハ燒却シ石像類ハ河底ニ放下シタリ此ノ地ニ
テ之レヲ地藏流シトハ云ヘリ
口碑ニ云ヘリ建治乙亥四月神輿大井川ノ大水ニ由

京都府立総合資料館所蔵

リ此所ヘ流レ來ル村民之レヲ希有ノ事トシテ之レヲ拾ヒ上ゲテ其ノ所ニ祭レリト其ノ時ニ氏子トナリテ祭ル村々ハ並河大井宇津根土田北金岐南金岐太田ト大川ヲ隔テ、勝林嶋等ナリ祭日ハ陰曆ニテ九月十六日トス

並河トシテ地ハ往古ヨリ之レアリテ最モ古キ所ナリ

宇多天皇社ハ大井神社ノ一町計リ南方ニ在リ是レハ三宅氏ノ祖神トスル所ニシテ大井神社ヨリ古ルシトシテ

口碑ニ云ヘリ　上代山城國松尾明神ト曾形ノ中津明神ト龜ニ乘リ大井川ヲ溯ル峽間ノ八疊岩邊水勢強キ處ニ到リ鯉魚ニ乘リ替ヘ在元淵マデ到リ玉フ

大井村

河原林村ノ部ニモ出ダス
保津峽圖參看ノ

ヲ近江國ノ一工人之ヲ見テ崇敬シ其所ニ一社ヲ作ル即チ此ノ祠ナリ中古迄祭式ニハ必ズ神前村ノ人來リテ營メリ所ハ該工人ノ住メリシ所ニテ工人ノ爲セシ事ヲ襲行シタルナリ　明神ノ鯉ニ關係アルヲ以テ祠前ノ池ニ鯉ヲ放ツモノ多ク氏子ハ鯉ヲ食ハズ犯スモノハ神罰覿面ナリ腹痛脊冒スルハ其ノ證ナリ其ノ鯉ナルヲ知ラズシテ喫シタルモノサヘ此ノ罰ヲ免レズ況ンヤ知リツヽ犯スニ於テオヤ他所ニ嫁シタルモノ養子ニ行キ數十百里ヲ隔テタルモノ亦同ジク然リ明治初年ニ於テモ著者コレヲ見聞セリ今ハ次第ニ薄ラギタリ諸國里人談ニ曰ハク丹波國并河村鯉大明神

ノ使者ハ鯉ナリ土俗ニ献毎日大堰川ヲ下リ松尾明神ヘ仕者ニ廻フト云ヘリ又鯉大明神ノ産子鯉ヲ食ヘバ立所ニ口中腫レ痛ムコト神憂ナリ八幡ノモノ鳥類ヲ喰ヒ奈良ノ者鹿ヲ喰フノ類ナリ

季秋ノ月ノ仲ノ六ノ日ニ流鏑馬式アリタルガ何頃ヨリカ競馬トナレリ

此ノ地ハ天領トモ禁裏御領トモ唱ヘ御所直轄ノ名義ナルモ其ノ實ハ幕府ノ代官小堀數馬之ヲ支配スルヲ而シテ社内ノ制札ハ山城ノ嵯峨御所ヨリ建テタリ左ニ列記スルモノハ談御所ノ諸大夫ナリ松尾神社ノ支配タルヨリシテ然ルナラン

制札ノ文左ノ如シ

制札

一嵯峨御所舊来仍御由緒於境内山林殺生令禁断之旨被　仰出候處也畏恐神慮可相守候若不法之輩於有之ハ可爲沙汰之條仍執達如件

上田若狭守○
勢田筑前守○
林　石見守○
野路井刑部卿○
井関兵部卿○

天保九年戌九月

神主　佐野攝津

制札

法皇様御料所於川澤漁捕令停止候也

京都府立総合資料館所蔵

宮崎宮内 五
藤木但馬 五
土山駿河 五

寛文八年五月十四日

御領タルノ田緒ヲ以テ王母珠ヲ禁裏御所ヘ穀栗及ビ王母珠ヲ仙洞御所ヘ年々獻ス是レハ村民中ノ舊家ナル田中某ノ爲シ来リシ所今ハ奉式ハ廢タレ栗樹ハ存ス田中某家ニ存スル書面左ノ如シ文中御斷トアルハ今言ニテ理由ト言ハンカ如シ

作恐御斷書

一此度帶刀致候者御尋被爲成奉承知候私共儀前々仙洞様御田植御用相勤申候其上正德四甲午八月ニ穰栗炭菰御獻上被仰付帶刀之儀御赦免被成下帶刀仕む氏神社役相勤候作恐右之段御斷奉申上候以上

田中治郎兵衛
田中與十郎

右之通相違無御座候以上

庄屋　與市
同　市左衛門
年寄　源左衛門
同　四郎右衛門
惣代　嘉右衛門

小堀縫殿ヶ御役所

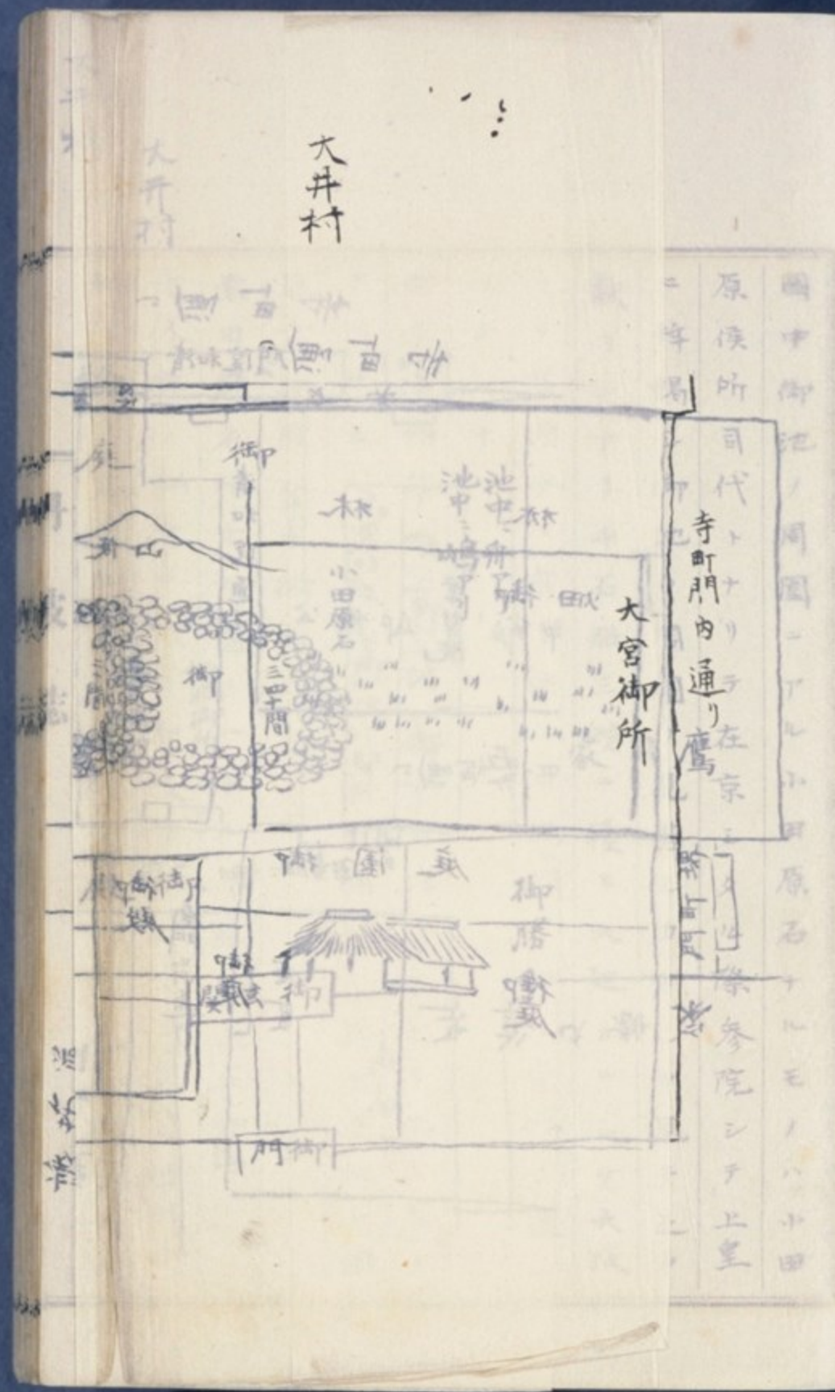
鷹尾作右衛門様御懸り

京都府立総合資料館所蔵

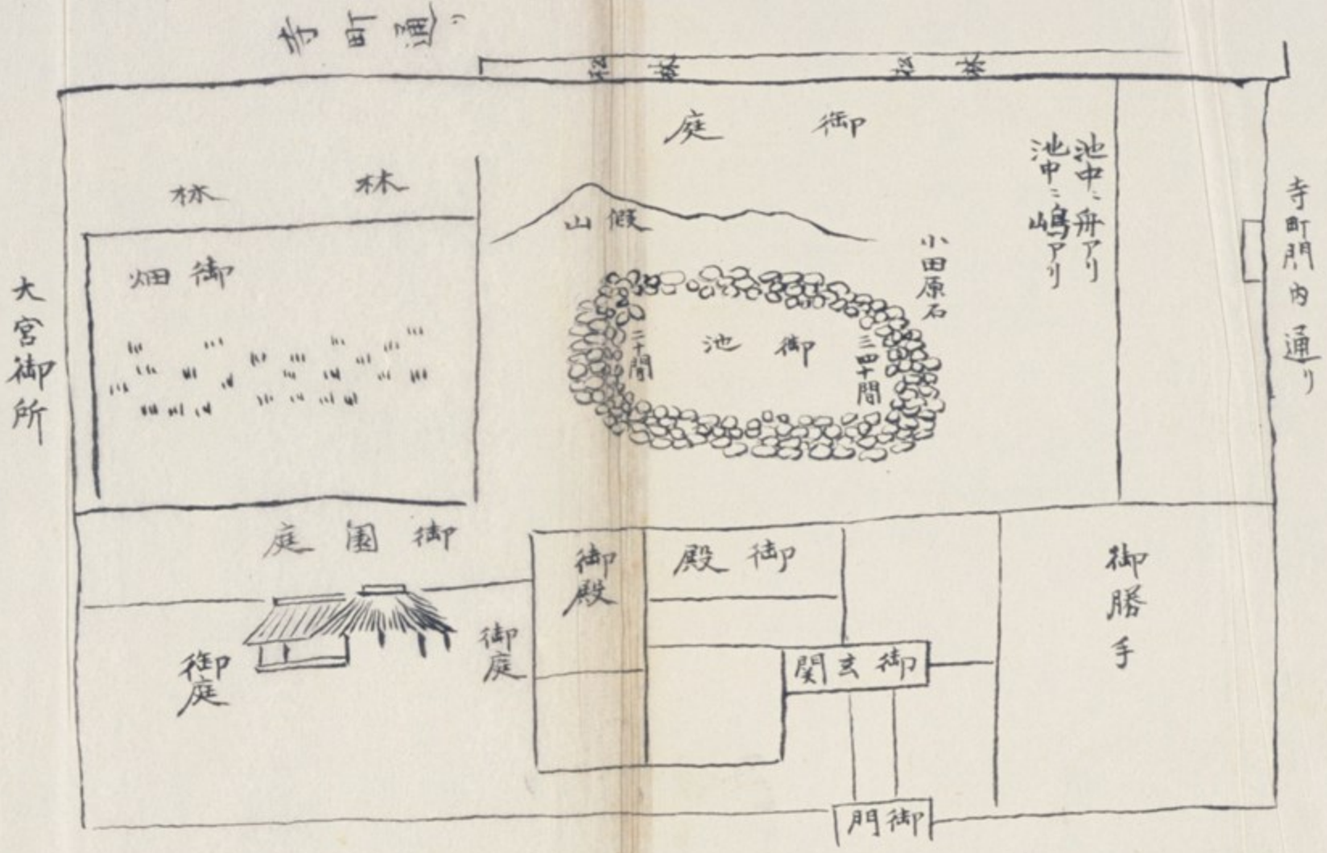
湯口源右衛門様

右小堀ハ書中處々示ス所ノ幕府代官ニテ自分ハ旗本ナリ鷹尾湯口ナルモノハ其ノ手代ニシテ地方々々幕府直轄部分ヲ支配スル小吏トス

右文中ニアル仙洞様御田植トハ御庭園中ニアル御田ニ早苗ヲ植エ一ハ御歴ニ供シ一ハ皇子ノ方々ニ稼穡ノ艱難ヲ知ロシメサセントノ叡慮ヨリ出デタルヿト聞キヌ　毎年初夏稲苗ノ候トナレバ代官小堀ヨリ例年ノ通リ御田植ニ参上ス可ク旨ヲ達ス庄屋ヨリ請書ヲ出シ適宜ノ日ヲ上申シ其ノ前日當地ヲ出発シ小娘大娘又ハ嫁等ノ見苦シカラヌヲ選ミ十名計ヲ召連レテ上京シ御屆ヲ爲ス小堀方ニテ饗食シ手代ノ先導ニテ参院シ御田ニ早苗ヲ植ウ只舊例ニ由リテ稲秧スルノミナリ早苗ハ仙洞御所御出入リノ糞取百姓ガ作リ置ケルモノニシテ且除草收穫等ハ一切其ノ者コレヲ爲シ毋波ヨリ之ヲ爲スニハアラス　此ノ日ハ法皇又ハ上皇々太后ヨリ女官等ソレ〳〵相粧フテ簾内ヨリ之ヲ賞看アラセラレ女孺以下ノ婢女モ特見ヲ許サレ式終レバ酒饌ヲ賜ハル此ノ矢貫ハ出處如何ト問フニ皆御年貢中ヨリ引去ルナリ但獻上品ハ相應ノ御目録ヲ下賜セラル此ノ早乙女等ハ翌日綾々京都ヲ遊覧シ又ハ親類許立寄ルナド思ヒ〳〵ノ事ヲ爲シ隨意ニ歸邑スルモノカラ面


大井村
大宮御所
寺町門内通り
御
林
池中
小田原石
三畳間
御
御
御

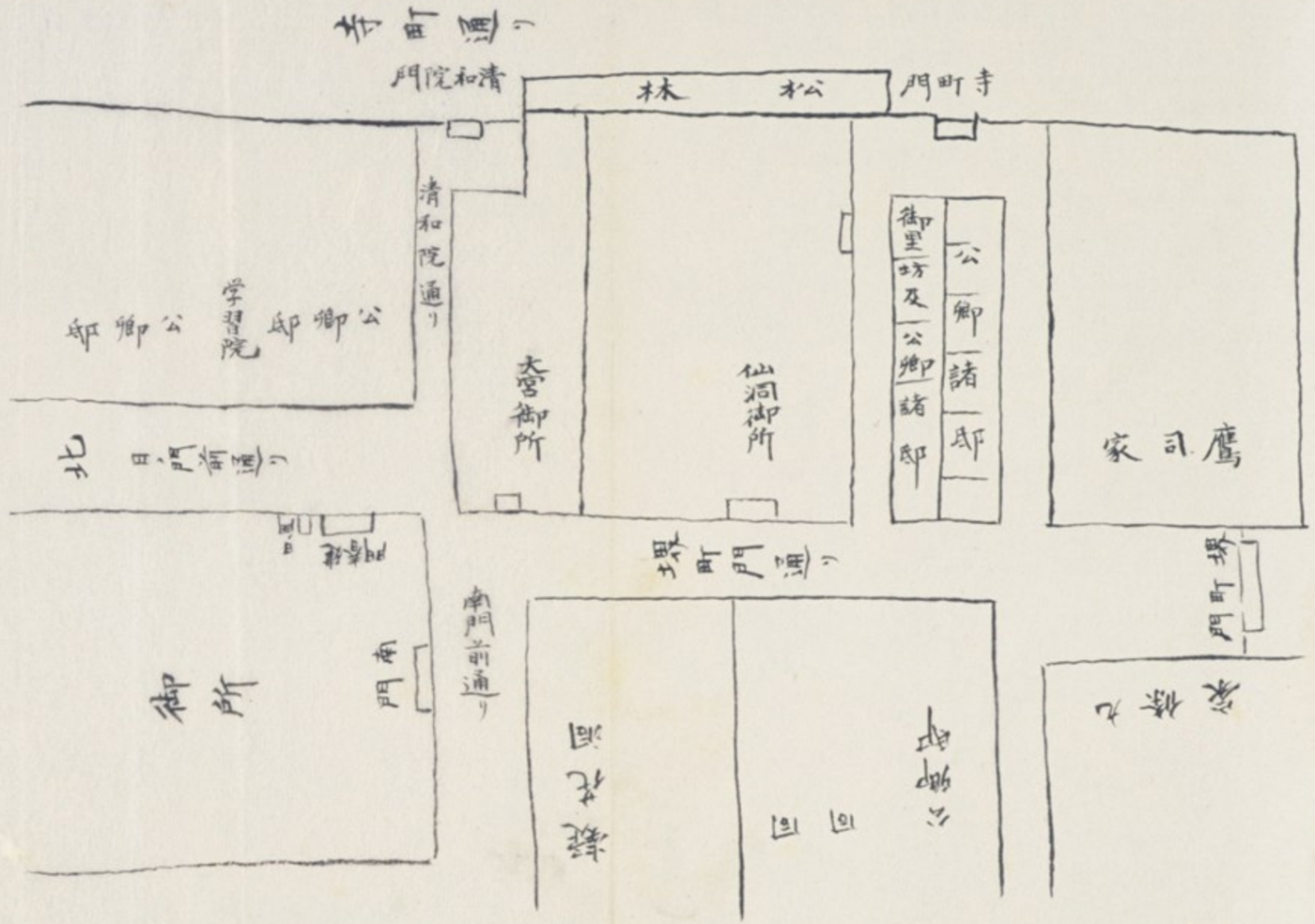
大井村



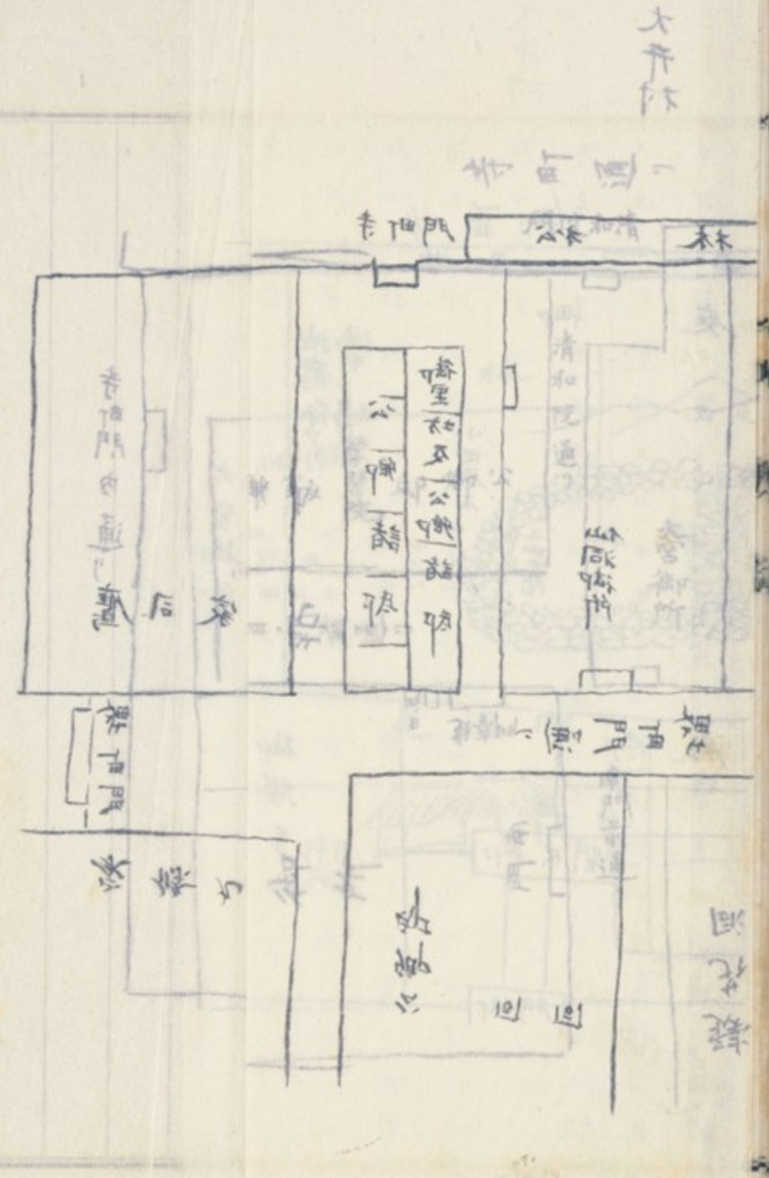
皇ノ御宇ニシテ上皇在マサヾレバナリ

京都府立総合資料館所蔵

大井村



京都府立総合資料館所蔵



大井村

國中御池ノ周圍ニアル小田原石ナルモノハ小田原侯所司代トナリテ在京シタル際參院シテ上皇ニ拜謁シ御池ノ周圍ノ見苦シカリシヲ見テ之ヲ獻リシナリ千石船三艘ニ積モ大廻シニシテ大阪ヨリ高瀬舟ニ載セ換ヘニ條樋ノ口ニテ揚ゲ運バセタルナリ

前示漁捕禁示ノ令ハ嚴重ニ行ハレ之ヲ犯スモノアレバ士人ト土民ノ別無ク捕鈎ノ具ヲ没收シ謝罪書謝罪金ヲ徵收シタリ

桑田郡名所十七箇ノ一ナルヿ総論示ス如シ

老人話　私方ハ代々村役ヲ勤メマシタ　仙洞御料ト云フ名ノ御影デ他領地ノ村役人ト相會スル

京都府立総合資料館所蔵

ニモ上席スル事トナリマスシ小々ノ無理モ聞カレモ仕マス　御田植ノ御話ヲ致シ度フテモ私一代ノ内ニ仙洞様ハアリマセナンダ　獻上物デスカ夫レハ小堀ノ手代附添デ御臺所門（清所門カラ入ノ丁）カラ入リ右ヘ廻ハリ御内玄関ヘ上ゲマスト仕丁ガ受ケ取リ御執次役名ヘ進達ニナリマシタ　威張ル丁ノ流行タ時デス故他村ニ對シテ一寸トシタ丁ニデモ公事（訴訟）ヲ仕マシタ　ナンボ御料デモ水ニハ閑ロデシタ　大川一方ヨリ来マセンノデ鄰村ヘ頼ンデ貰ヒ水シテ田ヲ養フノデス今デモ大嘗會ノ丁　抜穂ノ丁

寛延元年十一月大嘗會踏歌

寛永元年大嘗　傳奏奉行

稲春ノ事　光成卿詠進

主基方　丹波　並河村

おほゐなるみのの村の稲をつくり那

前示傳奏トハ御所ノ丁ヲ幕府ヘ達シ幕府ノ在京所司代ヨリノ奏聞ヲ傳達スルノ職ニシテ幕府アレバ此ノ職アリ奉行トハ勅命ヲ奉シ行フノ意ニテ大嘗會ノ丁ヲ朝廷ヨリ幕府ニ達シ之ヲ奉行セシムルナリ幕府ハ代官ナル小堀家ニ命ジ抜穂ヲ行ハシム此ノ地ノ豊穣ナルヲ認メ先例ニ因リ命ヲ下ス命ヲ奉ズルト否ムトハ村民ノ情意ニアリ

京都府立総合資料館所蔵

名譽ノ丁トシテ奉答スルナリ其ノ地ハ廣サ三畝三畝ニシテ正方形ナラザル可ラズ故ニ山間河傍ニ適應ノ處之シ地ハ名主菩之ヲ擇ム豊穣ノ米田ハ取極メラレ周ラスニ竹柵ヲ以テシ門ヲ設ケ無用ノ者入ル可ラズノ制札ヲ立テ役人ノ外出入ヲ嚴禁スルガ爲ニ番人ヲ設ケ其ノ内ハ云フニ及バズ不淨ヲ禁シ川上五里以内牛馬ヲ入レ洗濯ナド爲スヲ禁ズル旨沿岸諸村ニ達セラレ其ノ年ノ五月稲苗移植ノ候トナルヤ人ヲ撰ンデ耕耨セシメ清水ヲ灌漑シテ抑秧ス除草ハ謹ミ又糞尿ヲ施サズ肥料ニハ清潔ナル山肥ヲ用ユ秋熟ノ期トナルヤ九月廿日ヲトシ式ヲ行フ来會スルモノハ小堀

數島ノ屬吏手代ト稱スルモノ代官ノ名代トナリテ茲ニ東山ノ神官吉田家ノ臣數名京都ヨリ来リ丹波ヨリハ出雲保津河原尻等村々ノ祠官等臨ム祠官ハ衣冠シ俗吏村役ハ上下ヲ着ス出雲ノ祠官禱詞ヲ朗讀シ吉田ノ臣ナル祠官幣ヲ執リ祈禱ノ幣ハ村々ノ神官順次ニ授受シ終ニ小堀ノ吏ニ及ブ清潔不洋ノ小女衣裳ヲ嚴飾シテ出デ来リ前田ニ生育スル所ノ稲穂ヲ拔キ取ルノ容ヲナスヤ村ノ名主熟穂數莖ヲ刈リ直ニ之ヲ扱キ粃ノ儘ニテ唐櫃ニ收ムト猛手代ハ之ヲ受取リ荷丁ヲシテ之ヲ護送シテ京ニ入リ之ヲ御所ニ納ム此ノ失費頗大ナルモ三殿三畝ノ無税トナルヲ以テ之ヲ償ヒ

京都府立総合資料館所蔵

猶足ラザルモ名譽ノ了トシテ喜ンデ之ニ應スル
ナリ

並河なみゝ　舊獨立村仙洞御料高千七十五石五
斗八升六合　代官所納

並河彌右衛門儉齋ハ此ノ村ニ生マレ山城ニ移リ
京南鳥羽ニ家居ス農ヨリシテ商トナリ米穀ヲ賣
買シ二子天民誠所ヲ教育スルニ全カヲ注ク而シ
テ自己ニ一丁字無シ而モ義理ヲ解ス一日已レハ
米ヲ足踏シツヽ二子ノ論語ヲ復習スルヲ聞ク其
ノ讀ンデ吾ガ黨ニ躬ヲ直クスル者アリ其ノ父羊
ヲ攘ム其ノ子コレヲ證スト云フニ至ル彌右衛門
曰ハク是レ何ンノ道理ゾヤ儒學ハ斯カルモノカ

ト大ニ訴ル又讀ンデ曰ハク吾ガ黨ノ直キモノハ
之レニ異ナリ父ハ子ノ爲ニ隱シ子ハ父ノ爲ニ隱
ス直キヿ其ノ中ニ在リト云フニ至ル踏ム足ヲ止
メ嘆ジテ曰ハク然リ然ラザル可ラスト此ノ父ニ
シテ此ノ二子アル宜ナル哉

兄誠所通稱五一郎又五一トモ呼ブ諱ハ永字ヲ宗
永トシ尚永ニ改ム父命ニテ伊藤仁齋ノ門ニ入リ
學ビ造詣淺カラズ享保年中友人開祖衛ノ志ヲ繼
キ五畿内ヲ撰スルヤ官許ヲ得テ畿内各地ヲ渉獵
シ啓ニ諸社諸寺ニ出入捜索スルノ便ヲ得テ六年
ノ間ニ於テ輿地通史中畿内ノ部六十一卷成リ幕
府ニ納ル神祠陵墓ヲ明了ニシ淫祠邪祭ヲ糺彈シ

京都府立総合資料館所蔵

タル功績顕著ナリ

享保二十年五月達一今度浪人並河五市郎編集致板行候五畿内志之内ニ權現様御名出候所坪立候儀ハ書入レサセ候就夫今度諸書物ニ權現様御名出候儀相除候得共向後急度致シタル諸書物ノ内坪立候儀ハ御名書入不苦候御身ノ上ノ儀且御物語等之類ハ可相除候

東行シテ掛川々越而侯ノ聘ニ應ジ辭シテ江戸市中ニ私塾ヲ設ケ生徒ニ授ク其ノ學宏博ヲ貴ビ經史考辯ヨリ本邦ノ兵法和歌文武ノ諸技ニ渉ル終ニ伊豆三島ニ隱レ樓居シテ中臣板傍訓ヲ草ス元文三年十月没ス年七十一常居多病子孫無シ

天民名ハ亮字簡亮天民ハ其雅辭ナリ誠所ノ冥ニシテ共ニ伊藤氏ノ堀河熟ニ學ブ學智ニ進ミ博覽考窮シ師説ニ疑義ヲ狹ムニ至リ其ノ仁義性情説ニ服スル能ハズ直ニ孔孟ノ正旨ヲ得ントシ應事接物ノ際ニ接シテ之ヲ察シ起居語默ノ間ニ觀ル ノ實地商量ヲ爲シ以テ多年ノ疑義ヲ解ケリ曰ハク四端ハ即チ性四端ノ外ニ仁義無シ情實ニシテ偽ナキヲ情トス恩ヲ以テ職トスルヨリ之ヲ心トス云フ其實ハ一ナリ心性情ヲ區示スルハ誤ナリトテ師説ニハ背キタルモ仁齋ノ恩遇ヲ忘却セズ上疏シテ蝦夷ヲ以テ内國ニ併サントセノ兵書ヲ愛讀シ常ニ軍機ヲ語リ醫方ヲ諳シジテ張仲景ヲ景

京都府立総合資料館所蔵

慕シ和學ニ通ジテ和文ヲ能クス閑居シテ書ニ耽ル亦モ村夫子塾先生タルヲ欲セズ曰ハク若シ予ニシテ名榜ヲ掲ゲベクンバ吾ハ夫レ天民カト門人稱シテ天民先生ト呼ブ其京都ニアル時ヨリシテ業ニ既ニ仁齋ノ說ク所ニ折格スル所數カラズ遂ニ一旗幟ヲ立テタリ之ニ因リ紀仁齋派ノ東厓ト相抗格シ堀河（伊藤宿所）學ニ東厓派天民派ヲ生ジタリ天民常ニ云ヘリ儒者ニシテ恒祿無キモノハ醫ヲ業トシ儒ヲ兼業トスベシト故ニ天民門下ニハ儒醫ヲ多シトス此ノ一說亦師說ト相容レズ或ル人音樂ノ事ヲ問フ天民曰ハク里巷ノ謠モ采樵ノ歌モ豊年ニハ其ノ調子溫和ニシテ樂ミ凶年ニハ憂愁ノ音調ヲ發ス其ノ本和平ノ心ト鬱憂ノ氣トヲ判ツノミ韶舞存シテ祭祀ヲ推樂已ニ絶エテ漢唐興コル是レ其ノ本ニアリテ末ニアラザレバナリ我ガ邦ニ唐樂高麗樂ヲ傳フレドモ其ノ義ニ通ズル者少ケレバ風化ニ益無シ萬葉集ヨリ二十一代集ニ至ル迄及ビ今ノ俚歌ヲモ選ミテ人心ヲ感動シ名教ヲ輔翼スルニ足ルモノヲ神樂催馬樂ノ如クニシテ愚人モ猶曉ルベカラシメバ國家ノ治道ニ益セン云々嗚呼天民ノ言ハ明治文教勃興ノ日ニ行ハル而シテ其ノ耳目コレヲ聞見スル能ハズ京都府知事槙村正直ハ天下ニ率先シテ民教ヲ建テタル者ナルガ命ヲ再渡ニ下シ遺書ヲ求

京都府立総合資料館所蔵

ム其ノ家コレヲ怖レテ無シト對ヘ夜間竊ニ之ヲ燒ケリ當時官命トシテハ人ノ之ヲ恐ルヽ甚シキヲ以テナリ天氏京ニ住シ京ニ歿スレ氏子孫冊波ニアリ天氏歿時年四十常ニ云ヘリ吾經典ヲ講ズト雖モ我ハ村夫子ノ名ヲ得ルヲ欲セズト若名榜ヲ掲ゲバ吾ハ天氏ト言フモノ乎ト故ニ之ヲ辭ノ如クニシテ用ヒタリ死シテ後門人コレヲ謚トス天氏ノ語ハ孟子ヨリ采レルナリ邊孤尚友辭ヲ說齋トスニ子アリ尚美辭ヲ任齋トシ尚誠辭ヲ信所トス後ニ巨川ニ改ム大阪ニテ醫ヲ業トス竹山中井氏ノ李女コレニ嫁ス一子ヲ産ム名ハ明來寒泉ト號ス又鳳來トモ號ス字ハ享先懷德堂ニ入

リ舅ノ碩果之レヲ教育シ其ノ子無キヲ以テ舅ノ家ヲ續ギ舅ノ女ヲ妻トス之レニ由リ舅氏中井ヲ冒シ後年復姓ス長ク懷德堂預カリト為ル懷德堂ハ中井積德積善ノ私學ニシテ亦大坂ノ公學ナリ維新後漢學敗殘ノ餘殃ヲ承ケナガラ尚存在ス

醫王山東光寺ハ嵯峨御所ノ御祈願所トシテ一本寺ナリ開基ハ文覺上人中興ハ義洞法師

正福寺浄土宗京都法然寺末本尊阿彌陀佛立像二尺五寸　不動明王ハ春日ノ作ト云フ

法隆山萬福寺　同宗山城桂村極樂寺末

瑠璃光山願成寺　禪宗妙心寺末　本尊藥師如來長六尺行基ノ作ト云フ開山雪江和尚

京都府立総合資料館所蔵

阿彌陀寺

紫雲山 國雲寺

福性寺

觀音堂 本尊三尺行基ノ作ト云フ

靈岩山神宮寺 古義真言宗 河内國野中寺末 開山秉華上人

中興香雲和尚 本尊阿彌陀如来

易行山西念寺 淨土宗 粟生光明寺末 本尊阿彌陀如來 坐像

三尺二寸 開山西山上人

光松山法然寺 本山同ジ 本尊阿彌陀如來 立像二尺八寸 惠

心ノ作ト云フ 開山志樂上人

八幡宮 並河家ノ氏神 石鳥居 正德三年己巳四月吉日ト了リ

幸神 小社二所

辨天社 文永六己巳年 四月廿五日勸請 南金岐

太社 天照皇太神 疱瘡ノ神 粟嶋明神

夜宙大明神 九月二十四日祭 舊暦 除地一段三畝

龍光山金花寺 土田ニ在リ 淨土宗 光明寺末 本尊阿彌陀如来

立像一尺八寸 開山智空甫寂

大師堂 辨天社

古迹芝原 名稱 某堂迹

天滿宮 地藏堂 本尊智證大師作

鎮守社 大黒天 毘沙門天 稲荷大明神

京都府立総合資料館所蔵

旭村大字杉印地、美濃田、山階、

地位ハ南郡ノ北偏ニ在リ東ハ山谷ヲ間テ、北郡ニ隣リ西ハ北郡ト船井郡ニ續キ北方又北郡ニ接シ南方平地千年村ニ通ズ亀岡ヘノ道ハ南向シ園部ニ向フノ道ハ西向シ近江若狭丹後ニ向フモノハ北向ス

村名山名河名等ニ旭ノ字ヲ用ユルモノ多クハ朝日ノ意トハガ唯コノ村ノモノハ其レト異ニシテ九日ノ二字ヲ合ハセタルモノトス丹ハ氏神ノ祭日ガ九月九日ナルヨリ来リタルナリ故稲池邊郷小井戸荘杉村高四百三十二石七斗九升九合

内四十九石九斗六升　杉浦知行

三百八十二石八斗三升九合　津田知行

京都府立総合資料館所蔵

印地村高四十五石七斗三升　篠山藩領
美濃田村高六百六十一石四斗六升一合
亀山藩領
山階村高四百石一斗六升八合　同
納租方法一例　杉村維新前ノ一獨立ノ村ナリ
高四十九石九斗六升前示高ヨリ四石三斗二升増シ
内一石八斗二升三合　水溜敷租米中ヨリ引ク
残高四十八石一斗二升四合　定免四ツ五厘五
ケ年据置　取米十九石四斗九升二勺二才
口米五斗八升五合ヲ加ヘ道米二石八合引夫米九
斗六升七合引
取米二十一石一斗一升五合

此ノ外ニ小物成竹運上其ノ他細目アリテ畑
役ヲレド畧ス
例年十一月十日舊暦年月迄ニ藏納ノス郷藏ニテ皆納ヲ
認ノテ庄屋ヨリ届ケ出ツレバ代官手代役ノ名出張シ
策ネテ呼ビ集メアル諸米商ヲシテ入札セシメ之レ
ヲ篠山ヘ運搬ノ重役立會ノエニテ開札シ高價ノ商
人ニ落札シ之レヲ商人ニ通知シ其ノ商人ヨリ金高
手形又ハ藩札ヲ受ケ取リ其ノ租米ヲ與ヲ何故篠山ヨデ入
札ヲ持テ行クカハ此ノ邊ニ篠山藩領高六千石アリ
テ之レヲ便利トシタルニ由ル杉印地ハ米納ニシテ
其ノ他ハ金納實ハ札納ナリ
松尾神社　式内　美濃田ノ山中ニ鎮座　境内三町

京都府立総合資料館所蔵

半四方　末社左天照皇太神ト半頭天王　右姪子大
黒天滿宮　石壇路傍ニ辨財天女
由緒ニ云ク元明天皇ノ和銅二年ニ草創セラレタリ
主神ハ大山咋神此賣大神ヲ祀ル山城國葛野郡松尾
神社ト同體同名ナリ延喜式ニ大比賣トス名神ナリ
大山咋神ハ大年神ノ子ニテ母神ハ天知迦流美豆比
賣又ノ名ヲ山末之大主神ト云フ近江ノ日枝山ニ住
ミ玉ヒ又山城ノ松尾ニ居給フ古事紀ニ坐葛ノ朝廷
モ厚ク崇敬アラセラレタリト云フ兄弟十二柱ト共
ニ國家ヲ護リ人民ヲ育テ給ヘリ
祠殿ハ大寶元年ニ秦ノ都理ニ由リテ創造セラレヌ
都理ノ祖川勝ハ聖德太子ニ隨ヒ寺院ヲ多ク作レリ

京都府立総合資料館所蔵

故ヲ以テ川勝ノ名天下ニ布キ其ノ子孫ヲ呼ブニモ川勝ヲ以テシ遂ニ其ノ系統ノ姓氏トナリ丹波到ル所ニ此ノ稱呼アリ又壯ナリト謂フ可シ

葛野郡松尾神社記ニ曰ハク古當社神領在郡國特丹波國天田川自往古四時引網漁魚奉備日供神地也故養和宣言曰件河并大井河自上古引網漁魚所供松尾祭祀河也近年於彼兩河甲乙輩妄魚梁漁鱗介之由罪科不輕者數前年有前山伊豫守為盛者不恐神慮横行于件河恣依漁魚鼈速令遠流畢近例也早上丹波雀部庄下至丹波山城國境可停私漁釣之由權中納言藤原忠親奉勅行之國中之輩宜承知

弘治六年二月朔詔大井川渡口准先例渡船二艘以可

京都府立総合資料館所蔵

通松尾神用

從御料所丹波國美濃田保並桐野河内村年中運送供
御米以下事以伊勢守代印聞渡上下何後毎度無其煩
可勘過之由被仰下者仍下知如件

右等ノ書類ニ徵シ古老ノ傳フル所ノ口碑ヲ錯綜シ
テ考フレバ當國ニ於ケル神社中最敬スベキ神ナリ
朝廷ヨリ厚遇アルヲ以テ前山為盛ナル者ガ魚漁シ
タルノ罪ニテ遠嶋流竄ノ刑ニ處セラレタルニテモ
知ラル、ナリ且又社用ノ為ニ二艘ノ渡船ヲ大堰川
ニ浮ベ處々ヨリ年中ノ供物ヲ進達スル便ニ供セシ
ムルノ詔勅アルナド旁以テ其ノ一端ヲ知ルニ足ラ
ン乎

猿樂田一段無税

今宮大明神社　境内東西三町南北一町無税

毘沙門小菴十三間四方除地

幡谷山元明院　真言宗京都東寺末　本尊藥師如來

大和橋寺ノ本尊ナリシヲ茲ニ移シタルナリ故ニ橋
寺ニハ本尊ナカリシト久シト云フ脇立日天月天長
二尺五寸平重盛ノ寄附十二天ハ清盛ノ寄附本尊ハ
立像一尺二寸聖德太子ノ自作ト傳フ　七堂伽藍アリ
シモ天正ノ兵火ニ其ノ迹ヲ喪ヘリ宇門ノ下ナル所
今ハ民家トナル寺堂ヲ距ル數町ナルヨリ推セバ剎
境ノ廣濶ナリシト想像スベシ當時ハ本堂護摩堂五
重塔陵鐘々樓山門四脚門下馬牌庚申堂鎮護神八幡

京都府立総合資料館所蔵

社拜殿鳥居アリ塔中寺院トシテ工ノ坊池ノ坊東ノ坊中ノ坊下ノ坊アリテ僧侶多數住居シソリトテフ山號ハ寺側ノ幡谷川ニ取ル後ニ龍峰ヲ負ヒ幡谷ノ瀑布轟々タリ四脚門ハ宮城ニ擬シ影陵ハ田緒ヲ示ハ正史ニ據レバ元明天皇ノ山陵ハ大和國添上郡法華寺村ノ北方椎山ニアリ天皇ハ出雲神社ヲ建テ玉ヒ千年村記事又松尾神社ヲ建テ玉ヒクル等當地ノ御關係淺カラザルノ故ヲ以テ此ノ假陵ヲ設ケクルモノ歟馬路村ニ在ル車塚ハ天皇ノ御車ヲ埋メクル遺迹トノ口碑モ是レ等ノ御緣故アルヨリ起コレル傳說ニヤ

元明天皇ハ第四十三代ノ女帝ニシテ天智天皇ノ皇

京都府立総合資料館所蔵

女持統天皇ノ皇妹和銅八年皇女元正天皇ヘ讓位アリテ靈龜五年十二月崩御御齡六十一歳

緣起ニ云フ元明帝ノ時ニ大和國橘寺ノ藥師堂荒廢ス或ル人夢ムル所アリテ帝ニ乞ヒ勅許ヲ得テ其ノ像ヲ負ヒ諸國ヲ行脚シテ此ノ地ニ來リヤ其ノ像成ニ宣フナリ舉グ可ラズ之レヲ奏ス勅アリ一刹ヲ起コシ其ノ像ヲ安置セヨト便チ其ノ敕ニ從フ領地物件ノ賜賚アリ帝ノ崩後ソノ御遺德ヲ追慕シ奉リテ御謚號ヲ奉シテ寺名トナス云々

木製佛像不動ノ圖等ハ國寶トシテ宮内省ニ簿エセラル聖德太子自作ノ像地藏ノ画古圖緣起記録ナド珍品多キ明治享閒九鬼圖書頭ノ調査ニ係カル所

京都府立総合資料館所蔵

中興權僧都真照上人　下馬札加茂書博士ノ手揮

新四國第一番札所

音はさく幡谷やまの滝の水
ほとゝけの哲ひゝくさなるうは　與平源素

登元明院

山深晴亦暗白日濕藤蘿苔蝕神碑古鳥巣佛殿多經霜
橘添味愛客僧忘病只是迷雲霧更能幾度過　同

冬晴過元明院

散策離城望梵樓浮生半日得清優村蹊曲々山隨秀梵
唄聲々寺更幽霧暗深溪雞已午天長僻地猶秋任他
賣酒人家遠一笑餘錢在杖頭

勝峰山大雲寺　禪宗京都興正寺末本尊釋迦如來坐
像一尺八寸開山龍舟和尚　鎮守稲荷明神社
誓願寺浮土宗本山京都同名誓願寺　本尊阿彌陀如
來立像三尺境内竪六十間幅二十間除地
天樹院ノ位牌ヲ祭ル安永九年五月十三日ト記入シ葵
紋付ノ厨子ニ入ル打敷挑灯等ニモ三ツ葵德川氏ノ
紋ヲ印ス院ハ水野東市正ノ娘ニテ南條若狭ヘ嫁シ
タル女ソノ後德川氏ヨリノ寄附ナドアリタルガ本
山ヨリ左ノ達アリ其ノ来歴ハ不明ナリ

尊牌御厨子御打敷是迄之通相心得提灯ハ
御靈前ニハ相用外用ニハ決而相用申間敷候

靈光山鷹岩寺ハ小菴ナリ本山不詳本尊地藏菩薩
立像三尺

京都府立総合資料館所蔵

毘沙門堂 小字里ニアリ

觀音堂 本尊聖觀音大士石像元明院下ニアリ

孝行人市助ハ美濃田ニ生マル明和七年齡五十ニシテ寢美セリ

ゴウノ口ノ長伏樋ハ古人ノ大工事ニシテ田養水ヲ通ズコレニ由リ穀物野菜養鮒事業昌ンナリ

地勢四面皆山數部落山脚ニ傍フテ點々シ中央ニ長細ノ耕地アリ其ノ中央ニ同寅小學アリテ美濃田ニ近ク他部落ニ遠ク通學ニ不便ナルヲ以テ移轉說出デ資金ノ募集アリタルモ豫算トハ大缺欠アリテ議沮ム之レヲ聞ケル岩井勝次郎ハ一書ヲ大坂ヨリ寄セ金一萬圓ヲ寄附セリ

小學校建築紀念碑

明治丙午歲南家之旭村將改築鄉校撰地而未成大阪市紳商岩井勝次郎氏系籍出於該村以故獨力寄捐乃能成之鄉人德焉欲刻石傳後郡司皆川惇作之記

勝次郎ハ文久三年美濃田ニ生マル父源右衛門母糸共ニ有爲ノ人ナリ勝次郎年十二ノ時母ト謀リ父ニ乞フテ大阪ニ出デ同姓文助ニ倚ル文助ハ母ノ甥ニシテ赤手巨萬ノ資金ヲ作レルモノ其ノ眼識勝次郎ノ人ト爲リヲ知リ試ニ丁稚ト共ニ勞動セシムルニ能ク耐エ善ク勤ム後日或ル人ニ語ツテ曰ハク私ハ文助ノ養子トナリマシタ私ノ養父

京都府立総合資料館所蔵

ハ至ッテ物堅イ一方ノ人デ私ノ三十歳ニナリマシタ時分ニ今ノ商賣ヲ讓リ渡サレ資本ハ貸シテ遣ルガ其ノ利子ト一切ノ費用トヲ月々仕掛ト其ノ上ノ餘分アラバ御前ニ呉レテ遣ルト言フ六ケ敷イ條件ヲ附セラレマシタソレデ金ハ向フノモノデ仕事ハ私ノモノ其ノ上氣ノ小イ物堅イ養父ノ主義ガ其ノ逆様ナ私ノ血氣ニ逸ッテ思フ存分遣ッテ見度イ心持ニ合フ筈ガ無イノデ隨分ト苦イ目ニ逢ヒマシタケレドモ今ニ成ッテ考ヘルト其ノ私ニ對スル嚴峻ナ理詰ノ冷イ中ニ温情ノ籠ッタ其ノ方法コソ私ガ奮発モシ出世モシ得タ有リ難イ教訓ガ有ッタノデス養父ガ隱居シテ店一切ヲ私ノ手デ切リ廻ハス様ニナリテカラ手モ廣メ幾分ノ信用モ得タ所カラ世界ノ貿易家トナリタイノ慾望デ三度世界漫遊ヲ試ミ店負ヲ外國ノ要地ニ置キ理想ノ實驗ヲ遂フテ居リマス云々

宜ナル哉大阪商人ニ率先シテ商社ヲ組織シ營業時間ヲ制限シ營業所ト居宅トヲ分離シ店員使用法ヲ改正スル等皆泰西ノ良法ヲ目擊折衷シテ實施シタルナリ日露戰役ノ國債應募ノ先鋒隊トナリ其ノ第三回目ニハ遞巡躊躇スルモノ多カリシヲ慨シ十萬圓ヲ出捐シ以テ他ヲ警醒シタル等ハ行爲中ノ人目ニ立チタルモノトス常ニ父母ヲ敬慕シテ一年數次歸邑シ異母兄ニ資シテ農業ニ安

京都府立総合資料館所蔵

着セシメ菩提寺ニ巨額ノ寄附金ヲ爲シ金壹萬圓ヲ出シテ慈善貧困ノ設立ヲ企テタリ

藤本清兵衛幼名川勝丑之助ハ天保十二年字杉ニ生ル幼ニシテ大阪ニ出デ、穀商ノ小僮トナリ十四年間忠勤シ其ノ小暇アルヤ書ヲ讀ム志ヲ立テ、主家ヲ辭シ獨力以テ商ヲ爲セシガ藤本某ニ見拔カレテ其ノ家ヲ嗣キ維新ノ政變ヲ利用シテ莫大ノ利益ヲ一攫セリ能ク人ヲ識リ嗣ヲ求メテ二世清兵衛ヲ得タリ大阪ニ於テビルブロカーノ元祖ト呼バルヽハ實ニ此ノ二世トス且藤本銀行ノ主公タリ金壹千圓ヲ寄附シテ一世清兵衛ノ故鄉ナル旭村同寅小學新築ニ際シ基本財産ニ供セリ

三股ノ勝

地ハ旭村ニ屬シ愛宕山西北ノ溪ニシテ山城國葛野郡越畑ヨリ當村ニ下ル間道ニアリ

臍岩　旭村ヨリ十町計リ登リタル所ニアリ近來石ヲ切リ出シ古形ヲ頽セリ

三坂ノ岩　直立ノ山上ニ大岩巨石多シ

大神樂石　此ノ邊絶景

甑岩　水中ニアリ天然ノ穴無數ナリ

鬼ガ城　直立ノ岩山　通路ハ右ニ登ル　溪ヲ見ルモノハ左ニ川ヲ傳フテ登ル

舟岩　水中ニアリ

鳶山　巨岩鳶ノ飛バントスル形ヲ爲ス

京都府立総合資料館所蔵

瀑アリ水神淵ニ注ぐ水神ノ小祠アリ
神懸岩アリ扇風岩アリ割岩アリ割岩ハ岩ヲ割リ
水ヲ通セシメタル所
大池アリ嶋アリ松茸ヲ産ス之ヲ採ルニハ舟ヲ要
ス舟中採蕈ノ奇興アリ
瀬平ノ池　此ノ池ハ人名ヲ以テ呼ブ瀬平ハ青戸
ノ人ニテ姓ヲ川勝トス三股川両岸ノ荒野ヲ開墾
センガ爲ニ三股ヨリ水ヲ引カントシ領主亀山藩
ヘ願シタルモ後患ヲ虞レテ許可セズ人民モ亦
ソノ成ル可ラザルヲ言ヒ假令ヤ成ルトモ水害ノ
容易ナラザルヲ言フ瀬平ハ深ク見ル所アルヲ以
テ利害ヲ連陳シテ上申太ダ切ナリ藩論モ亦定マ

リ終ニ之ヲ許ス之ヲ聞ク人民ハ暴力ヲ以テ抵抗セ
ントスルモ瀬平ハ屈セズ其ノ工事ニ着手セリ越畑
ノ地ニ五町歩ノ池ハ穿クレ三股川ニ水ハ來リ其ノ
水ハ地中ヲ潛リテ青戸ニ出デタリ是ニ於テ雜木林
雜草地ハ稲田トナリ麥畑トナリ年々ノ産出スル所
村ヲ賑ハセ家ヲ富マセリ之レニ見習フテ印地山科
美濃田杉ノ諸村今ハ部落神吉越畑ノ地ニ於テ池ヲ
掘リ水ヲ引クノ擧ヲ施セリ
孝子関女善之助ノ妹第ハ共ニ天性ノ孝子ナリ妹ハ
祖母ニ事ヘ第ハ父母ニ事ヘテカヲ竭シ養ヲ致シ地
頭ヨリ褒賜セラレタリ事ハ文化年間ニ在リ
大字山階　高四百石　七十八戸　隱坊七戸　亀山藩領

京都府立総合資料館所蔵

天照皇太神宮社　大同三年平城天皇ノ勅宣ニ由リ
祭祀ス今ハ指定社トナル　春日明神社　末社四
真神寺　禪宗妙心寺派開基ハ弘法大師高足ノ弟子
賢峰義禪和尚山號莊嚴　本尊釋迦一丈九寸　巢師堂
印地高四十四石三斗四升二十二戸篠山藩領
梅田大明神社　末社大黒天　辨財天　氏神ニテ村祭
ハ九月九日但舊暦
糠塚稲荷大明神社ハ小祠ナリ往昔此ノ所ニ富民ア
リ日々棄ツル所ノ古糠積ミ小丘ヲ為ス終ニ老狐ノ
栖ム所トナリ村民ハ之レヲ稲荷ノ神トシテ祭レル
ナリトノ俚説アリ
杉高四百石四十戸津田美濃守知行内四十石篠山領

氏神ハ美濃田ノ松尾大明神祭日亦同ジ
莊嚴山光德寺禪宗本山園部村新江龍穏寺末開山賀
屋唱慶和尚　本尊觀世音一尺五寸足利義持ノ歸依
スル所ニテ應永年間七堂完備ノ大利ナリシモ應仁
天正ノ兵火ニ遇ヒ事迹ノ記事ヲ喪失セリ光德寺山
ハ其ノ舊地トヲフ此ノ山ニ於テ古劔古鏡古刀及ビ
陶器ヲ發掘シタルハ明治二十四年ヨリノコトトス一
帶ノ小丘他山ト其ノ趣ヲ異ニスル所蓋ソノ故アラ
ン
觀音堂　本尊立像長五尺鳥佛師ノ作トヲフ　鎮守天
滿宮　辨天社等アリ
岡崎山米福寺　無宗　本尊觀世音

京都府立総合資料館所蔵

阿彌陀堂藥師堂アリ

古城　天正年間園田彦次郎ノ居處

東別院村　大字　小泉　神原　南掛　大野　東掛
鎌倉　倉谷　栢原　湯谷

村名ハ西別院村ト共ニ古稱ノ別院莊ニ采レリ
村ノ地位ハ樫田村ヲ東ニシ西別院村ヲ西ニシテ
攝津國三嶋郡ヲ南ニシ亀岡町ヲ北ニシテ郡中ノ
最南地ヲリ栢原ノ權現山高ク聳エテ其ノ脈ヲ村
内ニ延バセ到ル處ニ山丘アリ只北方一帶平地ヲ
見ル　川流ハ神原山中ニ源泉アリテ東掛山中ヨ
リ下ルモノ西別院ヨリ來ルモノ樫田村ヨリ到ル
モノ等ガ村内諸部落ノ田畑ヲ養ヲテ攝津ニ流レ
下ル　山林深ク人口少ク猪鹿ノ害多ク田畑ノ收
入少ク一作地過半ナルヲ以テ農作ノ利アリ優

京都府立総合資料館所蔵

栢原

ナラズ然レドモ努力ノ經果次第ニ形勢ヲ良化セリ

大字栢原 元祿高六十六石 次第ニ増加シテ百十五石餘トナリ文久ニ至リ百三十三石八斗二升四合トナレリ 亀山藩領タリ 五十戸 天保度

亀山路ノ七曲ガリハ維新後新道成リテ其ノ嶮路ハ經ルニ及バズナレリ然レドモ新道ノ近ニシテ長キヲ厭フモノハ矢張リ舊道ノ提ヲ貪ル

神原ノ溪間ヨリ流レ来ル栢原川ノ水ハ全村ノ灌漑用ニ供セラル

此ノ邊ハ定免七ツノ高キ年貢ヲ拂ヒ農家ノ苦ミ此ノ上モ無ク年々檢見ヲ申シ立テ中作以上ノ年

柄ニテモ嘆願スルヲ常トシ減租ノ令ヲ待テリ維新以後此ノ弊熄ム开ハ丈量檢査地租改正アリタルニ由ル 平年一段三石ヲ得

道路ハ北向シテ南掛トニ料トヘ西向シテ鎌倉ヘ南向シテ攝津三嶋郡清坂ヘ行クベシ 攝津街道二筋東方ヲ地獄谷ト呼ブ往昔強盗ノ住家アリテ被害多カリシト云フ

天滿宮神社ハ氏神ニシテ指定神社トナル（大正初年）

宮山熊野權現ハ往時大社ナリシガ神主ガ紀州熊野ヘ飛ビ行キ彼ノ地ニ齋キ祀ラレ玉フニ由リ此處ニ殘ルハ小祠ノミトノ奇話アリ

此ノ山ハ寶山ヶ脈中ニ在リテ深邃十町餘ノ幽溪

京都府立総合資料館所蔵

アリ往古數寺アリタル迹トテ敷石庭石墓石アリ
田畑ノ迹ト見ルベキモノモアリ
祇園牛頭天王社　日吉太神社　アリ
祥王山金輪寺　真言宗　本尊藥師如來　向フテ
左ハ如意輪觀世音菩薩　右ハ阿彌陀如來　三尊
體トモ古美術品トシテ珍重セラレ玉フ
九折山德圓寺　本尊阿彌陀如來　立像長一尺三
寸　別ニ三方正面ノ阿彌陀如來ヲ藏ス　本願寺
宗ニシテ蓮如上人六十一歳ノ時ノ書ニ係カル名
號一幅アリ文明七年乙未八月上人此ノ寺ニ留錫
シタル時ノ手揮ト云フ　寶如上人ノ書ヲモ藏ス
大字鎌倉二百廿七石二斗六合内上鎌倉九十石八斗三升

四合　下鎌倉百三十六石三斗七升二合　天保度
ニハ二百四十石人戸上鎌倉二十一軒下鎌倉三十
軒
鎌倉神社　祭神不明ナルガ社壇頗好シ上鎌倉ニ在
リ
神雀山嶺豐寺　禪宗南樹ノ甘露寺末　本尊釋迦
如來坐像長一尺　開山大真隆大和尚
蓮臺山西方寺　開山千輪光峰大和尚
觀音堂
高十石ノ地アリ收穫其ノ度ニ滿クザルヲ以テ領
主ヘ嘆願スルニ代官聞キ入レズ故ニ銀札若干ヲ
附シテ之レヲ他人ニ讓ル被讓者ハ其ノ銀札ニ魅

京都府立総合資料館所蔵

セラレテノ事ナレバ年々納租期ニ至リ前非ヲ悔
ヒ已ヒカ銀札ヲ附ケラレシヲ他人ニ譲リ輾轉シ
テ維新ニ至リ地租改正ノ為ニ其ノ田ハ減税セラ
レ且農事奨勵農人勤勉ノ結果ニ由リ收穫次第ニ
加ハリ今明治二十年現價二百圓餘ニ昇レリ

神原

大字神原 元禄高百六十四石 文久高九十二石七合
上原下原ノ小字アリ亀山藩領戸數二十軒 天保度調
德神大明神社
稲荷神社 八王子社
正法山 神昌寺 禪宗京都相國寺末 本尊觀世音
菩薩長二尺五寸開山龍湫禪師 地藏尊長弐寸京
都公卿園家ノ寄附故大納言某ノ持念佛ト云フ

小泉

大日堂
道路東掛杉生ヘ通ズ山中ナレド田並善ク平年一
段收穫米二石五斗舊税法ノ免一石八斗
大字小泉高百四石天保改 百四十三石一斗四合 人
戸二十五軒
栢原川神原ヨリ來リ灌漑ノ用ヲ為ス
春日神社 末社若宮八幡舊九月廿八日祭禮
寶泉山清泉寺禪宗京都妙心寺末 元天台宗五百年
前今明治二十年ヨリ改宗 本尊聖觀音立像三尺小式部内
侍ノ守本尊ハ其ノ腹佛ニテ一寸八分 開山勅諡
俊鶏禪師 三尊彌陀坐像五寸寺傳惠心ノ作 小
式部内侍石塔本堂ノ左側ニ在リ高サ四尺許

京都府立総合資料館所蔵

和泉式部

泉式部内侍ハ越前守大江雅致ノ女ニシテ一條天皇ノ皇后後ニハ上東門院ト申セシ御方ノ女官ニ參リ後ニ和泉守橋道貞ノ妻トナル　一説初メ藤原保昌ニ嫁シ小式部ヲ生ミ爲尊親王ニ通シ離別セラレ後ニ又道貞ニ復歸ス一女小式部ヲ擧ケ夫死スルニ逢ヒ菩提ノ爲トテ西國三十三所ノ觀音ヲ巡拜セントト志シ一女兒ノ愛ニ牽カレ志ノ成ラザルヲ憂ヒ如何ハセント苦辛シ寢食ヲ廢スルヿ幾日夜ナリシヲ一朝之ヲ決シ遂ニ女兒ヲ北野七本松ニ棄テタリ其ノ頃ニ當上原ノ民ニ野ノ新助ナルモノアリ子ナキヲ患ヘ夫婦シテ之ヲ北野祠ニ祈請スル夢中ニ神告ゲ玉ハク汝モシ子ヲ

京都府立総合資料館所蔵

得ントナラバ之ヲ清水寺ニ祈請セヨト卽チ東山ニ行キ清水閣上ニ直庭レテ祈願スル内又佛告ヲ得タリ其ノ告ゲニ曰ハク汝子ヲ欲スルナラバ返リ七本桜ノ下ニ到レト便チ行キ索レバ桜下ニ一女兒アリ顏容玉ノ如ク皓々トシテ笑ヲ呈ズ新助夫妻悲喜交〻起リ輒前ンデ之ヲ抱ク兒ノ衣裳尋常ナラズ衣中ヲ檢スレバ佛躰アリ翌朝之ヲ視ルニ平素信奉スル所ノ觀世音ニシテ妙手ノ刻ミタル所ナルナドヲ取集メテ思考スルニ或ハ貴種ニテヤアランカト抱キテ歸リ愛童撫養スル〻七年ナリ　茲ニ又其ノ母式部ハ諸方ノ觀音ヲ巡拜シツヽ第二十壹番ナル穴太寺ニ詣デヽ路ヲ下原ニ取リ上原ニ出デントスル時已ニ黄昏ニ及ベルヲ以テ宿ヲ請ハントテ一民家ヲ叩ク昔日禁中ノ麗今ハ行旅ノ丐徒藁席麥飯ノ惠ヲ受ケテ一夜ヲ送リ翌朝辭シ去ラントシテ目ヲ其ノ家ノ女兒ニ注ギ轉タ感ズル所アリテ默止ガタク家生ナリヤ他生ナリヤヲ叩キタルニ主婦前話ヲ擧ゲテ之ニ答フ式部兒ノ懷中ニ一寸八分ノ觀音ナカリシヤト問フニ主婦ハ有リト答ヘテ之ヲ佛壇ヨリ卸シテ示ス式部色ヲ變ヘ漣然トシテ曰ハク是レ吾ガ生ミノ子ナリト卽チ新助夫婦諸共ニ清水ニ詣デ北郊ニ饗シテ法施奉ラント同行シテ京ニ上リ母式部ハ止東門院ニ參リ請フテ奉仕セシム新助夫婦

京都府立総合資料館所蔵

モ之ヲ欣ビ拾ヒ子ヲ式部ニ歸シタルニ惜ムベシ
早世セリ母ハ泣ク〳〵其ノ柩ヲ護シテ上原ニ至リ
新助ノ家ノ墓所ニ葬レリ母式部歌アリ

とゝまるとも其乃下ゝハ忘ちず〳〵て恒ゝ故郷をしのぶそらなり〳〵歟

ト詠ジ一佛舍ヲ營ミ以テ其ノ亡キ子ノ追福ヲ修
メヌ即チ清泉寺ナリ小塔アリ小堂アリ共ニ其ノ
靈ヲ祭レリ播州書寫山性空ニ從ヒ晴ヲ明くら
き道をそ入りぬべきるゝみてらせ山のそ乃月
ノ一首ヲ呈ズ世人以テ絶調トス亀岡古世町稱名
寺ニ小式部ノ墓碑アリ往年清泉寺ヨリ移セシモ
ノ何故ニ移轉セシメタルニヤ詳ナラズ
院ノ馬場アリ起原詳ナラズ佐伯ノモノト同一ナリトモ

湯谷　高百十石二斗三升　戸數七三軒　文久
概藩領　天保度二十三戸
氏神　玉依大明神　例祭舊暦十一月十四日　末社
大原社　聖神社　本社相殿　出雲社　春日明
神　太神宮　西宮大明
洞雲山福泉寺　禪宗　伊勢山田等觀寺末　本尊
觀世音菩薩　開山卍堂鼎大和尚
東雲山法花寺　禪宗　本尊藥師如來
湯屋ガ嶽　湯谷部落ノ乾位ニ聳エル山ニシテ絶
頂ニ熊野權現ヲ祭ル卯月八日土人群登ス頂上ヨ
リ臨望スレバ東田船井二郡ノ處々遠クハ南海ノ
縹渺タル濤瀾ヲ收ム可シ古石塔ノ高サ二尺五寸

京都府立総合資料館所蔵

一對　九形　鐵燈籠
高八寸三分
屋根差渡壹尺三分
屋根下幅八寸九分
下方幅八寸一分
目方三貫百匁

計りノモノアリ大治二年ノ四字纔ニ讀ム可シ字ヲ萬頷寺ト呼ブ古刹ノ在リシ所ニヤ

湯壺竪七尺横四尺深三尺　昔日温泉ノ伽ヲ印ス」

丹州桑田郡湯谷藥師如來傳來書ハ數十百年ヲ經タル古書ナルガ其ノ中ニ古ヘ小野小町乃大病を煩ひ大内を出でゝ諸国巡行乃折柴ニ七堂伽藍の大寺ありて号菜内の寺ハ侍敵大内乃開元なり小まち心願をゝけ一七日乃間參籠以為し医業耳ありても何乃利益もなし小町菜内の寺を恨ミ吐乃歌ニ曰く

ありやなしやとわれ乃病ハ時を人乃ぬ寺と以乃る心ゝ

願望をしたゝめ寺あへをし出し其掛を立迯れん

京都府立総合資料館所蔵

とすれハ此歌ニ感應ありて俄ニ大雨降り来り此
末の歌ニ曰く
村雨ハ降て時の法ちなきすをのゝみのをこゝにぬきすて
とあり又れハ蓑笠をぬき捨てたゞちに病氣ぶ癒
ありて小町大ニ驚きと拜して又一七日法華を遂
げ翌日九重乃都へ帰り野の中を出て秋郷ニ帰り玉
ひ小町一代の實録ニ踏したまひたりとなん
右一條モ信ヲ措キ難キ説話ナルガ見聞スル儘ヲ
記載ス本紙ハ山城ノ國千菜寺ノ什寶ト爲リタル
ガ深草ノ元政上人参詣ノ序之ヲ寫シ藥師ノ寶前
ヘ納ム寺大破シテ散乱シ紛失シタルニ上人ノ筆
ニテ如來ノ讃歌一葉アリ又小町ノ歌ヲ書キタル

京都府立総合資料館所蔵

一葉アリ地頭奉行所等ヘ差シ出シタル實物ナリ
榧ハ此ノ邊ノ産樹ニシテ古木數十株森然タルアリ或ハ一株ニ株田園庭園ノ間ニ繁茂セルアリ乾燥シタル榧實三斗ヲ獲ル一樹サヘアリ相場一升五錢ト云フ所ハ著者ガ明治二十九年ノ秋見聞シタル所ナリ延喜式丹波貢物中榧子五斗五升ノ目アリ往昔コノ邊ヨリ出ダセシモノ乎或人ノ云フ由リテ栢原ノ村名アルナリト今デハ栢原ノ方却テ少シ木倍子モ亦山中ヨリ出ブ

倉谷　高百八石　高槻藩領

氏家山腹ニ散在ス地位各部ヨリ高シ　天保度調人戸二十軒

道路下鎌倉ヘ湯谷ヘ南掛ヘ通ズ皆山間ニ在リ
稲荷大明神社　例祭舊暦十一月五日
慈眼山谷昌寺　禪宗　太田龍潭寺末　開山大叔常照

南掛　高百八十九石一斗五升　高槻藩領　天保度人戸三十軒

祇園牛頭天王社即チ素盞雄神社ハ現今指定社トナル末社ニ春日八幡アリ
伏御山甘露寺　禪宗　越前永平寺末　本尊準泥観音
乘鞍渕　古時一武者アリテ乘馬ノマヽ此ノ渕ニ入リ沉ミタリト云フ

京都府立総合資料館所蔵

東掛

落合ノ左木橋　一名天下橋トヽ云フ徳川將軍家ヨリ修繕スルニ由リ此ノ名アリ桂昌院ノ由緒アルニ由ルトカヤ天下橋ノ丁船井郡檜山村ノ部ニ出ダセリ参看セヨ　巨大ナル木佛寺々ニアリ今一括シテ一堂ニ容ル

東掛　高二百四十石　高槻藩領　栢原川小泉ヨリ來リ注ギ南掛ヘ流ル

春日八幡両神社ヲ隔年舊暦九月十八日ニ祭ル

天保度人戸五十軒

瑞祥山春現寺　本尊藥師如來　三尺ノ坐像　開山慧輪慧明

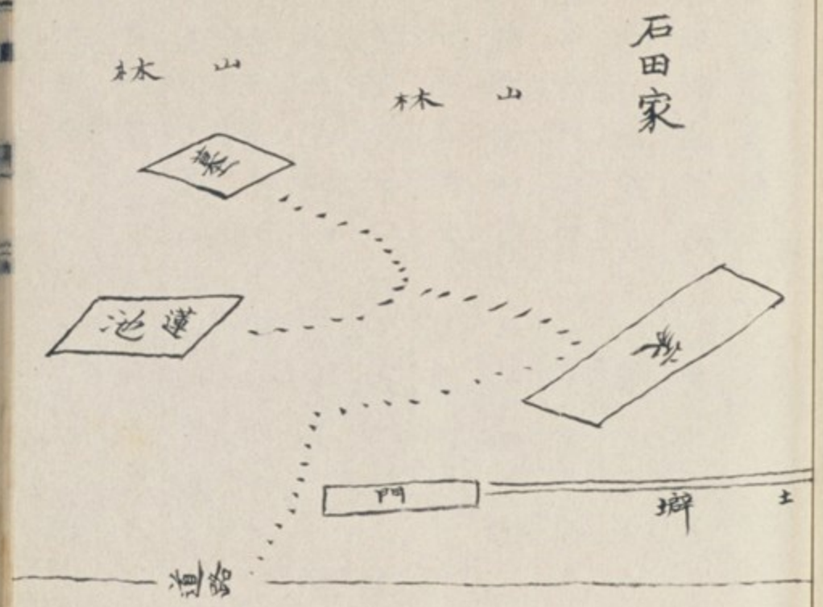
觀音堂　大日堂アリ　道路大野南掛田能小泉寺村ヘ通ズ

田能ヘ赴クニハ黒柄嶽南麓路ナリ

寺村ヘハ櫻峠ノ坂アリ黒柄嶽ノ丁桂田村ノ部ニ出ダス

京都府立総合資料館所蔵

東別院村



京都府立総合資料館所蔵

石田勘平梅岩畧傳

石田興長通稱勘平號ヲ梅岩トス父ノ老後名ヲ淨心ト云フ母ハ角氏貞享二年九月十五日此ノ村ニ生マル淨心天性正直ニシテ子ヲ養フヤ方アリ勘平十歳ノ時近傍山間ニテ栗子ヲ拾フテ歸ル淨心其ノ在リシ處ヲ問ヘバ自家所有ノ山ト他山トノ境界ナリト答フ淨心云フ我ガ山ノ栗ノ木ハ境ニ近カラズ所ハ必他山ノモノナラン假令我ガ山ニアリタリトモ元来他人ノモノナレバ之ヲ拾フ可ラズト誡メ元ノ處ヘ持チ行キ返サシム爾来勘平ノ心機高上シ淨心ノ心ヲ以テ心トシ些事モ忽セニセズ二十三歳ニシテ京ニ入リ商家ニ店丁トナ

京都府立総合資料館所蔵

リ業餘ノ間ヲ偷ミテ神道者流ノ論ヲ聞クヲ樂ミトシ夜間人定ノ後ニ於テ沉思默考シ或ハ卷ヲ繙キ夜讀シテ悟入スル所アリ或ハ假名本ニ由リテ文字ヲ獨得シ又ハ人ニ就キ質問シテ文章ノ意ヲ會得シ人ニ語リテ曰ハク神道ノ意ヲ世人ニ聞カセタシ聞キニ來ル人無クバ鈴ヲ振リテヾモ戶毎ニ聞カセハヤト蓋シ當時ノ神道者流ナル鹿嶋ノ言觸トテ鈴振リ人ヲ集メテ辻說教ヲバ爲セシ故面云ヘルナリ其ノ後ニハ儒書ヲモ讀ミ得ルニ至リ王陽明ノ知行合一ニ心ヲ傾ケテ體任シ老子莊子ニ出入シ三十五歲ノ頃ニハ自性見得ノ効モ顯ハレシガ之ヲ正スニ其ノ人ナキヲ嘆キ居タルガ

小栗正順號了雲梅容軒ナル人性理ノ大家ナリト聞キ贄ヲ門ニ執ル恰卯ヲ石ニ當ツルガ如シ是ニ於テ自己所見ノ軟弱ナルヲ恥デ平素ノ蘊畜ヲ放下シ寢食ヲ忘レテ兀坐研精シタルニ一朝自得スル所アリ偶〳〵母ノ病ムヲ聞キ丹波ニ歸リ之ヲ看護スルヤ病間フト戶外ニ出デ忽チ積年ノ疑團氷釋ス謂ヘラク堯舜ノ道ハ孝悌ノミ鳥ノ空ヲ翔ケリ魚ノ水ニ泳グノ道ハ上下ニ明ナリ性コソ天地萬物ノ本源ナレト母ノ病痊ヘテ京ニ歸リ師ニ謁ス師問フテ曰ハク工夫ハ如何ント勘平對ヘテ曰ハク如是々々ト空ヲ打ツテ其意ヲ示ス師云フ汝ノ見ハ盲者ノ摸象ト是ニ於テ又一層ノ工夫ヲ凝

京都府立総合資料館所蔵

ラセシニ一朝窓外ニ噪雀ノ聲アリ眠不眠ノ内ニ自性ノ根抵ヲ見破ルヿヲ得タリ之ヲ四十歳後ノヿトス四十五歳ニシテ道熟シ始メテ講席ヲ車屋町御池ニ開キ木札ヲ表ニ掲ゲ衆人ノ来聽ヲ許ス其文ニ曰ハク

何月何日開講　銭いりふやみ無縁ならも

法堂乃方ハ味通り内閣ゑ成ム

自後依頼ニ應シテ所々ニ出講スルニ此ノ札ヲ出セリ其ノ初ハ来聽スルモノ五人ヲ出デズ或ル日ニハ只一人ノミナリシカバ夏ノ人言フ拙者一人ノ爲ニ先生ヲ勞スルニ忍ビズ今日ハ休講セラレンヿヲ乞フ勘平曰ハク我常ニ講席ニアリテ書物ニ對シ差シ向ヒノ心ナレバ一人ニテモ聞クモノアレバ満足ナリトテ常ノ如ク講談セリ著ス所ノモノニハ都鄙問答齊家訓奥妄相要訓商家童問答女教訓等アリ都鄙問答ハ平日門人ノ問ニ答ヘタル所ノモノヲ集メタルモノニシテ元文巳未ノ年ニ梓行ス齊家論ハ門人ガ儉約ヲ行ハントテ問ヘルニ答ヘタル所ノモノヲ集メタルモノ門人ノ手ニテ成リ或ル人ガ難ケシタルヲ反復論明シタルモノニ係カル是ハ延享甲子ニ梓行ス同年九月廿四日ニ歿ス享年六十洛東鳥邊山ニ葬ル墓前ノ香花常ニ絶エス又舊里ニモ一墓ヲ建ツ其家東掛ニアリ農ヲ業トス肖像アリ黒紋服麻上下一刀ヲ佩

京都府立総合資料館所蔵

ブ髮ハ白巻立ニテ髷アリ惣髮ナリ紋ハ巴トス此ノ外ニハ横幅自筆ノ小軸ニ題シテ詠ジト書シひよつと出て五十ニ今ハ成ぬれと内いふいごでいつも風〳〵　梅岩トアリ今ハノ字ヲ朱ニて消シあなりニト書キ正セリ五十あまりふ成ぬれどトスル積リナラン庭中ニ小池アリ四五尺四方石垣コレヲ繞ル升ハ齊家論一篇ヲ著シ始メテ之ヲ京都ノ家ニテ講ズル時從前無カリシ所ノ蓮出デ其ノ日ニ白花ヲ開クリト云フ奇説アリ一説ニハ毋ガ好メルヲ以テ之ヲ植エタルニ山陰ノ寒泉ナレバ蓮ニ適セザル一莖ヲ抽シテ開ケリ其ノ日ハ即チ初メテ京都ニ講席ヲ開キタル時ト云フ。門人

石ツケテ孝行蓮ト云

ニ手嶋堵菴ヲ出シ堵菴ノ門ニ中澤道二ヲ出シ此ノ道遂ニ大成ス此ノ二人口講手書シテ師道ヲ顯揚シ慈恩尼ハ梅岩ニ聞ケル所ヲ著シテ道德問答ト名フク尼ノ名ハ葉葭明治四十年八月發起者相謀リ遺跡ヲ顯彰スル擧アリ其ノ九月八日其ノ縁者ニ係カル柴田寅三郎ヲ聘シ承教者二名ト著者ヲ加ヘ四名南桑田郡會議堂ニ演説ス自今著者ハ有志者ト謀リ亀岡町ニ心學會ヲ開ケリ

行實

心覺業既ニ徹底セシカバ故山ニ歸リ道ヲ講ス來聽スルモノ次第ニ增加シ名聲四方ニ馳ス領主郡山藩ヨリ庄屋年寄ニ達スル樣ハ百姓助平ハ自分

京都府立総合資料館所蔵

ヲ省ミズ青表紙ノ講釋ヲ爲シ衆人ヲ集ムル由自分不相應ノ事ニ付自今相慎ムベシトノ意ナレバ此ノ里ニアリテ百姓タラン乎斯カル壓制無キ土地ヲ擇ミ教道ニ從事セン乎ニ途ソノ一ニ居ラザル可ラズ一日斷然トシテ意ヲ決シ四方ニ來往シ亀山城下紺屋町ヲトシテ居ヲ定ム亀山蕃ハ古來文學ヲ特勵スルノ藩政ナレバナリ其ノ後迎ヘテレテ京都ニ永住シ獨居自欣起居セリ平日早起盥嗽シ戸ヲ開キ掃除拂拭シ袴羽織ヲ着シテ更ニ盥ニ燈ヲ點ジテ拜スル所ハ天照太神竈神故郷ノ氏神孔夫子釋迦佛先師先祖父母等トス後ニ朝食スルモ亦拜ス食ヲ了レバ又拜シテ嗽キ暫時休坐シ頓テ講席ニ就ク薄暮ニ點燈拜禮スルコト朝ノ如シ晝間ハ對客又ハ質義ノ爲ニ來ル門人ニ接シ間アレバ讀書シ草稿ス睡眠ヲ催セバ起テ掃除ナドシ睡氣罷メバ又机ニ凭ル夏夜モ夜半ニ至リ冬夜ハ夜半後ニ就寢ス　衣服ハ夏天ニ布ヲ用ヒ晴着ニ奈良晒布ヲ用ヒ冬日ハ木綿ニテ晴着ハ紬

飲食ハ上白米ヲ用ヒ粥ヲ喫スルヿ多シ一日一度味噌汁ヲ啜ル又一菜ヲ添フヿアリ　米ヲ洗フニ濃汁ハ釜ノ洗ヒ水ト共ニ能クイサセテ畜類ニ與ヘタリ　釣瓶ノ古縄ハ灰ニシ火鉢ニ入レ疊ノ古縁ハ塵拂トシ結髮用ノ古キハ洗フテ幾度カ用フ

乞食ニ物ヲ與フルニハ速ニ與ヘ與フル物無キ時

ハ與ヘザル旨ヲ嚴ク言フテ表ニ立タシメズ時ヲ
漫過セズ　茶店ニ休息スルニハ貧店ヲ擇ビテ入
リ錢ヲ與フルヤ餘アリ　夏日ハ蔭ヲ人ニ讓リ冬
日ハ影ヲ人ニ讓レリ　惡童戲ニ玄關ニ案内ヲ乞
ヘバ應ト答ヘテ出ヅ童笑フテ逃ゲ再来レバ又出
デ應ズ　終日鎖居ス妻子ノ係累ヲ以テ傳道ニ影
響スルヲ以テナリ　門人ヨリ一僕ヲ勸ム聽カズ
強ヒテ始メテ聽サル僕愚ニシテ用フル所無シ門
人謝シテ良僕ニ換ヘントス　強ヒテ聽サル此ノ
僕前僕ニ比スレバ少シク佳ナレドモ大差無シ衣
裳飲食疾病一ニ累タラザレバ無シ門人亦謝シテ
換ヘントス　聽カズ自後亦僕ヲ雇ハス自炊シテ
身ヲ終ル　殁後還レル所ハ書籍草稿見屋机日用
器具衣類ノミ

大野

大野　高七十三石　天保年間調査人戸二十軒
小瀧大明神　氏神舊暦九月吉日祭　末社　神明社八幡宮
大圓山安樂寺　江州守山大光寺末　本尊阿彌陀如來坐像開基年印
水源　山中ヨリ出テ北ニ注ギ曽我部村春日部ヲ過ギ亀岡ニ向ヒ大川ニ入ル
道路　曽我部村（東掛）（大槻並）（達ス

京都府立総合資料館所蔵

古稱別院ト壯

西別院村

西別院村　大字　笑路　神地　牧　柚原　大日野

西別院村ハ一山派ヲ間テ、東別院ト腹トナリ背トナリヲ南方大阪府下兵庫縣下ニ接ス北方六個ヨリ来ル池田街道貫穿シテ南行ス神地ヨリ亀岡ヘ三里ナリシガ新道ハ山逕廻旋スルヲ以テ一里計リ遠シ明治二十五年ヨリ二十六年ニ渉リテ設計開通セラル牧ソノ南端ニ位シテ村外四町有奇ニシテ攝津國トナル旗下士前田其領ト時高主古小布ト淮ヒテ舊来産物トシテ干心太ヲ製シ冬期コヽヲ経過スレバ一溪滿白雪前ニ雪アリ雪後ニ雪ヲ存スルカト訝ル石花菜ヲ心太ト云フ頭髪菜ヲドロ又ハヲゴ共云フ之ヲ原料トス其ノ

京都府立総合資料館所蔵

姑ハ天保十一年ニアリ京都有栖川宮御用ト云フ名稱ニテ各國ヨリ原料ヲ買集シタリ當時ハ舊事業ニハ株アリテ株外ノモノハ容易ニ同事業ニ着手スルヲ許サズ新事業ニハ領主ヨリ村方ヨリ故障ヲ申シ立テ開業スル能ハズ此ニ於テカ京都ノ公家又ハヨリ以上ノ勢力ヲ假リ來ツテ之ヲ標榜スレバ領主ニ於テモ代官ニ於テモ之ヲ如何ンセスル能ハズ之ヲ黙許シ加稅スルヿサヘ成サヌ仕末リナレバ此ノ製造者モ亦之ヲ假借利用シタルナラン然ラズンバ一宮殿御用ニ何ゾ特ニ不必需ノ手心太製造所ヲ設ケ置カン之ガ創始者黑田又兵衛ハ菊ノ御紋章ヲ用ル事ヲ許ルサヘ御用ノ二字ヲ用ルヿヲモ許サレ其ノ代リニハ年々製造中ノ上等品五百本ヲ同宮ヘ獻納シ來レリ此ニ於テ有栖川宮御用寒天司ト云フ繪符ヲ立テ四方ニ大手ヲ振リテ輸出セラレタリ弘化元年ヨリハ紀伊國ヨリ安政三年ヨリハ伊豫國ヨリ慶應元年ヨリハ加賀國ヨリ産出スル所ノ原料ヲ加ヘ盛ンニ之ヲ營ミ地方人民ヲ誘導シテ其ノ製造方法ヲ傳習セシメ地方産物開発ノ端緒ヲ開キ其ノ子新六郎父ノ志ヲ襲ギテ事業ヲ擴張シ益地方人士ヲ奬勵シテ製造ニ從事セシメ旦當時ノモノニ其ノ艶少クシテ失費多キヲ以テ多年苦辛考究ノ結果酢ヲ加ヘテ之ヲ試ミシニ良好ノモノヲ出シ從來粘力強

京都府立総合資料館所蔵

キガ爲ニ多量ヲ用ヒ得ザリシ エゴ即アゴヲ多量ニ用フルヿヲ得却テ烹煮ヲ補助シ乾燥ヲ速ニシ工費ヲ減シ而モ色澤純良ナル製品一劑以上ノ增收ヲ得ルニ至リ一般ヲシテ之ニ法ラシメ茲ニ寒天製造上ニ一大革新ヲ見ルニ至レリ之ヲ要スルニ一人ハ事業ヲ創メ一人ハ改良ヲ加ヘ相俟ツテ地方産業ノ基礎ヲ確立シ明治三十九年度ニ於テハ西別院本梅篠等ノ製造業家二十四戸釜數六十三個産額三萬四千九百貫價額十五萬七千圓ノ多キニ達スルヲ得タリ京都下鴨ニモ之ヲ作ルヿトナリ價五千圓ノ出額トナレリ此ノ四方五里ノ内ヲ適當ノ製造所トス他ハ信濃大阪近傍兵庫近傍アリ

原料 エゴ トコロテング サ コバリグサ 天草 心太艸 藻草 寒天艸等ノ名アリ漢名ヲ頭髮草トシ又石花菜 大凝藻トモ書キ支那ニテノ通稱ハ洋菜ト呼ブ

起原ハ今明治四十年ヲ距ル二百六十年前ニ山城國伏見ノ里ニ美濃屋太郎右衛門ナルモノアリ征韓ノ役ニ朝鮮ニ戰死スル子アリ名ヲ同フスル偶然海草ヨリ瓊脂ヲ取ルヿヲ發明ス薩摩國主嶋津侯東上ノ際伏見ヲ過ギ其ノ家ニ宿ス主人之ヲ家ノ譽トシ意ヲ盡シテ接待シ發明セル所ノ事ヲ話シ遂ニ一皿ヲ献ズ殊賞セラル侯出立ノ後具殘汁ノ地

京都府立総合資料館所蔵

上ニ棄テラレタルモノ黙々凝リテ氷ノ如シ主人以爲ヘラク寒氣ヲ假リ人工ヲ以テ製出スベシト幸ニ冬期ナルヲ以テ直ニ之ヲ野外ニ試ミタルニ結果良好ナルヲ得テ大ニ世後ノ利路ヲ開キ又當地方ニヲケル起原ハ天保十一年ニシテ製造人ヲ黒田又兵衛トス　有栖川宮ヨリ御用仰セ付ケラル前同年　紀州侯ヨリ原料ノ送付アリ　弘化三年　金二百疋密柑一籠ノ下賜ハ年々之アリ身鯨ヲ賜ハリタルヿモアリ　宇和島侯ヨリ原料ノ給與アリ　同年　加賀侯ヨリ品買ヒ上ゲノ命アリテ送出シタルヿアリ　前文参照

支那ヘ五千八百九十担價三十一萬百四十四兩ハ

大阪ヲ經テ往クハラ寒天即チ細モノニテ料理用菓子用清涼食品用トス　日本全國統計

原料十貫匁價金十二圓八圓六圓ノ三種アリ是ハ大阪相場ニテ運賃ヲ加ヘサルモノ　明治三十五年ヨリ四十年ニ至ル迄ノ平均

一釜ニ二千貫ヲ焚キ六十日ヲ一期トス一釜一期毎晝夜人手間ヲ要ス　自家資本ニテ著手スレバ大凡一千圓ノ利ヲ着ル温煖ノ年ニ蒙ル損耗ヲ差引カザル可ラズ　干シ上ゲタルモノ百斤ニ付六十圓ノ相場　四十一年　内國向ハ角製ノモノ外國向ハ細物トスルヿ前示支那向ニ同シ　琥珀糖ニハ上等品ヲ加ヘ羊羹ニハ屑物ヲ加フ　細物一本ヲ飯一ニ外ニ加フレバ腐敗ヲ防グ夏時ノ炊飯前ニ

京都府立総合資料館所蔵

高サ三四寸ヨリ七八寸ニ至ル
一所ニ數十莖ヲ生ジ細枝マレニ分生ス
紅紫黄緑ノ數種アリ
豊後伊豆紀伊但馬ハ産出
日向ハ天保以後朝鮮臺湾ハ明治ヨリ

加ヘテ效アリ　製造ニ必要ナル氣象ハ夜寒晝煖ナラザル可ラズ寒カラザレバ腐敗ス暖ナラザレバ和ガズ一寒一和四日夜ニシテ成ル之ニ反スレバ全敗ス

製造原料ヲ晒スニハ溪水ヲ以テ洗滌シ之ヲ唐臼ニテ搗キ又晒シ又搗ク貝殼ナドヲ洗ヒ落シテ芝生ノ上ニ擴ゲ霜ノ降リルヲ待ツ九ケ日十ケ日捨テ置キ更ニ表ヲ下ニシ下ヲ表ニシ五六日間晒シ水ヲ切ルヲ一番晒ト云フ次ニ其ノ一番晒ノモノヲ谷水ニ浸シ臼ニテ搗キ簀ノ上ニテ一日二日晒ス之ヲ二番晒ト云フ是ニテ海草ガ白色トナル之ヲ九月中旬ヨリ十一月初旬マデノ仕事トス

京都府立総合資料館所蔵

西別院村

釜高四尺計　コシキ　三尺計　是ハ桶ノ底ナキモノ　之ヲ釜ノ上ニノセ　藻草二十貫位ヲ入レ角寒天ナラバ水十六石計ヲ差ス　之ヲ焚ク沸ヘ上カレバ火勢ヲ弱メ沸騰點ニテ止メ五六時維持ス　是ハ早朝ヨリノ仕事ニテ午後一時頃更ニ冷メヌ丈ノ火ヲ置キ四五時間維持ス　午後五時ヲ下ル頃沸詰ツタ所ヘ二石計ノ注水ヲスルヲ差水ト云フ　而シテ又焚ク之ニテ水ト草ト能ク調和シテ混淆ス　之ニテ一段落ヲ告ゲル

南後ノ事業ハ其ノ混淆溶水ヲ布ニテ漉シ臺船ト稱スル木箱ニ流ミ殘リタル草ハ俵ニ入レ紋木モテ絞メ又紋メル　此ノ紋メラレテ出タルダシカ

京都府立総合資料館所蔵

寒天トナルノデ粕ハ肥料トナル　臺船ニ汲ミル汁ハ蒸籠ニ似タル箱ニ入レル之ヲ小船ト云フ丈ハ三尺二寸幅ハ一尺四寸深サハ三寸七分計アリ　而シテ固形體ニスル爲ニ一夜ソノ儘ニシ翌朝馬鍬ト云フ庖丁ニテ切ル　是ハ針金ニテ綱ニ似タリ長サ一尺横一寸四分厚ミ一寸六分トナツタ長角形ノモノガ出来ル是ガ角寒天デアル　地上ニ二尺計ノ所ヘ丸太竹ナド組ミ上ゲテ干場トス朝カラ出シテ天日ニ當テ、水ヲ切リ霜夜ニ晒シテ寒風ニ凍ラス　尚コレヲ凍テサヽシ爲ニ夕暮ノ風寒キヲ待ツテ水ヲ打ツ　大抗ニ水ヲ汲ミ之ヲ空ニ抛ゲ揚ゲル　水ハ雨ノ如ク霧ノ如ク飛散シテ一面ニ寒天ノ上ニ降リ掛カル　是ブ巧手ヲ要スル所デアル　溫度ガ望ノ如ク低下ストレバ一夜ニ凍ル　凍リカヌル時ハ幾夜モ打水シテ其ノ儘ニ置ク　水ノ滴リ切ツタノヲ今一度高キ小簀ノ上ニ乾シ水氣ノ全ク無クナリタル所ヲ圍フ此ノ所ヲ差込ト云フ　蠶棚ノ如キ引出シアリ　茲デ蔭乾十日計シテ之ヲ搬出ス　三百五十本ツヽ大皷形ニ縛リ之ヲ合シテ梱包ニス

細物ヲ造ルノニハ船ノ形ニ相違ガアル長サニ尺九寸四分幅一尺二寸六分深サ四寸七八分　之ヲ二十八本ニ切リ二寸一分角トシ太ヲ衝出ストヽ同シ方法ニテ綱ノ目ヲ通レ其ノ細クナツテ出タ

モノヲ簸箕ノ上ニ乾ス　是レノ三角物ト異ナル
點トス

製造人　天田　氷上　何鹿ノ三郡ヨリ雇傭ス
寒仕事故ニ暖地人ハ間ニ合ハヌ
統領一人　附屬九人ニテ二釜ニ供ス往々一人ヲ
減ス併一釜ナレバ五人ヲ要ス
統領ハ水加減煮加減ヲ司ル　次官ヲ釜脇ト云フ
煮揚ゲタ後ノ綛テヲ引受ケル　統領ハ屋内ヲ掌
リ釜脇ハ屋外ヲ掌ル　大抵十八歳位ヨリ三十五
六歳ノ者之ニ從事ス　賃金ハ三十五錢ヨリ四十
錢ヲ日當トス食事ハ雇主ヨリス　上等ノ出来ト
ナレバ賞與トシテ三十錢計ノ日當ヲ添フルヲ以

テ七十錢ノ日當トナル
一日ノ焚上ケ數量　一釜ニテ小船七十　數四千
本　大釜持ツ家ニテハ日ニ二萬四千本　十二月
初旬ヨリ翌年二月迄休日ヲ除キ約六十五日
輸出先大阪八分ハ内地ニ分ハ外國　内地用ハ角
ヲ多シトシ外國向ハ細　内地ハ上等物多ク外國
ハ中下ヲ需用ス　内地ニテ大抵ハ菓子トナル
南山家ニテ二十五萬圓ノ格價ヲ産ス　出荷スル
ヤ否直ニ原料ノ買入ニ着手シ終年之ニ從事ス
牛蒡ノ産アリ　厚朴ノ産アリ下駄ノ枝料トス之
ヲ製スルモノアリ
寺田　高百六十石　内九十石　高槻藩領　七十

京都府立総合資料館所蔵

石槙下士平野久右衛門知行　道路萬願寺ヘ柚原ヘ攝津余野ヘ通ス　天保度ニ十二戸

山王權現社ハ氏神　村社大歳神社アリ

高雲山青峰寺　禪宗　本尊觀世音菩薩　攝津池田大光寺末

寺田ノ名ハ至ル郡國ニ之ヲ聞ク寺院ノ田野ヲ意味ス此所ハ萬願寺ノ田平

萬願寺　高八十石餘往古大刹ノ遺址アリ湯谷嶽東別院ニモ此ノ字アリ　天保二十六戸

大宮神社　攝社山王權現　末社八幡宮　住吉神

藥師堂　祭例九月廿八日舊暦　道路三條アリ寺田柚原湯谷南掛ヘ達ス

萬願山積善寺　本尊釋迦如來　開山勅賜紫持寺永澤ニ百五十二世悟舟和尚

牧　高三百八石六斗七升　高槻藩領　天保四十戸

前示寒心太ノ製盛ンナリ

大歳神社　末社　八幡宮　春日宮　拜殿アリ鐘樓アリ

孝子門七ハ細民ノ子ナリ明和安永ノ頃ノ人ニシテ父ヲ孝養シ一家和穆近隣之ニ化スルモノ有リテ德澤ノ及ブ所浅カラズ

八王山長福寺　淨土宗　京都知恩院末　本尊阿彌陀如來　五像三尺

鎮守八王子社　開基ハ古城主長澤因幡守ノ子采

京都府立総合資料館所蔵

女

笑路ノ城主長澤因幡守没落スルヤ乳母其ノ幼兒采女ヲ提携シテ神路ノ民家ニ隱レ之ヲ養育シテ牧村ニ居ヲ移シ居住シ丹波長澤ノ本宗トス長澤ノ一諸所ニ散見ス併ハセ見ルベシ波多野赤耕久下ト共ニ丹波四頭ト呼バル織田豐臣両氏ヨリ別院莊ノ下賜アリ足利尊氏ヨリノ下賜品ヲモ藏セリ

道路　池田ヘ能勢ヘ神路ヘ通ズ　水源アリ山中ヨリ下リ攝津ニ奔ル

笑路　高百七十石　高槻藩領　亀岡河原町水源一川アリ路一條東北法貴ヘ西南神路ヘ南方柏原ヘ達ス　天保三十戸

午頭天王　氏神ニテ舊暦九月六日祭

貴船明神社

大雲山西光寺　禪宗　字治興正寺末　本尊觀世音立像二尺五寸　庚申堂同寺内ニアリ長一尺八寸　聖德太子ノ作ト云フ

松尾山城迹　長澤因幡守ノ根城ニシテ矢田大山其ノ他所々ニ支城分寨ヲ有ス天正年中一興一敗シテ遂ニ東軍ニセサル永上郡以下ニ所々ニ散見ス

神路　高二百六十石　高槻藩領　天保四十戸

白髮大明神社　右ニハ幡大菩薩左ニ春日大明神

京都府立総合資料館所蔵

ヲ配祀ス　末社　八生神　辨財天女　池中ニ祀ル

曹溪山龍洞寺　禪宗　船井郡小山德雲寺末　本尊釋迦如來

旅亭ニ軒　明治二十五年

大日野　高六百七十六石七斗二升　高槻藩領

天保八十石

正一位松尾大明神社　九月九日祭　舊暦

白雲山常光寺　真言宗　藥師堂

愛宕社　役行者堂　御靈社

萬松山常泉寺　禪宗　山城八幡神應寺末　本尊觀世音菩薩

甘水山慶善寺　淨土宗　亀岡專念寺末　本尊阿彌陀如來

菩薩堂　本尊觀世音菩薩　勝負堂トモ書ケリ

秋葉權現社アリ

慈恩堂　本尊觀世音菩薩　長一尺　美女御前守本尊

美女御前塔　石造四尺　多田城落去ノ際攝津ヨリ當地ヘ避難シ來レリト美女御前ハ一ニ美(ウウシ)御前トモ云フ多田滿仲ノ季子美丈丸ハ其ノ勇氣力量アルヲ以テ強暴ナリ父コレヲ憂ヒ僧ト爲シ因果ノ理ヲ知ラシメ其ノ心行ヲ改メシメバヤトテ之ヲ僧徒ニ托シテ教導セレムルニ品行華マラズ僧

京都府立総合資料館所蔵

ヲ若メ寺ヲ荒ラス等數僧侶ノ泣訴ヲ受クルモノカラ父母兄弟之ヲ如何シトモスル能ハズ滿仲モ今ハ是レ迚ナリト美女丸ノ傳ナル仲光ヲシテ竊ニ之ヲ殺サシム仲光ノ妻ハ之レガ乳母ナリ夫妻相悲ミ相謀リ其ノ子幸壽丸ヲ殺シテ以テ滿仲ニ示シ美文丸ニ代フ美文丸之ヲ見聞シテ大ニ前非ヲ悔ヒ苦行ヲ勵ミ仲光ニ謀リテ叡山ニ登リ僧トナリ幸壽丸ノ二世ヲ弔ヘリ源憲法師コレナリ

道場　本尊　阿彌陀如來　亀岡誓願寺末

犬飼犬甘野古名ニ於テ同ジ酒ノ君ガ鷹ヲ飼ヘルニ由リ鷹甘野ノ名アルニ同ジ曾我部村犬飼ノ部ヲ參看セヨ　水源ニ系アリ神路ヨリ來ル犬飼川

柚原

ト爲リ曾我部村ヲ貫流シ保津川ニ注ク

柚ノ原　高二百石　高槻藩領　天保三十戸

御靈大明神社　舊暦九月十日祭　社内ニ見沙門ヲ祭レリ

瑞雲山常樂寺　禪宗京都妙心寺末　本尊觀世音菩薩　開山門山傳心和尚

鎮守　天滿宮社

大槻並

大槻並　高七十七石　人戸十二　天保度

祇園牛頭天王　氏神　末社三社明神

天王山極樂寺　禪宗　江州守山大光寺末　本尊觀世音菩薩

一條ノ路　大野ヨリ萬願寺ヘ通ズ南北一貫

京都府立総合資料館所蔵

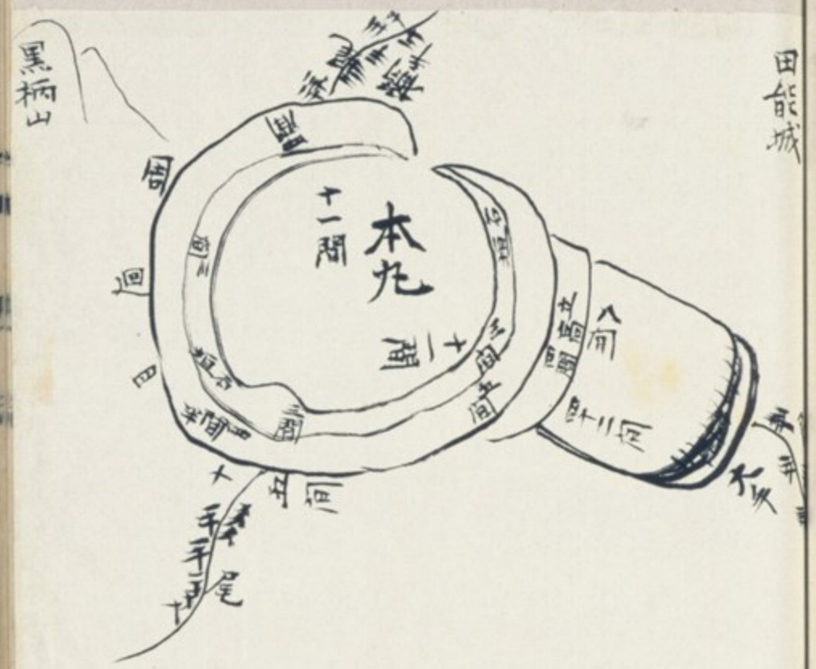
樫田村　大字　田能　二料　杉生　中畑　出灰

南桑田郡ノ東南部山嶽丘阜ノ連亘セル中ニ屈曲迂廻シツヽ山城國ト腹背ヲ相為ス地アリ之ヲ総稱シテ南山家ト云フ獨立小村十數アリシヲ今ハ本村ト東別院トニ二分ス先ツ本村ヨリ叙述セン

大字田能舊高四百十九石　文久高四百五十石一斗五升　亀山藩領　天保年間人戸九十軒

四十町歩ノ田地アルハ山間ノ僻陬ニハ見ル可カラザルナル郊野タリ實測ニ由レバ平年ノ収入ハ高ニ三割増トス土地高キヲ以テ寒氣早ク秋末冬初米實ノ半熟ニシテ萎枯スルモノ往々コレ有リテ毎ニ半額ノ減租ヲ見ル舊領主亀山藩ノ時ニ増税シテ

京都府立総合資料館所蔵



四百五十石五合トナル實收ハ七百石以上アリ田一段ヨリ一石七八斗乃至二石ヲ得　一段六十苅一畝六束新段別ニテ五十苅今ノ五束一畝トナルトヱフ此ノ古稲ハ今ヒブ往昔一段ヨリ二石ヲ得レバ上々作トセシヲ明治以後二石五斗ヲ取ルモ珍シトセズ城山ハ土性堅實ニシテ水ヲ漏ラサズ故ニ麦作ニ適セザリシモ今ハ改良シテ両作スベシ

極暑九十度以下　亀岡ニ比スレバ春夏ノ時候半月ヲ後ル

里程　京都ヘ五里　亀山ヘ五十町　大阪ヘ九里

橿原ヘ二里

京都府立総合資料館所蔵

古老ノ話　年貢ハ米納スベキデスガ銀納ガ多分デアツタ高ノ割合ニハ田地ガ少イ故デアツタノデス猪鹿ノ害ガ多フカワタ故山田ニハ一畝半畝ノ分デモ鹿砦ヲ作リマシタ獣類ノ多イ年ニハ夜中ニモ起キ出テ追ヒ拂ヒマシタ或ハ貧乏人ヲ雇フテ受ケ負ハシモシマシタ今ノ若イモノハ知リマセヌガ昔ノ山家ハ人ノ知ラヌ苦勞ガアリマシタ私ノ内ノ庭マデ鹿ノ來タ事ガアリマシタ今ハ一頭ノ猪ヲ見テモ直ニ打チ取リマス只家屋ハ堅固ニ建ラマス昔カラノ仕來リデス

古墨アリ田能ノ砦ト呼ブ　往時山伏ノ類ナル杉生坊コレニ住シ灰方伊豫守コレニ継ギ淀邊上野

京都府立総合資料館所蔵

みナルモノ等連々此所ニ據レリ城山コレナリ
山伏ノ類ガ城壘ヲ糧ヘ兵士ヲ養フ了後世ヨリ之
ヲ視レバ有リ得可ラザルモノヽ如キモ船井郡東
李梅村ノ部ニ出ダセル西藏坊豪渕ノ如キ豪僧ア
リテ勢力ヲ地方ニ振ヘル如ク此ノ杉生坊モ本山
ナル京都聖護院宮ノ威光ヲ藉リ以テ一地方ヲ領
得シタルナルベシ

樫船大明神

明神ヲ嶽高ク篠村ノ寒谷地域ニ渉リテ聳ケ一祠
其ノ上ニアリ樫船大明神ヲ祭ル主神ハ大國主神
ニテ太古樫ノ木ニテ造レル船ニテ谷間ヲ截リ開
キ地方人民ノ生活ヲ易カラシメタル爲ニ其ノ功
ヲ崇メテ祭リタルナリ此ノ船モ元ハ亀山ノ鉱山
明神ノ用ニ玉ヘル所ニシテ鉱山社ノモノナリシ
ヲ當地ヘ借リ來レル由緒ニ由リ亀山祭ニハ當地
ヨリ矢田ヘ行キ祭式ヲ行フ習慣アリ亀山町ノ祭
日ニハ山鉾ト呼ブモノヽ中ニ樫船山アルモ此ノ
縁故ナリ矢田神社ノ末社ニ樫船小祠アルモ亦其
ノ縁由ナリ祭日ハ九月二十日ナルヲ新暦ニテ十
月廿三日ニ改マレリ二料ハ天神社ヲ以テ土地神
トスルモ外三部落ハ當社ヲ氏神ト呼ベリ

樫船神社ニハ攝社トシテ両太神宮アリ末社ニ稲
荷大明神大山祇神白山權現熊野權現立山權現松
尾大明神ヲ祭ル　別當ハ天台宗惠峰山神宮寺ニ
テ開山ハ寶生院法印

京都府立総合資料館所蔵

八社大明神社黒河原山ニアリ

久昌山桂香寺　禪宗

龍洞山法泉寺　禪宗

安楽寺　禪宗

道路　杉生　二料　出灰ノ三系ト攝津ノ森中畑ヘノ二系アリ

弘法谷　大師ガ大蛇ノ害ヲ封止シタル所

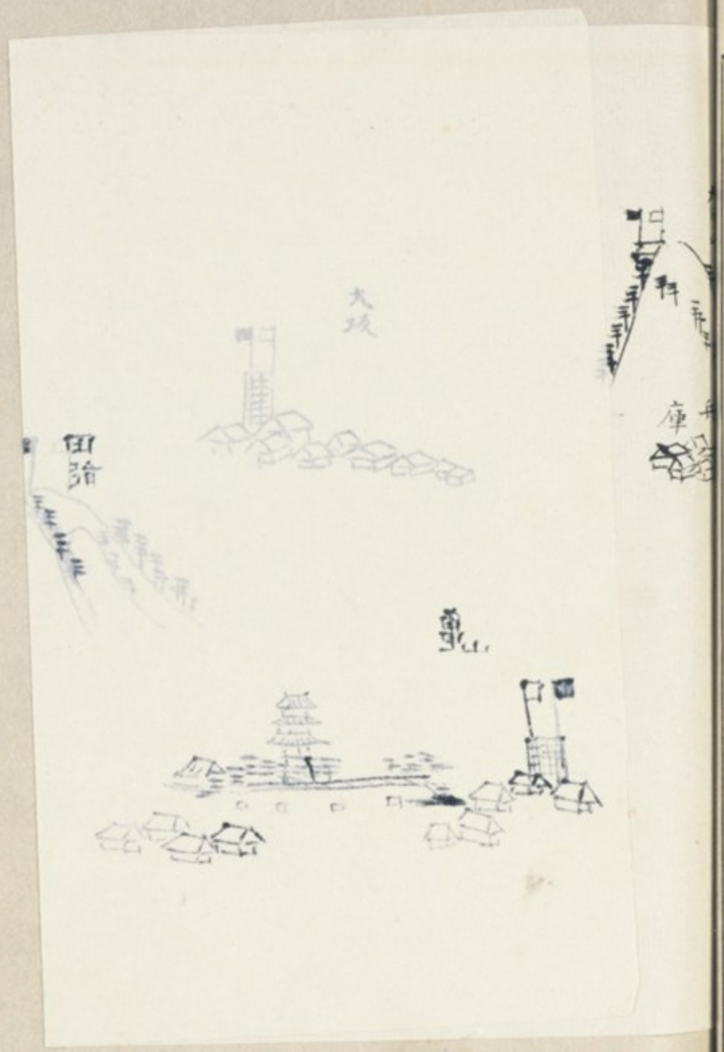
清水谷　大師ガ錫杖ノ先ニテ清泉ヲ流通セシメタル迹

雞石

馬ノ首石

黒河原山　八幡大明神ノ社アリ此ノ山頗高ク頂上ヨリハ大阪ヲ俯瞰スベシ古人ノ瑟眼ハ此ノ高所ヲ遺棄セズ一攫千金ノ利用ニ供セリ其ノ方法ハ所謂旗振トテ其ノ起點ヲ堂嶋ノ相場市トシ先ヅ其ノ樓櫓上ニテ旗ヲ振リ暗號ヲ以テ其ノ一昂一低ヲ標示ス中繼ノ山上望樓コレヲ受ケコレヲ亀山市場ニ報ズ中繼ハ即チ此ノ黒河原山コレナリ或ル人ノ曰ハク中繼ハ兩三所アリ然ラザレバ旗影分明ナラズト雖モアルベシ銀相場モ此ノ方法ニ由リテ報知セラレタリ旗ヲ右ヘ三廻スレバ三匁四廻スレバ四匁トシ左ヘ一廻スレバ五匁ナリトカ之ヲ始メテヨリ利便言フ可ラズ且又些少ノ誤謬モ無カリシハ未開時代ノ電報ト言フテ可ナリ

京都府立総合資料館所蔵



中ノ畑

孝子　市三郎　明和五年領主ヨリ褒賜ヲ受ク年十五

中ノ畑　元高二百五石　改二百十二石　文久改二百十六石三斗一升五合　天保年間人戸四十軒

氏神　樫田ノ樫船大明神　皇太神宮ノ指定神社アリ

京都府立総合資料館所蔵

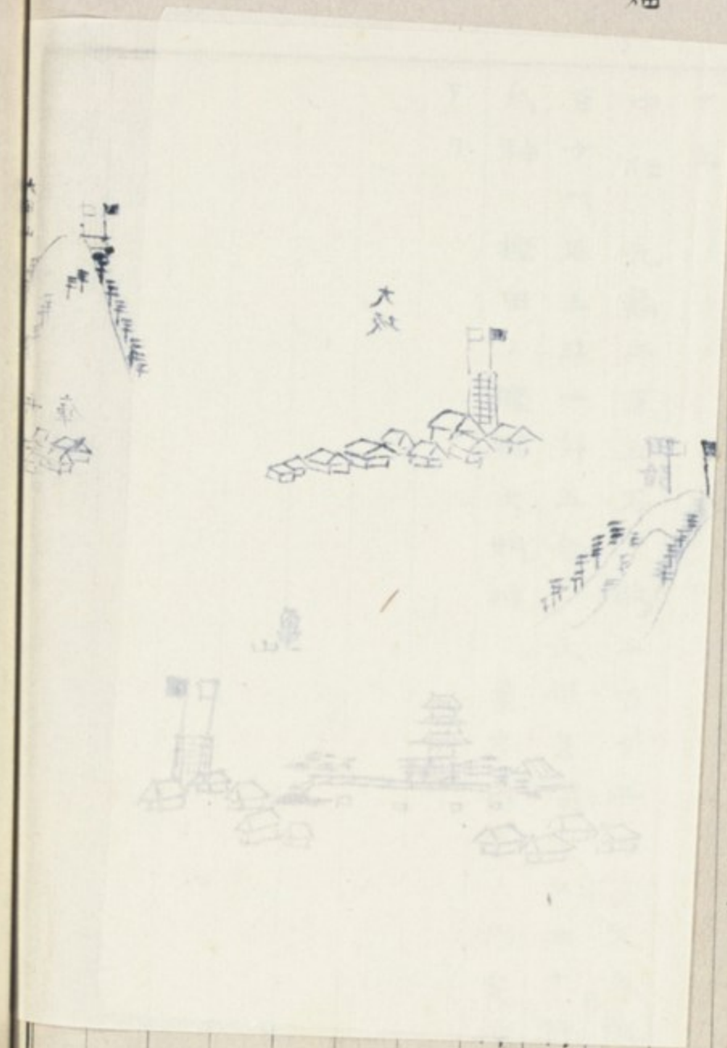
中ノ畑

中ノ畑　元高二百五石　改二百十二石　文久改二百十六石三斗一升五合　天保年間人戸四十軒

氏神　樫田ノ樫船大明神　皇太神宮ノ指定神社アリ

京都府立総合資料館所蔵

中ノ畑



孝子市三郎明和五年領主ヨリ褒賜ヲ受ク年

京都府立総合資料館所蔵

二料　元高五十五石　文久年度ニテハ九十四石
九斗五升四合ニ昇ル　亀山藩領　天保年間三十
四戸
道路一條川流一系　明智道ト呼ブ播津街道北向
シテ亀岡町ヘ南向シテ播津國三嶋郡ニ往還
シ栢原川北ヨリ來リ貫通シ播津ニ下ル二料川ト
モ呼ブ
寶山權現山以下ノ山脈彙集シテ四方ニ流レ此處
低凹ノ地僅ニ人家ヲ容ル人家尾葺多ク且美ナリ
氏神ハ隣村栢原ノ天滿宮ナリ例祭舊暦九月廿五
日ナリ　毘沙門ノ社アリ鹿丸ト名ヅク社アリ
外龍山法性寺　真言宗栢原ノ金輪寺末　本尊觀

京都府立総合資料館所蔵

世音菩薩　長一尺一寸　寺ノ鎮守太神宮社
産物中松茸ノ利多ク山城極原街道維新後ニ改良
セラレ京都市上ニ賣出セシガ利潤々澤ナリシニ
大阪地方ニ於ケル消費ノ莫大ナルガ爲ニ利路ヲ
南向シ更ニヨリ大利ヲ博得スルヿトナレリ是レ
單ニ二料ノミ而ルニ非ズ此ノ界隈皆然カリ實ニ
山ノ幸多キ所ニテ木枝薪炭就レモ其ノ利松茸ト
伯仲ス
著者ガ明治元年馬路村ニアルヤ田能村ノ青年來
リ學ビ時々其ノ家ニ延ク偶〻路傍ノ一小堂ニ憩
フ一老尼出デヽ茶ヲ惠ム顧ミテ其ノ室ヲ窺ヘバ
一軸ヲ壁間ニ掲ゲ七言絶句ヲ書シ末尾ニ洗心洞
後素ト記セリ由リテ大塩平八郎ナルヲ知リ問フ
ニ其ノ傳來ヲ以テス尼答ヘズ予モ亦強問セズ想
フニ平八郎ノ妾ニアラザル平平八郎ノ鰥ナルヿ
ハ世コレヲ知ル本書緒論ニ平八郎ノ人相書ヲ出
ダシ亀岡町記事中深海善左衛門ノ條下ニモ出ダ
ス就キ見ヨ
辨財天社　末社　十五童子社　荒神社　山王權
現社
和光山神宮寺　天台宗　西山善峰寺末　本尊不
動尊畫像
琴松山妙音寺　禪宗　山城天龍寺中慈濟院末
本尊觀世音菩薩

京都府立総合資料館所蔵

出灰

珠山光明寺　禪宗　妙音寺末　本尊阿彌陀如來

青松山普賢寺　本尊普賢菩薩　本尊今妙音寺ニ在リ寺セシ

出灰　元高三十二石　明治六十一石六斗二升八合　亀山領　戸三十五軒　公卿藤谷家領　戸十戸　土地モ亦二分セラレ一部ハ山城ニ入ル故ニ二個ノ出灰アリ

土地凹状ヲ爲シ中相ヨリ流下スル一川ト髮ヶ嶽ヨリ流下スル一川ト相合シテ村内ヲ貫シ南方攝津ニ入ル　天保年中人戸五十軒

午頭天王ヲ以テ産土神トス主トシテ田能ノ樫船神社ノ祭日ヲ用フ

報國山願成寺　山城栗生光明寺末ニシテ淨土宗本尊阿彌陀如來坐像

常安寺　同宗　本尊同立像

西庵　同宗　本尊地藏尊

出灰ノ名ニ因ミ産出スル所ノ石灰ハ質良ク量多シ中ニ就キ壁塗用トナル良品アリ田園ノ稀少ナルヨリシテ製灰ニ從事スル者多ク藩主ノ保護アリタルニ由リ人民ハ之ヲ喜ビ製造所ノ山ヲ呼ビ殿山ト云フ　開ハ殿様ノ御山ヲ畧シタルナリ

ポン〳〵山ノ毘沙門天堂ハ正月初寅ノ日ニ參詣多シ注連縄十二筋ノ掛ケ方ヲ見テ其ノ上ガリ下

京都府立総合資料館所蔵

杉生

がりニ米價ヲトス參者中米商ヲ多シトス

杉生　元高五十九石　文久度八十三石一斗七升

三合　龜山藩領　天保人家二十

黒柄嶽ニ大國主神ヲ祭ル此ノ峰ヨリ泥湖ヲ臨望シ玉ヒシメル故蹟ト云フ

春日大明神社ヲ氏神トセリ

慈雲山妙樂寺　禪宗京都妙心寺塔頭雜花院末

本尊虛空藏菩薩　觀音堂アリ　寛永二十年全院燒失シ創立記事等烏有ニ歸ス

寛文年中雜華院ノ水南和尚ノ第子ナル格翁宗律禪師ト呼ベル所ノ和尚ノ再興シタ寺デアル　格翁和尚ハ高德ノ人デアツタガ爲メ忝クモ明正

後水尾ニ帝ノ御尊信ヲ受ケ又後水尾天皇第一皇女南都圓照寺宮文智内親王モ御歸依遊バシ夫ガ爲メ内親王ハ同寺再興ヲ二帝ニ奏シ金帛ヲ下賜セラレ　尚後水尾帝皇后東福門院其ノ他ノ各殿下ヨリモ資ヲ賜ヒテ其業ヲ成就セシメ給フタノデアル左レバ師ハ其報恩ノ爲メ明正　後水尾ノ二帝　東福門院後水尾帝第一皇女文智内親王同第十四皇女光照院宮尊賀内親王二殿下萬歳ノ御尊牌ト同第皇女妙莊院宮昭子内親王　同第四皇女　寺宮理昌内親王ノ二殿下及ビ一條右府大夫今關斬主空山尼公ノ二淑儀御尊牌ヲ奉安シ聖躬及ビ尊體安全ト各淑儀ノ追福ヲ祈修シテ勅

京都府立総合資料館所蔵

願寺トナツタ　殊ニ後水尾帝ハ當時德川幕府ノ
專恣ヲ憤ラセ給ヒ天下安泰ノ爲メ同寺佛祖ニ御
祈願ノ爲メ屢々御微行ヲ同寺ニ行幸アラセ給ヒ
シ事蹟モアルト傳ハリ　是ニ依ツテ菊御紋章ヲ
附セシ瓦　御木文アル勅使門ノ跡モアリ御足洗
石等ヲモ存シ又御宸殿ノ趾御宸輪其他帝ヨリ賜
ツタ本尊ノ御屋形等モアウタガ明治維新ノ際政
府ニ差出シタ明細帳ニハ故アツテ此由緒ヲ記サ
ナカツタサウダガ明治四十三年五月現住職紹忠
和尚ハ其由緒ノ煙滅ヲ慨シテ訂正方ヲ京都府知
事ニ上申シ承認ヲ得テ更ニ尊牌靈座ノ式ヲ擧ゲ
現ニ日々嚴正ニ獻供スト

妙樂寺住職ノ奇禍

明治三十二年八月十四日ノ朝當時住職僧鹿谷紹
忠ハ朝勤ノ爲ニ佛堂ニ入ルヤ堂裏ノ山崖崩壞シ
テ堂宇傾倒ス紹忠ハ前面ノ田圃ヘ泥土ニ押シ流
サレタリ村民ハ前夜來ノ強雨ニ被害ヲ檢セント
テ園田ヲ巡廻シ此ノ景況ヲ目擊シテ和尚ヲ呼ブ
ニ應ズル聲ナキモノカラ四方ヲ捜索スルニ白衣
ノ一端ヲ土中ニ發見シ急ニ之ヲ掘リ出スニ和尚
ナリ而シテ已ニ息無シ種々手ヲ盡セシ結果蘇息
シ漸次健康快復セリ村人ノ談話ニ云フ片田舍ノ
ヨトテ醫者ト云ヘバ亀岡ヨリ迎ヘザル可ラズ斯
樣ナフノアル時ハ大ニ其ノ不自由ヲ感ジマス和

京都府立総合資料館所蔵

尚ノ蘊（ひ）リタルハ仕合セナリデシタ云々

田村新太郎　幼ニシテ父ヲ喪ヒ母ニ事ヘテ孝養ヲ竭シ且家業ニ精勵ナリシカバ領主ヨリ褒賞セラレタリ

地勢　黒柄嶽南天ニ聳ユ北方亦山丘多ク東方山中ノ出泉矢田川ノ源ヲ爲ス

河原林村

河原林村　大字　河原尻　勝林嶋

村位大堰川ノ東ニ在リテ北方馬路村ニ東方千年村ニ又僅ニ保津村ニ接シ一橋ヲ通シテ南方亀岡町ヲ控ク古ニ言フ馬路千軒河原尻千軒ノ大村ナリ明治年間町村制施行ニ際シ勝林嶋村ヲ合ハセテ一村トシ今ノ名トナレリ

河原尻高千二百六十石　徳川氏旗下ノ士武田河内守知行所

天正年間ニ深谷崩レトテ山溪ノ大崩壞アリ里民大半流水流沙ノ慘害ヲ受ケテ散亡シ一旦不毛ノ野トナリシガ其ノ後數年ヲ經テ漸次舊村ノ形ヲ顯ハシ文祿後ハ郡中屈指ノ村トナリ五年丙申前田德善院

京都府立総合資料館所蔵

ノ檢地アリテ其ノ重臣戸田久兵衛宮本宗玄御池清
五衛門等臨檢シテ水帳ヲ製定シタリシガ德川幕府
代官五味備前守保管中燒失シ其ノ寫モ紛失シ爾後
水帳檢地帳ノ寫本區々ニシテ信憑ス可キモノ少キ
ヲ以テ寛文五乙巳年代官鈴木伊兵衛ノ命令ニテ村
民ニ神誓セシノ神文ヲ書シテ記名調印ノ誓盟書ヲ
作リ新ニ水帳ヲ記シ各自記臆スル所ヲ寫シ上ケ之
レヲ代官所ニ收メ數年ノ出入混乱始メテ治マリ訴
訟ノ迹ヲ斷チ一村茲ニ平和ノ域ニ達セリ
氏神大井大明神　大井村並河ニ在リテ大川ヲ隔ツ
此ノ地一帶馬路河原尻トモ大川ノ南ニアリシガ流
域北方ニ遷リテ今ノ如ク地勢ノ變移シタルナリ

日吉神社　古稱山王權現社　祭神大山咋神
末社天照皇大神宮　春日大明神八幡大神
維新前兩部神道ノ時ニハ聖天堂不動堂熊野權現
稲荷明神太郎坊天滿宮等アリ鈴ノ宮疫神ヲモ祭
リタリ嘉吉年間ニ火災アリ享保延享文化等ニ造
宮アリ明治ニ至リ村社格ニ定ノラル

丹波桑田郡河原尻村吉社華表柱銘并序

前雖有額水歷年易唐捐故今五氏以石華代邑人亦
盡力功成永仰靈威則豈不庶幸邑之新繁榮耶
重營華表　如壁削成　神在以穆　德和既明
克鎮井甸　厚利蒼生　黍稷翼々　賜壽福京
維寛延三歳次庚午孟夏甲申日　敬白

京都府立総合資料館所蔵

十禪山 延命寺 浄土宗 京都祥林寺末 本尊地
藏菩薩長二尺慈覺大師作ト云フ開山圓山上人
不斷山 超願寺 浄土宗 京都永觀堂 京南粟生光
明寺兩末 本尊阿彌陀如來 開山 欣西圓山 庚申堂
アリ門外ニ大日堂アリ
岸泉山 妙圓寺 法華宗 京都本國寺末 開山日泉上人
妙見堂 稻荷社 七面明神社アリ
廢寺 廢社
十輪山 地藏院 眞言宗 京都持昌院末 本尊不動明王
開山 榮照上人 此ノ寺ハ日吉神社ノ別當住職ナ
リシガ兩部神道廢止セラレテ亡ブ
東光山 大日寺 禪宗 京都妙心寺末 本尊大日如來 開
山 桂林和尚
佛德山 圓滿寺 同宗同末 本尊觀世音菩薩 開山同
前
見西菴 浄土宗 本尊阿彌陀如來
高野山 萬師寺 地藏堂 役行者堂 藥師堂
姪子社 大將軍社 二所
以上
新寺
大林山 寶光寺 禪宗 京都妙心寺末 本尊觀世音菩
薩 大日如來 舊寺東光山 大日寺 禪宗 妙心寺末 本
尊大日如來 開山 桂林和尚ノ創立セシモノト寶陀
山 福林寺 禪宗 同本山 本尊觀世音菩薩 開山 靈虛和

京都府立総合資料館所蔵

尚ノ創立セシモノトヲ維新後合併シ両寺ノ二字ヅヽヲ采リ山号トシ寺号トシタリ

元龜天正ノ頃ニ中津川秀家ナル武士勝林嶋ニ居住シ更ニ河原尻ニ遷リテ地方ヲ領取シタリ後世遠山ヲ以テ氏トス

織田氏ノ當國ニ出師スルヤ波多野家ヲ滅ボシテ新ニ丹波ノ守護ヲ擇ブ當地人民其ノ族類又ハ大臣ノ来ルヲ望ノルニ明智氏ガ其ノ撰ニ入ルト聞キ大ニ失望シ嘆顔哀訴シテ他臣ノ之レニ代ハリ臨マンヿヲ要求シクルモ命下リテノ後ナレバ詮方無ク後日ニ改メテノ人撰アルベキニ望ヲ屬シクリ之レヲ漏レ聞キクル本人爭デカ怠怒セザラヤ其ノ主望者ヲ一番ニ取リ除クベシト手勢ヲ引キ具シテ出向フクリ是ニ於テ吉井中津川以下六士結合シ隣村近邑ノ豪族ニ檄ジ合ハセ村外ニ柵ヲ結ヒ櫓ヲ起コシテヅ待チ構ヘタリ此ノ事早クモ明智方ニ聞コエ天正二年六月二十六日光秀自身ニ馬ヲ入レ烏合ノ野武士何程ノ事カアラント一攻ノシ一戰ノ死傷双方ニ三百餘モアリテ敵ノ後詰ハ亀山ヨリ味方ノ加勢ハ次第ニ減リ餘ス所僅ニ二百餘人吉井ハ之レヲ率ヒ二十七日柵ヲ開キ一度ニ打ツテ出デカ竭クル迄戰ヒ國分寺差シテ落チ衣服ヲ變ヘテ野郎トナリ再擧ノ企ナサントテ多紀郡ヘ遁レ其ノ後ハ音沙汰絶エヌ

京都府立総合資料館所蔵

元祿十年勝林嶋村ト境界荒蕪地ニ付キ爭論起
ヨリ雙方ノ確執強固ニシテ相讓ラズ動モスレバ
珍事出來センカトノ噂アリシヲ河原尻村ノ宿
老ナル玄菴ガ其ノ扱人トナリテ和解シ地域定
マル
畏沙門村ト水論ハ同四年ヨリ始マリ葛藤紛紜
絶エズ中裁者ソノ間ヲ彌縫セシカドモ又シテモ
再起シ遂ニ京都郡代ニ訴ヘ裁決ヲ受ケ事定マル
ヲ得タリ郡代トハ小堀氏ナルベシ
白野堤普請ヨリ爭論起コリ小口村ヨリ安藤新助
中裁申出デ來レルニ由リ双方談合ノ上其ノ人ニ
一任シテ司ヲ結ブ

維新ニ際シ京都ハ大戰ノ巷ト爲レリトノ噂トリ〳〵ナル時誰レ云フト無クナド甲ヨリ乙ニ傳ヘ德川方ノモノハ朝敵トナリ旗下ノモノハ皆亡ブ當所モ其ノ害ヲ免レズ隣村馬路ハ旗下ノ知行所ナレドモ勤王有志ノ輩多ケレバ馬路ニ頼リテ官軍ニ降參セバヤ等ノ論モ出デ右往左往ニ人氣立チ兎モ角モ代官ノ所存ヲ聞カントテ言フモアリ最モ騷々敷キ折柄一月六日ノ夜水尾越ヨリ保津ヘ丈レヨリ山下傳ヒニ當村ノ裏手ヲ横切リ馬路ニ着陣シタル一隊アリ是レゾ官軍ニシテ西園寺三位中將公望卿ガ薩州長州ニ藩ノ兵若干ヲ帥ヒ山陰道鎮撫總督トシテ來レル

京都府立総合資料館所蔵

モノト知レ代官高木文平ハ配下ヲ誡メ村民ニ諭シ動揺セザラシム代官所ノ門ハ閉カレ飾手桶三箇ツヽ積ミ左右ニ并立セラレ白沙ヲ敷キ幕ヲ張リ玄関ヨリ坐敷ヲ掃除セシメ禮服ヲ着シテ刀ヲ佩ビズ悠々トシテ官軍ノ至ルヲ待ツ一方ニハ佐幕黨タル小臣數人ヲ一室ニ監禁シ準備全ク成ル官軍出迎且案内トシテ馬路村ヘ趣キタルモノ歸リ報ズ只今前隊至ルト文平扇ヲ腰ニ挿ミ両手地ニ着キ之ヲ門前ニ迎ヘ隊長ニ謁ス隊長右手ニ短銃ヲ提ゲ直ニ前ミ玄関ニ立ツニ藩ノ士卒銃口ヲ揃ヘテ左右ニ侯ス　隊長文平ニ謂フ御聞キデ有ラウガ舊職幕府ハ大政ヲ朝廷ニ返上シ大阪ニ引キタルニ豈圖ランヤ兵ヲ率ヒテ京都ニ迫ラントハ官軍ハ己ムヲ得ズ之ヲ討伐シ今頃ハ淀枚方ニ討入ル譯デゴザル其ノ許モ幕府ノ陣屋ナレバ武器金穀ヲ引渡シ速ニ立チ去ラレヨ是レ勅使ノ命テゴザル文平頭ヲ擡ゲ謹ミ對ヘ云フ御申シ違シノ趣具サニ承知仕リマシタ凡ソ普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニアラザル莫シ誰レカ皇命ニ背キ奉ラン去リ乍ラ此ノ方ノ意存一應御聞取リ下サレ度存シ奉リマス其ノ次第ハ主人ナルモノ百三十里ヲ隔テヽ江戸ニアリ此ノ主人ノ志ヲ察スルニ馳セ加ハル可シ萬一所存ヲ誤ルニ於テハ文平ハ暇ヲ主人ニ乞ヒ直ニ官軍

京都府立総合資料館所蔵

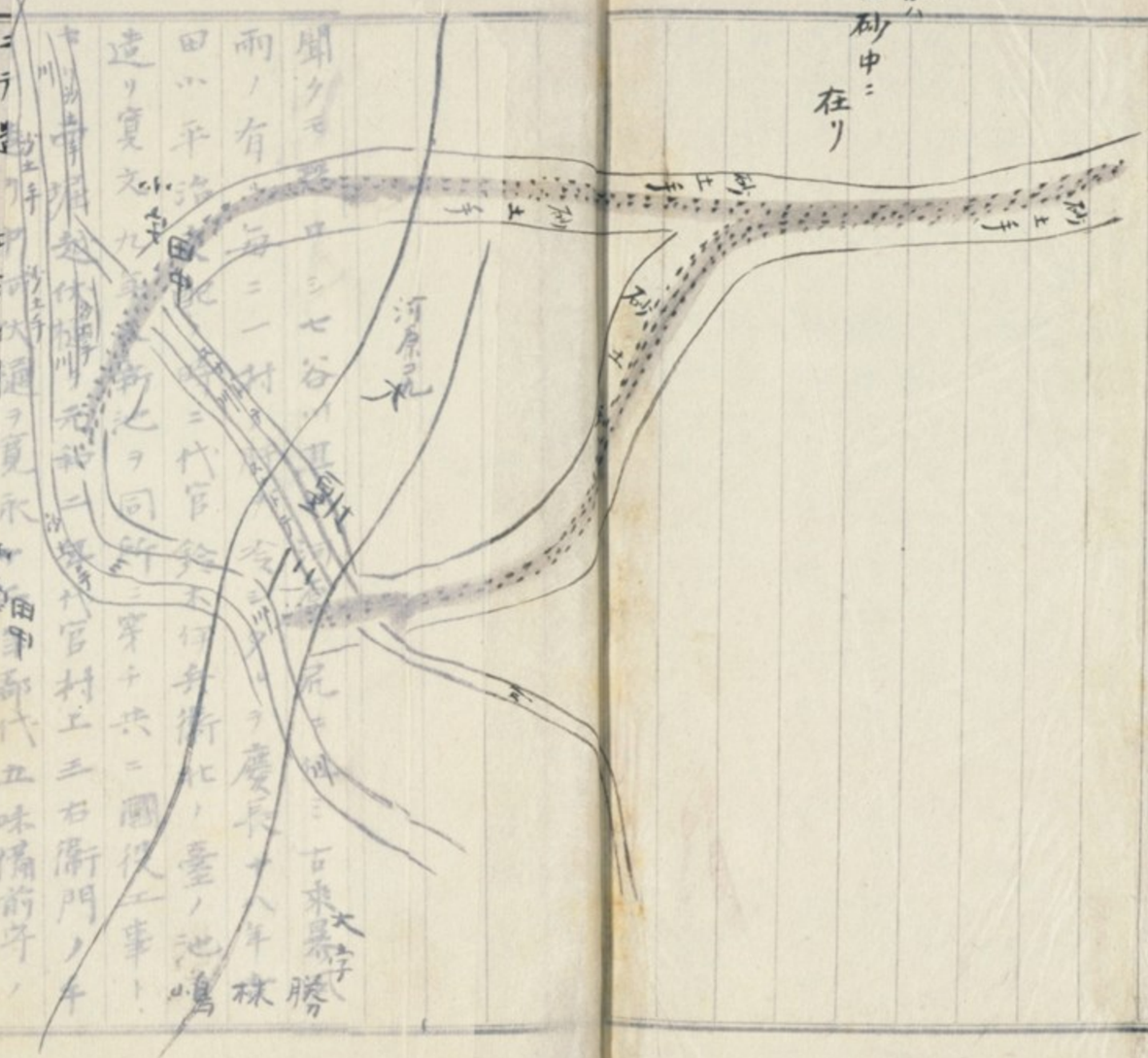
ニ参加ス可シ主人ノ決心如何ヲ確ノ申スマデハ
此ノ陣屋及ビ之ニ屬スル所ノ土地人民ヲ私共ヘ
御預ケ下サレ度只管願ヒ奉ル　隊長暫時考ヘ曰
ハク此ノ義ハ拙者ノ一了簡ニテ返答致シ兼ヌル
故御同道シテ勅使ノ御本營ニ參ラント頃テ短銃
ヲ腰帶ニ挿ミ靜々ト一隊ヲ引キ揭ゲタリ　文平
隨フテ馬路ニ入リ本營ニ於テ隊長ノ披露ヲ得テ
參謀小笠原美濃父ニ面シ事情ヲ細陳シテ採納セ
ラレ武田家知行所ノ取締方ヲ命ズルノ書面ヲ下
付シ且官軍ノ人數少キヲ以テ助勢スベシトノ内
命アリ乃河原氏ニ歸リ文平ノ住所ナル北桑田郡
神吉村ニ急使ヲ馳セ兄弟親族村民等ヲ呼ビ寄セ

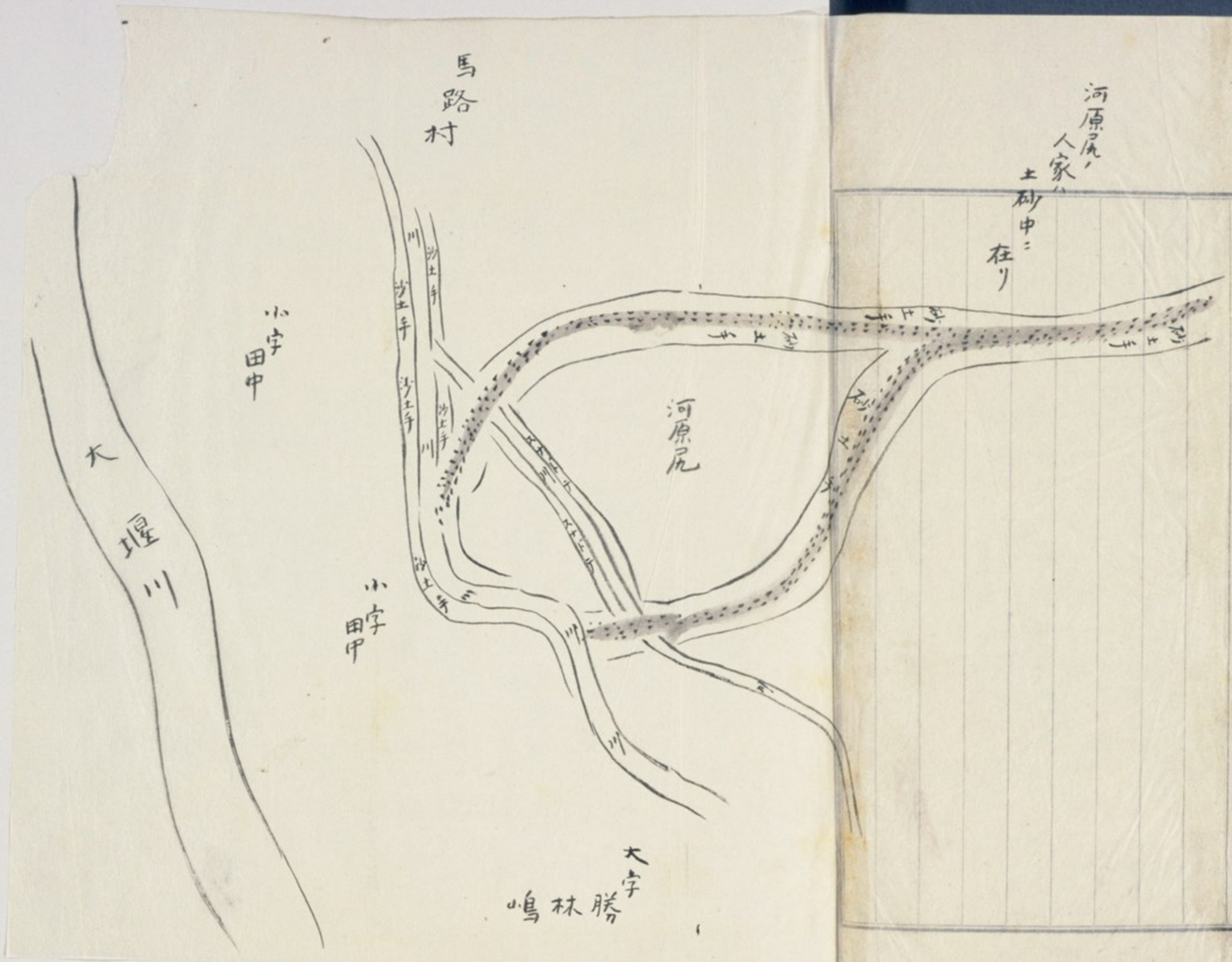
此ノ始末ヲ江戸邸ニ報告セシノ此ノ使ト共ニ上
京スベク告ゲ且又北桑田郡ヨリ來レル鄉士數名
ヲシテ西北向ケ出行セル官軍ヲ追ヒ加ハラシノ
自分ハ此所ニ留マリテ村治上ノ事ニ當クリ以テ
主人ノ上京ヲ待チ主人上京シ本領安堵ノ命ヲ承
ケタルハ一ニ文平ノ功ナリ
小家ニハ似合ハズ學問ニ志ス士輩アリ五名常ニ
著者ノ馬路村寓居學半堂ニ來リ春秋左氏傳輸講
ニ加ハリ主人兵庫ニ傳達シタリ
明治元年ノ夏北桑田郡上弓削村ノ寸田某佐伯某
等ノ煽動ニ由リ起コレル北桑田騒動ノ結果地頭
トシテ取締方不行届ノ廉ヲ以テ武田兵庫ヲ謹慎

京都府立総合資料館所蔵

ニ處ストノ嚴命アリ代官タル文平モ禁錮六ヶ月
ノ罰ニ處セラレタリ事ハ北桑田郡弓削村ノ部ニ
出ダス

河原尻ノ人家ハ土砂中ニ在リ

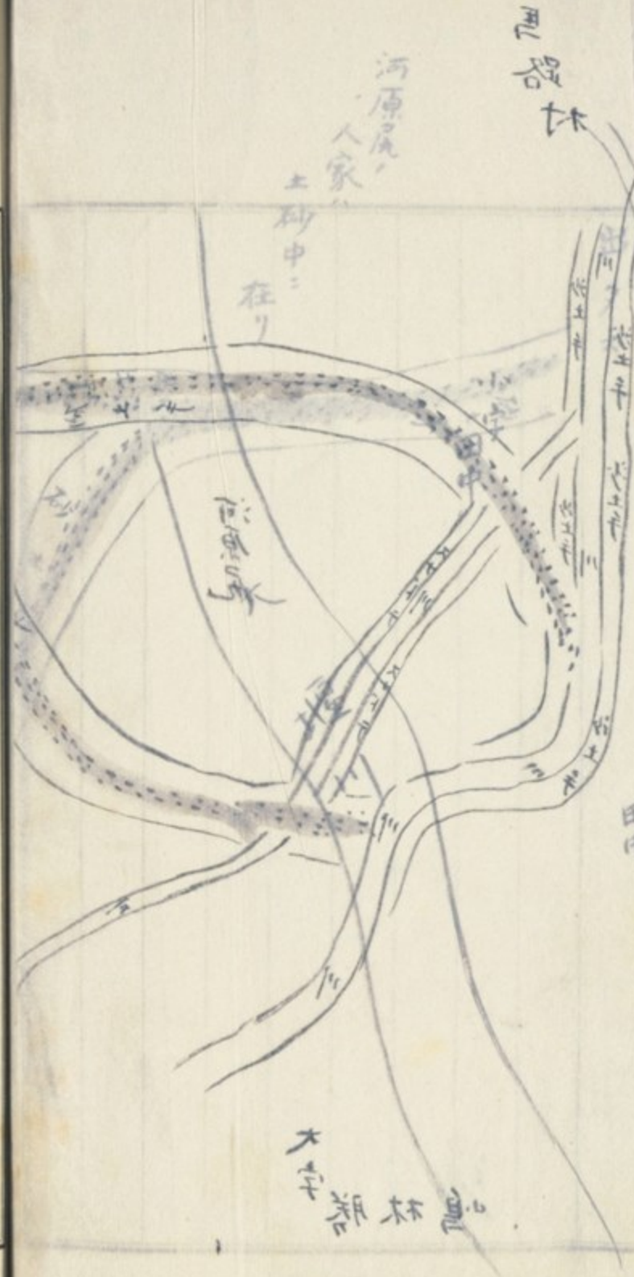

馬路村
河原林村
河原尻
田中
大字勝林
古來暴
慶長十八年
代官村上三右衛門ノ子
代官
代官
代官



ニ處ストノ嚴命アリ代官タル文平モ禁錮六ヶ月ノ罰ニ處セラレタリ事ハ北桑田郡弓削村ノ部ニ出ダス

京都府立総合資料館所蔵

ニ處ストノ嚴命アリ代官タル文平モ禁錮六ヶ月ノ罰ニ處セラレタリ事ハ北桑田郡河村ノ田中



河原林村

聞クモ恐ロシ七谷川其ノ河原ノ尼ニ住ミ古來暴風雨ノ有ル毎ニ一村ノ肝ヲ冷シタルヲ慶長十八年吉田ハ平治支配ノ時ニ代官鈴木伊兵衛北ノ臺ノ池ヲ造リ寛文九年又新池ヲ同所ニ穿チ共ニ國役工事トセリ西堀越伏樋ヲ元和二年代官村上三右衛門ノ手ニテ造リ中河伏樋ヲ寛永十二年郡代五味備前守ノ命ニテ勝林嶋村立會ニテ造リ福井伏樋ヲ明暦元年同人ノ命ニテ馬路村立會ニテ造リ四條伏樋ヲ寛文

京都府立総合資料館所蔵

元年勝林嶋國分畏沙門協議シテ造リタル等何レモ地下ノ通溝ヲ以テ潦水ヲ流下セシメタリ延寶元年四條辻河原ノ土沙堆積シテ流水ヲ妨礙スルヲ以テ村民擧リ其ノ浚渫ニ從事スルニ其ノ力ノ耐フル所ニ非ズ支配主ノ力モ亦之レヲ支フル能ハザルヲ以テ代官所ニ訴願シ貞享四年ニ至リ夏霖秋霖ノ巨浸ヲ受ケ必死ノ境ニ陷リ代官小堀仁右衛門ノ檢査アリテ大工事ヲ興コシクルニ其ノ甲斐見ヘズ年毎ニ川埋モレ田荒レ作毛次第ニ減ジ明治元年著者ガ馬路寓所ヨリ河原尻北端家屋ヲ見得タリシニ大雨毎ニ浚ヘ揚ゲタル土沙堆積シ明治二十年再來ノ時ニハ其ノ屋頭スラ認メラレズナレリ

河原尻村

此ノ水源ハ北桑田郡ト山城國葛野郡ノ分界ナル地藏嶺ヨリ東原ト越畑ト馬路千年兩村及ビ河原尻等ノ入會野山ヲ包含スル地方ヨリ發スルモノ千年村地内ヲ經テ古川ニ合流シ平常ハ一滴ノ水無キモノガ霖雨アレバ多量ノ水ト沙トヲ合ハセ下シ天正以來幾十百度ノ大小害ヲ起コヲ以テ籠樋ト稱スル長サ三十間ノ蓋石ヲ溝渠ニ架シ其ノ下ヲ川流トナセシガ其效ノ少ク却テ土沙ニ埋ノラレ弊害ノ以前ニ倍加スルヲ以テ享保二年開長サ十五間ノ新谷川ヲ掘リタルニ同十一年ノ出水ニ其ノ效ヲ失ヒ又一弊害ヲ增スヲ以テ古川ト合流地ヲ變更シ寛保二年又更ニ蓋石ヲ架シテ暗渠トシ其ノ効力ヲ認ノ村内ニマ

京都府立総合資料館所蔵

デ之レヲ長延スルノ計畫ヲ立ツ村民之レヲ聞キ反
對ヲ唱フルノ故ニ止ミ代官ノ立案ヲ以テ竹木栽植
ヲ為セシガ亦効無シ寶暦七年水源地ニ土沙流出防
禦ヲ施シ出雲村ノ反對スルヲ以テ公訴シタルモ破
レテ村意ヲ挫折セラレ同六年大修繕ヲ為セシ所文
化六年ノ出水ニ逢ヒ南河原ノ切レ所ヨリ山林中ニ
放流スルノ已ム無キニ至リ村内ノ紛紜アルヲ以テ
三分一ノ水量ヲ放流スルノ條件ニテ新堤防ヲ築造
シ此ノ工事人夫役數五千人カヲ籌セリ文化十三年
蛇籠堰ヲ作リ流勢防遏策ヲ講ジ江嶋里人ノ反對ト
ナリ出訴トナリ終ニハ扱人ノ扱トナリ江嶋里人ニ
上沙掘揚ノ義務ヲ負ハセテ蛇籠堰ヲ撤去シタリ然
ルニ江嶋里人ガ履行セザルヲ以テ同十四年訴狀ヲ
京都町奉行所ニ提起シタルニ亦扱人アリテ和解ト
ナリ義務履行ニテ事治マル然リ而シテ猶長サ百三
十三間ノ水路ヲ新設シ一時ノ急ヲ防ギタルニ慶應
二年ノ洪水ニ又一大變ヲ起コシテ不用ニ歸シ新川
モ亦埋没シ更ニ北方ニ廣ガリテ一大工沙場トナリ
タリ　人夫賃一日玄米二升代銀ニ換算シ地頭ニ報
告シ年貢米ヨリ扣除ス　水害復舊工事中定例工事
ハ馬路其ノ半額ヲ負擔ス　古川閉塞スルニ於テハ馬
路一村濁流中ニ没スベキヲ以テナリ往古ハ古川ノ
修理ハ馬路ノ擔任ナリシトカ
明治ニ至リ府會ノ決議ニ由リ府ヨリ補助セラレ同

京都府立総合資料館所蔵

十九年工地丈量ノ際南川原ハ川成免租地トナリ更ニ堤防ヲ築キ放水路ヲ設ケタルニ同二十二年ノ大水害ヲ被リ従前ノ施設一タニ烏有トナリ石造堰堤工事ヲ字エ五丹ノ切ノ所ニ設ケ千年村ノ訴訟ヲ受ケテ敗訴シ村議二派ニ分カレ遷延未決ノ際府費ノ補助アリテ六十間ト四十間トノ沙礫留場ヲ造リ毎年浚渫シテ以テ川床ヲ維持セント企テタリ然ルニ郡村土木費補助規定改正セラレテ補助ノ途絶エ加フルニ四十年四十三年両度ノ洪水ニ殆ンド亡村トナルノ惨害ニ遭遇セリ是ニ於テ郡長ヨリ工申シテ更ニ府費ヲ仰ギ四箇所ノ石堤ヲ作ルヿトナリ四十四年二月ニ起工シテ六月ニ竣工シ三百有餘年ノ愁眉茲ニ展ビ霖雨中ニモ夜眠安臥シ得ル秋トハ為レリ

明治四十三年度工費金五千四百四十九圓三十九錢九厘

同四十四年度工費金四千四百四十二圓八十九錢七厘

京都府立総合資料館所蔵

銀札發行ハ大名クリト雖幕府ニ於テハ容易ニ許サズ別シテ濮本ニ於テハ高禄ノ家タリトモ許サヾリシニ此ノ家ニ免許シクルハ當村ノ經濟逼迫其ノ極ニ達シクルヲ知悉領解シクルニ由ル然リト雖モノ邊一帯亀山札通用地域ナルヲ以テ此ノ札ハ不結果ニ終レリト云フ遠山幸右衛門ハ有財有力ノ名家ニシテ子孫今尚在リ

善行者平之丞ハ延享中貧農ナルヲ以テ借地農作シ悪地ヲ借リテ善地トシ凶年ニ遭フモ減租ノ請乞ヲ為サズ第ト共ニ模範農夫トシテ地頭ノ賞ヲ受ク同人木力藏ハ文化年間兄弟善行孝行ヲ稱譽セラレ地頭ノ賞ヲ受ク

大字勝林嶋　高五百七十三石五斗五升九合人戸七十軒天保度改六百四十八石八斗四升九合

若宮神社氏神々主不詳維新後改ノ神武天皇ヲ奉祀ス例祭舊暦九月十八日維新前若宮山神宮寺ト稱シ京都清水阪延命院ノ末寺ニシテ真言宗ニ屬シ本尊地藏菩薩ヲ内佛トセリ

八幡宮野神ノ社在元小社ナドアリタリ

在元神社ノ由来　在元一ニ在本トモ書ク此ノ地ノ小字ニシテ川端ニ在リ往昔中津明神ガ山城國松尾神社ヨリ大亀ノ背ニ乗リテ大川ヲ溯リ保津峡中八疊岩保津峡ノ図ニ出ダス来リタマヘルガ其ノ邊リノ水勢強クシテ亀ノ力コレニ得耐エザル

京都府立総合資料館所蔵

モノカテ其ノ淵ニ住ノル大鯉ニ乗リ替ヘテ此所マデ来リ玉フ衆人ノ目ニハ映ラズシテ通リ會ハスル一工匠ノ眼ニ認ノラレ玉フ是レハ只人ニテハ非ズト進ミ寄リ敬フテ其ノ所為如何ヲ問フニ吾コソハ松尾ノ中津ト云フ者ゾ此所ハ吾ガ心ニ協ヘリ由リテ迹ヲ垂レバヤト思フナリト答ヘ玉フ工匠曰ハク幸ニモ奴ハ大工ナレバ御社ヲバ造リテ參ラセン今日ハ所用アリテ都ニ登ルナレバ數日待チ玉ハンヤ神許諾シ玉フニ由リ急ギ京ニテ事ヲ了ヘ帰途之レヲ窺ヘバ神依然トシテ在ス即チ神ニ造作ヲ始ムルヿヲ告ゲ宮成リ之レヲ供ス神具ノ内ニ安住シ玉フ之レヲ見聞シテ賽者四方ヨリ日ニ月ニ多キヲ加ヘタリ其ノ後ニ社地ヲ大井村ニ移シヲ大井村ニモ出ダス大井神社ノ部

萬年山極樂寺　禪宗京都東福寺中靈源院末開山在先和尚本尊聖觀世音菩薩　藥師堂門前ニ在リ廢寺威德山金林寺宗旨本山前ニ同ジ本尊釋迦如來開山文波和尚

暘山禪師畧傳

安永七年奇童桂氏ノ家ニ生マル幼少ニシテ機發群兒ニ異ナリ僧ニ接スルヲ喜ミ伽藍ヲ見レバ把リテ玩ブ二十歳ナラントシテ生死ノ事ニ大疑ヲ起コシ以為ヘラク禪道ニ入リ之レヲ明了センニ如カズト參河國渥美郡小松原村ノ東觀音寺萬

京都府立総合資料館所蔵

年和尚ノ名ヲ慕ヒ之レニ投ジテ剃度シ經論ヲ博習シ一日楞嚴經ヲ讀ミ禪機頓ニ發シ向上一着ニ專志シ伊豫國ノ大利龍潭寺ニ赴キ心鑑慈照禪師ニ參シ左右ニ勤服スル十餘年遂ニ大悟シ久枝公ノ密印ヲ承ケテ雜華院ニ住シ位ヲ妙心寺ノ第一座ニ轉ズ院宇ノ荒廢ヲ中興シ文政己丑ノ年妙心住職トナル齡五十二弘化乙巳衆請ニ由リ諸老ノ上首ト為ル

蒔田野村

蒔田野村　大字　佐伯　蘆山　太田　鹿谷　桝花　天川　奥條

南桑田郡ヲ以テ猿猴ノ右手ヲ延ブルモノトスレバ本郡論ニ屬アリ此ノ村ハ胸腕ノ間ニ位置ヲ占ム東ニ大井村吉川村ニ村アリ西ニ宮前本梅ノ二村アリ北ニ千代川大井ニ村アリ南ニ曾我部村アリ廣袤東西大約四十町南北大約三十九町面積大凡一方里郡ノ中央稍西ニ在リ亀岡ヨリ篠山ニ達スル舊時ノ本道ニシテ亀岡ヲ距ル一里ノ所ニ佐伯アリ之レヲ此ノ村ノ大部落トシ村治機關ノ所在地トス　舊村役所屋一人肝煎三人惣代二人　蒔田野ヲ繆ヌルニ今ヤ七シ之ヲ社名ニ存スルノミ

京都府立総合資料館所蔵

佐伯

大字佐伯　元錄高一千二百九十一石六升六合
内百二十八石七斗二升三合ハ天川分　天川ハ元
來佐伯ノ一部分ニシテ諸事佐伯ニ合同セラレタ
リ佐伯高ノ内十九石四升ノ冠リ高アリ冠高トハ
無地高ト曰フニ同ジク一地方ノ方言ナリ村ニヨ
リテハ之ヲ無地高（ムチダカ）辨納（ベンノウ）トモ呼ベリ領主ハ逃稅田
又ハ俗租園（ソエン）アルヲ知リ檢地入竿セントスルニ當
リ村民ハ隱田ノ利ヲ失ハンヿヲ怕レテ吏ニ請ヒ
本高ニ對シテ分增ヲ爲シ以テ其ノ步額增稅セン
ヿヲ乞ヒ妥協茲ニ成リ新高茲ニ定マルナリ遂ニ
一千三百四十五石五斗二升トナル天川モ亦從フ
テ嵩ミ一百三十石五斗七升トナレリ地面九十六
町八段五畝十五步五厘　内田八十三町七段四畝
十九步　畑七町六段七畝四步五厘　屋敷五町四
段三畝二十九步　舊領主亀山城主天川同ジ　舊
租平田免四ツ五分　大豆田三ツ三分　新田三ツ
山三ツ六分

佐伯ノ芝　東西二百間餘南北六十間餘是レヅ耨
田野ノ遺址歟内三町餘ハ開墾セラレタリ亀山藩
ノ鍊武所ニシテ調鍊場ト呼ビ傚セリ其ノ小調鍊
ニハ篠村ノ野ニ試ミ大調鍊ニハ茲所ニ試ミ劍戟
相摩シ弓銃交發シ喊聲ト共ニ山彥ニ對ヘテ最壯
烈ナリシガ廢藩後煌ミヌ

院ノ馬場　同所ニ在リ相傳フ孝謙天皇讓位ノ後ノ

京都府立総合資料館所蔵

皇子冢

御池棲地ナリト宜ナル哉院ノ字ヲ用ヒタルヿ院トハ上皇ニ用フル稱號ナルハ人ノ知ル所ナリ天平寶字二年八月ヨリ天平神護元年ニ至ルノ間御懷胎アラセラルヽ毎ニ此所ニ潛幸マシ〳〵テ御産ノ紐ヲ解カセラレタリトカヤ开ハ申ス迄モ無ク怪シキ傳説ガ内寢ニ横行シタル故トコソ

皇子冢數所ニアリ天殤シ玉ヘル皇子否殃兒ヲ葬ミタルモノトカヤ此所ヲ院ノ島塚ト稱スルハ上皇ノ調馬場ナリト然ラバ寶字稱德孝謙皇帝ハ老イラ盆壯ンナル御方ト察シ奉ル所ニコソ南山家ノ柏原ニモ同名ノ所アリテ同意味ノ説アリ別東院村ノ部左ニ圖スルモノハ明治初年大雨ニテ山崖崩壞ノ際ニ露出シタル所ニテ孰レモ皇子塚ノ遺穴ヨリスルモノ

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

稗田野神社　御靈神社

春日神社祭典ハ九月十一日之ヲ新嘗祭ト呼ブ朝廷ノ御大祭ト名ヲ同フス以テ五穀ノ豊熟ヲ祈ル此ノ祭名ハ朝許ヲ得タルモノニヤ將又孝謙皇帝ノ由緒アリテ爾カルニヤ氏子ハ佐伯吉田ト山内三村ナル鹿谷枳花與條トス

稗田野神社　式内郷社　祭神　保食命　大山祇神　野槌命

春日神社　祭神大黒天　祭典九月十一日

御靈神社　祭神大日本根子彦國引天王　彦五十狹芹彦命　御靈大社ト呼ブ

若宮神社　祭神　大鵠鷦尊　祭典九月十三日

下佐伯ノ産神

上佐伯ノ産神

京都府立総合資料館所蔵

稗田野神社除地東西五十六間南北五十三間拜殿
神輿舍鳥居アリ兩部神道當時ノ遺物トシテノ鐘
堂アリ神宮寺所在ノ地高一石八斗五升村支辨佛
器ハ進新後之ヲ廢棄セリ創立元明天皇和銅二年
清和天皇ノ貞觀元年六月大風暴雨ノ際ニ奉幣使
アリ同五年五月七日霜降チ穀稔ラザルノ徵アリ
宣命使下リ行祭セラレ後堀河天皇寛喜二年七月
十四日ニ敕許アリテ祭典ニ菊御紋章ヲ用フ敕使
權中納言藤原定家卿ノ下向夜ニ入ルヲ以テ大松
明大篝火ヲ焚キ之ヲ迎フ當時業既ニ夜業ナリシ
カ明和五年ノ祭典ニ敕使下向ナルベキニ大雨後
桂川大水ナルヲ以テ勅使ハ水ヲ嶋原ニ避ケテ空
シク歸闕シタリ勅使下向ノ事ハ雨後聞ク事無シ
只須主ノ代拜者到ル而已

御靈神社　東西六十間南北二十三間除地　末社
妃宮アリ　佐伯吉田太田山内ハ氏子ナリ

若宮神社　東西六十間南北四十一間除地　末社
妃宮アリ

八王子神社　大石兵右衛門支配

佐伯燈籠　是レハ慰ノ樣ナレド祭式ナリ御靈河
阿若宮稗田野ノ四社ニ奉ル所ノモノニテ燈籠祭
ト呼ビタル古儀トカヤ後世其ノ俗化シタルハ有
志人ノ嗟嘆スル所ナリ毎年七月十四日夕刻ニ役
人境内ニ集合シ御靈明神ノ奉迎式ヲ行ヒ松明燈

京都府立総合資料館所蔵

籠大敦神輿ノ列ヲ整ヘ御靈神社ノ前ニ至リ神宮ガ御靈河阿若宮ノ御魂移シヲ爲スヲ待チ其ノ移シ了ルヤ松明ヲ點ズ之ヲ相圖トシテ神輿ヲ擔キ出ダス一方ハ紙燈籠モテ淨瑠璃人形芝居ヲ演ズ翌十五日亦此ノ演戲ヲ爲ス

紙製ノ燈籠五個以テ五穀ノ豊熟ヲ祈ル其ノ一ハ宮人ガ農夫トナルモノニテ音樂アリ其ノ二ハ其ノ農夫ガ種ヲ播ク所其ノ三ハ苗取ト田植其ノ四ハ稻刈其ノ五ハ臼摺トス當日ハ村田ニ發芽シタル真苗ヲ神前ニ供フル例ナリ

舊時朝廷ニ於テ行ハレタル御燈籠式ハ佐伯ノ祭日ト同日ニシテ紙製ノ燈籠ニ花鳥人物杯種々ノ剪裁物ヲ施シテ叡覽ニ供ヘ奉リシヲ承明門東西ノ廻廊ニ陳列シ拜覽セシムルモノトス之ヲ雜人入リト唱フ十八間廊下ヨリ翠簾ヲ間テ、宮人コレヲ俯視ス主上モ御忍ニテ皇后ト共ニ叡覽アラセラルヽト云フ著者モ亦此ノ警衛ニ出デタルアリキ謂ハ所ル雜人ハ男女老幼貴賤ヲ問ハズ日ノ門ヨリ入リ承明門前ヲ過ギリ其ノ燈籠ヲ拜看シテ西ノ穴門ト呼ブ小門ヨリ出ヅルナリ弘化嘉永ノ頃ヨリ漸次廢止セラレ安政ニ至リ其ノ迹無シ此ノ御燈籠ハ往古ノ田緒ニヨリテ佐伯村ヨリ獻納シタルモノト云フ一說ニハ朝廷ヨリ下賜セラレタルヨリ此ノ所ノ燈籠祭ガ始マレリトモ云

京都府立総合資料館所蔵

ヲ孝謙帝ノ御慰ニ由リ濫觴ストノ説真ニ近カル
ベキ歟何故中古其ノ獻燈ノ熄ミタルカ村翁ノ曰
フ所左ノ如シ一年燈籠ヲ擔ヒ桂川マデ至リタル
ニ折節大水ニテ渡ル丁能ハズ舟渡シノ所ナレド
舟出デズ已ムヲ得ズ桂村ニ留マリ減水ヲ待ツ間
ニ日限ノ外レシカバ之ヲ陳列シテ桂村ノ衆ニ見
セシメ終ニ持チ歸リラ村人ニ觀覽セシメタルガ
村人ノ歡喜ヲ博セシカバ遂ニ京都ニ持チ行クヿ
ヲ止メ村祭ノ一興行物トナセリトカヤ古來桂川
渡舟ニハ渡船ヲ徵シタルガ佐伯村民ハ之ヲ徵セ
ズ是レ其ノ燈籠ヲ見セタルノ謝意ト云フ昔ハ大
鼓笛ニ合ハセタル能狂言ノ人形ナリシガ漸次俗
化シテ今ヤ淨瑠璃トナリタリトラ古老ノ嘆聲ア
リ

社坊神宮寺　真言宗　山城八幡山梅坊ノ末寺
本尊阿彌陀如來　由緒不詳維新後廢絶

朝日山神藏寺　禪宗　妙心寺派　延曆年間傳教
大師ノ開基ニヲ自作ノ藥師如來ヲ安置ス　除地
東西十三間南北四十一間山林東西十町南北六町
高八石藥師ノ燈明料トシテ慶安年間ニ領主松平
伊賀守寄附久世出雲守井上大和守ヨリ最終ノ領
主松平圖書頭ニ至ル迄同ジ（龜岡城主記事中ニモ見エタリ）
伽藍僧房二十六院ノ大刹ニシテ妙心寺ノ高隱和
尚住持シタリ伊賀守此ノ僧ニ歸依シ高八石ヲ永

京都府立総合資料館所蔵

代寄附シタルナリ黒印地ト稱スルハ寄附書ニ黒印ヲ用ヒタルニ由ル朱印ニ對スルモノナリ惜ムヲシ明智ノ兵燹ハ延暦年間ノ伽ヲ烟散セシメタリ幸ニ本尊如來ノ烏有ヲ免レタル丁六代目ノ住職僧朝日山ヨリ今ノ處ニ移シタリ下文流川ノ條ニ出ダス所アリ

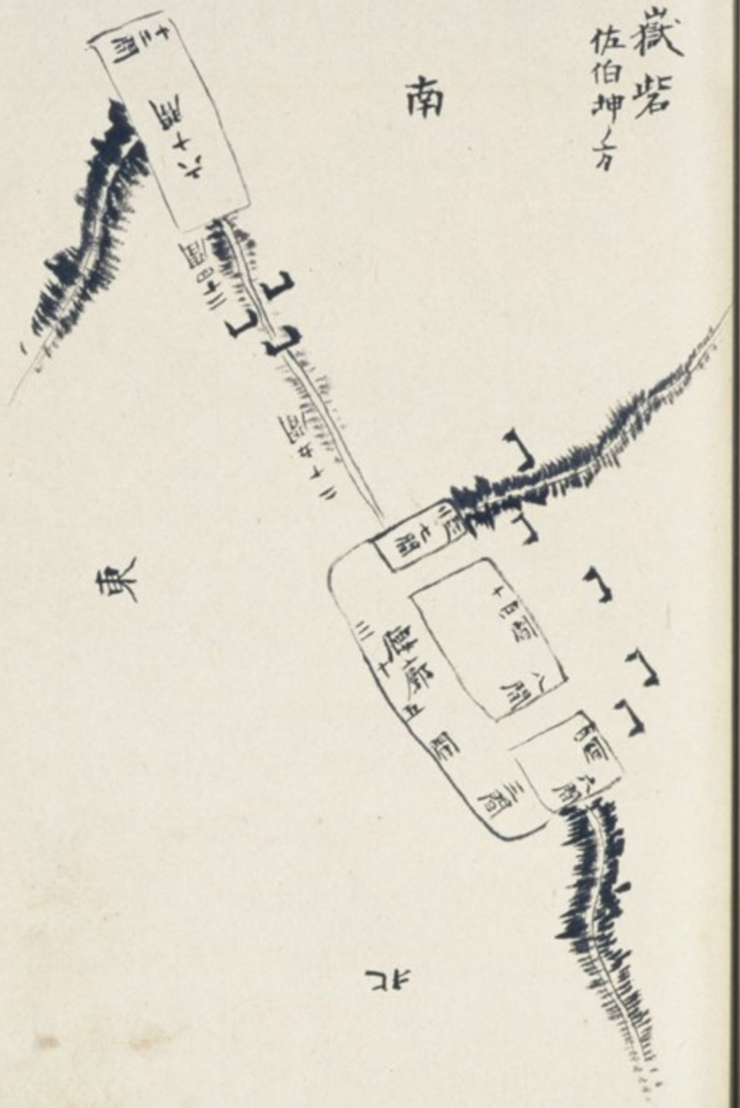
朝日山不動尊ハ神藏寺ノ奥ノ院ニアリ石面ニ不動明王ヲ彫ル靈現アリトテ賽者迹ヲ斷タザリシガ隣村吉田ノ者其ノ利ヲ奪ハントシテ公事トナリ吉田方敗訴シテ事濟ミタリ（吉川村記事中ニ出ダス）

苗秀寺　山城八幡杉山神應寺末ニテ曹洞宗寛永二年石峰和尚ノ開基タリ　高嶽砦迹　坤方ニ聳ツ　砦史不詳

天川　高百三十石五斗七升　天保三十七戸　東ニ流ル、溝アリ天ノ川トモ云フ

京都府立総合資料館所蔵

高嶽砦
佐伯坤ノ方



京都府立総合資料館所蔵

佐伯話シ

道場延福寺　天川ニアリ大谷派本願寺末　本尊阿彌陀如來　寺由傳ハラズ

故實家大石真老人ノ話ニ曰ハク姓氏錄ニ左京ノ天孫佐伯連木根乃命男丹波真玉之後也トアリ景行天皇ノ御時ニモ佐伯連アリ此所ニ其ノ前ニ此ノ連アリシナリ其ノ後ニ佐伯直トヽ云フ人アリテ村ノ名トシタリトモ云フ又大友佐伯トハ別樣ノ家ナリ第一卷經論七莊司ノ所ニモ出ダス　往古七莊司七下司アリテ叢雲御所ニ屬シ當國ヲ支配セシガ七下司ノ第一陣ノ座ナル太秦一名弓削トモ栗田トモ山田トモ又高藤トモ呼ベリシ者ハ皆一家ニシテ地方長官トナレリ高藤家系鳥居ノ後ヲ佐伯トヽ云ヒ此

京都府立総合資料館所蔵

ノ地ニ居レリ其ノ佐伯ト呼ブ所以ハ豊後國佐伯
ノ神官右近將監維主ニ起コル維主此ノ地ニ來リ
鳥居氏ノ女ヲ娶リ遂ニ止マリテ土豪ト爲ルト云
フ和名類聚抄ニモ佐伯ノ名アレバ千年以上已ニ
此ノ地名アリタルナリ藤原鎌足公九世後五位下
相模守佐伯忠光セ男公秀ノ第八郎經範ナルモノ
源頼義ノ東征ニ隨ヒ武功ヲ建テ豊後國佐伯郡ニ
封ゼラレ佐伯神社ニ奉仕ス佐伯ニ二流アレドモ
其ノ源ハ一ナリ當國ニ於ケル佐伯ハ當村ノモノ
ト山國ノモノトアリ波多野氏當國ニ崛起スルニ
及ビ豊後ヨリ佐伯維範以下十數人來リテ秀治晴
秀輝秀ノ家ニ寄食シ遂ニ國侍トナレリ大友氏ガ
豊臣氏ニ隷屬スルヤ豊後ヲ襲封シラヨリ異教ヲ
奉ジ在來ノ神祠佛堂ヲ破壞シ神官僧侶ヲ放逐ス
是ニ於テ佐伯氏モ亦神職ヲ失ヒ舊姻ヲ尋ネテ當
地ニ至リ藤堂高虎ニ倚リ扶助セラレタリ云々
又阿禮ノ事ニ就キ語リテ曰ハク稗田野阿禮ハ女
トシテ珍ラシキ物知リニテ一タビ聞ケバ復忘レ
ヌト云フ記憶カアリ老イテノ後マデ舊記ヲ諳記
シタリ皇國ノ史籍ハ蘇我蝦夷ノ乱ニ泯滅シタル
ヲ以テ元明天皇詔シ朝臣及ビ諸老ヲ召シテ奏上
スル所アラシメ阿禮ヲ召シテ其ノ記憶スル所ヲ
問ハセラレタルガ阿禮ノ申ス所頗ル明了ナルヲ以
テ太ノ安麻呂ニ命ジ之ヲ寫サシノ玉フ書成ル古

京都府立総合資料館所蔵

事紀ト名附ケ玉フ阿禮時ニ齡僅ニ二十八此ノ女性無カリシナラン乎皇國ノ古記更ニ寥々乎タリ阿禮ノ産地ハ隣村曾我部ニテ往古ハ佐伯部内ナリシト聞ク阿禮ハ大鈿女命ノ裔ナリ養老四年舍人親王ヲ總裁トシテ安麻呂朝臣清人淨篤シ全書トナル云々

古城　名ハ丸ケ城丸山ニアリ山内丹波守大八木司馬之助丸山某等住セリトヱフ事歴明ナラズ

刀工　長末　長次　長以アリ　長末ハ文和年中此ノ地ニ居レリト云フ同名四人アリ備前ニ二人大和ニ一人　長次ハ貞治貞和ノ頃長以ハ暦應ノ頃ノ人トヱフ

青砒　刀工ノ用トナリタル青砒ハ今ニ産出ス佐伯砒ノ名ヲ以テ京阪地方ニ運出セラル古人ノ諺ニ砒ハ王城五里ヲ出デズト奈良朝當時ハ春日山ノ奥ヨリ産出シ山城遷都以後ハ嵯峨鳴瀧高雄ヨリ産出シ原村ヨリモ出デタリ丹波ノ白谷産ト呼ベル内曇リ淺黄ノ良石出デヽ刀劍ノ磨料トナリ髮剃ノ合ハセ砒トナリ大工細工用ノモノ等當地ノ特有産ニシテ蘆山ヤ宮前村ノ猪倉扇谷大渕岩谷ナド石脈相通ズト云フ維新前ヨリ當村ノ大石平三郎ハ運上銀三十匁ヲ出ダシ所有山ヨリ發掘セリ

硯石モ出デ又近來滿俺モ出ヅ滿俺ハ維新前コレ

京都府立総合資料館所蔵

ヲ知ル者無シ明治十九年ニ至リ大阪人來リテ山谷ヲ漁リ廻リタルガ硅石ト互層シテ露出スルヲ見テ是レ奇貨ナリ措ク可シトテ着手シタルガ厚部ハ三尺内外アリト斷定シ初年ヨリ平均産額四萬八千貫ヲ得

義經腰懸石　一ノ谷ヘ赴ク途中ノ休憩所ト云フ

夫婦岩　藤田野神社ノ北一町菰川ノ岸ニアリ

赤子岩　共有山ニ在リ

孝子彌七ハ佐伯ノ人領主亀山侯ヨリ褒銭一貫文ニ華押ノ褒狀ヲ與ヘタリ

同　治助後家すてハ同様五貫文ト同狀ヲ與ヘラレタリ

家業出精者　源次郎褒銭一貫文同狀ヲ與ヘラレタリ

彌七ハ弘化申三月治助後家すてハ同巳十二月

源次郎ハ同丑十一月

大石秀實ハ佐伯ニ生マレ幼ヨリ志アリテ學事ニ從ヒ江戸ニ遊學シ文章ヲ專攻ス領主ノ儒臣トナリ維新後文部助教授トナリテ府ニ勤メ中學校長トナリ四國ニ赴キ志ヲ得ズ明治二十年亀岡ニ歸住シ三十一年八月十一日歿ス著者ノ寓所ヲ訪フ丁數回ナリ

道路　亀岡ヨリ篠山ニ赴ク一條アリ亀岡ヨリ此所マデ一里此所ヨリ蘆山ヲ越エテ宮前村ヲ貫穿

京都府立総合資料館所蔵

シテ前行スベシ蘆山路程屈曲シテ凹凸シ車行ス可ラズ佐伯ヨリ北方平坦ノ一線路ヲ擴充シテ宮前村ノ猪ノ倉ニ到ラシム名ハ舊東街道ナリ園部ヨリ京山村福住村ノ一線ヲ西街道トスフニ對スル名稱ナリ兩街道ハ福住ノ東ニ於テ會合ス西街道ノ開鑿成リテヨリ東街道ハ敝シクナリヌ（船井郡園部町多紀郡福住村京山村道路ノ條ニ出ダス）只近傍諸村ノ往來ニハ以前ニ比シテ多少ノ便益アリ

切支丹一件　正保年間ヨリ亀山城主菅沼左近將監領知ノ折柄城下北町ニ長左衛門ナルモノアリ此ノ者江戸ニ赴キ住居シタル際其ノ佛寺無キ所ヨリ導立チ遂ニ江戸町奉行組八町堀同心ニ捕縛セラレ其ノ異教徒タルヿヲ白狀シタリ同類吟味アリタルニ由リ佐伯ノ喜助モ轉切支丹ナルヿヲ告ゲタリ此ニ於テ町奉行ヨリ當領主ヘ御用狀ヲ以テ捕縛東下セシムベキ旨ノ達シアリ喜助ハ江戸ニ縛送セラレ妻ト男子八兵衛ト妻次男六助ト亀山ニテ入牢八兵衛ノ長男長吉モ入牢セラレ正保三年戌七月赦免セラレ佐伯ニ歸住ス喜助ハ淡路國ノ者ニテ商業ヲ佐伯ニ營ミ居タリ耶蘇教ニ轉ビタル經路ハ詳ナラズ江戸ニ於テ吟味セラレタル後亀山ニテ入牢慶安元子年松平伊賀守入城ノ際前城主ヨリ受取リタルガ承應元辰年九月十三日牢中ニ歿ス在獄五閲年吉田村淨光寺ニ埋ム

京都府立総合資料館所蔵

但シ死骸ハ火ニ焚キ僅ニ幾片骨ヲ檀那寺ノ僧ニ
下附セラレタルナリ父母伯叔父母等所在知レズ
八兵衛ハ出牢ノ後佐伯ニテ農業ヲ為セシガ喪心
シテ元禄十五丑年五月十六日屋根ヨリ首釣リテ
死ス人々見テ佛ノ罰ナリト云ヒ離セリ是レモ浄
光寺ニ葬レリ六助出牢後改宗セシメラレ青物商
トナリ京都ニ在リ死ス喜助妻承應元戊年死去八
兵衛妻寛文十戌年五月死去皆其ノ葬所ヲ同フス
連累合レテ十一人詳記スルニ耐ヒズ畧ス

大字　蘆ノ山　元高四十一石七斗九升　新高二十
二石二斗三升四合　亀山領　天保度九戸　元ハ
隣村本梅ノ地ニシテ蘆ノ生ヒ茂レル原ナルヲ以
テ本村ヨリ此ノ名ヲ以テ呼ベル所ナルヲ地勢ニ
就キテモ村沿ニ付キテモ便宜ナリトテ別カレ佐
伯部落トナレリ村中最西ノ地ニシテ坦々ノ路コ
ヽニ竭キ以西ハ山逕ニシテ高低シ屈伸ス

春日大明神社　九月十九日舊暦ノ祭式アリ
福壽菴

嘘惣　故家代々山田惣左衛門ト名乗ル明治初年
ノ頃　惣左衛門ハ能ク虚言ヲ吐キ巧ニ人ヲ誑ス
人呼ビテウソ惣トス其ノ嘘ノ大害無キモノカラ
人亦深ク咎メズ誑カサレタル者ヲバ却テ笑フ其
ノ交際ノ道廣ク且又交ハル所知名ノ士多キヲ以
テ土人ノ尊崇ヲ受ク頼山陽ノ子三樹ヲ拉シ歸リ

京都府立総合資料館所蔵

テ家ニ置キ領主ノ家臣ヲ招キ宴會スルニ頗豪奢ニ庭前ノ山ニテ居ナガラ採蕈セシメ古書画ヲ陳列シテ肴賞セシムル抔ノ事珍シカラズ人ノ意表ニ出ヅルヲ以テ自慰トシ一日家ニ養フ所ノ力士三人ヲシテ浴槽ヲ舁カシメ自分ソノ槽中ニ沐浴シツヽ亀山町中ヲ徘徊シタルハ奇行中ノ第一位ニアリタルナルベシ此ノ如キヿハ奉行水道日付(亀岡藩記事中ニ出ダス)ノ告発當罰ヲ受クベキ所ナルモ平素高位ノ者ト交際アルヲ以テ之ヲ免ルヽヲ得ルナリ著者ガ維新ノ新春佐伯ニ漂泊スルヤ具ノ訪問ヲ受ケ一詣ヲ授カリシガ茲ニ贅セズ

大字奥條　高三百石但山内ノ名ニテ三村合セテ五千石　知行主四家次文参看

舊稱山内三村ノ一ニ居ル山ノ内ノ奥ニ在ルヲ以テ名トス條ハ村邑ノ區分ニテ東西南北アリテ邑名村號トモナレリ　舟着岩アリ丹波大半湖沼ナリシヿ繰論以下所々ニ示スガ如シ此ノ處モ亦停船場ナリシトスフ　天保ノ頃人家五十軒

氏神蓐田野村ニアリ佐伯神社ノ條ニ出ダス　朝廷ノ御用紙ヲ貢納セリ

虛空藏堂　瑞岩寺山麓ニアリ

龍峰山瑞巖寺　禪宗　京都東福寺末　本尊十一面觀世音菩薩　坐像長二尺五寸寺傳ニ云フ菅原道實公ノ作　開山ハ東福開山聖一國師七世法孫

京都府立総合資料館所蔵

大通和尚後花園天皇享徳元年壬申草創大通和尚伊勢ニ在リテ朝熊山虚空藏菩薩ノ夢告ヲ奉シ來リテ普請建立ス足利將軍義尚大檀越トナリテ規模宏壯ナリ後土御門天皇ノ延徳元年己酉二月十日石龕ニ入リ坐化ス實ニ比稀ナル高僧ナリ開山廟アリ香華後世ニ馥郁タリ　經藏鐘樓等具ハル鎮守稲荷社アリ八幡宮モアリ　天正年間ノ住持文虎和尚世乱レ寺破レテ之ヲ永存スルノ道無キヲ以テ本堂ヲ亀山ニ移シ之ヲ廣破トシタルガ幸ニ明智ノ兵火ヲ免レ本寺ハ其ノ害ニ逢ヒ文禄五年震災ニ由リ又大破ス慶長三年文虎和尚ノ再造スル所トナリ明暦三年知行主村上三正中興ス當時ノ住持見叟和尚ハ見ノ歸依僧ナリ今日ノ寺相多クハ此ノ人ノ力ニ依リテ經營セラレタリトス

心王菴アリ境外ニ建テラレ當寺ノ隱居所タリ

唯心院　禪宗　李山ハ本郡畑野村ノ法常寺十世大觀禪師ノ開基　今ハ尼寺トナル

別所山大融寺　本尊聖觀音ハ播州三木城主別所長治ノ寺本尊ナリ三木落城ノ際ニ吉岡若狭守遺托ヲ受ケ長治ノ爲ニ建立シ永ク其ノ菩提ヲ追弔セルガ明治初年ニ至リ廢絶ス

寛文七年亀山城主菅沼織部正撿地ヲ領邑ニ爲セシガ太田鹿谷與條柳花ハ圏外トシ佐伯蘆山以西

京都府立総合資料館所蔵

ニ及バザリキ

山林ハ幕府代官所小堀支配ニテ知行至ハ四家本高千二百石ハ村上三十郎五百石ハ村上求馬三百石ハ和田二千石ハ松田千石ハ妻木　太田ノ部参看ノ

板花　山ノ内三ケ村ノ一　舊高三百五十五石七斗八升　内四十一石七斗九升ハ亀山領　二百一石八升五合ハ村上右摩守　四石一斗六升五合ハ同姓ノ左門　百八石七斗四升ハ同姓三十郎等知行ス

河阿神社　奥ノ宮ニアリ祭神豊玉姫　葺不合尊

冷泉天皇康平年中ノ創立舊暦十一月七日祭式

前示佐伯ノ神祭ニ此ノ神靈迎使七度半ニ及ブノ例ナリ此ノ神靈ヲ迎フル能ハザレバ佐伯ノ神祭ハ行ハレズトノ舊規ナリ其ノ所以ハ詳ナラズ

八王子ノ社アリ

櫻天神々社　有名ナル神社ナルヲ以テ佐伯路傍ニモ大石ノ指導碑ヲ建テ賽者

京都府立総合資料館所蔵

牛松山砦圖

京都府立総合資料館所蔵

牛松山砦圖

主將不詳
蓋天正年間築者

蘆山人家

京都府立総合資料館所蔵

ノ行訪ニ便ス信仰者稀ニシテ拾石者多シ主神ハ菅公ナリ杜傳ニ云フ公ノ左遷セラルヽヤ純忠ノ臣高田正朝隣邑鹿谷ニ住ス馳セテ京ニ入リ公ニ贐シ別ヲ悵ミ去リ肯ンゼズ公其ノ心ヲ愍ミ一物ヲ與ヘテ留別セントスルニ一物ダニ無シ乃チ路傍ノ一株櫻ヲ曳キ之ヲ與フ正朝拜受涙泣シテ奉送シ歸リ之ヲ庭ニ栽ウ數年正朝沒シ櫻亦枯ル其ノ下ニ小圓石アリ花紋ヲ印ス蓋シ忠魂ノ凝結然ラシムルナリトシフ祠中奉祀スル所ノ土像ハ公ノ自作ニ係カル往歳公ヨリ手賜セラレ獨鈷拋山下ニ奉祀シタルモノ更ニ部内ニ納ル丶所建久元年積善寺ノ僧其ノ境内ニ移ス僧名ハ宗無　一說ニ此

京都府立総合資料館所蔵

櫻石

ノ像ハ公ガ太宰府ニテノ自作セラレタルモノト云フ

櫻石　前示ノ花紋小圓石ハ長サ五寸以下三分五厘太サ直徑四分五厘計リ折レバ折ル程紋形光澤ヲ放フ學名童戍石著者ガ維新當時拾ヒ得タルモノ四寸許長ノモノ今明治四十年ニハ一寸許長ノモノサヘ希有トナレリ遊採者ノ年ヲ逐フテ增加シタルニ由ル　此ノ邑名柳花ヲカイバナト讀ム實ハ開花ニテ此ノ櫻石ヨリ采リタルモノトカヤ江州三井寺山上ニモ此ノ石ヲ出ダス而シテ花形ノ判然タルハ此ノ地ノ産ヲ最トス因ニ記ス菅家舊臣中一仕丁ニ丹後中郡ノモノアリ年老イタリ筑紫ノ奉仕ヲ顧ヘドモ許サレズ悲嘆嗚咽スルヲ憐ミ紀念ニモガナト公手ヅカラ路石ヲ拾フテ賜フ仕丁ハ泣別シ携ヘ歸リ之ヲ邸内ニ埋メヌ公ノ薨去ヲ聞クヤ再會ノ念絶ヒ責メテノ心床シニトテ其ノ上ニ小祠ヲ立テ日夜奉祀シタルニ一日其ノ砂石ニ梅櫻ノ紋章見ユレヲ手ニシ試ニ其ノ長キモノヲ折ルニ紋章彌顯ハル仕丁ハ己ガ忠精ノ貫徹シタルモノト信ジ益信奉シタリトナン古名ニ花村ノ音讀ナリシヲ後ニ二個村トセリ

豊前國企救郡　土質ノモノ普通品

東郷村海濱ニ櫻石

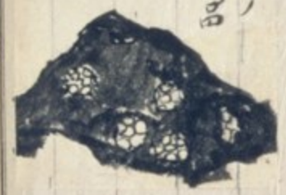
公ノ船繫カリ

セル故蹟ニモ

灰黒堅質ノ梅

紋石ヲ産セリ

石質ノモノ特別品



大字太田　高六百七十三石八斗六升内二百五十石村上志摩守前ニ示セル三十郎知行百四十五石七斗五升和田八郎二百五十石妻木并次郎前ニ出ダセル久之丞二十八石五升六合松田善右衛門知行孰レモ旗下士ニシテ知行地狹少且事務寡少ナル故四家ニ一名ノ代官ヲ任シ総務ヲ掌管セシム其ノ報酬ハ四家ノ高割ニシテ給與シ十石前後ナリ其ノ下ニ左屋四名肝煎四名分擔シテ租税工事地利警察刑罰ニ從事ス

太田トハ主墓御料供米上進ノ所ニシテ太田ノ制二十三間四方其ノ田ヨリ選子種ヲ出ダス之ヲ掌ル者ヲ太田ノ司トス総論以下所々ニ出ダス参考

京都府立総合資料館所蔵

セヨ

勝手神社　保食神ヲ祭ル　外ニ天滿宮　春日社

八幡社　金毘羅社アリ

金剛山龍潭寺　禪宗妙心寺派京西龍安寺末　開山大寂常照禪師細川勝元同政元ノ開基トス而シテ創始ヲ詳ニセズ中頃妙心寺トナリシモノヽ如シ常照ハ即チ勝元ナリトモ云フ大檀那トシテ松井越前守宗信アリ本尊聖観音定朝ノ作トス塔頭ニ瑞龍菴福壽菴青岩院アリ末寺巨多　中古青岩院ヲ改メテ開山堂トシテ青岩院ト名附ケ藏殿ニハ福壽菴ヲ以テ當テ福壽殿ト呼ビ衆寮ハ瑞龍菴ヲ以テ之ニ當テ瑞龍窩ト呼ブ山間ニ雷神松内裏塚祈雨石鄕口山等ノ怪石奇岩ノ勝アリ皆門山常照禪師ノ命名ニ係カルモノトス云フ　當時ノ巨刹タリシハ寺境ノ弘キト故址ノ大ナルトニ由リテ知ラル下馬牌制札場アリ以テ地位ノ高崇ナルヲトス可シ龍穴アリテ古傳山姥ノ由來ヲ垂示ス

釋迦如來名姥ノ一幅ハ後花園天皇ノ宸筆ニシテ古袈裟ハ德川初代將軍ノ物ニシテ中興伯蒲禪師ニ寄贈シタル所具ノ外許多寄贈アリ猶又山林田園ヲモ附與セリ制札ト下馬札ハ維新ノ際マデ門前ニ建テ置カレタリ政元ノ署名アリ文面左ノ如シ

定

一守護不入事　一不可陣取事
一不可殺生事　一不可押取事
一不可竹木切取事　一一門前通行可下馬事
右之條々堅可相守若於違犯ハ可處嚴科者也
明應四年六月日　細川右京大夫政元

山門十四景　石門登路ニ百歩許ノ所ニアリ上ニ一圓相ヲ彫ル　烏帽子石　石門ノ傍ニアリ　臥雲窟圓通寺ノ傍ニアリ　指天石　同上　止錫窠竹椽茅屋兩三人ヲ容ルベシ　玉兎石止錫窠中ニアリ　補陀岩　楊柳池　飛來石　葉石　點眼僧　栽松　送月岩　閑達磨　一太田菴　本山龍潭寺　本尊阿彌陀　創立不詳

開山雪江ニ世特芳開基　松井越前守宗信ノ寄附田アリ　細川勝元明應元年再興天正ノ兵火ニ廢絶ス

産物　蕎麦子ハ往古皇室ヘ貢上シタリト云フ　花崗石ヲ産ス　職工大和國ヨリ來ル　太田攝津守資國ハ道灌五世ノ祖ニシテ本姓多野ナルガ五個莊ヲ下賜セラレラヨリ此ノ地ニ住シ改姓ス子資治孫資兼相襲ク六郎資清京ニ入リ將軍義教ニ謁シテ關東ニ赴キ扇ヶ谷上杉氏ノ宰臣トナリ文武ノ譽アリテ世々大名ニ列ストノ船井郡檜山村和田　古老ノ語ル所ヲ記ス　部ヲ參看セヨ

鹿谷（ロクヤ）　高四百四十五石五斗一升　天保度四百七

京都府立総合資料館所蔵

十石　村上三十郎知行所

稽名山ノ内白鹿ノ來レルヨリ今ノ名トナル土人ハ神獸トセタリ

氏神　佐伯ト同祭　八幡宮アリ

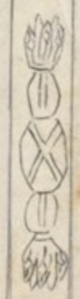
獨鈷拋山千手寺　禪宗　京都妙心寺末　本尊釋迦如來立像長五尺　傳敎大師作開山止庵和尚

觀世音坐像長二尺五寸弘法大師一刀三拜ノ作

桓武天皇御宇延曆二十三年弘法大師入唐シ青龍寺ノ惠果阿闍梨ニ就キ眞言秘密ヲ授ケラレ神祇ニ乞願シ本邦ニ於テ密印受授ノ爲ニ建院ノ地ヲ示サレヨト獨鈷杵ヲ空中ニ拋擲シタルガ空中遥ニ雲上ヲ飛翔シテ東方ニ向ヘリ大師歸朝シ春日明神ニ其ノ所在ヲ告ゲヨトセフ一老翁來リ告グ丹波國佐伯庄山ノ内ニ白鹿アリ汝ノ獨鈷ヲ護持スト大師奈良ヨリ來リ此ノ山ニ登ル白鹿ノ松枝ヲ守ル其ノ梢ニ獨鈷懸カレリ便チ一小菴ヲ其ノ下ニ結ビ千手觀音ノ像ヲ作リ之ヲ安置ス大同二年寺形成リヌ鈷ハ河内國錦部郡觀心寺ニ在リ

獨鈷ノ圖

三鈷



五鈷

京都府立総合資料館所蔵

不動岩　不動坂ニアリ不動ノ字ハ大師ノ書　旱魃ニハ村民此所ニ雩ス

屏風岩　立てかきし屏風の谷を少し入るとあるべらく山乃峰ニ

なりけり　大師

力ヲ懸　寅ノ方ニアリ　鸚鵡石　高サ二丈大タワトエフ所ニアリ　赤苔石　清水谷ニアリ　天狗岩　口碑アリ　高野山ニモ亦此ノ獨鈷ト同ジキ靈詰アリ茲ニ畧ス

願　無礙合掌　阿彌陀名號　大日ノ字　等大師ノ書

願　獨鈷拋山千手禪寺　一品親王御筆

世亂レタ法廢タレ燈影闇ク人迹絶エタルヲ正庵和尚ノ再興スル所トナリ宗旨ヲ改メ禪刹トス之ヲ應永年間ノ事トス

眼病醫治ノ來由　往昔靈場ノ壁岩上夜々光明ヲ發ス吉岡某矢代ノ莊ニアル頼政ガ守本尊ナル木像ガ杖ク所ノ矢ヲ以テ亀岡町地藏堂ノ之レヲ射記事參照スベシ

ルニ光滅ス翌朝往キ看レバ觀世音像ノ左眼ニ矢五テリ某驚異シテ罪業消滅ノ祈念ニ參籠スルコト數晝夜其ノ夢告ニ曰ハク汝ガ殺生心ヲ休メシメンガ爲ニ矢ヲ受ケタリ身ヲ終ヘタリ南後眼病者ノ信仰年ニ熾ンニ爲ニ籠モリ堂ヲ建ツ

藥師庵　本村千手寺末元祿年間ノ創立明治初年

廢絶

松林寺　本村瑞岩寺末慶長十八年創立明治二十年廢絶

千代川村

千代川村　大字　千原川關北ノ庄湯井、小林、今須、灰田、小川、高野、小林、ノ九箇舊村ノ地位ハ大堰川ノ西南ニ於テ郡ノ最北端トシ船井郡ノ八木村ニ隣ル南ニ大井村アリ東方ハ川西方ハ山々西ニ宮前村アリ西南ニ薭田野村アリ亀岡ヨリ園部ニ到ルノ中間ニアリテ山陰道ヲ挾ム

舊稱小川莊　和名抄ニ乎加波　當時ノ小川莊ハ大川ノ向フナル馬路村アタリヲモ含メルモノニテ其ノ頃ノ大川ハ千年山下ニ在リテ馬路ニアル古川ハ屋賀ヨリ來リテ流川ニ曾シ神代淵ニ入リ保津村地内ニテ大堰川ニ入ルノ流線西南ヲ小

京都府立総合資料館所蔵

川荘トス馬路地内ニ在ル小川月神社モ此ノ荘内ナリシガ水陸ノ異同ヲ為シタルヨリ斯クハ変易シタルナリ　馬路村ノ分ヲ参看ノ丁

慶仁以前ハ守介ノ管治ニテ其ノ以後ハ伊勢伊勢守室町将軍ヨリノ賜地トシテ之レヲ領シ四百五十町歩ヲ私有セリ伊勢ハ幕命傳達ヲ掌レリ

徳川氏時代ノ分領左ノ如シ　文久年度調査

川關村高九十五石八斗六升七合五勺　旗下士

津田好之丞知行

千原村四百一石七斗六升　亀山藩領

北ノ庄村七百五石七斗五升　能勢惣十郎知行

湯井村三百四十五石六斗

内百五十四石九斗　能勢惣十郎知行

百九十一石五斗一升　亀山藩領

小林村三百八十一石五升八合

亀山藩領

高野林村二百石二斗六升四合同領

今須村八十五石七升五合　同領

小川村百六石五斗七升　同領

灰田村百四十七石二斗七升

内三十二石二斗　同領

百十五石九斗　能勢惣十郎知行

愛宕山参詣道　千原ヨリ北ニ折レ大堰川ヲ渡リ

馬路村千年村ヲ横斷シテ登リ山城ノ嵯峨村ノ原

京都府立総合資料館所蔵

ヨリ行クベキ一筋道　古來播磨丹後但馬方面ヨリ伊勢參宮スルモノハ必ス愛宕山ニ登參スル習慣アリ故ニ春期ニハ旅客頗多ク路ヲ此處ニ取レリ維新後次年減少シ鐵道縱貫シテヨリ寥々平タリ此ノ所ヨリ北望シテ愛宕ヲ仰ゲバ巔尖ニ一掬ノ菊華ヲ認ムベシ

寛政五年夏天黑雲起コリ大堰川ノ淵底動搖シテ鱗光閃々昇騰ス此ノ邊一帶闇黑諸人驚キ戸外ニ出デ、之ヲ凝視ス或人云フ龍ノ天上スルナリ

大字小林

大字小林高天保度三百七十七石三斗三升八合前示ノ高ヨリ少キハ嘉永安政以後ノ增額ニ由ルナリ　天保弘化年度改人戸五十七軒半農半商旅亭飲食店アリ維新後全農トナル

氏神天滿宮　末社老松ト白太夫トアリ維新當時ニハ不動明王ノ堂アリ釣鐘モアリテ兩部神道ヲ表明シタリ石鳥居ノ側ニ庚申堂幸神社觀音堂アリ觀音ハ立像一尺五寸廢佛ノ時コレヲ近所ノ寺ヘ入ル社僧祭事ヲ掌リ維新當時大林山善念寺ト稱シ天台宗ニテ京都北野松梅院ノ末寺ナリ北野天滿宮モ兩部神道ニテ社僧ハ皆院號ヲ稱ヘシナリ小林村ニテ大林山ヲ稱スルハ大トハ和訓ニ於テ似タルヲ以テナリ不倫ナルニ非ズト云フモ可笑シ

此ノ社ノ主神ハ菅原道眞公トシ建設者ヲ其ノ臣武部源藏トス源藏ノ人ト為リ誠良慈愛加フルニ

千代川村

京都府立総合資料館所蔵

主君道真ノ薫陶ニ醞釀セラレ公ノ遠謫ニ遇ヒ情緒遣ルニ由無クシテ道ニ送リシレヲ筑紫ニ訪ヒ延喜二年歸國ノ際夢中ニ其ノ歸京ヲ迎ヘ通宵對話シ將ニ曉ケントシテ其ノ旅路ニ就クヲ看ルニ主君一個ノ影ノミ後者一人ダニ無キニ駭キ顧眄逡巡スル間ニ其ノ所ヲ失ヒ前面ニ唯一小丘アル計リナレバ狐狸ノ魅スルニヤアリケント思ヘトモ自後心身安カラズ由リテ即時京都ニ入リ舊僚ヲ歴訪シテ筑紫ノ音問ヲ探ルニ異事ナキモノカラ園部ノ歸程ニ就キ數日ヲ出デズシテ凶問ノ筑紫ヨリスルニ遇フ源藏ノ悲嘆遣ルニ方無ク此ノ所ハ公ガ領地園部ニ往還スル時ノ休憩地ニシ

且又源藏ガ公ノ面影ヲ髣髴ノ間ニ認メ公ノ後ヲ追ハントスル時公ガ源藏ヲ顧盼シタル等ノ事アルヲ以テ休ミ天滿宮又ハ見返リ天滿宮トモ稱スルナリ船井郡園部村記事參看ノ

樂邦山臨生寺　淨土宗　並河ノ阿彌陀寺末

本尊阿彌陀佛立像二尺五寸寺傳ニハ智證大師ノ作トス　開山光空義徹上人　鎮守辨天祠アリ

因幡藥師堂ノ址アリ除地壓二十五間横十五間

稻荷神社一宇

小林殿ノ屋敷迹一所

大工ノ妻　大工久助ノ妻名ハ長　夫婦ノ中ニ二女子アリ皆幼シ元文年間江戸ニ火災アリテ大工ノ

京都府立総合資料館所蔵

債銭貴シト聞キ久助東行シ遂ニ止マリテ帰ラズ音聞又絶エ長能ク貞操ヲ守リ縫針洗濯シテ僅少ノ銭ヲ得以テ二女子ヲ養育シ夫ノ遺愛ナル一櫻樹ヲ撫養シ僅ニ以テ情ヲ慰メ枝ヲ守リ根ヲ培ヒ春時ニハ其ノ花ヲ護リ人ヲシテ猥ニ近ヅケシメズ此ノ如キ二十年許ニ女子モ樹ト共ニ長シテ村中ニ嫁ス元文三年花散リテ長亦逝キテ樹亦枯ル人呼ビテ操櫻ト名ヅケ長ノ其ノ枯株ヲ存セリ

京儒頼復次郎於長ノ傳ヲ叙シ評シテ曰ハク阿長ハ貞婦ト謂フベキナリ二十年ノ久シキ獨リ其ノ二女ト櫻樹トヲ養ヒ毅然トシテ貞操ヲ変ゼズ豈涵養アリテ然ル乎然レドモ一貧匹婦必ス婦教ヲ聞クニ暇アラズ蓋シソノ貞操ノ天性ニ出ヅルナリ

余古来ノ忠臣節婦ヲ觀ルニ遇ト不遇トヲ以テ其ノ志ヲ変ゼズ阿長亦愧ヂズ世ノ遠役客商數年還ラザレバ則ソノ妻往々生ム所ノ子ヲ棄テ去テ私夫ニ依ル阿長ヲシテ知ルアラシノバ則必將ニ地下ニ罵怒セントス余聞ク南朝ノ士ブル其ノ忠臣義僕多ク小林邑ニ竄匿スト於長モ亦其ノ後裔カ

操櫻碑銘　操櫻在丹波東田郡小林村亀山城近境也音村中有一木匠名久助者妻楠阿長生二女家道頗艱久助年壯無頼親族規之不悛阿長厚勤備至久助適聞江戸大火版築多利遽去至三歳不返杳無消息阿長夫更娶婦托人跡跡不知其所在阿長謂婦道

京都府立総合資料館所蔵

居守無佗是常耳持節不渝經理彌力庭有一櫻樹久
昉平生所愛也以故阿長視樹猶視夫培殖保護及至
且以夫之去日爲忌辰鉢奠無懈長女夙沒獨與幼女
居備極艱楚者數歲矣及其病卒櫻樹亦枯人以爲奇
因名其樹稱櫻實元文五年庚申夏四月也後櫻樹
孽生人皆尚愛移植天滿社至今尚存云龜山藩士長
谷川士容語予曰此事載在閑田隨筆烱焉形管不可
不傳然花木時乎枯不朽者文也予將與父老胥謀勒
諸溫珉以示永長願先生記之予謂花乎有神化爲美
人婦也不就善保其身同類相感德必有鄰記之銘之
流芳千載

明治三年庚午花朝日　皇都大學教官　櫻老加藤恭撰

川關

大字川關　高百八十二石五斗　四十戸　天保度
幕府旗本津田美濃守知行
川關ハ讀ンデ字ノ如シ水上通過ノ筏ニ對シ木材薪
炭運上收取ノ所ニシテ延喜式ニ出デタル瀧領津ニ
ヤ一說ニハ堰關ニシテ大堰川ノ水ヲ引キ揚ゲ田畝
ニ灌注シタル古名ナリト昔時ノ十七個名所ノ一ニ
居ル丁總論ニ出ダセルガ如シ
宮垣大明神社　大正年間指定社トナル　末社八幡
九月十六日　舊曆祭禮
藪田明神社　上川關古松ノ下ニ鎮坐
金花山ハ松寺　京都三寶寺末　本尊阿彌陀如來
鎮守稻荷大明神　淨土宗ナリ

千代川村

京都府立総合資料館所蔵

今ハ千原ニ在リ

觀音堂平重盛ノ守本尊七寸ノ石佛ヲ安置ス重盛ガ宋ノ育王山ヘ祠堂金ヲ納ノ後世安樂ノ祈禱ヲ請願スルヤ青龍寺（育王山ヨリ在リ）ヨリ贈リ來ル所ノ尊像ト云フ此ノ地ハ重盛ノ臣ナル瀬尾太郎ノ領スル所ナルヲ以テ太郎ガ其ノ君ノ為ニ追福建設シタルナリトゾ寺傳ニ曰ハク當時ノ開祖ハ勢觀房源智トテハ松内太臣重盛ノ孫備中守師盛ノ子ナリ僧トナリテ道德戒儀普ク行ハレ歸依者太多ク師僧法然上人ノ衣鉢ヲ承ケ京都百萬遍知恩寺ノ住職ト為リ該寺ヲ以テ淨土宗專念道場ト定メ舊稱釋迦堂ヲ改メテ今ノ名トシ淨土宗四箇本山ノ一ト為シ志ヲ遂ゲテ煩務ヲ避ケ此ノ一小僻庵ニ退居シタルナリト

千代川村

德雲山宗福寺　禪宗京都妙心寺末　本尊觀世音菩薩坐像一尺七寸　開山萬隨和尚　因果居士舊住ノ地ナリトテフ居士ノ畧傳ハ北桑田郡細野村大字瀧ノ正法寺記文ニ出ダス就キ看ヨ

鎮守花山稻荷大明神

古石泣石　古時田畑ノ妨礙クルヲ以テ玄翁ヲ以テ割ラントスルヤ此ノ石ヨリ泣聲ヲ揚ゲタレバ驚キテ割ルヿヲ罷ノタリトカヤ

高率都婆　建設者ハ北條相模守時賴入道西明寺殿トテフ時賴ハ泰時ノ子初代時政ヨリ五世ヲ經テ時賴ニ至リ鎌倉ノ執權トシテ天下ノ政ヲ執リ内外數度ノ亂ヲ治ノ能吏ヲ選ンデ地方ヲ治ノシノ常ニ探

京都府立総合資料館所蔵

千代川村

集古十種

平時頼

偵ヲ發シテ其ノ良否ヲ調査セシメタルガ其ノ探偵ガ地方官吏ヨリ賄賂ヲ取リ弊害ノ少カラザルヨリ其ノ職ヲ退キ自身行脚僧トナリ諸國ヲ旅行シ政治ノ善シ悪シヲ検セリ時頼ハ其ノ辭世ノ偈ニ業鏡高懸三十七年一槌破碎大道坦然ト書シタルヲ以テ其ノ禪學ノ專習モ為シタルヿ見ルベク行脚僧ト為リテ諸宗ノ僧侶ト交際シテ辱ヅカシカラザル佛學ノアリタルヨリ思ヒ立チ出懸ケタルナルベシ而シテ此ノ地ヲ巡錫シタルハ康元二三年ノ頃ナルベシ時ハ夏ノ盛リニテ足疲レ咽乾ク路ノ傍ニ瓜田アリテ瓜熟スリケン田ノ畦ニ休ヘル老婆ヲ見テ瓜一ツ恵マンヿヲ乞フ老婆曰ハク熟スルモノハ只一ツ外

京都府立総合資料館所蔵

ノ瓜ハ取ルニ早シ其ノ熟セル者ハ初生ナレバ神前ニ供ヘタル後ナラデハ進ラセ難シ暫ク程待チ玉ハンヤ入道ハ其ノ敬神ノ情ノ厚キニ感ジ煩渇ヲモ打チ忘レ田間ニ腰ヲ卸シテ待ツ老婆急ギ其ノ瓜ヲ采リテ家ニ持チ歸リ旅僧未玉ヘトテ其ノ家ニ延キ瓜ラ洗ヒ清ノテ神棚ニ供ヘ拜禮シテ直ニ下ゲ割リテ之レヲ入道ニ與ヘ快ク喫セシム今存スル所ノ瓜田ト呼ブ地ハ即チ其ノ遺迹ナリトカヤ

入道夫レヨリ諸國巡錫ノ後鎌倉ヨリ此ノ地ノ地頭ニ沙汰シ其ノ報酬トシテ川流使用ノ運上錢ト陸上驛路通行運送運上錢トヲ老婆ノ家ニ收入セシノタリトテハ字制札場アリ制札ニ其ノ旨ヲ掲示セリト

京都府立総合資料館所蔵

ゾ夫レ租税ハ公法ナリ報酬ハ私事ナリ入道豈ソレ之レヲ混視セン乎若シ此ノ事アリトセバ私財ヲ以テ報ヒタルナル可シ

高宰都婆ハ此ノ時ニ造營シタルモノト云フ高サ十一間半後ニハ七間ニ成ズ幅ハ下ノ所ニテ七尺次第ニ細リテ上ル石垣長サ二間幅一間一尺餘一箇ノ石燈籠ヲ建テタルガ燈籠ト石垣ハ近來無シ柱頭ニ十二面ノ鏡ヲ懸ク正面ニハ五面ヲ懸ケタリ懸鏡アル時ハ梵字ヲ省ケリ正嘉年中ニ立替ヘラレ用材ハ領主ヨリ渡リ供米一足大工手傳及ビ酒餅ノ下賜アリテ餅ハ往來人ト来觀者ニ與ヘラレタリ

或ル年建替ノ時ニ方リ寺僧寫字セントテ立出デタルニ差圖シタルト無キニ木ハ早クモ建テラレタリ寫字スベキ樣ノ無ケレバ茫然トシテ立チ居タルガ一個ノ行脚僧來リ看テ愚僧能クシレヲ書キ得ントヨリ許セシカバ旅僧ハ頓テ大筆ヲ揮リテ墨汁ニ浸シ之レヲ柱上ニ向ケ擲チケルニ其ノ筆縱横自在ニ廻轉シ走馳シ文字歴々トシテ見ルヲ得タリ人々驚キ仰ギ見ル内ニ其ノ僧ハ足早ニ西北指シテ去ルニゾ其ノ迹附ケヨトテ二三人追ヒ驅ケ走レバ船井郡神田吉富村ノ北ノ坊西光寺中ノ養樂院ニ入ル隨フテ入リ今ノ旅僧ハト尋タルニ知ラズト答ヘ彼是相尋タルニ得逢ハズ是レ或ハ弘法大師ノ化身ナラントテ扨

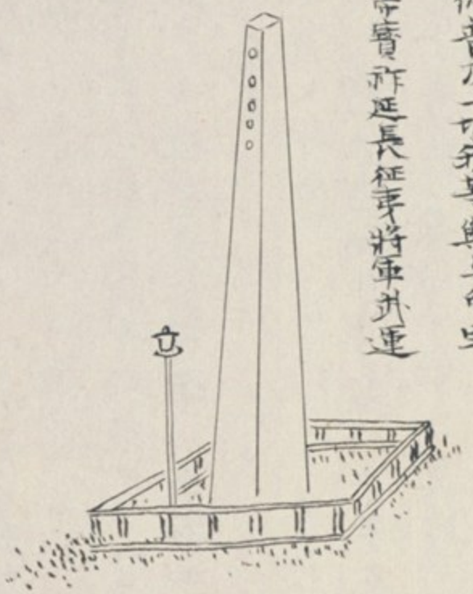
八山城高雄神護寺ノ飛筆ノ額ニ同ジキモノ歟トテ
歸リ其ノ趣ヲ報ズ是レヨリ大師ノ德ヲ慕フモノ多
ク高率都婆建替毎ニ養樂院ノ住僧来リテ書クヿト
定マレリ時頼ガ一字一石寫經ノヿ且ソレヲ此所ニ
埋メタリトノヿ等西光寺ノ記文ニ出ダシ此所ニハ
暑ヌ參看アル可シ且ソノ寺ニ弘法大師ノ二像アリ
繪像一幅アリ
弘化四未年三月揚木長六間并ニ栗角長一間半領主
ヨリ下賜ヌ入用米一石定免下賜アリ神田西光寺住
職侍草履取笠持等ヲ隨ヘ西坊與坊供一人ヅヽ隨ヘ
供養作禮ヌ
今在ル所字小山嶽ハ明治六年ニ移轉シタルナリ

東面　（是報ハ是本末究竟等往昔最明寺時頼君為天下恭平立聚豊熟御円領護一石一字書大乘妙典納于茲標之功德聚也謹修供養之道撰造立焉者也敬白）

南面　[illegible]　六大無碍常瑜伽四種曼荼各不離三密加持速疾顯重々帝網名節身乃至清淨界

北面　[illegible]　願以此功德普及一切我等與衆生皆共成佛道平等利益

西面　[illegible]　長久大樹安全國豊民安　今上皇帝寶祚延長征夷將軍武運



柱下ニ陶壺アリ黒石ニ金字
斑々タリ明治六年道路改造
ノ際發見シ又今ノ所ニ埋メタリ

昔日奉收一字一石書
大乘妙典標之功德樹
擬舊規
今上天皇寶祚延長
征夷將軍武運長久　大守安全國土民安　一見率都婆永離三惡道

京都府立総合資料館所蔵

往昔最明寺時頼君為天下泰平五穀豊熟郷内鎮護一
石一字書大乗妙典納于此標之功德聚也謹修供養道
儀擬舊規造立焉
願以此功德　普及於一切　我等與衆生　皆共成佛道
六大無礙常瑜珈　四種曼荼各不離　三密加持速疾
顕　重々帝網名即身
弘化三丙午七月大吉日
權大僧法印圓秀代立之者也敬白
亂世打續キテ長ク廢絶シアリクルヲ再興シタルハ
權田ハ三郎トカヲ龜山ニ在リテ此ノ地方ノ政治ヲ
為シ慶長十年乙巳ニ公儀普請トシタルガ後ニ領主
作事トナレリトカヲ　龜山城主記事参看ノ一

千代川村

高率都ノ市　往昔城下ノ市町モ無ク商賈ノ少キ時
ニハ所々ニ臨時ノ市場ヲ營ミ物品ノ交易又ハ賣買
ヲ為シクルヿトテ此ノ率都婆ノ下ニ塩市ヲ開キ數
十年繼續シタリトカヲ馬路村ノ部ニ出ダセル三日
市ノ如キ又現行ノ氷上郡ニ三所ニ行ハルヽ市ノ如
キモノナリシナラン有益ナル市場ナリシヿハ左ノ
如ク諸役ヲ免除シクルニテモ知ルベキナリ
其四新市依れ立諸役令免許事　能年塔武拾五石
毎年納所可仕者也仍如件
英氏十一年三月十三日　權大ハ三印　元親
丹波国千原村百姓中

一町誌

京都府立総合資料館所蔵

同十六年九月十六日山口駿河守下渡ノ文同ジ
寅間長者ノ遺迹　年代ハ詳ナラサレドモ寅間長者
トテ豪奢ヲ極メタル者アリテ故老ノ話ニ残レリ
其ノ内ノ二三ヲ左ニ記述ス
寅天堰（トラテンヰセキ）ハ大川近所ニ在リ是レハ長
者ノ庭園ヘ大川ノ水ヲ引キ揚ゲタル遺迹トス
庭園頗廣ク池塘太深ク四時ノ花樹花草ヲ植エ禽鳥
ヲ放チ錦鱗ヲ放チ數所ノ門ニ周圍ノ墻ニ倉庫盈チ
奴婢無數ナリシト云フ
蓮花塘ハ蓮池ト呼ブ小字ニ在リシト云フ
調馬場ハ馬場先ト呼ブ小字ニ在リシト云フ
筑橋ハ川関ヨリ上田ニ到ル所ニアリ堰溝ノ造リ方
ニ工夫ヲシテ大籠モヲ溝土ヲ掬ヒ揚ゲシメタル
モノト云フ
長者所用ノ鏡　八木保矢衛コレヲ所有ス
畫家雪峨ハ此ノ地ノ人ト云ヒ又僧ニシテ此ノ地
ノ宗福寺住職トナリタルモノトモ云フ　動物ノ
活氣ニ富ミ山水ノ清雅ヲ筆鋒遒勁洒脱ナルハ文
人ノ清賞ニ價ス　本梅村若森普斎寺ニ大作數多
アリ人ハ曰ク圓山應擧ニアラズシテ一機軸ヲ出ガ
セルモノト印影四個ヲ示ス

雪峨
晴雲齋
雪峨
雪峨新

京都府立総合資料館所蔵

農民永田市次郎清右衛門五右衛門三稱ニシテ一人左ノ四通ヲ領主ヨリ下賜ス

桑田郡千原村　理兵衛忰　市次郎

其方儀心得宜父母ニ能事ヘ農業格別出精致候段奇特ニ思召依之為御褒美鳥目壹貫文社下置候弥心行為り申聞ニ遣ス也　寅十二月

千原村庄屋　清右衛門

其方儀今度門形根被献納ニ為依之苗字并帯刀免ス

寅二月

右ハ亀山藩疲弊セシニヨリ領内人民ノ金銀ヲ借リ入ルヽ時ニ献納シタルノ褒賞ナリ人民ニシテ苗字ヲ名乗ルモノハ特別ノ由緒アル名家ナラザルヿ可ラズ苗字ヲ名乗ルモノハ藩廳ニ於テモ特禮ヲ與ヘタルナリ納銀ノ功ニヨリ特禮ヲ得ルハ明治政府ノ製艦費壹萬圓ヲ寄附シタルモノニ從五位ヲ與ヘタルガ如シ世ニ古今ノ別アリ金力ニ古今ノ別無シ

千代川村

千原村庄屋　永田清右衛門

其方儀平波氏助成派助力致候段奇特ニ思召依之帯刀并苗字免ス

戊寅四月

助成銀ト云フモ御賴ミ銀ト云フモ謂ハユル御用金ニテ助持トハ一人分擔ノ丁ヲ意味ス他所帯刀

トハ他領地ニ於テ両刀ヲ帯スルヲ得テ道中ニテ士人ノ待遇ヲ得ル権利アリ假令ヘバ橋銭ヲ要セズ舟賃ヲ要セズシテ川ヲ越ス権アリ町人百姓ニ先立テ行ク権利アリ等是ナリ

千原村左忠　永田清左衛門

乗方俄分後氏助成浪生徒ハ為奇特ニ付之ヲ字印令印状茅序免ル

未正月

丁子ノ合印トハ亀山藩所用ノ紋ナリ此ノ近傍及ビ藩領ニ於テ丁字ノ紋ハ之ヲ挑灯ニ用ルモ法従ニ用ルモ人望シテ之ヲ畏ルヽナリ

来田郡第十一區千原村

千代川村

其方儀幼年ノ時ヨリ両親ニ能事ヘ家族睦敦相暮シ壮年ニ及ヒ村役相勤メ貧窶ノ者ヲ恤ニ屢〳〵救助米差出シ殊ニ村内同志ノ者ト恢議ノ上米麦積立凶年饑歳務備ノ方法ヲ設ケ加之堤防破損ノ節ハ人夫差出修繕ノ入費ヲ助ケ廿餘年在役中諸事實意ニ相勤メ近隣ニ至ル迄懇話相交リ其身作老衰モ日夜八十餘歳ノ老母ヘ懇篤ニ仕ヘ候事奇特之事ニ候依為其賞銀盃壹個下賜候事

明治八年四月廿八日

京都府

瀧頭津

一ニ瀧頭津ニ作ルタキノツト訓ム　文

永田五右衛門

京都府立総合資料館所蔵

武天皇大寶元年ノ大寶令ニ出ヅ日ハク凡丹波國
瀧額津雜杖直云々延喜式ノ文ニ同シ（論ヲ見ル）其ノ地
ハ今津南方ノ芝地ニシテ古ノ牧場ナルヿ馬路村
故老相傳ノ說ナリ
朝日山淨蓮寺迹　湯井ノ朝日山ニアリ　岩窟ア
リテ役行者ヲ祭レリ
如意山藏寶寺　地藏尊ヲ祭ル栗田郡六地藏ノ一
牛王ノ判アリテ地ニ難產ノ女無シト云フ　藥師
堂ニハ藥師如來ヲ祭ル秘佛トシテ常ニ閉帳ス弘
法大師ノ作ニテ是亦安產鎭火ノ靈驗イヤチコナ
リトテフ

今津　今日ヨリ津所トスルノ意ニテ舟稅ヲ課シタル濱ノ名　後世

大字　今須

今須ト轉訛ス高ト領主ト前ニ出ダセリ天保度改
人戸二十四軒
神社佛閣無シ　神事佛事ハ馬路村ニ屬ス下條參看
ノヿ
川関ノ名ハ隣地ニ在ルガ舊記ニ因レバ此ノ今津
コソ大川ノ関所ナリシナレ四條院御即位大嘗會
木寄帳アリテ當時修理職上司ニ任仕シタル人見
加賀守ノ筆記アリ天福元癸亥北栗田郡ヨリ下ス
筏材ヲ掌リタルヿヲ記ス寛文四辰年九月京都所
司代ヨリ亀山城主松平伊賀守ヘ運上所預リヲ命
ジ人見市之丞ヨリ亀山藩士ヘ運上事務引渡シタ
リ斗ハ藩主ヨリ城普請用材缺之ヲ申シ立テタ

千代川村

京都府立総合資料館所蔵

ルニ由リ此處ノ運上材木取立ノ權利ヲ下渡シタ
ルナリ人見ハ加賀守以来數十代ノ利益ヲ横奪セ
ラレタル代償トシテ何ヲカ獲タルヤ聞ク所無シ
此ノ時ヨリ下山間運上所假番所御材木小屋等ハ
山本村木村勘左衛門預リト成リ從前御材木把物
入札ノ時ハ京都町奉行所ヘ届ケ出デ関東御普請
方京都町奉行組與力等立會ノ上ナラデハ落札ス
ルヿ能ハザリシヲ自後亀山藩ニテ事ヲ執ルヿトナ
レリ
人見家ハ北桑田郡ヨリ来レルモノ其ノ系図左ノ
如シ

初代四郎伊豫守行資　五郎兼行　民部大輔盛

人見家所藏　朝鮮ニテノ分捕品
野陣ノ蔡網　長二間　幅五尺

朝鮮國毒搖ノ穂

所藏ノ弓矢巨多アリ

京都府立総合資料館所蔵

氏　四郎太夫秀賢　九郎加賀守　又之進改市之進秀勝　久兵衛改市之允秀治　又兵衛改市之允秀親　吉左衛門改市之允護厚　満五郎改市之允秀成　源七郎改市之允秀政　孝八郎改市之允秀薫　鬼一郎改市之允秀式　真吉郎改市之允秀備

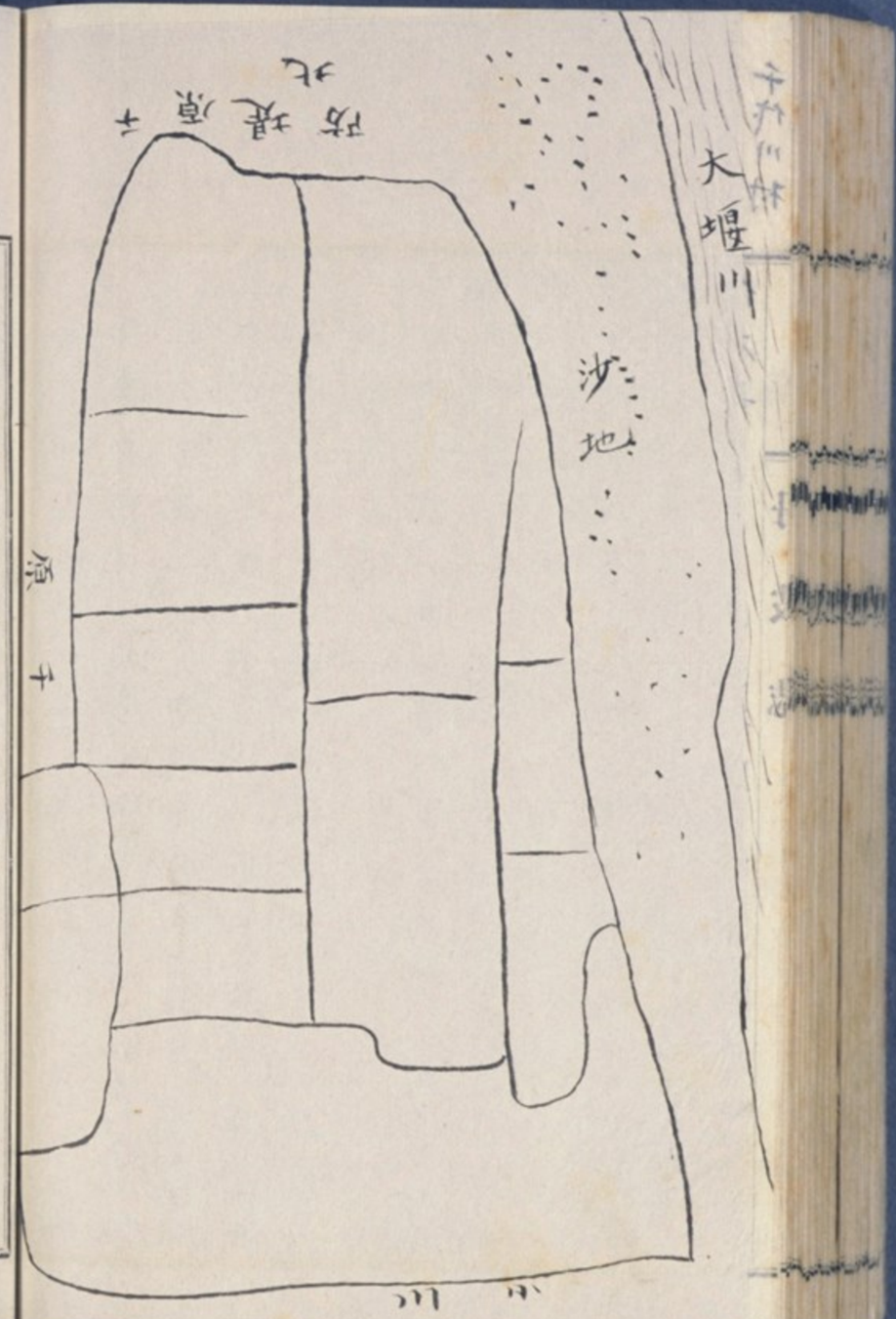
合十四世其ノ第五世加賀守馬路村ニ来住シ馬路郷士両苗ノ一ト為リ維新明治初年マデ馬路ノ両姓ト進退ヲ同フセリ　馬路村誌参照ノ丁

市之允家ニ有スル物ノ中ニ感状左ノ如シ

頼朝　國貞　高氏　輝元　信長　秀吉　清正

信孝等ノモノハ馬路村両苗記事ニ出ダス看ヨ

京都府立総合資料館所蔵



千代川村

今津新田開拓始末　主張者人見久兵衛

馬路小川千原三村ノ内ニ八人講田中島ト稱スル荒廢ノ地ヲ此ノ儘ニ爲シ置クハ不得策ナリトテ志ヲ發シテ同志ヲ糾合シタルニ馬路村ノ中川太郎兵衛人見彦之丞中川加兵衛傳助ノ五名ヲ得タリ便チ六人協同シ出願ヲ試ミタルニ京都町奉行五味金右衛門ヨリ左ノ通リ命令セリ

今津新田始リ開發御免御證文

丹波桑田郡馬路村小川村千原村ヲ内八人講田中島荒廢ノ地可開發ノ由奉願ニ付御年貢ノ儀ハ後當年迄田地ニ場所ニ納ム俗ニ俗五ケ年

京都府立総合資料館所蔵

答之除年為於不成間ハ彼田地ニ仮田ヲ姓者也
仍而如件

寛永三年三月二日　　金右衛門○

下鎌村　　久兵衛
右同　　左兵衛
作助　　
孝之丞
加兵衛
伊助

新田伊右衛門

一外物者田郡馬路村小川村ヨリ来村ニ而八人係

田中高兵衛ヲ以ニ一村田ニ仮者ニ仮作ル
永ヲ取ル年貢ニ仮当年ハ五分来年ハ
ツ作ニ成ル年ハ来年ハ元ニ戻ル
作付ニ仮ル　但仮作ル年ニ五ヶ年
永代之除永ヲ取ル年ニ五ヶ年
下作ル右代年貢代銀仮以下於ハ
地ハ名ヲ自銀ニ而ハ
ル為日一札仕ル作ル
寛永三年三月　　久兵衛
下鎌村五人累

五味金右衛門様

（六人連名書判）右之ヶ条上中下ニ村ヶ別分中
ル西作郡右馬殿ニ為ニ村ニ為ニ元恵一き

京都府立総合資料館所蔵

一井沙汰議

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之条々遠説以ていろ〳〵多分うけてやすらかに仕候

寛永四年八月廿六日　　古人各判

村送り宗旨之事

一今度村久右衛門ハ神宗後ハ代々禅宗之旨
ほとけ様ハ切支丹宗ニ而たらちめ子孫ニ而中絶
ハ何方へ行方しれず家おハ屋敷中分けて出家仕候

寛文四年　　多美郡篠山町　　右文○

八月廿七日　　日ヶ谷人名氏　五郎兵衛○

千原

別當山法華寺開原檢見ノ結果農作ノ豊凶ヨリ高ヨリ引クナリ五味備前守ト書クモアリ備前トノミ書クモアリ又ハ備前トノミ書クモアリ

大字千原　丹後街道ニ沿フ　愛宕山参詣道アリテ通行人多數ナリシモ汽車通ジテヨリ寥々ヲ加リ由リテ旅宿モ閉戸シ小商店モ轉業セリ

正一位藤越大明神社　除地千四百七十五坪アリキ拜殿アリ石鳥居アリ

旭光山光福寺　一向宗西派　本尊阿彌陀如來一尺五寸開山益室上人

八王山嶺松寺　浮土宗京都黒谷光明寺末　本尊阿彌陀如來

湯井

湯井ハ讀ンデ字ノ如ク溫泉井池ノアリタル所ト云フ

氏神松尾大明神社　三十五間四面ノ除地　鳥居拜殿等アリ

國司神社ハ稲荷明神ヲ奉祀スト云フ林中ニアリテ隣邑千原ト合祭ス林中欝蒼トシテ二畝ニ餘ルノ名木アリ國司川社前ヨリ來リ小川ニシテ大字小川村ノ南ヲ過ギ大堰川ニ注グ國司ノ由緒詳ナラズ

小塚ノ雜木林アリ古傳ニ鎌鉞ヲ容ル、時ハ大ニ其ノ人ニ祟ルト云フヲ以テ往古ノマヽナリ

役行者　朝日山上ノ岩窟中ニアリ朝日山洋蓮寺ノ迹ニテ往昔七堂アリタル所トテ礎石ノ存スルモノア

千代川村

京都府立総合資料館所蔵

リ例ノ明智氏ガ焼亡ニ羅レルモノ

龍王山浮福寺　浮土宗京都妙泉寺末本尊阿彌陀如来右脇立觀音大士左ノ方ハ勢至菩薩　外ニ觀音弘法及ビ石像藥師等アリ

北庄

辨財天女祠　拜殿石鳥居　石室ノ山神アリ末社春日大明神天滿天神

藥師堂　本尊坐像三尺　地藏不動弘法等合堂

村社岩城神社　地主八王子ヲ祭リ鎮守トシテ稲荷金毘羅ヲ祭リ

觀音堂　子安觀世音ヲ祭ル立像三尺

船繋松　山中ニアリ古ノ湖邊ナルヲ證ス

拜田　灰田トモ書ク天保年間十七戸

八幡神社ハ指定社トナル幣帛料ヲ村費トス毎年八月十五日ニ式祭ス

小字勝林寺坊ノ下ニ土器石櫛アリト云フ土器ハ往々地上ニ露出シタリ此ノ所ノ住民四戸ハ正月ニ門松ヲ立テザル習慣ヲ存ス

長者垣内ハ屋敷地ニシテ四隅無シ

石室　高サ二十尺許　内ニ三疊ヲ敷クベシ

石像不動明王石室中ニ安座ス

拜田トハ田基主紀ノ田ニテ人民ガ尊崇禮拜シタル田地ナリト云フ

京都府立総合資料館所蔵

宮前村

宮前村　大字　宮川神前猪倉

東ニ千代川耕田野ノ二村アリ南ニ本梅村アリ西ニ畑野村アリ而シテ北方山谷ヲ間テ、船井郡ノ八木村ニ界ス

本梅ニ接スル所ニ差平坦ノ土地アリ之レヲ本郡ノ猿猴形(南桑田郡總ニ出ダス)ニ喩フレバ其ノ肩胛部タリ

宮川神前猪倉ハ獨立ノ三村ナリシヲ町村制施行ニ際シ三村ヲ合併シ二村ノ頭字ヲ采リ新村名トナセリ

口碑アリ曰ハク往昔豊受太神宮ノ假殿ヲ此ノ地ニ造築シテ太神宮ト呼ビタルガ之レガ氏子タルモノ三所ニ分カレ各自其ノ一字ヲ取リ一ヲ大内トシ一

京都府立総合資料館所蔵

ヲ神前トシ一ヲ宮川トナセシナリト其ノ大内ハ現今隣郡ニ編入セラレタレド境地相接ス

大字神前東神前西神前合セテ高五百六十九石餘文久度改六百七十三石八斗七升三合　亀山藩領　天保年度改民家百十戸明治初年改百二十戸

東神前本名神前新田字黒田

船井郡八木村トハ城山ヲ界トス八木ノ城山ト呼ブモ此ノ村ノ地域其ノ多分ニ居ル　両村入合ノ山林ナリシヲ維新後協議シテ界線ヲ立テ、二分セリ

俚歌ニいやな神前擂鉢ざいしょ　ひりこ團子ニのど つめる　以テ其ノ古俗ヲ知ルベシ然レドモ耕地ニ優ニ且其ノ地味ノ善キヲ以テ農利多ク糴出米二百餘

稲荷社　觀音堂

曹溪山寶林寺　禪宗京都大徳寺末　本尊聖觀世音立像　五却四恒阿彌陀如来ハ天竺渡来ノ像佛ニシテ一寸六分ノ坐體　開山ハ賜紫春嶺孤温禪師

小字北山古戰場ハ八木城主内藤備前守勢ト東軍明智勢ト劇戰セル遺迹

井内城迹ハ井上筑後守ノ居所ニシテ天正年間東軍ノ為ニ陷没セシメラレタリ

森與兵衛略傳

氏ハ東神前ノ農家ニ生マル（文政十一年）名ハ勇吉嘉永四年二月二十四歳ニシテ西神前森與兵衛（同名）ノ養子トナル家女ヲ妻トシ夫妻節儉力行能ク孝道ヲ

京都府立総合資料館所蔵

勵行シ藩主亀山侯ヨリ左ノ賞賜アリ文ニ曰ハク

西神前村　森與市

其方俄心行宜母ニ能事ヘ農業格別致出精候段
奇特之事ニ候依之為御褒美鳥目一貫五百文被
下置候彌心行怠リ申間敷候也

午二月

與市ハ當時ノ名ナリ資性温恭神佛ヲ崇敬シ謡曲挿
花茶事等ニ趣味ヲ持テ村民ノ郷導者トナレリ亀山
藩領中西加舍村ト神前村ガ經濟情態ニ於テ優越ナ
リシハ氏ガ居村ノ為ニ労瘁シタル餘澤ナリト云フ其
ノ家業ニ務ムルヤ星ヲ戴キテ出デ月ヲ荷フテ歸リ
朝夕ノ二飯ハ常ニ燈火ノ下ニテ喫シ平年五十石

猪倉

ヲ收穫ス所用ノ農具什器ノ類多クハ自作自補シ猥
ニ出費セズ其ノ養父ヲ喪フヤ專心養母ヲ孝養シ餘
力ヲ以テ實父母ニ及ボシ合ハセテ四父母ニ孝事セ
リ此希ナルコトヽ云フベシ

大字猪倉高二百八十八石　天保二百九十五石八斗三
升五合旗下士村上左門知行

笹葉大明神　例祭舊歴九月二十日　別當嶺松山神
宮寺ハ天台宗曽我部村穴太寺末維新両部神道廢止
ニ際シ此ノ神宮寺モ廢止セラレタリ

清瀧山光明院谷性寺　真言宗　本尊阿彌陀如來中興
秀尊上人

亀甲山地藏院天台宗　本尊地藏菩薩相殿庚申像

宮前村

京都府立総合資料館所蔵

少林山養玄寺禪宗京都南禪寺末　本尊十一面觀世音菩薩　開山東愚寂永和尚

安政ヨリ明治ニ至ル間ノ住職菅沼宗澤林叟一号若溪ハ文政年間豐後國速見郡日出藩下ニ生マレ幼ヨリ學ヲ好ミ画ヲ好ミ諸師ニ就キ帆足萬里ノ門ニ入リ藝術大ニ進ム一朝翻然從前ノ業ヲ棄テ肥後國宇土郡井手村ノ養雲寺ニ投シ披髮シ南禪寺ニ入リ七年間僧行ヲ修ノ安政三辰年丹波ニ入リ萬延元年四月此ノ寺ノ住職ト為リ明治二十三年遷化ス此ノ後聲價頓ニ出デ梅竹ノ画ハ人ノ尤愛珍スル所トナル

亀岡安町西光寺ノ門額安行山ハ其ノ一ナリ

岡本遷山ハ大書家ナリ明和年間此ノ地ニ居レリ

石アリ質亦佳良ニシテ市價近邑ノ米ニ比シテ一割ノ高價アリ加フルニ砥石滿俺千心丈ノ産アリテ冬期ニモ營業シ村人ニ遊手無シ舊時亀山藩領ニ於テ近邑ナル西加合ト此ノ村ヲ以テ優良村落トセシモ亦宜ナリ

佐々尾大明神社境内南北三十間東西十五間　攝社

天滿宮　末社　山王權現　牛頭天王　若宮明神

辨財天女

大悲山淨念寺　淨土宗　亀岡町專念寺末　本尊阿彌陀如来坐像一尺八寸　觀音堂本尊立像長一尺

鎮守辨財天女社

神護山慈眼寺　天台宗大内ノ樂音寺末　本尊藥師

京都府立総合資料館所蔵

如来ハ霊佛ノ稱アリ脇立阿彌陀如来釋迦如来モ名作トシハ佛毘沙門天持國天亦然リ　庭ニ九重石塔建ツ

産物砥石ハ原質粘版岩ヨリ成リテ多種ナリ其ノ中ニ本礦ノ誇リトスル内曇ハ青茅白馬茶神子天草伊豫常慶寺等ノ砥礪ヲ經ヲ及物ニ艶ト光ヲ生ゼシメ最後ニ用ル磨石ニシテ上引シテ青雲色ヲ出クス所ト上引ニハ此ノ砥ノ屑ヲ用ヒ鳴瀧ノ地艶トモ呼ブ著者ガ此ノ地ノ専門砥家ニ聞キタル談話數多キモ磨工ノ口傳ハ解シ難キヲ以テ割愛シテ復載セス

篠山街道アリ東西ニ通ズ

岩石川ハ西加合ヨリ来リ西方ニ流注ス

宮前村

寺檀訴訟始末一件

頃ハ寛文年間ノ事ニテ神前村住民中ニ奥條（櫛田野一部）瑞岩寺ノ檀那數十戸アリ兼ネテ寺ノ經濟不始末ヤヲ和尚ノ不身持ヤウヨリ問題トナリテ遂ニハ破裂シ中裁者ノ言フ所モ通ラズ神前ノ檀家ガ寺領ノ山林ヲ押收セントノ野心モアリテ瑞岩寺ヨリ幕府ノ寺社奉行ヘ訴狀ヲ差シ出セリ寺社奉行ハ江戸ニ居ルヲ以テ關東公事トハ名レリ其ノ所以ハ奥條ニ四個ノ知行主アリ（櫛田野村ノ部ニ出クス）地方役人ノ之レニ關レ得ザルヲ以テナリ（通常公事ナレバ京都町奉行所ニテ裁決スル所ナリ）寺社奉行ハ當時幕政ノ慣例トシテ和談ヲ為サシメクレドモ經マリ兼スル故ニ一方ノ領主ナル亀山藩主松

京都府立総合資料館所蔵

平伊賀守 前条下参看ノ封 平モ其ノ領主 ニ囑托シテ裁決ヲ為サシメタリ其ノ裁決狀ニ曰ハク

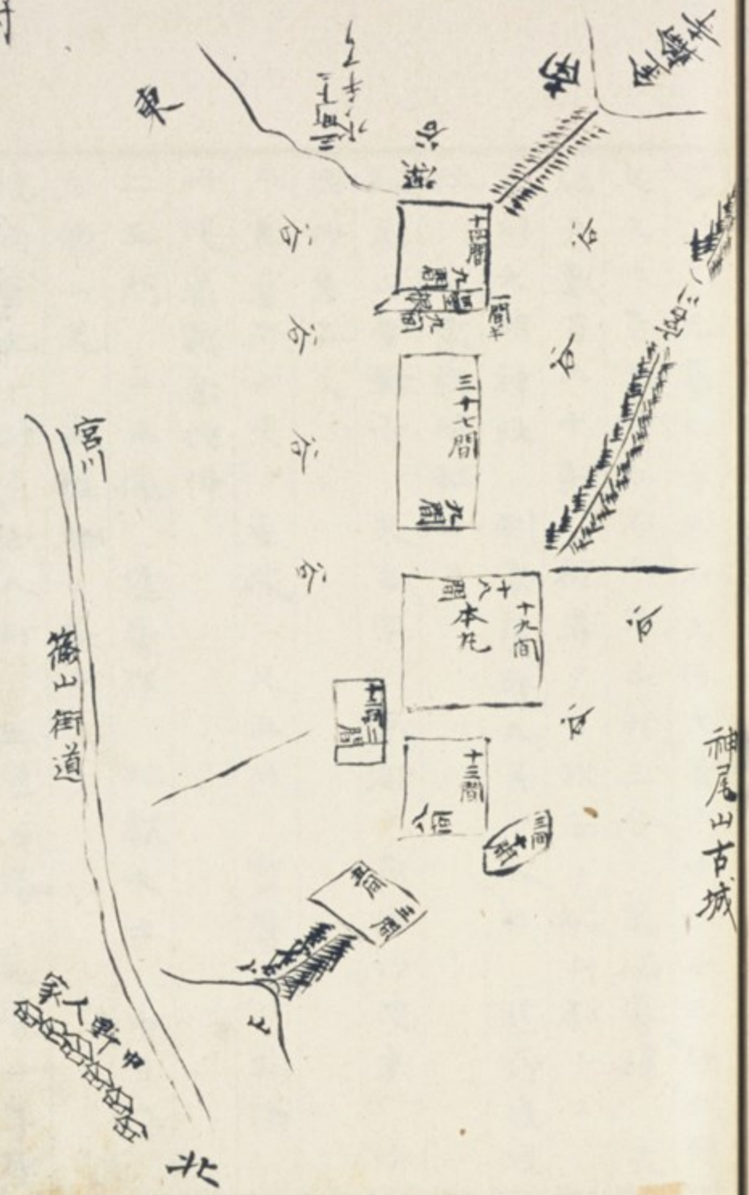
地所ハ瑞岩寺ノ所有タル事元ノ如クナル可シ

離檀ハ村民所望ノ如ク勝手タル可シ

以上

京都府立総合資料館所蔵

宮前村



京都府立総合資料館所蔵

宮川　元高六百六石天保七百六十八石三斗六升
文久七百九十五石六斗三升三合　亀岡藩領　天
保戸數百二十軒　郡界アリ以西ヲ船井郡トス
宮川大明神社　例祭舊暦九月十八日　熊野權現
社　秋葉權現社アリ
神尾山金輪寺　天台宗　京都六角住心院末　中
興妙惠上人
本尊藥師如來　座像二尺五寸　雲慶作　脇佛
毗沒康賴念持佛
二王門　二王像　堪慶作　地藏大士　春日作
立像二尺　盜難除ノ像ト云フ
境内南北十町東西八町　五重石塔　延暦二年庚

京都府立総合資料館所蔵

子ノ刻字アリ

古記ノ内ニ

神尾山金輪寺一切經藏鎰并山林田畑等之事任
近例兩谷以相談致沙汰宜奉祈　德化地久　聖
運天長者執達如此悉之以狀

文明二年　　左少辨藤平

丹波國桑田郡神尾山金輪寺　衆徒中

金尾山北谷堂塔及大破諸國十穀勸進之事被
聞召訖殊可專興隆　天氣如此悉之以狀

享祿三年二月日　　右少辨藤平

兩谷　衆徒中

神尾山金輪寺ハ天台宗ノ古刹ニシテ寺門派ト稱
ス教祖ハ智證大師ニシテ役行者ノ角五世ノ法孫
義真ノ弟西頭ヲ開基トス中興ハ明惠上人トス字
治產ノ茶銘ニ神應山アルハ上人ガ齎シ歸レル茶
實ヲ字治栂尾及ビ此ノ所ニ植ヱタルニ職由スト
云フ此ノ由緣モテ朝廷ト幕府ヘ茶獻上ノ事アリ
タリトノ傳サヘ有リ創建ノ時ニハ伽藍ノ七堂具
ハリ蘆山（佐伯ノヲ以テ表方）ハ表門トセリト以テ其ノ規
模ノ巨大ナルヲ想フベシ境内六坊今存セズ寶藏
坊極樂坊法積坊岩本坊竹中坊梅本坊ノ名アルノ
ミ現今存在スル所ハ本堂庫裏五重石塔妙見殿等
ノミ本尊藥師仁王門ノ金剛力士ハ其ノ柔和ノ相
ト獰猛ノ貌ト共ニ得難キ古像トス運慶ノ手作カ

京都府立総合資料館所蔵

非平門敗レテ後ハカ士堂中ニ收容セラレテ物淋シク對立ス本堂ニ天蓋ヲ吊ル金色燦々タリ京都ノ搢紳家錦小路ノ寄附ト云フ其ノ家祖ノ守本尊唐佛モアリ十二神ト共ニ古色掬スベシ毘沙門天長尺餘ノ像亦非凡ノ手腕ヲ示ス傳教大師ノ作ト云フ古時經藏ノ本尊ナリシ豊臣氏大政所ノ持念佛ハ加賀國主ヨリ寄附狀ト共ニ存ス米吐キ地藏ハ桃阿彌ノ作ト云フ其ノ名ヲ質セバ和尚云フ信者アレバ口ヨリ米ヲ吐キ其ノ貧ヲ救ヘリトノ古話アレド左ニアラズ參詣者ガ米ヲ以テ賽錢ニ代ヘテ供ヘ像前常ニ米アリタルヨリ名ヅケタルナリト長二尺亦住作ナリ今ヤ米ヲ供フル賽者無ク

寺亦從フテ米ニ裕ナラズ憐ム可シ敕願堅二尺許幅一尺七八寸後光嚴天皇ノ御筆ト云フ

金輪寺

後水尾天皇宸筆ハ**金輪寺**トアリテ天和元辛酉ト横書ス　堂内ノ額ハ伏見宮彌仁親王ノ御筆應永四年丁巳四月十二日トアリ鰐口永德三年壬戌十二月廿五日大願主有高沙彌圓通トアリ鐘ニハ五ヶ庄内川内村玉泉鍾也本願人池ノ坊阿闍梨元齊西光坊尊教西中坊朝海西ノ坊善敬天文三年二月六日敬白丹波國桑田郡神尾山金輪寺進鐘至之畢ノ文字アリ涅槃像大幅宋畫明惠上人ノ遺物ニシテ嵯峨ノ二尊院寄附嵯峨天皇涅槃經後分道遺教云々ノ十一行書添アリ畫工不詳落款ノ處ニ御前

應奉圖書寮○○等ノ文字僅ニ讀ミ得ベシ布袋和尚ノ圖一幅後光明天皇宸筆ト傳フ後伏見天皇御製

春釋教　霜なくの月消えぬ玉ぼこの道乃
天ぶをつゝいありとも

算博士三善爲康作續千字文奥書　弘安七年六月八日於丹州神尾山二聖院依了禪房之御詣書寫了

御覽之時念佛十返穴賢々々若不用者生涯之可爲遺恨　同八年正月廿九日　如元墨點畢　華嚴宗末學信海筆トアリ

尼善裕　父ハ波々伯部伯耆守ナリシテ細川九郎澄之ノ侍女トナリ寵セラレテ將軍府房ニアリ一女ヲ産ム永正四年八月朔日細川澄元來リ攻ム澄之敗レテ嵐山ノ游初軒ニ自殺ス伯耆守今指シ從士百七十人ト共ニ殉ス此ノ女逃レテ母ト往生院ニ匿ル丹波ハ澄之ノ分領地ナルヲ以テ其ノ土豪ニ依ラントシ潛ニ出デヽ路ヲ山中ニ取ル一壯士ノ追ヒ來ルアリ乃チ母ヲ走リ避ケシメ石上ニ立チ之ヲ待ツ近ヅキ迫マルヲ之ヲ熟視シテ叛臣三好布雲ノ家奴某ナルヲ知ル某問フ女子獨身山中ヲ行ク必故アラン落人乎女子ト答フ身ハ世ヲ避ケ憚ルモノ本道ハ兵士ニ滿タサル故ニ此ノ道ヲ辿ルナリ汝ハ布雲ノ臣ナラズヤ汝ガ主ハ天ニ悖リ人ニ逆フ風前ノ燈ニ異ナラズト言ヒツヽ路傍ノ巨

京都府立総合資料館所蔵

岩四五尺許ナルヲ谷間ニ突キ落トシ膽力ヲ示ス
其尚來リ迫ル乃チ小石ヲ以テ其ノ眉間ヲ打チ其ノ
俯伏スル所ヲ又大石モテ之ヲ壓シ追フテ毋ニ及
ビ相携ヘテ内藤備前守貞政ノ八木城ニ入リ其ノ
保護ニ頼ル後日一人ノ來リ話ルヲ聞クニ月輪ノ
坂路ニ士人無慙ノ死ヲ遂ケタルアリ其ノ屍體極
メテ異狀ナリ云々女子コレヲ聞キ已ニ手ニシタ
ル所ナレバ心中大ニ動キ急ニ因果ノ情ヲ感ジテ
城ヲ出デ神尾山ニ登リ住寺ノ僧ニ乞ヒ剃髪染衣
ノ身トナリ名ヲ善裕ト命ケ修行年月ヲ經後年行
脚ニ出デ旅次月輪ヲ經ルヤ往事ニ感ズル丁深ク
且ツ切ニシテ去ルニ忍ビス草坐スル丁久シ偶〳〵
首ヲ回ラスレバ一基ノ卒都婆ヲ着ル刻シテ過去
精靈云々ノ文字アリ月輪寺ニ入リ之ヲ問フテ前
年自分ガ壓殺シタル士人其ノ埋葬所ナルヲ知リ
其ノ所以ヲ糺セバ和尚説明スラク貧道ハ元來四
國ノ者ナルガ此ノ墓中ノ士ト共ニ三好希雲ニ隨
ヒ細川澄之ヲ攻メ殺シタルニ此ノ精靈ノ士ハ一
女子ニ戀慕シ其ノ女子ノ爲ニ命ヲ喪ヘリ貧道ハ
因果輪廻ノ怕ルベキニ感シ現世ノ味氣無キヲ厭
ヒ殺生ノ殃ヲ脱ギ淨土ノ麻衣ヲ纏ヒ諸國ヲ修行
々脚シ今ハ年モ老ヒ身モ弱ハリヌレバ若キヨリ
交ハリヲモ憶ヒテ此ノ精靈ノ爲ニ又ハ吾ガ身ノ罪
障消滅ノ爲ニ二六時中言行スルナリト物語ル二

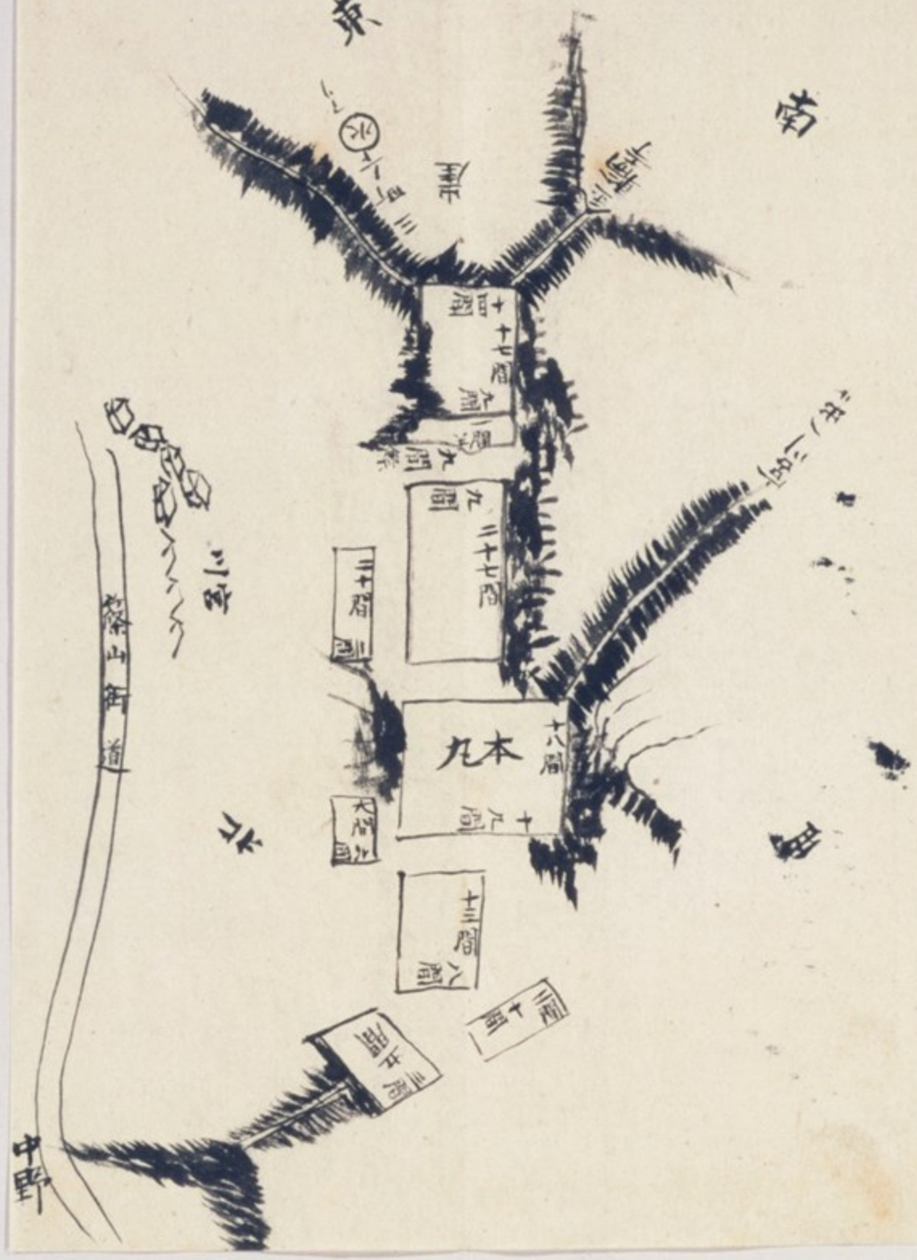
京都府立総合資料館所蔵

ヅ善裕コレヲ聞キ雙眼ヨリ落チ來ル涙拭ヒモ敢エズ慚悔ノ情ヲ顯シ我コソハ其ノ時コレヲ靡殺シタルモノナリトテ住持ニモヒ寄食スル數閱月經文ヲ寫シ墓前ニ持念スル等追福供養ヲ勤メ又辭シテ行脚ニ出デシトナン

月ノ輪ト云フ所ハ愛宕山本社ヨリ少シ計リ下リタル所ヲ左ヘ下ル路アリ其ノ邊ノ名ナリ

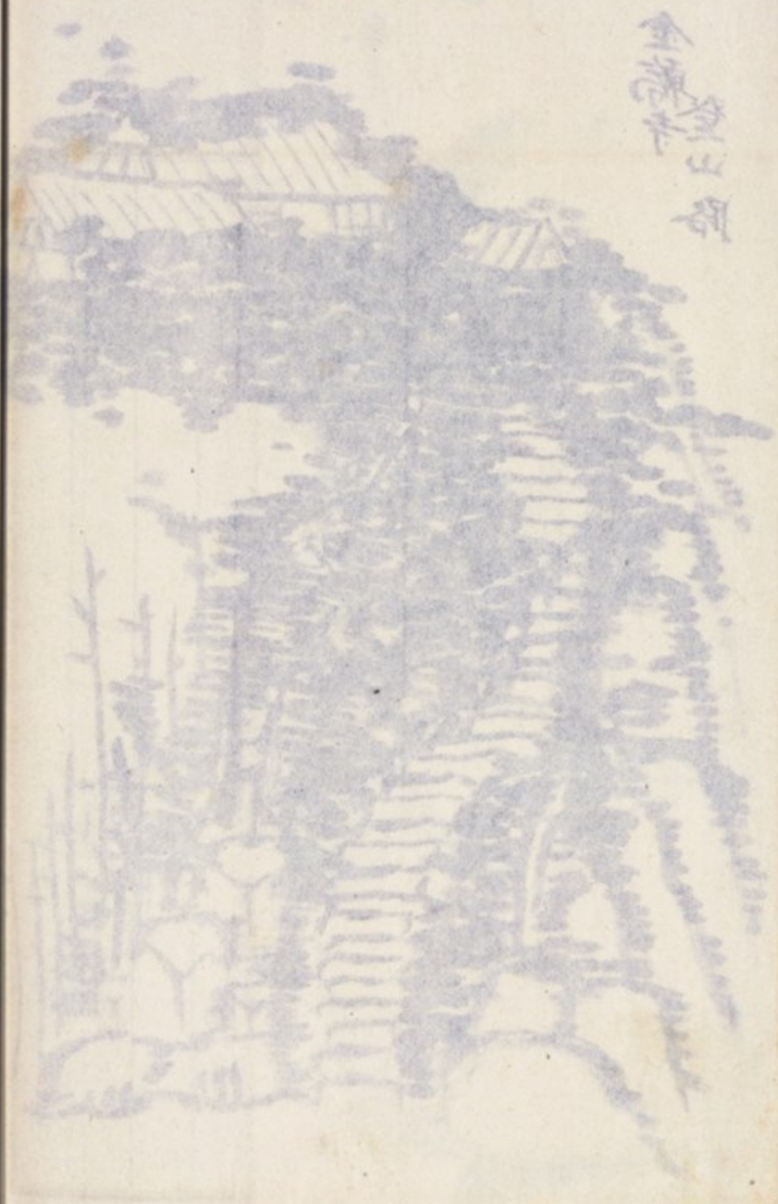
京都府立総合資料館所蔵

神尾山古城圖



金鵞寺登山路

京都府立総合資料館所蔵



城迹ハ此ノ山中ニ在リ大永六年畑野備前守屋上城ニ據ル第柳本彈正忠京都ヨリ應援トシテ來リ此ノ所ニ據守シテ大ニ築ク細川高國來リ攻ム城兵出デヽ長澤氏部少輔ノ陣ヲ襲ヒ勝ツ天正十四年内藤備前守ノ有ニ歸ス其ノ七月三好孫四郎範長（長慶ノ弟名）來リ攻ム城兵爲メニ潰ユ年ヲ經テ赤井五郎來リ柳本ノ助勢ヲ爲スヤ京軍其ノ軍ヲ分カテ來リ赤井勢ト戰フテ敗レ京ニ返ル事成ギテ野々口豪渕據リ以テ四方ヲ畧取ス

野々口豪渕ハ元亀天正ノ際コノ國ニ入リ野々垣釐ノ首魁トナル初ハ山伏ニテ其ノ先達トナリ西藏坊ト稱ス贍力黠才弁ビ具ハル發ニ京都ニ入リ

京都府立総合資料館所蔵

山伏ノ支配主ナル聖護院法親王ノ配下ニ屬シ其ノ寵遇ヲ得テ歸リ此ノ地ニ山伏ノ多數アルヲ以テ宮ノ支配權ヲ擅用シ餘威ヲ藉リ以テ兵力ヲ養ヒ威ヲ四方ニ振ヒ遂ニ三千石ノ地ヲ横領シ室町家ニ對シ其ノ武役ヲ勤ムルヲ以テ足利氏モ亦コレヲ臣籍ニ加ヘタリ豪渕ハ管領波多野秀治ノ後見人タル荒木兵部少輔及ヒ荒木山城守安口源内兵衛波々伯部治郎左衛門同右馬助高屋筑後守等ノ一類ニシテ與丹波ノ野々垣黨中ヨリ身ヲ起コシタルヲ以テ速ニ其ノ志ヲ達シタルナリ否ズンバ一修驗僧ノ身ヲ以テ焉ンゾ能ク一方ノ籓頭タルヲ得シヤ梅村ノ部明智光秀ノ丹波ニ入ルヤ地侍ノ意氣強盛ニシテ力取スベキ者ニ非ザルヲ知リ且ツ細川藤孝ガ嘗テ信君ノ内旨ヲ受ケ一攻撃ヲ試ミタルモ桑田船井二郡ノ地ヘ踏ミ入ルニ難キヲ聞キ荏苒日ヲ送ル内ニ一計ヲ案出シ地侍卽チ丹波衆ナル者ヲ招徠シ其ノ手懸カリヲ得テ西藏坊豪渕ト愛宕山ノ大善院住職長床坊ヲ介シテ和議ヲ國守家ヘ申シ送レリ波多野モ會議一決承諾ノ答アリ與丹波ノ赤井一黨ハ此ノ和議ニ魂丹アリトハ知ラデ不承引申シ立テヽ應ゼザレバ先ヅ其ノ異心モノヲ取リ除ケト與丹波征討ヲ始メケルニ一敗地ニ塗レタルモ理リ地侍ノ爲ニ要撃セラレテ退軍ノ已ム無キニ至レリ豪渕奸智佞辯

京都府立総合資料館所蔵

モテ中裁シ和議破レズシテ天正七年六月二日此所ニテ秀治秀尚ハ光秀ヲ邀ヘテ會見シ盟約ヲ定メ式獻ノ禮ヲモ擧ゲ三獻ハ老中ニモ及ビ千秋萬歳ヲ祝シ其ノ禮ヲ終ハル頃東將瀧川一益出テ來リ管領殿ノ御迎ニ參候スト披露ス光秀申スニハ將軍足利氏ヲ以テ信長ヲ斯ノ去ヘルナリ織田氏ニ在上洛中ナレバ上京シテ御對面アリ度シ暫シノ御心得ヲ以テ參候アルベシ其モ瀧川モ御供仕ラン他家ノ人々ノ降參ナラシニハ法躰黒衣ノ御姿ニテモト申ス可ケレド夫程ノ事ハ無カラメ宗徒ノ衆五七人ニテ上洛アルカ尤無クバ今日御供ノ行列ニテト云ヒケレバ管領秀治承引セズ管領カ將軍家ヘノ降參ハ別ニ作法社候ヘ各違ノ知ル所ニ非ズ作法ヲ取調ベテ社上洛モスルナレト曰ヘルヲ豪々樣々異見ヲ加ヘ上洛セシメントスレバ秀治ヲ始メ秀尚モ老中モ承知セズ既ニ退出トアレバ今ハ是レ迄ナリト光秀一益一度ニ下知スレバ並河掃部開田五郎左衛門四王天又兵衛比田玄蕃進士作左衛門齊藤新八諏訪彦右衛門等出デ來リ將軍ハ京都ニテ御待アルニ由リ平ニ御上洛アル可シト云フヤ否比田ト開田トハ早クモ秀治ノ左右ニ迴ハル秀治怒リテ汝等下人共ト叫ビアヽ一刀拔討ニ玄蕃ノ眉間ヲ割ル開田躍リ掛カリテ組ミ附カントスルヲ渡邊大學一討ニス進士四王天并ビ掛カラント

スルヲ秀治見ノ眉間ヲ打ツ斃ル敵簇ガリ出ツ秀
治モ今ハ是迄トヤ差添ヲ抜キ屠腹スル所ヲ四王
天起キ来リ右ノ肩ヲ切リ之ヲ倒ス創深シ起ツ能
ハズ秀尚ニ向ヘル溝尾勝左衛門並河掃部ハ秀尚
ノ為ニ支ヘうレタルガ掃部ハ肩胛ヲ斬うレテ斃
ル齊藤奔リ来リ秀尚ノ真向ヲ刺ス秀尚横打ニ切
リ仆ス掃部ノ伏シ乍ラ押フタル一刀切先鋭ク秀
尚ノ腰脚ニ當タリ伏ス斯カル所ヘ明智瀧川ノ勢
四百餘人闖入ス波多野ノ兵士ハ事ノ由ハ知ラザ
レドモ打チ掛カル敵勢ニ應戰シ殺傷過當ナル所ヘ
外兵應援シ鯨波ヲ揚ゲタレバ織田七兵衛信澄長
岡兵部大輔及ビ瀧川ノ本目安口福住ニ伏在セル
兵士三千来リ加ハリ雙方混戰數時ニシテ丹波勢
ノ旗頭波多野彌兵衛同秀則以下殺サルヽモノ數
十人秀治秀尚秀基彌七郎公家等管領家ノ主將以
下十三名ハ捕虜セラル伊豆守秀香ハ和議ノ不同
意者ニシテ諫言ノ用ヒうレザルヲ以テ歎々トシ
テ八上ニ留守セシガ元無シトテ本目邊マデ馬
ヲ進メ来リ途中此ノ山邊ニ接シ扨ハ斯ク無慙ナ
ル目ニ逢フカト伴ヒ來レル數十百ノ兵士ト逃
ケ來レル者共ヲ紛合シテ進軍シ無二無三ニ切リ
込ミタルガ伏兵二千道傍ニ在リテ邀ヘ鬬ヒ之ヲ
遠巻ニシ秀治等捕虜ノ遠ク行キタうンヲ計リ繰
引キニ引ク秀香之ヲ窮追ス而シテ日暮ル已ムヲ

得ズ退陣ス多紀那戦紀ヲ参看セヨ

天正七年卯六月二日京都日野殿廣橋殿ヨリ勅使ノ旨アリトテ再三被仰越候由ハ丹波國ハ主基ノ御領ニテ内裏護衛ノ士民タリ近クハ元秀輝秀等ガ王事ニ忠勤ノ功モアリ依之官位モ重ク懸ケテ候ヘハ一命ヲ宥助アリテ配流セラルベシ天機既ニ斯ノ如シトノ丁ナリ云々

秀治苦痛頻リニシテ終ニ途中ニテ卒去

ゆもりくる心乃やそ迷りねハ此てとの乃ゑ乃後のさよこそ

今載骸骨蓮　将開眼三夫　秀尚

おほくらの宮のめくみもつきしうといくそ志れん仇し人をハ

頼三樹三郎ノ碑　三樹獄中ノ作兄復次郎有志者ト謀リ維新後コレヲ建ツ遺髪ヲ埋ム

排雲手要掃妖熒失脚落來江戸城井底癡蛙過憂

廈海天大月久光明身逢湯鑊家無信夢破鯨濤劔

有聲風雨多年苔石上誰題日本古狂生

此ノ僻地ニ此ノ碑アルハ往々人ノ訝ル所ナレバ左ニ其ノ來由ヲ掲ゲシ三樹ハ頼久太郎山陽ノ第三子京都三本木山紫水明處ナル寓居ニ生マル故ニ三樹ヲ名トシ又鶴トス別ニ古狂ト稱ス少年ニシテ家學ヲ承ケ不羈ノ氣ヲ負ヒ父ノ理想ヲ早ク事實上ニ現出セシメント欲シテ幕吏ノ忌ム所トナリ其ノ毒手ニ觸レントセシカバ父ノ門下生ニ

京都府立総合資料館所蔵

シテ志ヲ同フスル當寺ノ僧喝仙ニ倚ル時ニ將軍
德川家定薨シテ子無ク繼嗣未定マラズ井伊大老
ハ紀藩ヨリ幼主ヲ迎ヘ自己ノ所懷ヲ政治上ニ專
行セントト欲スルニ反シ水戸藩ニ慶喜アレバ之ヲ
立テ其ノ父中納言ノ所懷ヲ行ハセ鎖港攘夷ノ切
ヲ揚ゲント欲スル黨派アリ幕府憲法ニ據レバ其
ノ繼嗣無キニ於テ之ヲ尾紀二藩ヨリ求メ之レ無キ
ニ於テハ田安一ツ橋清水ニ求メ水戸ハ之レガ所
決タル地位ニ置カレ相續權無キモノカラ之ヲ紀
藩ニ求ムルハ至當ナリ左レド國家多事内憂外患
ノ秋ニ當リ舊法ヲ墨守スベカラズトノ論盛ンニ
起コリ且ツ父公齊昭ノ明哲慶喜ノ年長ナル等ヲ將

軍適當ノ人ナリトノ議論世上ニ驚ク夕リ諸大名
旗下士ヨリ浪人儒者等ノ横議モ加ハリ京都ニテ
ハ儒家梁川新十郎星巖夫妻梅田源次郎雲濱清水
寺住持月照等ト竊ニ謀リ詔勅ヲ請乞シテ江戸ニ
下シ以テ其所望ヲ達セントシテ事露レ有志ノ人
士相繼ギテ投獄セラルヽヲ以テ三樹ハ夜半京都
ヲ脱シ亀山ノ有志家深海善左衛門ニ倚リ其ノ別
莊ニ隱匿シタルニ猶ホ危險ノ纏綿スルヲ察シ善左
衛門ノ保護ヲ以テ又夜半變相シテ亀山ヲ出デ此
ノ山寺ニ登ル當時丹波トシ云ヘバ京都ト聲息相
通ゼザルノ僻地況テヤ此ノ山中ハ松杉蓊鬱隈霧
闇澹全然世間ニ接セザルヲ以テ幕吏ノ探問モ及

京都府立総合資料館所蔵

バズ半歳有餘弊衣糲食光陰ヲ無聊ニ徒過スルニ
耐ヒズ喝仙三樹相對シテハ慷慨悲憤往々詩上ニ
發露スルアリ安政六年八月ニ至リ水戸藩ノ攘夷
過劇派中山備前守信篤安嶋帶刀以下數人京都ノ
山科出雲守伊丹藏人以下三十餘名或ハ斬或ハ流
夫々處刑セラレ一餘落ヲ告グルモノヽ如キヲ以
テ三樹ハ喝仙善左衛門ト相計リ深夜京ニ入リ三
本木ニ歸リ家屬園藥新奮話談シ將ニ寢ニ就カン
トスルヤ町奉行所ノ捕吏闖入シテ捕縛シ忽地後
手反縛ノ身トナリ京獄ニ投ゼラル江戸ニ送ラレ
同年十月七日刑所ニ斬ラル
土佐藩勤王家櫻井新三郎ノ墓アリ嘗テ身ヲ修驗僧
ニ扮シ東西ニ奔走シテ同志ヲ糾合スルヤ亦幕吏
ノ追隨スル所トナリテ身ヲ措クニ地無ク大橋黙
仙ノ影ニ頼ラントシテ來リ投ズ慶應四年岩倉公
ノ密旨アリ來リ招ク京ニ入リ内命ヲ受ケテ東行
シ其ノ足迹ヲ失フ想フニ幕網ニ羅レルナルベシ
黙仙感ズル所アリテ此ノ碑ヲ建ツ黙仙ハ喝仙ノ
別號ナリ
戊辰ノ役ニ官軍丹波ニ入リ亀山城主ノ嚮背ヲ問
フ（島路村記事參看ノ事）藩論佐幕ニ傾クヤ或ハ官軍ニ反抗
スルノ勢アリ此ノ寺ノ住職ハ毎年正月四日登城
シテ賀詞ヲ奉ルノ例アルヲ以テ之ヲ機トシ藩中
ノ有志者數名ト心ヲ合ハセ誠ヲ協ヘ勤王ノ正義

京都府立総合資料館所蔵

ナルヿ今ヤ德川ト本末ノ緣由ヲ以テ事ヲ共ニス
ル折ナラズ宜シク薩長ニ藩ノ議ニ參シ以テ正邪
曲直ヲ辨ジ丹波諸藩ノ模範タルベシト叙べ自身
擢ンデ進ミ官軍ノ參謀ニ事情ヲ面陳セントテ云ヒ
捨テ、長州陣營ニ入リ本藩隊參ノ豫地ヲナセリ」
鳴仙ハ桂小五郎即チ木戸孝允等ノ傑士ト舊交アリ
且勤王諸士ヲ援助シタルノ功績ヲ以テ維新早々
度會縣小參事ニ拔擢セラレタリ僧侶ニシテ此ノ
地位ヲ贏チ得タルハ前後比希ナリ幾クモ無ク伊
勢ニ歿ス此ノ寺元來山林寶物ニ富ミタルモ此ノ
快僧ノ爲ニ賣却セラレ山林ハ禿シ寺庫ハ虛シク
山中一個ノ破梵宇アルノミ

本梅村

本梅村　大字　東加舍　西加舍　中野　平松
井手
部落相擁シテ一溪區ヲ形造リ東方藉田野村ニ續
キ北方宮前村ニ交ハリ西方畑野村ニ界シ而シテ
南方攝津國豐能郡ニ連接ス村内ニ國界標アリ
道路ハ藉田野　從是北　丹波國　京都府支配所
ヨリ來ルモノ
一線東加舍ヲ　從是南　攝津國　大阪府支配所
貫穿シテ南方攝津豐能郡ニ入リ一線宮前村ヨリ
來ルモノ中野平松井手西加舍ヲ經テ同國同郡ニ
入ル　溪流三派東加舍ヨリスルモノ西加舍ヨリ
スルモノ、二源相合シ井手平松ヲ過ギ中野ノ一

京都府立総合資料館所蔵

東加舍

派ヲ容レテ宮前村ニ下リ船井郡ニ入リ園部川ト
為ル
隣郡船井ニ東本梅村アリテ其内ニ東本梅西本梅
アリ時々紛擾ス
大字　東加舍　元錄高二百八十九石　天保二百
八十石　戸數四十軒　前田半右衛門知行　往古
ハ山城國法住寺内報恩寺領月輪殿下第實ノ寄附
スル所ト云フ其ノ頃ハ柏村ナリシヲ寛文年中近
衛關白ガ敕使トシテ畑郓村ノ添常寺ヘ赴カルヽ
途中旅舍ヲ增加セタルヲ京人ガ加舍ト呼ビシヲ
紀念トシテ改名シタルナリトノ說アリ然レドモ義
經ガ一ノ谷ヘ赴ク時ニ此ノ萱ノ辻ニテ馬ニ飲ヘ
ヘリトノ古話アレバ加舍ハ萱ノ代ヘ字ナラン乎
判官暇ハ廿九郎判官義經ニ取リタル名ニテ通
行ノ遲ナリトヅ
屋麿内神社ハ指定神社ナリ
大梵天王社　舊曆九月九日祭禮
柊　播磨谷ト呼ブ所ノ路傍ニ柊アリテ國界標ト
ナル其ノ攝津ニ向フ枝ハ圓葉簇生シテ丹波ニ向
フ方ハ五叉シテ刺刺ヲ顯ハス丹波ハ酒顛童子ア
ル鬼國ナレバ節分ニ柊ヲ戶ニ挾ムガ如ク惡鬼羅
刹ヲ防グ意ヲ表スルナリト木長サ二間枝ノ東西
ニ延ビタル所凡ソ四尺モアルベシ木ハ路南ニ在リ
テ地ハ攝津ニ屬ス木壽大凡二百年ト云フ祖木ハ

京都府立総合資料館所蔵

本梅村

地方旱損地
夏畦勞瘁ノ
狀

往昔枯死シ今ノモノハ其ノ孫ナリトヅ其ノ孫亦
枯死セリト聞ク惜ム可シ

丹波ろかやと叫ふ所まて　善村

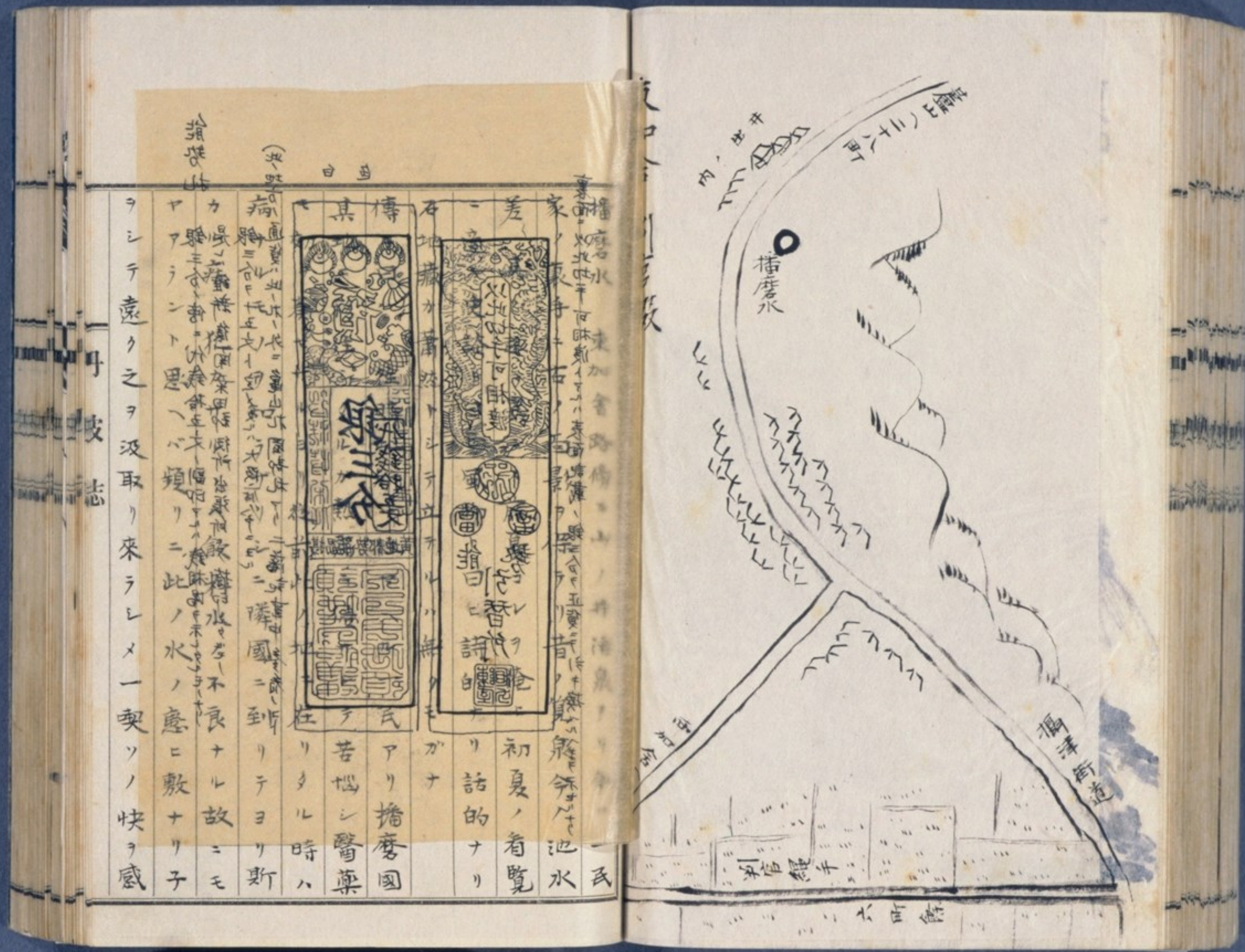
夏川を越さんとすれ　さよのまよ草履

京都府立総合資料館所蔵

本梅村

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵



播磨水　東加茂路傍ニ山ノ井清泉アリ昔ノ貴人ノ賞シ給ヒシ所ナリ今ハ荒廃シテ立チ寄ル人モナシ

家ノ東方ニ石ヲ積ミ蓄水トシテ立チ寄ル人モナシ

差し

一　民

初夏ノ看覧

話的ナリ

池水

一　民

アリ播磨國

苦悩シ醫藥

在リタル時ハ

（此時ハ）

高麗

ヤ

カ

ヤ

ヲシテ遠ク之ヲ汲取リ來ラシメ一喫ソノ快ヲ感

一　丹波志

京都府立総合資料館所蔵

播磨水　東加舍路傍ニ山ノ井活泉アリ今ハ一民家ノ裏手ニ古ノ面影ヲ保ラリ昔ノ寛泉今ノ池水差〳〵其ノ趣ヲ異ニス藤蔓コレヲ掩ヒ初夏ノ看覧ニ適ス史談ト曰ヒ風物ト曰ヒ詩的ナリ話的ナリ

石地藏ガ蕭然トシテ立テルハ無クモガナ

傳ニ曰ハク往時此所ニ住マヘル一民アリ播磨國其地ニ移住シタルガ熱病ニ侵サレテ苦悩シ醫藥モ効ヲ奏セザルヨリ從前此ノ地ニ在リタル時ハ病ナルモノヲ知ラザリシニ隣國ニ到リテヨリ斯カル疾ニ犯カサルヽハ飲料水ノ不良ナル故ニモヤアラント思ヘバ頻リニ此ノ水ノ慶ニ敷ナリ子ヲシテ遠クヲ之ヲ汲取リ來ラシメ一契ソノ快ヲ感

京都府立総合資料館所蔵

ジ日々之レヲ用ヒテ醫藥ノ及ブ所ニ非ルヲ喜ビ日々コレヲ搬運セシムルニ其子暑中日々ノ苦ニ耐エズ路上ニ疲臥シ日暮ニ及ビ忽皇他泉ヲ汲ミ桶ヲ肩ニシ歸リ薦ム父一喫シテ其ノ真ナラザルヲ知リ更ニ行キ汲マシム其子大ニ悔ヒ更ニ夜行曉歸真泉ヲ進ム父大ニ喜ビ喫ニ頻ニ快哉ヲ呼ビ疾患頓ニ去ル是ニ由リ泉譽四方ニ馳セ來リ汲ム モノ年一年ヨリ多ク孝行水ノ名人口ニ膾炙ス惜イ哉孝子ノ名ヲ逸ス

判官曖　前示判官縄手ト呼バルヽ小逕ハ西加舍ヘ通ズル所ニシテ弘化嘉永ノ頃迄ハ田ニ傍ヒ流レニ沿ヒテ一條ノ直通逕路ナリシモ維新前後ヨリ道路ノ改修數次行ハレ今ハ其ノ名ト共ニ泯滅セントシテ尋訪スルニ真據ヲ得ズナリヌ之ヲ故老ニ問フテ左ノ一話ニ遭フ曰ハク壽永ノ頃マデハ此ノ邊一帶湖沼泥澤ニシテ一ノ谷ニ赴ク源軍ハ路ヲ迂シテ陸地ヲ求メツヽ進行シ東方山脈ノ麓ヨリ漸ク此所ニテ西方ニ渡ルノ一系逕ヲ見出ダシ西南ニ向ヒタルナリト

西加舍

大字西加舍　元高四百九十八石　改天保五百十二石五斗　文久改五百十九石七斗五升二合　竈山藩領　天保戶數八十斬

加舍神社　牛頭天王　舊曆九月九日祭

辨才天社　村西池中

京都府立総合資料館所蔵

丸岡山延福寺　真言宗　高野山西南院末　本尊
藥師如來　開山文覺上人
花園天皇御祈願所　阿彌陀如來　弘法大師ヲ祭
ル堂アリ　舊時ハ大刹ナリ丸山ノ上ニアル藥師
堂ヤ坂口仁王門舊地ナドアリ
義經駒摺石　岩石峠ニアリテ畑野村往來ノ路傍
ニアリ馬蹄ヲ印ストヽ云フ
城山　秦ノ與兵衛丞ノ所居　古戰場アリ光秀ト戰
ヒ斃セス　秦ハ波多野ノ畧字ナラン
孝子岩藏ハ貧農ノ子幼ニシテ兩親ニ事フル篤ク
父母ノ病ムヤ看護ニ力ヲ竭クシ終始其ノ行ヲ換
ヘズ安政年間領主ノ聞ク所トナリ賞與ス

貞婦みよハ小玉氏病夫ニ篤ク事ヘ身ヲ農耕ニ委
シ出デヽハ九段ノ田ニ從事シテ家人ト共ニ働キ
以テ家計ヲ立テ醫藥ニ資スルヿ數年一日ノ如ク
村人ノ賞スル所トナレリ
孝子森寅藏ハ京都府ノ産兒時此ノ家ニ養ハレ養
父ノ性質懶惰ニシテ家道ノ年ト共ニ衰フヲモ意
ニ介セズ孝道以テ之ヲ養ヒ十年ノ間更ハルヿ無
ク毎夜其ノ身體ヲ按摩シ其ノ心思ヲ慰撫ス安政
五年代官巡視ノ際コレヲ見聞シ賞金ヲ與フ時ニ
齡十六父母歿後明治四十五年其ノ齡八十二歲尚
ホ能ク農シ獨能ク繩ヲ綯ヘリ
大字平松　高四百四十一石　改四百四十石三斗

京都府立総合資料館所蔵

八升　天保度農六十七戸　園部藩領

中野ノ牛頭天皇ヲ氏神トス　天滿宮アリ

城山　森美作守ノ居所　天正年中明智勢ニ攻メ落トサル

永寶山境光寺　禪宗　園部小山ノ德雲寺末

桂林菴　同宗同末

大字中野　高三百九十五石三斗五升　園部藩領

古稲中條村

牛頭天王社　氏神

大黒山永德寺　禪宗　小山德雲寺末　本尊千手觀音　開山南庭桂叔和尚

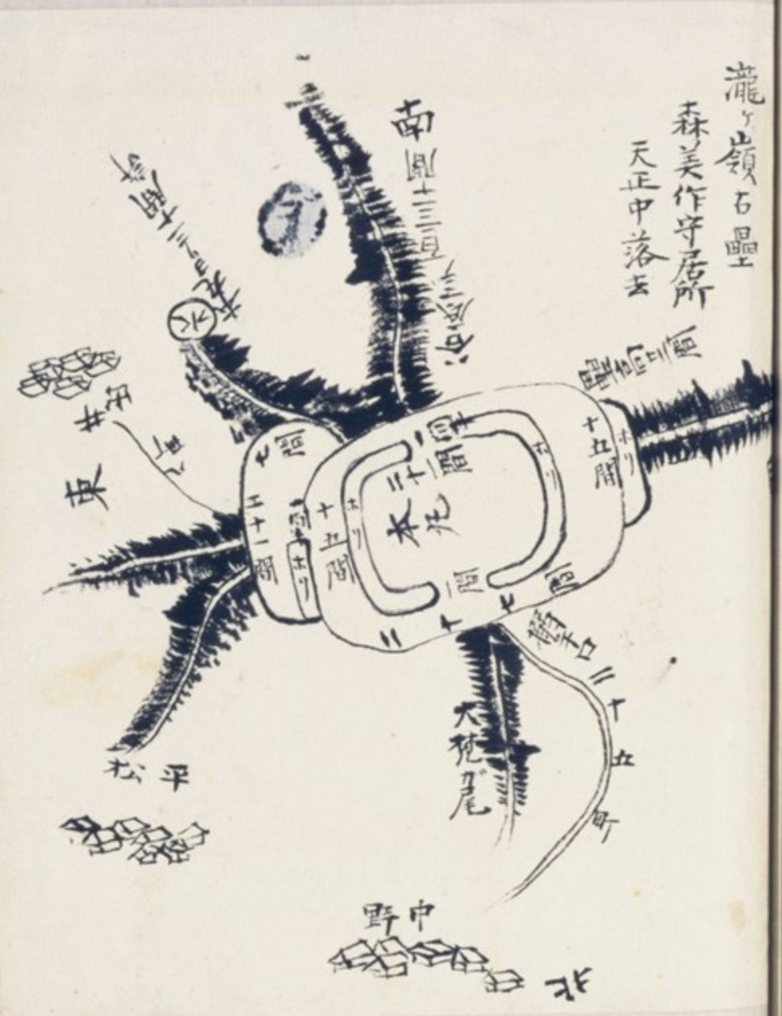
孝行者　負農助助ノ子亀之助能ク父母ヲ養ヒ孝道ニ怠ラズ年三十ニシテ老親アリ天明四年褒賞セラレタリ

平松中野ハ農利ニ裕ナリトテ領主ヨリ課稅他村ニ比スレバ頗高ク尚其ノ上ニモ增加スルヲ以テ各戸疲弊シ僅ニ炭業ニ從事シテ其ノ欠闕ヲ補ヒ來レルガ維新地租改正ノ爲ニ蕉息シ百姓野ニ布クノ結果ヲ生シ殊ニ中野ハ村資ヲ以テ池潢ヲ造リ灌漑ニ便セシカバ所得舊時ニ倍シ富途ニ就ケリ之レニ由リ從前賣人アリテ買人無キ地域ニモ價格ヲ呼ブニ至リ土卽金ナルヿヲ知了スルニ至レリ

京都府立総合資料館所蔵

中平米トハ中野平松所産ノ米ヲ呼ブ名ニシテ屈指ノ良質ヲ出ダシ他所々産ニ比スレバ常ニ高位ヲ持チ且其ノ減耗量鮮少ニシテ儲藏ニ適スルヲ以テ風味ノ濃好ナルヲ以テ色澤ノ透明ナルヲ以テ賞賛セラル

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

吉川村　大字　吉田　穴川　天田

東方ニ隣ルハ亀岡町ニシテ西方ニ接スルハ藤田野村トス亀岡篠山往来ノ士民相沿ルノ道路ナリシモ園部篠山間ノ道路改修アリテ一タビ寂レ鐵路南北ニ通シテ再ビ寂レ明治ノ末年ニ至リテハ一農村トナレリ

吉田高五十四石四斗二升改四十三石二斗一升トナリ文久ニ至リ四百十四石二斗九升七合トナル内三百五十一石一斗二升八合旗下士松田某ノ知行ニ係カリ六十三石一斗六升九合ヲ亀山藩領トス

穴川高三百九石八斗一升改三百六十三石四斗文

京都府立総合資料館所蔵

○龍岡町走田神社ナリ
道光山光泉寺本尊阿弥陀佛開基善了

久ニ至リ四百三十九石三斗一升九合トナル内三百八十三石一斗九合亀山藩領五十六石三斗旗下士前田県知行　天保度三十戸　氏神○蛭子社　十月二十日祭禮夜賑アリ

天田　無高　一村沮洳米穀ヲ産セズ然ル所以ハ佐伯ノ山谷ヨリ流レ来ルノ水ヲ受ケ湛ヘテ澤トナリ之ヲ落トスノ低地ナキニ由ル故ヲ以テ領主亀山藩ハ有名無實ノ地ヲ所有シ支配ノ勝アリテ牧入ノ益ナク代官ヲシテ嘆聲ヲ連発セシム曰ハク領主ノ高五萬石其内ニ於テ厄介ナル所ハ船井ノ青戸ト穴川トナリ一ハ旱ニ困ミ一ハ濕ニ泣ク旱ニ困ム方ハ森年ノ望ナキニ非ズ濕ニ困ム方ハ旱歳ト雖ソノ利無シ何トナレバ高無ケレバナリ

高無キハ税ナキナリ然ルニ維新ニ際シ民業勃興スルヤ有志者相謀リ汚水ヲ堤外ニ排除スルノ工夫ヲ凝ラシ潦潤ヲ千シ茲ニ美稲嘉穂ヲ見ル可ク從前熨斗ヲ附ケラモ貰フ人ナク酒樽ヲ添ヘテモ受クル人ナキ所ノ土壤ニ價格ヲ生シ一段歩ニ數百圓ヲ呼ブニ至レリ左ノ文ニ視ヨ水田一區延袤數頃トアル是レナリ當時村人ガ蓮ヲ植ヱ以テ盂蘭盆期ニ佛家需用ノ華ヲ賣リ秋季其ノ根ヲ賣リタルノミ

天田村觀蓮花記

今茲天保戊戌歳季夏念一日同三上槐園倉橋東門二子踐約天田村觀蓮花是日破卯離城西出野残蟾

京都府立総合資料館所蔵

泥山宿霧罩林露禾風草涼氣可人行里餘抵天田村則紅蝦初昇叩人家詢花所即蓮花主人也就雇家丁搬胡床石折出村後水田一區延袤數頃皆蓮花初望之蔚然如丹霞稍之紅花翠葉高低相承濃淡互發誠佳觀也但奈何四邊泥水汙漫無趾可指乃擇於畛上纔得受一床之地沓聚而坐定焉風花婀娜接面妙香都襲衣使人奔然骨換澄然神清少間忽見蒼頭隱見于花際既至則一瓶濁酒數盆雞菜村童送來也於是興趣愈加拾落瓣爲杯剪碧筩吸酒相勸酣暢詠詩弄笛洒然樂甚乃不覺畏日赫然炙背也已過已牌將回蹠猶不忍割愛乃令村僮蹈水採花深泥殆沒人僅得數莖而還謝主人因問連歲荒歉而此幾頃田廢爲

花植ノ地矣農家之不相似乎抑好事者流愛花以忘食耶主人曰不然此田從未昇澤不生穀因養荷藕以收薄利蓋爲之猶愈乎已耳遂辭去路上三人迭抱持花蔓々然捧盈如執玉惟恐顛越而壞之顧此花固不用培養不受制治天趣飄逸野性蕭散夐乎絕乎俗稚喧當與彭澤之菊孤山之梅相配恥比于揚州之艷洛陽之花矣吁世之弄花者栽接剔治其勞既多又將看護調養之不暇而其所得幾何陸務觀所謂弄花一年看花十日之語豈欺人哉因柏掌笑途次以天田蓮爲韻各賦一詩余先成豈所謂糠粃在前者歟乃取墨斗書亭午還家磁瓶插花陶然相對偶得一說曰世人愛蓮者固衆矣池澤名蓮者亦不可勝數矣而役覊花漫

京都府立総合資料館所蔵

然賞翫得其眞訣者或少矣余謂凡觀蓮花有三可有五宜何謂可與宜曰夫蓮之爲花淩乎水波擢乎游泥亭然潔然可望而不可玩焉婀娜馥郁可愛而不可狎焉紅花鼎落翠蓋鼎凋可就觀而不可剪刷焉蓮之爲賞不宜小人而宜君子焉不宜熱鬧而宜幽靜焉而其爲花平明而初發日中而稍斂夕陽而全緘焉是以宜發起而不宜晏眠焉凡此皆所以爲花之君子而非若俗艷媚而妖晴宜夕宜晨士女駢闐雜沓可褻近焉可翫弄焉鳴呼濂溪之愛宜乎寡矣花而有知其謂之何將冷笑而聞之乎抑青眼視之乎將以余爲花仙乎抑以爲花賊乎余將復携二子帶瓢酒再遊而質之花神々必啞然笑我曰花狂倘以爲記

孝女關

與平老之助源素撰

父母ニ事ヘテ心力ヲ吝マズ孝道至レリ領主ノ嘉賞スルコト二回少ナシテ夫ヲ失ヒ貧窮ニ居ル十數年耕作シテ猶備耕シカヲ惜マズ故ヲ以テ村人ノ歎雇ヲ受ク一日村人ニ遠別ノ意ヲ叙ベ而シテ其ノ往クベキ所ヲ告ゲズ人々訝リ問フモ首ヲ垂レテ答ヘズ後三日其ノ屍ヲ池水中ニ見ル村人其ノ遺物ヲ檢シテ一書ヲ架上ニ得タリ其ノ文意ニ曰ハク某家園中ノ西瓜ヲ奪ハレ罪ヲ妾ニ嫁ス是レ妾ガ貧ナルガ爲ナリ妾幼少ヨリ盜ミヲ知ラズ妾ニシテ其ノ心アラバ何ゾ今日ノ貧アラン七十ニシテ備耕ス果シテ何ノ爲ゾヤ今兵ノ貧ヲ以テ犯罪ノ原由トシ惡名ヲ負ハカル一死以テ自明スナリト近隣コレヲ悼ミ厚ク葬レリ

地獄川ノ橋石

藤田野村ノ界ニアリ石ニ鬼朕ノ形アリ

京都府立総合資料館所蔵

地所訴訟

領分違ナルヲ以テ京都町奉行ノ裁決ヲ仰ギン一例

佐伯村ニ對スル訴訟事件　享保五年裁決

佐伯ノ字後山ノ内ナル龍谷ニ古佛不動アリ石像ニシテ利益著明ナルヲ以テ願者賽者絶エザリケレバ賽錢箱常ニ潤澤ナリ吉田ハ草刈場無キヲ以テ何日ノ頃ヨリカ此ノ山ニ入リ采樵シ領分違ヒナレドモ山年貢トシテ若干ヲ亀山藩ニ提供シ知行主松笹善右衛門代官モ之ヲ管理セリ故ニ此ノ後山一帶ハ佐伯吉田両村ノ入相トナリ居レバ吉田ヨリ不動尊賽錢分配ニ與ルベシト請求セリ佐伯ノ應ゼザルヲ以テ吉田村役人訴人トナリ裁決ヲ京都町奉行所ニ乞ヒ求メタリ佐伯方ノ訟庭ニ於ケル陳述ハ地ハ佐伯ノ境内ニアリテ早損年ニハ佐伯ノ雨乞スル所ナリ之ヲ第一證トシ毎年正月ノ七五三飾モ佐伯ヨリス是レ第二證ナリ隨時ノ供物燈明燈モ佐伯ヨリス是レ第三證ナリトテ抗辯シタルヲ以テ自後吉田ヨリノ采薪伐木ヲ許サレズナリヌ

曾我部村

曾我部村　大字　川上　中　大飼　寺　春日部

法貴　穴太

戸數六百四軒　人數三千三百十一口　大正二年

重利西條牽條ヲ合稱シテ川上ト呼ブ三部落孰レモ獨立村ナリシヲ便宜上コレヲ併ハセテ一村トシタルガ更ニ又六大部落ノ獨立村ヲ合ハセテ自治制ノ一村トス村名ハ此邊一帶ノ古稱ヲ復用シタルナリ千有餘年前ノ史上ニ見ノ稱呼アリトスフ又六箇ノ名アリ穴太ヲ除キテ近村ヨリ呼ブ名ナリ

地勢東ニ亀岡町アリ北ニ吉川薙田野ノ二村アリ牽ニハ東西別院ノ二村アリ牽方僅ニ攝津國ノ山

京都府立総合資料館所蔵

谷ニ攝ス　産物米麥蔬菜菓蔬薪炭

二條ノ道路蜿蜒トシテ亀岡ヨリ東來シ南條大飼法貴ヲ貫キ幅ノ廣キハ十町ヨリ狹キハ一二町ノ長野ヲ經テ西別院村ヲ通シ摂津三嶋郡ニ入ル摂津街道コレナリ又同國池田町ニ至ルノ一線アリ池田街道コレナリ又東街道ト呼ブ摂津餘野ニ赴クモノアリ餘野一ニ野ト云ヘ三里舊道ハ嶮ニシテヨリ迂シ

大字　寺　舊稱寺村古昔ノ大刹栗田寺ヨリ采リタル名數萬顆寺ヨリカ舊高五百四十四石改五百五十五石八斗七升　高概藩領　内五石八斗五升代官所支配

與能神社　式内鄉社　正一位與能大明神ノ額アリ　主神豊受皇太神

末社　春日住吉兩明神　祇園社　見沙門堂　百太夫社　大日堂　鐘樓　拜殿

神輿堂等アリタルガ維新後佛堂佛器ハ取除カレタリ　石燈籠一基應永二十一年甲午七月廿五日ノ刻字アリ道一敬白ノ文字モ見ユ四百五十年ノ物ニ係カル　境内東西二町半南北五町　社傳ニ由レバ丹波道主命ノ創立ニテ崇神天皇御宇ノ時代ニ係カル道主命ノ丹波ニ於ケル梗槩ハ氷上郡雲部村縣守其ノ他所々ニ出ス參考セヨ一説事代主外三神ヲ齋キ祀ルト云フ社頭ノ莊嚴今猶視

京都府立総合資料館所蔵

ル可シ往昔ノ嚴狀想像スルニ難カラズ兩部ノ時
明星山三光寺コレヲ支配セリ　八ケ村ノ惣社ナ
リ
明星山三光寺　天台宗　東叡山末　開山行基菩
薩　御旅所二階堂ナ二所權現ヲ祭ル　此所ヲ距
ル里餘南方摂津ニ餘野村アリテ野トモ書ク此ノ
神社ト吟聲ヲ同フス或ル人云フ往古摂丹ノ境判
然セズ摂北一部ヲ丹波トセリト論議其他所々參
看スベシ
滿願寺　遠アリ今ハ字トナリテ存ス其ノ小字ニ堂ノ
上阪アリ岩堂，池ナドアリ古佛ノ六尺大ノモノ許
多アリ安置スル所無シトテ社傍ノ廢堂ニ收容セ
ラル之ニ由リテ是レヲ觀レバ滿願寺ナルモノハ
此所ヨリ東別院ヘカケテ大刹ヲ構ヘタルモノト
知ラル
西迎山無量寺　淨土宗京都知恩院末　本尊阿彌
陀如來　三尺ノ立像惠心僧都ノ作片袖ノ佛　藥
師堂　二尺ノ坐像開山ノ作　開山ハ願光和尚
長久山來田寺　本尊法華經八卷ヲ祭リ左右ニ多
寶塔ト釋迦如來アリ祖師像　日像上人ノ作　大
黑天　傳教大師ノ作　妙見堂アリ　郡名ヲ以テ
寺名トスルハ由緒無クンバアラズトテ之ヲ和尚
ニ糺スニ元ハ京都ノ東寺ヲ本山トシテ眞言宗ナ
リシヲ中古ノ宗旨ニ轉ジタルナリ天正ノ兵燹ニ

京都府立総合資料館所蔵

眉カリテ文獻ノ徵スベキ莫シ大黒天ノ古像背嚢
手槌而モ左手ニ壺ヲ握ル傳教大師何ンノ意ヲ以
テ型ヲ爲セシモノ乎是亦判ツニ由無シ云々又曰
ハク曆應四年勅宣ニテ鎌倉松葉谷ノ大光山本國
寺ヲ京都ニ遷サルヽヤ足利尊氏ノ兄日静上人住
職シテ徒弟ノ日傳ニ傳ノ日蓮上人ノ伊豆ニ流サ
ルヽヤ海上ニテ破船シ上原彌三郎ニ救ハル彌三
郎ノ末孫某カ日静ノ徒弟トナリテ此ノ處ニ住シ
農ヲ業トシ居タリシカ日静ノ遷化ニ逢ヒ供養ノ
爲ニ一寺ヲ創建ス栗田寺ノ僧ソノ淡敵ナルヲ以
テ之ヲ妨礙シ遂ニ兩宗ノ葛藤ヲ惹起シ村人檀家
等ノ迷惑一方ナラズ而モ之ヲ如何ントモスル能

ハザリシカ宗論シテ決ヲ采ラシニ如カジト曰フ
モノアリ衆議コレニ同ジ兩宗ノ僧ニ謀リタルニ
大ヒニ善カラントテ論戰ヲ始メタルニ法華宗ノ勝
利トナリ南後本國寺派下ニ歸シタリ星霜推移シ
テ天正五年江州安土ニテノ宗論ニ於ケル法華宗
ノ敗退ヨリ該宗ノ勢力俄然墜下シ來リ此ノ寺モ
村人ノ顧ミザル所トナリ村ノ一小隅ニ餘喘ヲ保
ツニ過ギザリシヲ山田信濃守コレヲ嘆キ自邸ヲ
割キ此所ニ一小菴ヲ構ヘ今日ノ基礎ヲ作レリ太
閤秀吉ノ時法華宗公認ノ政令行ハレシモ此ノ寺
ハ再興ノ機ニ接セズ寺名ヲ聞キ昔ヲ懲ノ風流好
事ノ客カ往々訪ヒ來リ落膽シテ去ルハ惜ムベシ

京都府立総合資料館所蔵

藥師庵　本尊坐像一丈

大字春日部　高二百二石　改文久度二百二十四石　旗下士平野勝三郎知行

一條ノ道路南方ハ東別院村大野ヘ北方ハ寺(寺村)ヘ通ズ分岐スルモノハ中(中村)ヘ行クベシ　川流アリ沿貴山中ヨリ下リテ北流ス

氏神ハ與能明神ニシテ寺(寺村)ニ在リ

春日明神社　舊暦十一月廿七日祭

養源山曹流寺　禪宗　下野國宇津宮榮林寺末

本尊藥師如來坐像

鎮守社　白山權現八幡宮天滿宮　開山護國和尚

地藏堂　六箇莊(本村ノ郡首ニ出ヅ)六地藏ノ一ナリ七月地藏盆ニ祭ル賽者夥シ

觀音堂アリ

生首谷(サヽクビ)　聞クモ恐ロシキ名ナルガ寛政頃マデハ彼處此處ニゴロ〳〵ト落チテ井タトハ故老ノ噂ナリシ著者ガ明治初年ニ通行シタルニ如何ニモト想ハレタル位陰森ナル境ニテ路カ川カ判ラズ曖閣ノ秋水ヲ便ニ獨行シ早ク村里ニ出デバヤト心ヲ急カセド行歩甚取ラズ無人ノ境ヲ辿リタリ今ハ昔追剥ノ話ノミニ三殘レルノミ

大字川上　西條高元二百七十石　文久三百六石八斗四升　童利元錄三百石　天保四百二十二石二斗二升　文久四百二十八石二斗一升五合　南

京都府立総合資料館所蔵

西條

條元錄三百七十一石　天保四百二十石八斗二升
文久四百三十石七斗八合　亀山藩領

西條　都大路ニ一條二條ヨリ九條ニ至ル阡陌ア
ル如ク村邑ニモ是レアリタル僧ナリトゾ

氏神ハ寺（寺村）ニ在ル與能大明神ナリ　高三百三
石二斗五升　亀山藩領

寶檀山真福寺　禪宗　山城宇治興正寺末　本尊
聖觀音立像一尺八寸

鎮守八幡宮　開山萬雄和尚

歸命山西福寺　淨土宗　摂東田郡大井村并河淡
然寺末　開山慈門和尚

本尊阿彌陀如來立像一尺八寸　地藏堂本尊坐像

南條

一尺八寸

南條　高四百二十石八斗二升　亀山藩領

氏神與能神社（大字寺ノ寺）八幡宮アリ　稲荷社アリ

通照山清明寺　淨土宗亀岡大圓寺末　延照山瑠
璃光寺同宗大井村法然寺末

道場　通稱南條道場　住持ハ古來有髮ノ優婆塞
ニシテ梵行ヲ修シ葬祭ニ臨ムニハ袴着用手ニ數
珠ヲ爪繰リ讀經引導僧道ヲ踏ム宗門ヲ立テズシ
テ檀越ヲ有シ宗門帳人別帳ヲ管理シ檀越ノ家人
ニ移轉アレバ送狀ヲ出ス此ノ如キモノ別ニ一所
アリ南道場ト呼ブ　道場ヲ訓讀シテ苗氏トスル
家アリ其ノ裔孫ナリ

京都府立総合資料館所蔵

真證寺ハ其ノ南道場ノ後身ニシテ京都佛光寺ヲ本山トシ一向宗ニ屬ス

正福寺ハ南條道場ノ後身ニシテ京都興正寺（一ニ粟生ノ光明寺ニ作ル）ヲ本山トス

宮成長者ノ遺迹トテ僅少ナル庭園池泉アリ夫レサヘ今ハ（大正元年）其ノ跡ノミトナレリ明治初年ニハ二間四方ノ石垣ヲ環ラセテ潴水シ中央ニ數石ヲ累疊シテ嶋嶼ノ形ヲ爲セシガ今ハ夫レサヘ崩壞ニ委セリ寺村ノ方ニ門裏ト呼ブ地アリテ長者ノ遺影僅々存在ス穴太ノ記錄ニ由レバ村上天皇御宇時代ノ人ニシテ宇治城宮成ト名乘リタリ此ノ所ハ其ノ本邸アリタル地ト云フ

重利　トハ地名ト云ハンヨリハ人名トコソ云フベケレ丹波鍛冶ニ遠壽重利アリ其ノ人ニ因メルニ非ザルヲ得ンヤ文書ノ徵スベキ無シ高四百二十二石二斗二升　亀山藩領

產土神寺ニアリ與能神社コレナリ大將軍社アリ八幡社末社天滿宮等アリ

村祭日ハ舊曆八月十五日

知雲山三惠院禪宗　亀岡町宗壓寺末　宗賢三世

雷峰田澤和尚開基　本尊如意輪觀世音菩薩

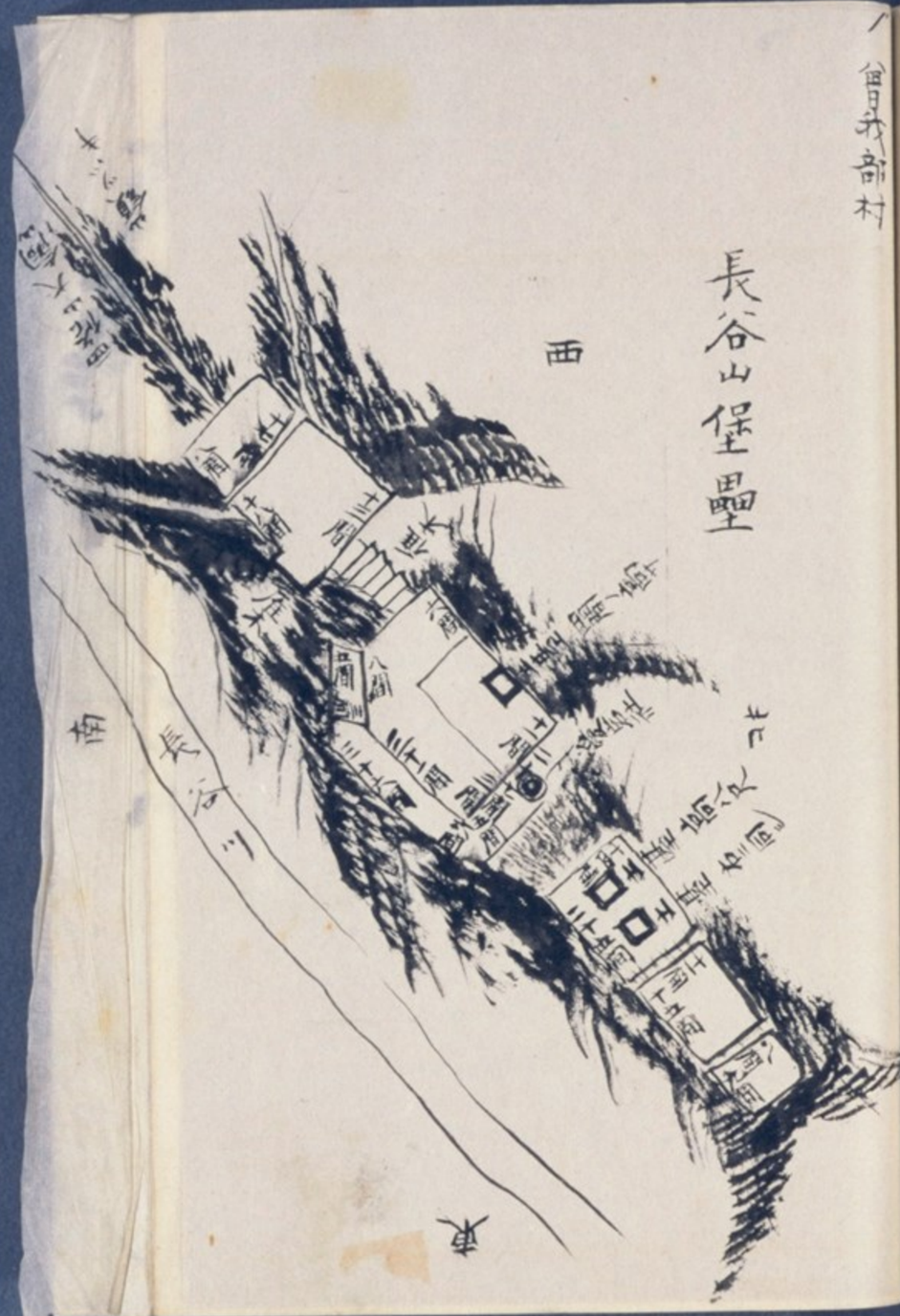
女郎三昧墓地　摂津街道ノ南ニ沿フ所　故アル墓所ナルベシ來歷詳ナラズ東都ノ俳人訪ニ來リテ

夢よ襁女郎と味ふ如らし　兒

京都府立総合資料館所蔵

大字法貴　元高五十五石　天保五百四十石　左
數五十餘
氏神寺村ノ與能大明神　八王子社　諏訪明神社
大將軍社等アリ
役行者　鬼子母神　韓戟天　等ノ小祠アリ
萬歲山天王寺　禪宗　京都妙心寺末　本尊聖觀
音三尺立像
法貴山慈雲寺　禪宗　本山右ニ同ジ　本尊準泥
觀音一尺立像
明智ノ戾リ岩　一名屏風岩ハ　池田街道ノ舊路
北手ニ直立セル巨岩ナリ法華徒アリテ之ニ題目
ヲ刻ス　傳ニ云フ明智光秀征丹ノ初度亀山城本
目城ヲ敗リテ此ノ所マデ來リ馬ヲ岩下ニ駐メテ
行候ノ報知ヲ聞キ曰ハク是レヨリ西ニハ討フベ
キ敵無シト馬首ヲ回ラセテ北行セリト
貴寶山山王寺　律宗　無檀　本尊阿彌陀如來坐
像四尺二寸　惠心ノ作ト云フ
最明寺時頼ノ寄附狀ヲ藏ス　萬治年間摂津勝尾
寺ノ僧此ノ本尊ノ奇品ナルヲ聞キ竊ニ來リテ之
ヲ看ルニ聞キシニ勝ル逸品ナレバ急ニ惡意ヲ發
シテ攜ヘ去ラントスルニ重クシテ能ハズ壯士五
人ヲ拉シ來リテ扛ゲントスルニ尚扛ガラズシテ
空シク去ル後日村民角助靈夢ニ由リ之ヲ背ニ負
フテ此ノ地ニ至ル俄然重クナリテ行ク能ハズ由

京都府立総合資料館所蔵



リテ像ヲ御シヤ堂ヲ其ノ上ニ設ケ之ヲ掩フ此ノ寺ソノ處ナリ後年村人福地吉太夫朝房像ノ欽損ヲ補ヒ堂ノ敗壞ヲ修メテ今ノ如クスト云フ

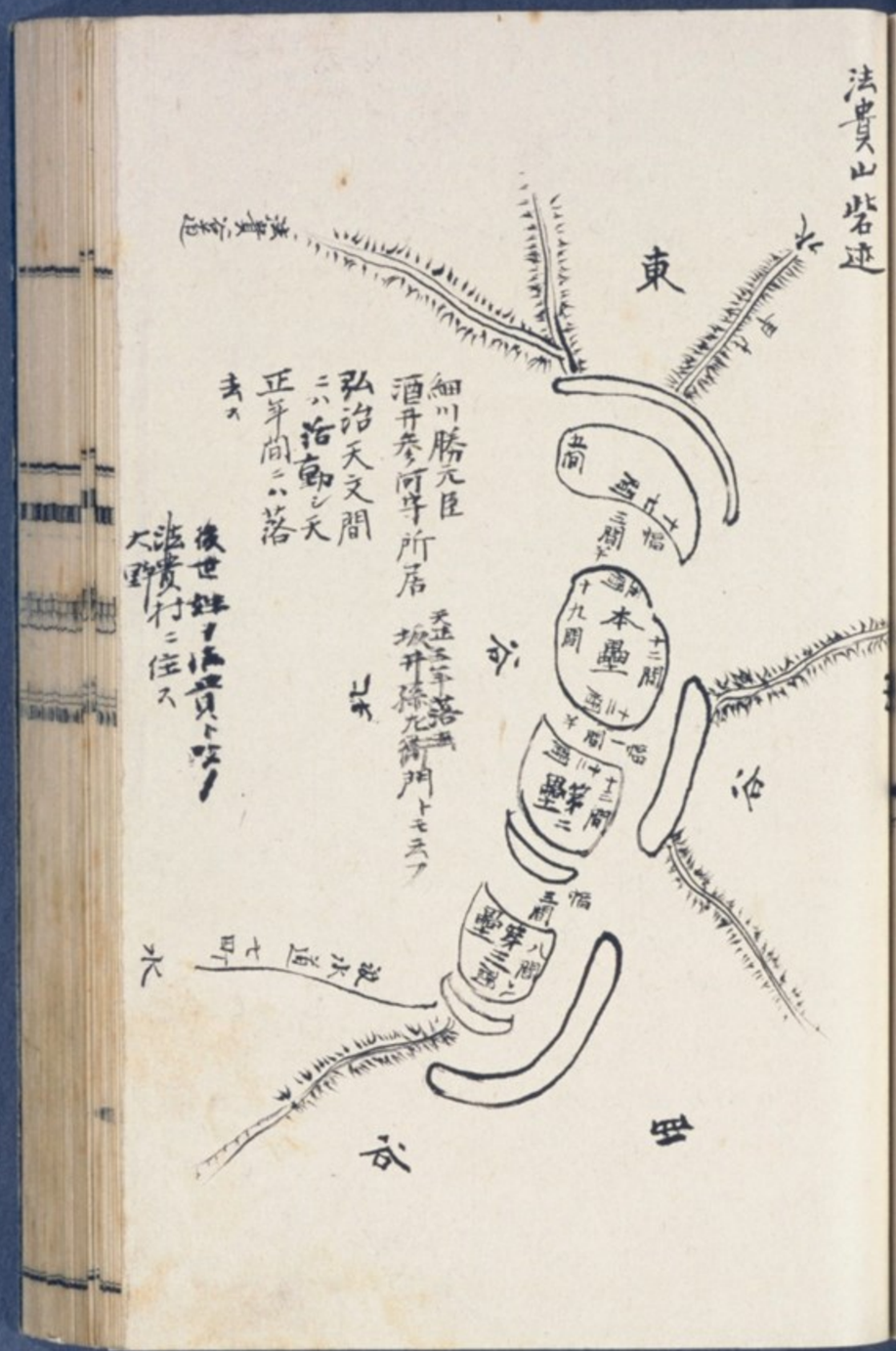
孝子六左衛門　明和元年褒賞セラル時ニ年四十四

處々ノ洞穴　往古穴居ノ遺迹ト云フ

古壘　長谷山ノ砦ト呼ブ又法貴山ノ城トモ云フ

細川右京大夫勝元ノ臣酒井参河守ノ住所ニシテ別所小三郎モ亦居住セリト傳フ小三郎長治ハ播磨ノ人ニシテ摂津三木ノ城主トナリ織田信長ニ屬シ數歳丹波ニ出入シタリ故ニ其ノ關係所々ニアリ参看セヨ

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

石凝　イコリト呼ブ讀ンデ字ノ如ク大岩巨石ノ凝集連絡セル所一溪長サ十町餘ニ亘リ其ノ上歩レテ渡ルベシ清水消々トシテ流レ其ノ底ハ渕ナラン乎遠ク流響ヲ聞ク小石ヲ罅隙ニ投下スレバ音響遥ニ徹シ左觸右觸墜下シテ反響ヲ送ル前年京人來遊シ興ニ乘シ頻ニ小石ヲ投ジテ其ノ響ヲ再ビ俯シテ幽穴ヲ覗フ懷中ノ時計跳リ出デ宛轉滑走金色日光ニ璨爛シ岩ヲ傳フテ墜下ス其ノ人茫然歸途ニ就ケリ

藤花ノ石ニ倚リ岩ヲ綴リテ延ビ到ル處ニ花ヲ着ク春末夏初遊人集覽スルモノ尠カラズ惜ム可キハ近年岩石ノ需要年一年多ク切割日一日増シ藤蔓コレト共ニ其迹無カラ

京都府立総合資料館所蔵

中

ントス石質ノ建築用トシテ適當ナルヲ以テ何方面ニモ輸出セラル積雪時外カチレ〳〵ノ音常ニ絶エズ

大字　中　舊稱中村元高二百四十石元録同　文久改二百四十六石　高槻藩領

與能大明神ヲ産土神トス社ハ寺(時村ノ)ニ在リ

八幡宮　末社　辨財天　火神　例祭舊暦八月十五日　指定神社トナル

明王院圓月房　天台宗　山城西山ノ善峰寺末

中興開山喜明上人

地藏堂　六地藏ノ一

大岩山厚元寺　禪宗　船井郡下摩氣村下新江龍

大飼

最明寺時頼行脚ノ際建立スル所

穩寺末　本尊聖觀音大士

大字　大飼　元録高六百四石天保七百十八石九斗九升文久七百二十六石六斗四升三合　亀山藩領

氏神ハ與能大明神　社ハ寺(時村ナリ)ニアリ

山王權現社　末社　走足大行事　摂社　八王子

九月廿二日祭舊暦　鐘樓アリキ

辨財天女社　天滿宮　大師堂等一境ヲ共ニス

天滿宮ハ指定神社トナル　大正

貴寶山山王寺　本尊丈六彌陀如來　開山玄門和尚　天台宗　山門安樂院末

佛日山常德寺　禪宗妙心寺末　本尊阿彌陀佛ニ

京都府立総合資料館所蔵

尺立像　開山直指和尚

正覺山善應寺　同宗　同末　本尊釋迦如來　開山當雪豚和尚

大榮山東光寺　同宗　同末　本尊藥師如來　開山明室祐和尚

地藏堂六地藏ノ一　阿彌陀堂　彌勒堂　大日堂等アリ

諏訪神社アリ

往昔此ノ地ヲ桑田村ト呼ベル頃ニ蹇蹇トナシ名乘レル者住ミタリ犬ヲ好ミ足往ト云ヘル良キ犬ヲ飼ヒタルガ或ル日足往ハ太ク逞シゲナル貉ヲ咋ヒ殺シヌ蹇蹇コレヲ断チ割ルニ腹ノ中ヨリ勾玉一ツ出デヌ奇シキヿトテ之ヲ帝ニ奉リケレバ之ヲ石上ノ宮ニ納メサセラル其ノ貉ノ住ミ居タル谷ヲ貉谷トハ名ヅケタリ其ノ時ノ人ハ貉知ラデ狸ト見タルナリ此ノ貉居ラズナリヲヨリ女小供ヲ苦シムル者モ無ク村人ノ喰モノヲ荒ラス患モ無クナリタリトテ之ヲ喜ビ犬飼蹇蹇ヲ以テ所ノ名トシタリ今ハ單犬飼トノミ曰フナリ

石櫛石棺　羊谷ノ山林ヨリ掘リ出ダセリ石棺ノ形容ハ小ニシテ角ナリ小兒ノ墓カ石櫛ハ中ニカ劍四振ト土器二個アリタリ是ハ大正三年五月六日ナリ

石窟ハ天神坦内畆隈數所ニアリ古人ハ之ニ鐲ルヽヲ怕レタルニ由リテ今日マデ存在シタルガ今

京都府立総合資料館所蔵

人ハ之ヲ顧ミズ慶物利用ノ説モテ之ヲ割裁シテ
有用ノ財トナスモノカラ其ノ數頗ニ減ス
戰時紀念林　學校基本財産トシテ日露戰役終了
スルヤ各部落協同シ一戶平均十圓ヲ標準トシテ
各部落ノ山林又ハ金負ヲ村財トスルノ決議ヲ爲
シ山林三十九町九段七畝此ノ價格金三千五百圓
ト金三千六百圓ヲ村有ニ移セリ有志者ハ之ヲ動
機トシ更ニ部落有山林全部ノ統一ヲ計畫シ比較
上多額ヲ有スル部落ニハ其ノ幾分ヲ留保セシメ
其ノ他ノ山林ハ悉皆村有トセリ其ノ段別大約四
百町歩ナリ留保ノ分ハ五十餘町ナリ

大字　穴太　穴穂トモ穴雄トモ又ハ歌文章ニ穴
憂ト書ケルモアリ
高舊六百三十石　文久改六百五十七石八斗一升
七合　松田善右衛門知行所
天保年間人戶百有餘而條ト一村ノ如ク相通ズ穴
太寺アルヲ以テ有名ナル村トス
小幡大明神　式内　例祭舊暦九月廿三日　小幡
大明神開化天皇八幡大神ヲ祭ル末社ニ水神大原
社百太夫社等アリ　細川政元改造　下文出口和
通三郎參看
神明社　兩太神宮　往古巨桑アリ樹頭洞穴ヲ作
シ毎歲稻穗ヲ出ダス是レ村名ノ起原ナリ往古大
和丹後神幸ノ衝ニ當ルヲ以テ神宿リニ止マリマ

京都府立総合資料館所蔵

セシ所ナルヲ以テ大神宮ヲ建テマ井ラセシナリ
トノ古説アリ　傳ヘ云フ太古大雨降リ來リ人民
岩石ノ間ニ匿レ大石ヲ以テ其ノ上ヲ蓋フ翌年食
物ニ乏シカラントテ愁悶セシニ幸ニ豐穰ナリシカ
バ米麥ヲ石室ニ貯藏シタリ之ニ由リ穴穂ト呼ビ
ナセリ穴トハ其ノ石室ヲ云フ之ニ由レバ穴憂ニ
ハアラデ穴喜ビナリ

名高ニ賴圓ノ咏メル歌　春に少穴憂乃里やられ
ちら〳〵人乃心の名み社あり〳〵れ

右明神社ノ事ニ付京都市麩屋町五條上ル神明町
ノ神明社ハ丹波穴太ヨリ移スト記サレタレバ此
所ノ社ハ頗古キモノト語ルヲ聞ク　外ニ稻荷社

愛宕社アリ

埋木　明治二十四年村人某舊來作レル田ヲ掘ル
ヿアリ木塊ニ掘リ當テタリ不思議ニモ縱横交錯
シ幹枝根株ノ形ヲ存ス全形五間太サ直徑七尺表
皮ハ剥蝕セルモ他ハ堅實ナリ其ノ地ヲ十一ト字
ス古ノ山林平

菩提山穴太寺　天台宗東叡山末

本尊藥師如來觀世音菩薩勅封ニヲ古來開龕シ之
ヲ見タル者無只此ノ二佛體アリトノ口碑アルノ
ミナリシガ明治ノ初政萬事一新シ天下ニ秘スベ
キモノ無シトテ神體佛軀ヲモ驗査シ此ノ寺ニモ
及ビ龕中ニ在ルモノハ觀音大士ト多寶如來ナリ

京都府立総合資料館所蔵

シトカヤ此ノ如キモノカラ長短モ知リ得ズ壇上常在ノモノハ聖観音大士立像三尺圖ノ如シ本寺草創ハ文武天皇ノ慶雲二年藥師如來ヲ安置シ古磨コレガ施主タリ今ヨリ逆數スレバ實ニ千六百年ノ古ニ在リ聖観音ノ安置ハ村上天皇御宇時代ナリ此ノ年數九百五十年ノ前ニ在リ

三尺

鎮守吉備宮　多寶塔釋迦如來多寶如來普通開帳ノ時出ダスモノ　三十三所観音堂　千體地藏堂

常余御堂　鐘樓　仁王門　中興行廣上人

仁王門下ノ土沙ハ夏土用丑ノ日ニ持チ歸リ嚴冬コレヲ手足ニ塗抹シテ戰慄ラ免ルトテ門下常ニ凹ス　巡禮街道ハ門前ヨリ通ズ山城國乙訓郡ノ善峰ト往來スベシ此ノ一路ハ華山法皇ガ三十三所御巡拜ノ際ニ跋渉アラセラレタル一系トゾ法皇ノ御詠歌

かくらをようそれあふオのあをやとはたたのめ十郎一郎
ゆるるまでに湯を為るうきしのちよう　千歳高覚忠

享保十三年本堂燒ケタレトモ佛像無難ナリ

京都府立総合資料館所蔵

寺傳ニ云フ宇治長者宮成（大字南條ハ出ダス）驕奢非道ナルニ妻ハ貞操ニシテ信佛行者ナリ佛工感世京都ニ住シ法華經讀誦ノ人ナリト聞キ呼ビ迎ヘテ聖觀音ノ彫像ヲ托ス滞留數十日ニシテ成ル果シテ巧妙ナリケレバ大ニ賂遺シテ遣リ返ヘス且一頭ノ馬ヲ與ヘ來リ歸ラシム宮成大ニ怒リ之ヲ前途ニ要シ一矢感世ヲ射殺シ其ノ馬ニ乘リ歸ル而ルニ妻ハ之ヲ知ラズ宮成偶〻觀音ヲ看ルニ一矢其ノ胸ニ在リ之ヲ驗スルニ前日放ツ所ノモノ訝リテ感世ノ消息ヲ探ルニ無事ナリ扨ハ佛か身代ハリシ玉ヒタルカト無賴ノ惡漢モ懺悔一番シ妻ニ向フテ罪ヲ謝シ遂ニ信者トナリ邸内ニ一寺ヲ設ケテ其ノ佛ヲ安キ勤行懈怠ノ安樂ノ臨終ヲ得タリトゾ

一說ニハ佛師眼清ガ宮成ノ爲ニ作佛シ謝物ヲ得テ歸京スルヤ宮成ノ家奴コレヲ途ニ要シテ斬殺シ貨物ヲ盜ミ逐電ス宮成之ヲ聞キ眼清ノ家ヲ訪ハシムルニ恙無ク却テ像胸ニ刀痕アリ以テ身代ハリシ給ヒシモノト其ノ信仰ノ度ヲ高メタリ云々

三十三番觀世音ノ事略　靈龜年中大和ノ長谷寺ニ有德ノ高僧アリ閻魔王ニ見ユ日本國中ニ三十三佛アリテ靈顯イト新ナリト敎ユラレ之ヲ國中ニ求メ遂ニ之ヲ得タルガ現今ノモノ是レナリ此ノ時花山天皇寶算御十九トゾ天皇ハ竈妃ノ早世

京都府立総合資料館所蔵

ニ由リ現世厭離ノ御心ヲ起コサセ玉ヒ永寶二年
庚申三月十五日内裏ヲ潛出シ玉ヒ僧籍ニ入ラセ
ラレ終ニハ三十三所御巡拜ヲモシ給ヒ御詠歌ア
リテ之ヲ各寺ニ留メサセラレタリ其ノ御筋道ガ
今ノ巡禮街道ナリト云フ
西國三十三所ノ巡禮一人トカ西國三十三度順禮
トカ書キタル札ヲ出シ示セハ堂守カ之ニ印ヲ押
ス之ヲ札ヲ打ツト云フ
福壽山金剛寺　禪宗　天龍寺末　本尊坐像釋迦
如來　運慶ノ作ト云フ
開山佛國々師正應二年ノ開基
名畫工圓山應擧ノ家コノ寺ニ近ク且ソノ壇家ニ
シテ其ノ遺筆ノ多ク在ルヲ以テ人呼ビテ應擧寺
ト云フ著者カ明治初年兩度訪問シタル時ニハ波
浪ノ堂画モ其ノ儘ニテ外ノ繪画モ頗多カリシガ
今ハ大ニ其ノ數ヲ減ズ其ノ内狗兒群遊ノ圖ハ衝
立ニ墨竹其ノ裏面ニアリタルヲ問ヘバ今ハ三十年
無シト云フ達磨ノ圖ヤ其ノ手腕ヲ示セリ
小傳　源姓初ハ藤原ト記セシガ其ノ謬リナルヲ
以テ中年之ヲ源姓ニ復ス父ハ藤左衛門母某氏享
保十八年癸丑五月朔日誕生貧農ノ事ナレバ文學
ノ素養アル筈無シ況ヤ繪畫ニ於テオヤ家業ノ障
アレバ土ニ描キ泥ニ畫シテ樂トシ偶〻紙片ヲ得レ
バ珍重シテ實物模寫ヲ爲シ無上ノ樂トス父母之

京都府立総合資料館所蔵

ヲ田間ニ携行スレバ其ノ作業ヲ忘レテ風景禽獸ヲ賞覽シテ茫然タル丁年ト共ニ長ズルヲ以テ父母モ遂ニ京都ノ畫師石田幽汀ニ托スルニ至ル時ニ年十二應舉ハ素志ノ如クナルヲ以テ且喜ビ且勵ミ刻苦シテ運筆ノ法ヲ自得ス偶〻鄉ニ歸リ近隣ノ脂粉商ノ家ニ遊ビ白粉袋ニ稚松ヲ畫ク商人コレヲ亀山ノ一士人ニ示ス士人コレヲ侯ニ獻ズ侯褒詞ヲ與フ之ニ由リ少年ノ畫名俄ニ顯ハル中年錢舜舉ノ画ヲ見テ心醉シ師法ヲ去テ、惠心其ノ筆意ヲ寫ス舜舉ハ宋末ノ大家ニシテ古今獨歩ノ稱アルヨリ其ノ名ノ一字ヲ采リテ名トシ通稱ハ選ナルヲ以テ亦之レヲモ采リ字ヲ仲選トセリ領主ニ召サレ京ヨリ歸ルニ三晝夜ヲ經タリ訝リ問ヘバ老ノ坂溪間ノ風景ニ心醉シタルナリトテ其ノ風景ヲ屏風ニ寫シ之ヲ奉リ感賞セラレタリ

曾我部村

画ヲ看テ心醉シ其ノ描ケル蘭ニ於テ運筆ノ法ヲ自得シ鉄舟擧ハ宋末ノ大家ニシテ古今獨歩ノ稱アルヨリ擧ノ字ヲ取リ以テ名トシ其ノ名ノ選ナルヲ取リ以テ字ヲ仲選トセルナリ領主ノ召ニ由リ京ヨリ歸ル途ニ於テ溪澗泉石ノ妙ヲ描シ改寫再三遂ニ夜ノ坂ニ止マル三晝夜大ニ會心スル所アリ候ノ爲ニ之ヲ屏風ニ寫シ其ノ感賞ヲ博ス當時朝廷ニ繪所アリ狩野土佐コレヲ管掌シタルガ新面目ヲ開キタルハ實ニ圓山派トス弱冠ノ頃清人ノ爲ニ其ノ落款ノ拙ナルヲ嗤ハレ大ニ羞ヂ面後書スル所極メテ丁寧ナリ偶〻臥猫ノ圖ヲ

京都府立総合資料館所蔵

隨ヒ其郊八瀬ニ至リ寫ス鷹ヲ得テ歸リ他日
コレヲ樵夫ニ示シ評論ヲ求ム樵夫曰ハク死猪ナ
リ生猪ハ臥スト雖モ其ノ毛聳ツト再行キ臥猪ヲ
山中ニ索メ之ヲ認メ又寫シテ歸リ前ノ賣薪婦ニ
問ヘバ曰ハク前日ノ猪ハ眠リツヽ死セリト後寫
ノモノヲ以テ樵夫ニ示シ又其ノ教ヲ請フニ曰ハ
ク真猪ナリ生氣アリト鷹ヲ寫サント欲ス大坂某
侯ノ藏庫吏ニ之ヲ飼養スルモノアリト聞キ往キ
請フテ寫シ歸リコレヲ飼鷹師某ニ示ス某笑フテ
曰ハク餓鷹ヲ寫セル乎ト之ヲ問ハシムルニ吏ノ
答書アリ曰ハク前日ノ鷹ハ新ニ得タル所ニシテ
餌飼ニ慣レザルモノナリト又鷄ノ雌雄ヲ寫シテ

祇園祠ニ奉納シ往來ノ人ノ公評ヲ聞カント欲シ
數日ソノ傍ヲ離レズ偶〳〵一老人ノ評ヲ聞クニ曰
ハク運筆ハ可ナリ而モ時季ヲ知ラザル者ノ畫ナ
リト乃チ老人ニ隨ヒ其ノ家ニ詣リ禮シテ教ヲ乞
フ老人曰ハク鳥類ハ春秋ニ變色スト懇ニ其ノ事
ヲ語ル應舉大ニ得ル所アリ改メ描キテ又之ヲ寄
附シ前ノモノニ換フト云フ安永ノ初年櫻町天皇
ノ詔ヲ奉シ描ケル所大作數品アリ皆逸品ナリ七
五相ノ紋章ヲ用ルヿヲ許サレ又奉ル所ノ繪畫ニ
落款スルヿヲモ許サル蓋特典ナリ近江國圓滿院
宮ノ近習畫客ニ聘用セラレ士分ノ待遇ヲ受ケ通
稱主水ト改メラル爲セ福七雛ノ圖ヲ製シ大ニ其

京都府立総合資料館所蔵

曾我部村

應舉寫
仲選
應舉
應舉
仲選
應舉
應舉
仲選
應舉
仲選
國氏之印
字仲選
號僧齋

ノ砂去ヲ揮フ天明ノ大火ニ家燼シ藏セザリシモ以テ憂トセズ一毫ヲ携ヘ飄然歸鄉シ金剛寺ニ客居シ寺ノ爲ニ大小作品ヲ製ス（前示ノ如シ）之ヲ暫時シテ又京ニ入リ孔雀牡丹ノ畫ヲ宮中ニ奏覽シ叡感ヲ博ス次ニ出ダセル詩中ニテ知ルベシ

寛政七年乙卯七月十七日沒ス齡六十四　著ス所青山紅葉後素餘言アリ圓嶽無三一妙居士ト謚ス

二子應瑞受々ハ早世シ瑞ノ子應祥々ノ子應震各〳〵家系ヲ續ク弟子ノ數巨多擧ゲルニ遑アラズ駒井源綺吉村孝敬長澤蘆雪（多紀郡大山村ノ産ニ出ダス）森徹山奥文鳴山口素絢福知白瑛山崎鶴齡亀田規禮木下應受其他渡邊南嶽西村椿亭松村月溪

等名アリ此ノ村ニ今猶同姓アリ部前ニ碑ヲ建テ
記シテ曰ハク應擧誕生ノ地
金剛寺藏スル畫五十九幀内五十七幀ハ國寶ニシテ海波圖ト落合
直文ノ歌ニ
そゝ音ゆすけぬるこゝハ傷ケれども動きてくゆる沖津白波

京都府立総合資料館所蔵

贈源仲選　　皆川淇園

前代妙畫顧陸倫吾視君筆豈啻疎少時卓然已創意
成家恥作傍古人誰倣俗畫事傳摹看物唯寫造化真
天資筆態清且麗創意經營動經旬凡有形象寫皆妙
得意往々泣鬼神嘗召内廷描孔雀牡丹花映御屏春
令人坐覺烟光煖一時衆工盡返巡自来聲價更騰起
門来車馬無虛辰天宮政朝權與貴輕紈細綺求相因
盤礴不知老將至與余相識久相親時々敬待杯酌頻
心愛君筆高品格清泉白石無片塵興来曳杖尚相顧
無厭我爲觀畫賓

大本教主補治口主仁我部和連三郎事上田喜三郎ハ此ノ地
ノ人ナリ父ハ農上田吉松明治四年七月十二日ヲ

京都府立総合資料館所蔵

以テ生マル長男ナルモ家ノ貧キヲ以テ出デハ産
下トナリ以テ口ヲ糊スニ十三歳ニシテ園部町ノ
獸醫井上某ノ書生トナリ同二十八年歸村シテ牛
乳搾取ヲ業トシ父母ヲ養フ同三十年父死ス又園
部ノ岡田氏ニ從ヒ神學ヲ習得シ年ヲ越エテ東行
シ海軍武官トナリ三浦半嶋ニ假寓シ又歸村ス自
後産土神小幡社ヘ日詣シ天狗ニ邂逅シテ神法ヲ
傳受シ村民ノ爲ニ祈禱シ治療シ豫言ナドヲモ爲
シ又高熊山ニ參籠ス綾部大本教祖出口直女ヲ訪
ヒ遂ニ其ノ教主補トナル以下何鹿郡綾部町大本教
ノ部ニ出ダス

篠村　大字　篠　山本　王子　馬堀　柏原　森
廣田　淨法寺

此ノ村ノ地位ヲ視ルニ西ハ亀岡ニ東南ハ大枝山
系ヲ以テ山城國乙訓郡ヲ界限シテ本郡本國ノ最
東トナリ本道ノ最東トナル村名ハ古書ニ散見シ
テ古驛ナルコト又都府ヨリ山陰道ニ出ヅル第一
驛路トシテ有名ナリ往昔ハ大枝坂東ニ大江驛ア
リテ馬次ヲ爲シ旅宿巨多アリタルガ何時ト無ク
其ノ形勢西來シテ篠村宿コレニ代ハリ進新後マ
デ旅宿商店馬廐荷丁輿夫等具備シタル一驛舍ナ
リキ

現今ノ字篠ハ即チ古時ノ篠村ニシテ明治年間自治

御ノ布カレシヨリ篠村山本村王子村馬堀村柏原村森村廣田村淨法寺村野條村及ヒ新田ナル篠村ノ一部ヲ合併シ十庄屋ヲ廢シ一村長トナセシナリ

戸數八百　人戸三千七百四十二　明治七八年

上宿中宿下宿ノ名アリテ商農相雜ハリ二百戸相連ナリ町形ヲ爲ス園部銀行支店三萬圓ノ資金ヲ以テ明治三十七年開業ス

篠柏原馬堀王子ハ山陰道ニ沿ヒ山本ハ篠ノ北端ニ在リ其ノ餘ハ皆牽位ニアリ淨法寺ハ亀岡ヲ距ル十町ニシテ近ク柏原ハ亀岡ニ密接シ王子ハ山陰道東方ノ起點トシ峠アリ

平衍ノ地長サ一里ニ彌リ横殆ト半里田穀能ク實ノル旱損ノ患アルノミ烟草日蕗松茸ノ産出アリ烟草ノ利ハ減シ松茸ノ産ハ年ヲ逐フテ利アリ

大字篠　元高九百八十石　天保七百三十一石七斗一升　文久千百十一石六斗七升二合　天保人家二百野條九十戸寒谷四戸新田八戸　小字寒谷ハ一里ヲ隔テヽ山間ニアリ下寒谷ハ亀岡町ニ屬ス

氏神ハ山本請田神社ナリ

八幡宮　新八幡宮ト呼ブ男山八幡宮ニ對シテノ名稱ナリ後三條天皇ノ延久三年勅宣ニ由リ山城男山ヨリ移ス吉田家ノ祖ナルト部兼延コレガ奉行タリ

京都府立総合資料館所蔵

主神應仁天皇　攝社　右ニ　尼神社　末社高良神社
鳥居　松平伊賀守寄附　鳥居額　昆沙門堂御門
主親王御筆　境内一町四面　馬場三十三間幅五
間余　城主松平伊賀守忠晴寄附鳥居アリ石柱ニ
銘文ヲ刻ス

丹波國桑田郡篠村　新八幡宮華表銘并序

竊以八幡大菩薩者譽田天皇霊也凡日域大小神社
三千有餘座就中伊勢八幡二所爲之宗廟聳哉可貴
也或時宣神託於欽明朝或時告瑞夢於源頼義甫後
足利禮部侍郎源尊氏欲伐平氏之時光拠北國臨陣
日道由廟下上願書直赴洛陽率師一征殲平氏之兵
而清京塵斯蓋薩陛加被之所致也其餘霊驗不可勝
記也誰不欽敬乎哉方今忠晴爲此州亀山城主篠村
市屬采地故鐫堅石鼎建華表所年穀疊登生靈懷寛
仁之惠武林繁茂子孫添嘉運之長俯垂霊鑑

銘曰

丹丘霊境　皆山聳巓　州郡惟六　其一桑田
八幡薩陛　垂跡茲焉　本朝宗廟　伊勢立騈
善巧方便　光塵現前　神廟功大　威德昭然
祭神如在　度生有縁　耿々燈火　穆々香煙
鷹隼所化　鳩鴿市肩　創建華表　維石稱堅

丹波國亀山城主　源姓　松平伊賀守忠晴

承應元年十二月十五日

元弘三年四月廿七日一説ニハ五月七日寅ノ刻ニ

京都府立総合資料館所蔵

暁前足利治部大輔高氏（前名貞氏）ノ二萬五千餘騎ヲ引
率シテ此所ニ在リ所ハ北條高時ノ命ヲ奉シテ京
ニ入リ官軍追討ノ爲ニ來リ宿陣セルナリ今ヤ西
行セントテ起キ出デタルニ夜ハマダ深シ靜ニ馬
ヲ進メツヽ東西ヲ眺メ驛南林中ノ社壇ヲ見ル
ニ燎キ荒ラシタル松明ノ影ニ稲荷か神見ユ振鈴
ノ音聞コユ如何ナル社カハ知ラネドモ戰場ニ赴
ク首途（かどいで）ナレバトテ下馬シテ拜跪シ如何ナル神ニ
ヤト問ヘバ稲荷ニハ八幡ヲ遷シマイラセタル篠
村神社ナリト答ヘタレバ扨ハ當家尊崇ノ神ニテ
御坐シケル機感相應ス一紙ノ願書ヲ奉ラバヤト
思田妙源云（引田妙源トモ書ク）ニ令ズ妙玄頓テ鎧ノ引合ハセ
ヨリ矢立ノ硯ヲ取出ダシ筆操リ之ヲ書ク其ノ文
ニ云フ

夫以八幡大菩薩者聖代前烈之宗廟源家中興之靈
神也本地内證之月高懸千萬億土之天垂迹外融
之光冠於七千餘座之上觸緣雖分化事未享非禮之
典垂慈雖利生偏斯正直之願偉哉爲具德矣譽世所
以盡誠也爰承久以來當麻累世之家臣平氏末雲惡
逆之甚前代未聞也是爲朝敵之最爲臣之道不致命
乎又爲神敵之先爲天之理不可誅乎高氏苟視彼之
積惡未遑顧匪躬將以奥肉菲偏當刀俎之利義卒戮
力張旅西南之日上將軍鳩嶺下臣軍篠村共在于瑞
籬之影同出擁護之懷函蓋相應誅戮何疑所仰百王

京都府立総合資料館所蔵

鎮護之神約也懸勇於石馬之汗所憑累代歸依之家運也寄奇於金鼠之咀神將興義戰糧靈威德風加草而靡敵於千里之外神光代劍而得勝於一戰之中冊誠有誠玄鑑莫誤敬白

元弘三年五月七日　源朝臣高氏敬白

右ノ文ハ社中ニアリタリトスルモノ而シテ又一文アリ諸書ニ出ツルモノ

敬白立願之事

右八幡大菩薩者王城之鎮護我家之廟神也而高氏爲神之苗裔爲氏之家督弓矢之道誰人不優異哉依之代々滅朝敵世々誅元徒于時元弘之明君爲崇神興法爲利民爲救世被爲綸旨之間隨勅命所擧義兵也然間占冊州之篠村宿立白旗於楊木本爰於彼木之本有一之社尋之村民所謂大菩薩之社壇也義兵成就之先兆武將願速之靈瑞也感涙暗催仰信在憑此願忽成我家再榮者令莊嚴社壇可寄進田地也仍立願如件

元弘三年三月廿九日　前治部大輔源高氏敬白

願書ヲ社内ニ籠メテ靜々ト立チ西向スベキ馬首ヲ東ニ向ケ内旨ヲ將士ニ傳ヘ大江山ヲ越エテ昨日越エタル峠ヲ又モヤ越エントスルニ中リ空中ニ片々タルハ何物ゾ是レナン一番ノ白鳩ニゾアル鳴雄相和シテ鳴キツヽ白旗ノ上ニ翩翩シ遂ニ東方ニ飛翔スルモノカラ其ノ方ニ向フテ進軍セ

京都府立総合資料館所蔵

ヨト歸令ス坂ヲ過ギテ東進シ京都ニ入レバ鳩ハ
飛ンデ悠々ト大内ノ舊址神祇官前ノ樗木ノ上枝
ニゾ留マリタル
是ノ時ニ當タリ氷上郡勤王ノ人士ニハ足立萩野
小鳩和田位田本莊平左ナド高山寺ニ立テ籠モノ
勢ヲ合ハセ都ヲ差シテ歩登ラシト企テシガ足利
氏篠村ヨリ京ニ入ルト聞キ今更其ノ下風ニ立ツ
可キニ非ズトテ途ヲ枉ゲテ北行シ若狭ニ出デ北
陸道ヨリ攻メ寄セバヤト久下長澤志宇山田葦田
餘田酒井波賀野小山波多伯都等追ヒ馳セ來レル
人々トハ二手トナリ京都六波羅府目差シテ進ミ
ケル高氏其ノ志ヲ成シ往事ヲ追懷シテ朱印狀ヲ

以テ左ノ寄附ヲ爲シ願書ノ通リ履行ス

丹波國篠村莊新八幡宮別當職并紀田三町畠
三町事所補任也可被致祈禱精誠之狀如件

建武二年三月廿二日　高氏　判

後醍醐天皇隱岐國ヲ遁レ出デ玉フヤ伯耆國船上
ニ於テ京都ノ官軍思ハシカラズ天下ノ安危如何
ニト宸襟ヲ惱マセ玉ヒ假皇居ノ山中ニ壇ヲ建テ
金輪法ヲ修セラルト其ノ七日ニ當タル後三光天
子赫然壇上ニ顯ハル御願ノ吉兆ナリトテ六條少
將忠顯ヲ頭中將ニ進メ山陰山陽ノ大將トシ京都
ニ向カハシメラル其勢伯耆出發ノ際千餘人ト聞
ユ上シガ因幡ヨリ伯雲義但若五國ノ勢馳セ加ハ

京都府立総合資料館所蔵

り丹後ヨリ丹波ニ及ブ項ニハ二十萬七千餘騎ト
ヅ注シケル第六ノ宮ハ元弘ノ初メ武家ニ囚ハレ
但馬國ニ在リタルガ真宮護太田三郎左衛門ダ抱
シ奉リ近國ノ勢ヲ催シ傳キテ丹波路ヘ出テ篠村
ニ參會ス頭ノ中將大ニ欣ビ迎ヘ錦旗ヲ建テ此ノ宮
ヲ上將軍ト仰ギ愈官軍ヲ幕リ篠村ヨリ峰堂ヲ御
陣ト爲シテ移シ奉リ葉室衣笠萬石大路松尾桂ノ
里マデ軍勢居アマリ過半露宿ヲヅ爲シタリケル
忠顕ノ功與カリテ力アリ惜イ哉奸雄尊氏ノカニ
歸スル

八幡社上棟式　元祿十五年八月十五日松平大和
守正岑之ヲ行ハシメ神職隅田左京皇房奉行ス境
内一町馬場三十三間神領五石一斗八合ヲ永制ト
セリ

厄神祭一名疫神祭　舊暦正月十日是レハ京都十
所ノ疫神トテ稱德天皇神護景雲四年六月甲寅ニ
始マル山城近江ノ界　山城丹波ノ界　山城攝津
ノ界　山城河内ノ界　山城大和ノ界　山城伊賀
ノ界等外四所ナリ此所ノ厄神社ハ峠アタリニ在
リタルヲ移シ來レルモノニヤ毎年六月十五日道
饗祭ヲ行ヒト部氏ノ神官來リテ式ヲ行フ其ノ次
道上ニ供物ヲ并ベ祓祝詞ヲ奏シ鰐魅ヲ此所ニ封
シ郡大路ニ入ラシメザルナリ古ハ夏冬二祭ナリ
シモ一年一祭トナリ丹波ニテ之ヲ行ヒ丹波ノ爲

京都府立総合資料館所蔵

ニ除厄ノ祈禱ス

足利高氏旗

懸ノ柳旗

立ノ柳

トモ呼

ブ官軍方ニ

ナルトテ白

旗ヲ此ノ柳ニ

懸ケ將士ニ向ヒ誓詞ヲ看ハセタル古迹アリ天保

時代ノ圖

今ハ石標ニ由リテ僅ニ知リ得ルニ過ギズ過半朽

腐シ春來レバ其ノ昔ヲ忘レズ新芽ヲ萠出ス

矢塚ハ三間四面石垣ヲ構フ高氏旗揚ノ時今ヨリ

節ヲ更メ官軍トナル誓トシテ背ニ負ヘル征矢ヲ

拔キ之ヲ社前ニ供セシカバ并ミ居ル將士我モ々々

ト相習フテ一矢ヲ獻ゼシカバ矢堆積シテ塚ノ形

ヲ爲セリ此ノ時高氏及ビ弟直義ノ矢ヲ進ムル役

ハ一邑右馬助今川中務大輔コレヲ勤メタリ後世

相傳ヘテ武家ノ故實トス椎ノ木ハ繁榮ヘニ榮ヘ

テ當時ノ事ヲ偲バシム

延朗上人之事　上人ハ但馬國養父郡ノ人ニシテ

源義家四世ノ孫ナリ父ハ義信母ハ平氏上人生レ

テ異質アリ頂上隆起シ目重瞳アリ父母鍾愛シテ

武將タラシメント欲ス而ルニ上人ニハ其ノ志無

京都府立総合資料館所蔵

ク雙親歿後近時ニ修學シ内典ヲ讀ミ年十四鄉ヲ
出デ叡山ニ登リテ得度シ專心潛沉研鑽ス平治ノ
亂ニ平軍ニ圍マレ危地ニアリ一心法華ヲ念ス童
子來リテ指教スルニ逢ヒ之レニ從行シテ脫免ス
ルヲ得東行シテ松嶋ニ到リ一廢寺ニ投宿ス翌朝
饗膳ヲ贈ル者アリ謂フ名僧ノ來宿アリト聞ク故
ニ饋リ奉ルナリトテ夢中ノ神告ヲ語ル而還シテ
此ノ地ニ來住ス此ノ地ハ三位中將平重衡ガ領有
ニ屬シタルヲ平家没落後源義經ノ勅賞地トナリ
義經ヨリ上人衣鉢ノ資ニ供シタリ上人コレヲ辭
シタルニ違テノ志トアレバ已ムヲ得ズ之レヲ受
納シ領民三年ノ納貢ヲ免シ且曰ハク一萬遍ノ稱

名念佛スルモノニハ一石ヅヽ免租スベシト令ス
此ニ於テカ村中稱名ノ聲四方ニ起コリ晝夜ノ別
無ク一村擧リテ善良ノ風俗ニ化セリ上人童名德
壽丸俗名源義實世ニ松尾上人ト呼ブハ京面松尾
ニ住持タリシ故ニトブ
盛則ト云フ官人アリ獸獵ヲ好ミ此ノ所ニ住ミ山
野ニ狩獵スルヲ以テ樂トセシガ一年瘟疫ニ罹カ
リ一家擧リテ枕ニ伏シ苦悶ノ餘リ上人ヲ請ジテ
救濟ノ法ヲ乞フ上人曰ハク汝ノ業ニ因リ此ノ厄
ニ罹カルハ當然ナリ今ヨリ殺生ノ念ヲ斷ツニ於
テハ無事ナラシメン盛則大ニ喜ビ諾ス上人香水
ヲ造リ吧シテ授ク一家コレヲ呑ミ苦悶速ニ治セ

京都府立総合資料館所蔵

ル是レニヨリ一家併信者トナレリ

其ノ松尾ニ在ルヤ景福寺域ニ大池ヲ穿チ殿上ヲ其上ニ設ケントス上人曰ハク掘リ三尺ニ及バヽ異寶ニ會ハン之レヲ得ルモノ榮エント檀越涼庵俊コレヲ聞キカヲ極メテ掘リ古鏡ヲ獲タリ果シテ年ヲ逐ヒ福事アリタリ疫者ヲシテ起タシメ盲人ヲシテ視セシムル如キ一一ニ止マラズ

此ノ村ニ安元果アリ年七十八曰ハク我來年逝ク可シ世尊ト壽ヲ同フセントト或ル年ノ大晦日ニ臥シ翌正月十二日ニ到リ道場ニ入リ遷化ス遺言シテ曰ハク我ガ滅後山西ニ一光アルベシ我レヲ其ノ下ニ埋メヨト果シテ一夜光明ヲ見テ其ノ下ニ葬ル信徒其ノ德ヲ慕ヒ塔石ヲ建テ香花久シク断エズ

此ノ所ニ平茸ノ叢生シタル年アリ里人許多コレヲ取リ喰フ一夜里中ノ長者夢ニ法師ニ三十人來リテ曰フ事アリ如何ナル人ニヤト尋ネ今レバ法師等曰フ年頃宮事ヘ致セシガ此ノ里ノ縁盡キ退ラントスルニ付此ノ事申スナリト驚キテ妻子ニ語レバ里人多ク同ジ夢ヲ見タリト云フ扨次ノ年ノ秋ニナリ茸取ラントト山ニ入ルニ大方見エズ如何ナル故カト思フ程ニ仲亂僧都トテ説法無双ノ僧ユノ事ヲ聞キ曰ハク不淨説法ヲ爲ス法師ハ平茸ニ生マルトテ云フ丁アルモノヲト如何ニモ平茸

京都府立総合資料館所蔵

八喰ヲベキモノナラズトノ古話アリ

道智山法林寺　禪宗京西妙心寺末　本尊釋迦如來　坐像七寸　開山靈峰特開基尾張大納言源敬公妙心寺ヲ引キ建立ス　開山堂ニ特和尚ヲ祭ル木像坐姿二尺五寸延寶八年庚申四月三日示寂堂内ニ源敬公ノ神主ヲ安置ス

鎮守稲荷大明神　寺藏觀音大士長五寸靈像ニ

運慶三寸亦自作ニ

清光庵　山号四月山　禪宗　京都西岡永正寺末

極樂寺　山号賴光山　禪宗　本村宗蓮寺末　本尊阿彌陀如來

無量寺　山号影向山　禪宗　本村宗蓮寺末　本尊阿彌陀如來

天滿宮社　庚申堂

藥師堂　無本寺　本尊藥師如來

正法山宗蓮寺　亀岡町字壓寺末　本尊阿彌陀如來　慈覺大師作　開山恒山画龍和尚　達磨大師永平道元大師ノ像　大慈閣十一面觀世音長四尺惠心僧都作　鎮守八幡宮右妙見左天滿宮

潮信山普門斬　禪宗　妙心寺末　本尊觀世音長三尺　不動佛長同　開山鰲魚雲玄計和尚像長二尺

淨行院　淨土宗　亀岡町稲名寺末　本尊阿彌陀如來　山本ヨリ引移ス享保十五年

京都府立総合資料館所蔵

寒谷ハ本村ノ飛地ナリ亀岡町古世ノ部ニ出ダス

馬場

篠村

大字馬場　舊馬場村　高二百石一斗二合　天保度四十五農戸

此所ヨリ大阪作事ニ或ハ伏見作事トモ云フ服役シタルヲ以テ所司代板倉伊賀守ヨリ百石免除アリ諸役共免除セラル升ハ大工三十六人一人一匁三分五厘ノ工賃トカヤ何ノ事件ナリシヤ其ノ大工ガ皆此所ヨリ出デタルモノ乎延人數ナリヤ一切不明ナリ又六斗ノ赦免地アリ屋敷ニ區ナリ是レモ板倉伊賀守ヨリノ免許ナリト云フ出役シタル大工ノ宅地ニモヤアラン

馬場川來歴　往昔麻呂子親王ガ奥丹波ニ住メル惡鬼退治トシテ此所ヲ過ギリ玉フヤ土中ニ嘶音

アリ怪ミテ之レヲ掘ラシムルニ一馬跳出ヅ親王ハ乘馬ヲ棄テヽ此ノ馬ニ換ヘ西向シ玉ヘリ依リテ其ノ掘タル處ヲ名ヅケ馬掘ト呼ビ其ノ凹ナル所ヲ水ノ流ルヽニ田リ川ノ名トモナレリトカヤ推古天皇ノ皇子ヲ始メトシテ同名ノ皇子史上ニ見ユ今ハ乾レノ麻呂子ナルヤ詳言スルニ由ナシ

土産神請田社ハ山本ニ在リ祭日舊年九月三十日ナリ

圓通山德壽菴　本尊坐像ノ阿彌陀佛　觀音堂本尊五像四尺長

萬願寺小菴ナリ本尊坐像ノ阿彌陀佛

山本

辨財天社

大字山本　元ノ山本村　高四百七十四石六斗

改五百五石八斗八升七合　天保農漁百二十戸

東方ニ山アリ西方ニ川アリ多葉粉ヲ名産トス

川ノ名ハ字野

氏神請田大明神　山本　篠　馬場ノ三村産土神

舊暦九月三十日祭

末社　左方　天照皇太神　春日大明神　住吉大明神　八幡大神　稲荷大明神

右方　地主權現　百太夫　拜殿　鏡樓

東西六十間南北九十間除地

別當　天台宗　向陽山神宮寺　愛宕威德院末

京都府立総合資料館所蔵

中興天足和尚

寶珠山如意菴　禪宗　嵯峨天龍寺末　本尊千手觀音立像一尺　脇士不動明王　愛宕將軍地藏菩薩　開山佛日常光國師　開基宇野豊後守　牽北四十間東西五十間字郡豊後守ノ證文アリ　末寺聽泉寺小菴アリ

鬼水山寶泉菴　禪宗　嵯峨天龍寺末　本尊釋迦如來　開山梅真寔大和尚　鎮守天滿宮

東林寺　禪宗　寶泉菴末ノ小菴

東榮寺　浄土宗　亀岡町古世稱名寺末　小菴ナリ　藥師堂アリ

常福寺　同　同寺末　鎮守社

天滿宮

安養寺　同　同寺末　小菴ナリ

九頭龍王社　八間四方除地　脚疾者草鞋一双ヲ奉ル又ハ小石一荷ヲ納ム故ヲ以テ草鞋小石墳ヲ爲ス

古城今ノ梵刹　木村駿河守ノ居處ハ今ノ如意菴トカヤ天正年間明智ニ落トサレタリト云フ殿垣内ノ字アリ

山本多葉粉　篠村沿道ニ軒ヲ并ベテ烟草ヲ鬻ゲル店舗ハ山本多葉粉ノ招牌ヲ掲ゲ製造ト賣出シニ從事ス古時村人某ガ試植シ自用ノモノヲ製シ

京都府立総合資料館所蔵

タルニ香氣辛味ノ宜シキヨリ遂ニ家々多少ヅヽ
ノ製作ニ從事シ西方大名旗本ノ東行スル土産物
ト爲リ名ヲ四方ニ馳セタリ明治年間其ノ官營ト
ナリタルヨリ出納相償ハザルヲ以テ莨田ハ桑田
トナルモノ多ク山陰道往來ノ客人ハ汽車ヨリシ
テ此ノ所ノ一路蕭條トナルナド孰レモ斯業ニ不
利ナラザルハ無ク遂ニ前途寥々ノ秋トハナリ畢
ンヌ

此所産出ノ莨煙ハ火附ノ惡シキト多喫スレバ口
中ヲ苦澁スノ弊アルヨリ非煙スルモノアリ百分
中ニコチーネ含有量一・一六ナリ丹波ニ於テ産
スルモノ多クハ・五三ナルニ比スレバ多量ト云
フベシ況シヤ他國ノ・二三ノ量ニ比スルニ於テ
オヤ斯カル品類ヲ喫スル時ハ猛烈ナル毒素ヲ氣
管支ト肺部ニ送ルト云フ

因ニ記ス慶長十年ニ呂宋ヨリ渡レル種ヲ長崎ニ
試植シ大和山城丹波ニ移植シタリ其ノ殘種ガ此
ノ地ニ存在シタルナルベシ之ヲ喫スルノ方法ハ
蠟燭ノ火ヨリ竹筒中ノ莨茎ニ移シ其ノ片口ヨリ
吸ヒタルニテ是レヨリ烟管ノ發明出來タルトカ
ヤ

寛永十九年布達ニ　未年よりたむこ田ニ作り
申ス爲ス若シ作ルモノアラバ村田をひらき作り
て中ムトアリ當時ハ之レヲ以テ無用ノ長物トナ

京都府立総合資料館所蔵

セシナリ害毒ヲ身體ニ及ボスヤ否ハ未知數ナリシナリ

名蓋形チす丹波の秋ろあつさうゑ　矢野忠也

題山本烟草　深海皆山

流品國分無等差邑香山本特清奇佳名呼作相思草
起臥須更不可離

嵯峨通行船株名稱　仁兵衛　長兵衛　茂助　茂右衛門　作兵衛　吉之助　與助　加右衛門　九右衛門　一名失　合十艘此ノ名ハ初メテ免狀ヲ受ケタル船主ニシテ爾後所有主ニ變更アルモ船名株名ハ舊ノ如シ故ニ實名源兵衛ナルモ呼出シアル時ハ船名仁兵衛ヲ稱シ實名平右衛門モ船ニテハ長兵衛ナルノ類ナリ山本濱ニ屬ス

請田神社故老談話　此ノ御社ハ式内有名ノモノニシテ山本鳥ヶ峰ニアリ二又ノ老杉ハ高サ十數間周廻七人手ヲ弘ゲテ漸ク遠ラスベシ樹齡幾百知ル可ラズ淮新前ハ正一位請田大明神ト稱ヘタリ一溪水ヲ間テ、同名ノ神社アリ是ニ於テ保津請田山本請田ト呼ビ御夫婦神ナリナドノ俗說モ出デヌ杉檜植松等ノ老木境内ニ鬱蒼トシテ天ニ陰翳シ櫻楓具ノ間ニ隱見シ長流緑浪ヲ躍ラセラ奇巖怪石ニ打碎カル、所ヲ舟駛セ筏流ルヽ活畫ヲ眼下ニシ西望スレバ數里ノ廣野亀山ノ城樓雉堞眸中ニ集マル絶勝アリ云々且又古書ヲ出シ示

ス左ノ事ヲ記ス　祭神大山咋命　来田神社　今在山本村ニ曰請田明神本村田簿社邊之地総曰来田大古海潮江盪國中大己貴命率佯類八神来議治水之術大山咋自身執鋤鑿山巖決水始爲平陸國人祀鋤以爲神靈（考云ヲ此ノ說亀岡鍬山神社記ト曰ハ一ナリ）又曰ハク請田ト書ケドモ浮田ニテ水底ノ田ガ浮キ出デタル謂ニナリ維新前マデハ両部神道トテ天台宗ノ僧侶ガ法印ノ身分ヲ有シ袈裟衣ヲ着用シ祭祀供養ヲ掌レリ寛文十三年ニ氏子ヨリ奉納シタル釣鐘アリ銘ニ篠村七郷ノ土産神ノ由ヲ鐫リタルガ嘉永安政頃カニ王子氏ガ闖ガリノ宮位有ノ宮ノ王子明神ノ氏子ト爲リテヨリ篠村モ亦其ノ村ノ八幡宮氏子トナリテ此ノ神籍ヨリ脱退シ今ハ山本馬堀ノミノ産土神トナリ大ニ寂寞ノ秋ニ遭遇シ分離氏子ノ無情ヲ感ゼシモ幸ニ社有財産トシテ田五段餘山三町餘宅地一段餘アリテ積立金ノ貳千五百圓ヲ以テ優ニ維持費ヲ有セリ云々明治二十年

社殿ハ古代ノ風致アリテ足利時代ヨリハ古キ乎天正ノ兵火ヲ免レタルハ幸運ナリ後慶長十八年木村和泉守外廓ヲ改修スト傳ヘ九月二十九日ヲ其ノ落成式記念ノ日トス木村ナルモノヽ人格ハ詳ナラズ

祭典毎年十月廿八日明治初年迄ハ山本村篠村馬

京都府立総合資料館所蔵

堀村ノ氏子中舊家一小國ニテ行ヒ來リ諸費ヲ負
擔シ境内ニ舍館ノ設立モアリタリ長桟房ノ迹ハ
其所ナリ氏子分離ノ際分國分地シタリ
武者頭トテ毎正月十二日宇野十四軒木村二軒弓
箭射初式ヲ社頭ニ行フ白飯ヲ枡形ニ結ビ固メ五
種ノ煮物ヲ副ヘ獻酒直饌ス進新後舊弊ナリトテ
式ハ休ム供物獻酒シテ社掌祝詞ヲ讀シ撤饌ヲ十
四家ニ頒付ス
豐臣氏ヨリ下シタル文書アリ左ノ如シ
當代筏差十五人被仰
御朱印之間御用木乘下候事不可有油斷候然
バ諸役被成御免附候愈可入精段肝要候也

天正十六年七月十八日　山口甚兵衛　書判
石川伊賀守　書判
山本筏士惣中

加勢野一ニ合戰野ニ作ル　天文十一年六月足利
將軍義晴可勢野ガ原ニ出陣ス山本ノ士左馬助ナ
ルモノ勲功アリニ引籠ノ紋所ヲ賜ヒ晴ノ字ヲモ
賜ハル由リテ利晴ト名乘ル云々ノ古文書アリ細
川忠興ヲ〻ニ応スルニ由リ此ノ名アリトモ云フ
光秀ノ加勢トシテ來丹シタル時ノ事カ亀山藩ノ
調錬場ト呼ブ調錬トハ錬兵ノ事ニテ進新前ノ語ナ
リ
宇野豐後守　天正ノ頃小字卯川ニ砦ヲ構ヘ近鄕

京都府立総合資料館所蔵

ヲ攻畧シ智勇ノ名アリ明智光秀隙謀アリ四方有名ノ士ヲ募ル豊後亦與ル饗應丁寧ナリ膓物アルヲ以テ饗膳ヲ辭ス光秀詰中俄ニ意色ヲ変ヘ豊後ニ謂テ請テ我ガ危急ヲ救ヘ命旦夕ニ迫ルト豊後從容曰ハク君ノ領スル所兩國ニ跨ガリ家冨ミ兵強シ危急アリトハ思ヒモ寄ラズ或ハ大事ヲ思ヒ立チ玉フナラン乎光秀聲ヲ細フシテ曰ハク明察ノ如シ請フ一臂ノカヲ假ラン豊後嘆息シテ曰ハク請フ反名ヲ負フ勿レ生涯ノ汚ナリ光秀曰ハク再考熟籌セン豊後他言セズト誓フテ歸ル路上刺客アリ刺シ斃ス豊後署リ曰ハク吾ハ言ヲ洩ラス者ナラズ吾死セバ誰カ日向守ノ屍ヲ收ムルモノヅ汝歸リ日向守ニ告ゲヨト卒ニ死ス奴山ノ菴ト云フハ其ノ迹ナリ光秀ヲ罵リ奴等ト曰ヘル辭ヨリ取レル名ナリトヅ家系世々之ヲ此ノ菴ニテ祭レリ

迎藤正慎ハ本姓栗山幼名金彌一名義童幼ニシテ僧トナリ義天坊獨一ト稱ス又修驗道ニ入リ義光院矢部ト改稱シ再僧トナリ京都東山清水寺藏海ノ徒弟トナリ末院金藏院ニ入リ本末ノ宗務ヲ掌ル天保十三年歸俗シ亀山近藤某ノ嗣トナル清水寺成就院ノ忍向和尚ハ勤王ノ僧ナルヲ知リ之ト交ハル頗深シ忍向其ノ人ト爲リヲ愛シ院務ヲ綜掌セシム安政五年勤王ノ名士幕獄ニ投セラレ逮

京都府立総合資料館所蔵

捕忍向ニ及バントス正慎コレヲ耳ニスルヤ忍向
ヲシテ虎口ヲ脱セシメ夜ヲ侵シテ之レヲ伏見ニ
送リ相別レテ歸山スレバ捕吏堂内ニアリ鞫問セ
ラレ知ラズト答ヘ拷掠數番終始知ラズト答ヘ獄
ニ投ゼラル舌ヲ嚙ミ獄中ニ自死ス時ニ年四十三

大字王子　元高二百石　天保三百三十一石四斗
一升　内二十三石六斗六升六合　峠山田高　本村
戸數四十八軒　峠二十七軒　天保度
丹波ノ山城ニ接スル國畧ニシテ軍畧上咽喉ノ要
部タリ故ニ近畿ニ事アレバ領主ハ必兵ヲ此所ニ
駐メ以テ往來ヲ扼セリ

氏神王子大權現　熊野若王子ヲ主神トシテ村名
トモス　末社孝大黒
天照皇太神　春日大明神　八幡大菩薩　相殿
稲荷大明神　境内ニ兩乞岩アリ旱歳ニ當リテハ
村人ノ雲祭スル所ナリ　此ノ社名ヲ闇ガリノ宮
ト云フ是レハ位在ノ轉訛ニテ位ガ有リト云フ意
トモ又ハ位揚リノ意カトモ云フ位階ノ無キ宮ニ
對シテ謂ヘルモノニヤ　尊氏篠村ヨリ此所ニ進
ムヤ鳩アリ其ノ旗上ニ翔ケル將士以テ瑞トス

子安地藏ハ安福寺ニアリ二間四面ノ堂ニシテ天
保八年ノ再建　本尊坐像ニ尺一寸惠心ノ作額九
王尊　覺城書　寺傳　一條天皇御宇惠心僧都宇
治ノ惠心院ニ在リ夜々異光アリ西來ス一夜僧都

京都府立総合資料館所蔵

コレヲ追隨ス異光此所ニ墜チテ消ユ乃チ持念シテ曉天ニ至ル一女子ノ來リ禮拜スルヲ看テ問ヘバ答ヘテ曰フ妾ハ長者ノ娘ニテ名ハ櫻姫難産ニ命ヲ失ヒ魂迷ヒ成佛シ得ズ頭ハクハ師ノ濟度ヲ得ン光ヲ放ツテ師ノ來ルヲ誘ヘリト便チ法要ヲ說ク女禮拜シテ曰ハク苦患頭ニ去ル願クハ誓フテ難産ノモノヲ助ケン願ハクハ爲ニ一體ノ佛ヲ刻メト僧都塚上ノ柏樹ヲ截リ地藏ヲ彫刻ス近傍ノ婦亦産ニ臨ミ苦悶ス僧都其ノ木片ヲ與フル忽チ産ス之ヲ傳聞シテ遠近ノ婦女來リ祈ル者其ノ效果ヲ獲ルモノ日一日ヨリ多ク且此ノ峠二十餘家難産ノ婦人無シ維新前迄ハ此ノ慣習ニ由リ産婦誕朔ニハ松ヲ削リ口ニ咥ハヘシム櫻姫ハ佐伯村長者秋高ナルモノヽ娘ニシテ此所ナル鶴ノ川ニ在ル別莊ニ居タルナリト云フ

寺領高十二石領主コレヲ給シ井上某コレヲ管理ス井上ハ半僧半俗ノ堂守ナリ

裏石祠　此ノ石ハ路上ニ横タハリ在リテ之ニ觸レ傷フク者多カリシ故路傍ニ移シ祠中ニ收メタリ

石碑　今茲ニテハ口口乃至病や雲達磨　何人ノ建ルモノカ

所司代巡見　京都所司代ノ更迭アル毎ニ山城國中田結アル所々ヲ巡視スル例アリ此所ハ要害ノ地トシテノ心ナルベシ

京都府立総合資料館所蔵

古來京都又ハ近畿ニ事アレバ關所々々ヲ兵守ス
ルヿ史上事實上枚擧ニ遑アラズ安政以來亀山藩
ハ一日モ此ノ關所ヲ忽諸ニ附セザリキ之ヲ古ニ
徵スルニ後白河天皇ノ保元々年秋七月京都ノ流
言ニ上皇兵ヲ東條殿ニ集メ高松殿ヲ窺ヒ玉フト
天皇下野守源義朝ニ禁内ヲ衛ラセ別軍ヲ宇治勢
多栗田口苦集減道ノ諸道ヲ檢セシメ藤原資經ヲ
大江山ニ遣ハシ諸國ノ兵士ノ甲ヲ齎シ來ル者ヲ
捕ヘシメタルヨリ下リテ大阪大塩平八郎ノ亂ニ
モ江戸櫻田騷動又ハ長州藩士京都合戰ナド毎回
亀山藩ヨリ物頭一騎士卒數十百人出張シタリ
老ノ坂大江坂大枝坂書キ方三様アリ古ハ國界ノ
アル所峠ノ西二町計ナリシガ明治初年ヨリ峠村
ノ東端人家ノ東トナレリ昔ハ此ノ地ヲ丹波トシ
タリ左ノ歌ヲ見ヨ

萬葉集　讀人不知

丹波路之大江之山乃真玉葛絶年之心我不思

天武天皇八年ニ龍田大江ノ二山關ヲ置クトアリ
共ニ大和ナリト曰フ人アレド大江ハ丹波ナルベ
シトノ說アリ京都ニ通ズル五關門ノ一トモ云ヘリ
京城四界關所ノ一トモ云ヘリ
古ニ湖レバ承和九年伴健岑ノ亂ニハ清原秋雄等
此ノ關ヲ守リ保元ノ亂ニハ足利義康ノ兵ガ平家
弘ヲ獲ヲ之ヲ斬殺ス

京都府立総合資料館所蔵

山上ニ佛堂アルヲ以テ峰堂トシ北方ニアル京道
ナル地名ノムネンドト取違ヘラレタルヿ古史上
ニ歴々數フルニ遑アラズ後醍醐天皇ノ御宇源忠
頼ガ六波羅ヲ攻メ敗レテ峰堂ニ歸ル兒嶋高德カ
戰ス忠頼人ニ言ハシメ高德ヲ召ス高德曰ハク殘
兵敵軍ニ比スレバ猶多シ且吾ガ軍ノ據ル所山ヲ
後ニシ水ヲ前ニス守禦ノ勝地ナリ如何ンゾ之レ
ヲ棄テン往キテ七條橋ヲ扼セント遂ニ進ミ橋西
ニ陣ス夜半ニ本陣ヲ望メバ炬火漸ク少ナリ乃チ忠頼
ノ道レ去リシヲ知リ引キ還ル道ニテ荻野朝忠ニ
逢フ高德共ニ退キ丹波ニ入リ峰堂ニ登レバ錦旗
器械委棄セラレテ狼藉タリ退キ朝忠ト高山寺氷

上郡ニ入ルトアリ又足利尊氏ノ京都ヲ犯ス時久
下時重等之レニ應ジテ大江山ニ據ルナド皆二所
ヲ一所ト見做セリ明德ノ役ニ山名播磨守滿幸峰
堂ヲ下リ桂川ヲ渡リ梅津ニ陣ス滿幸京中ニ敗レ
丹波差シテ落行ク大江山ノ麓ニテ未弘入道ニ逢
フ入道追リ付キ諫ムト云フモ足利高氏尊氏ノ前名ガ
義旗ヲ建ツ老ノ阪ヲ過グ過其ノ旗上ニ翻ケルト
云フモ此ノ丁ニテ人ニヨリテハ峰堂ト書ケリ

大江山うくふく月の影冴えて多田の面にぞ
[illegible]

慈圓

大江山[illegible]

家隆

大江山[illegible]

武卿四位

大江山[illegible]

小侍從

京都府立総合資料館所蔵

君ゝ世ゝ遠ゝ時しさゝ大江山坂井の水乃たえしと重へゝ　所昭

大江山れ寄すゝしき袖ゝる以くゝの寄る秋の年ぬゝん　行意

寄るゝゝ時れ秋ゝの多ゝ多ゝ大江の山乃自そ佐ゝふく　後成卿女

我年のゝけみの寄ゝ大江山ゝて生理の寄ゝるゝくに　能宗

大江山ゝけゝゝゝゝゝみ河ゝゝゝゝ人ゝゝゝゝ巻ゝゝ乃　吹徒況

寄ゝ衣ゝゝゝ寄ゝ取大江山秋ゝゝ寄ゝゝ風ゝゝゝゝ乃　家衡

夕ゝゝゝみ大江の山乃玉葛秋ゝゝ年たる寄ゝゝ寄ゝ　定家

大江山ゝゝれ乃のやすゝひゝ寄れぬゝ寄ゝ乃　田侍

寄ゝ乃ゝ寄ゝゝ以ゝ大江山ゝゝゝ理の乃ゝゝ寄ゝ　忠定

寄ゝ寄ゝ取ゝ秋ゝ大江山ゝゝゝゝ寄ゝ　幻斎

大江山ゝゝゝゝ木乃ゝゝゝ以ゝ日ゝゝゝ烟ゝ乃　行能

大江山ゝれゝゝゝゝゝゝゝ日ゝゝゝ乃　康光

右建保名所百首題ニ大江山丹波桑田郡トアリ

氣のつきしゝゝ寄ゝ寄ゝゝ寄ゝ　杜若

鬼山くゝゝゝ大江の山ゝ雑ゝの寄ゝ　葛村

浮ゝゝ寄ゝの坂ゝゝゝ四月ゝゝ　天角

謡曲大江ニ　大江山以久野乃道ゝ行きし天乃橋立ゝゝの海乃天ゝ狗ゝゝ　丹後丹波乃境

ゝる鬼ゝ塚ゝ程近しゝゝ

嶠嶇行巖逕與夫滞澗泥嶺開孤館出谷豁衆山俺雨

迴桃壕樹烟平蒼澤堤亀城愁日暮更下夕陽西

皆川淇園

京都府立総合資料館所蔵

老ひ坂を坂丹の界にて
さゝも亦 收りの詩りや老ひ坂　蝸角

京都府立総合資料館所蔵

老の坂今は昔の界にて
さへも亦 牧の詩ゝや老の坂　蝸角

京都府立総合資料館所蔵

大江山驛十餘家一々招牌賣酒茶地控三丹人雜道
絃歌嘈囃小紛奢　皆山
行人錯綜自東西山驛數家春樹中往日奸雄出師路
落花啼鳥酒旗風　同
纔過一坂是丹陽昨雨乾時泥雜沙燕語呢喃留客住
李花林裏十餘家　山陽

おいの坂これ山城丹波乃境なり本名ハ大江山なり大江の坂を誤りておいの坂と云ふあるべし大江山生野乃道の遠くれハと云ふ小式部がよみしハ此處のみ生野も天橋立にゆく道にあり又丹後にも大江山ありむかし酒顛童子の住し所なりと云ふそれハ天橋立に行く道にあらざれバ小式

部が敷にあるる大江山よりあらずを側よ亀山城主乃休所あり地蔵堂の少し北み山城丹波乃境あり嶺より京都及び山城誌山よく見えて佳景ゑ此ノ峠ノ人家僅少ナレド獨立村ナリレヲ明治維新後町村制施行ニ際シ篠村ノ一部トナレリ當時三十戸アリ往來ノ大名模本商人農民ノ休宿スル所ナルヲ以テ旅人宿營業者ヲ主トシ休憩茶亭農樵者ヲ交ヘ一小村落ヲ形造クル本陣アリ大名旗士ノ休宿ニ供ス別ニ脇本陣アリ本陣ト同業ヲ營ム本陣ノ備不備美不美ハ領主ノ名譽ニ關スルヲ以テ裝飾用具ハ大抵領主ヨリ貸與供給ス新道開鑿セラレテヨリ通行者減削シ活路ヲ求メテ四散シ今ヤ明治三十六年秋戸ヲ殘スノミ柴薪業者ト小農トノミ此ノ舊關址及ビ村迹ヲ尋訪スルニハ西坂ヲ登リ新道ノ隧口ヲ東シ小逕ヲ辿シ折レテ四五町スベシ

峠城　傳說　天正年中國主波多野氏ノ屬城トシテ日下部石見守尚則之レヲ守リ亀山城主波多野秀尚ノ麾下タリ皆掛氏部雄井四郎次郎等ノ勇士フレヲ助ケ守備最嚴重ナリ同五年ノ秋織田方ノ軍桂川ヲ渡リ前敗ニ鑑ミテカ惣勢ニテ押寄セ來リ遠巻キニシテ一軍ヲ西下セシメ亀岡城ヲ攻陷スヲ之レヲ聞見ミテ一城恟々タリ火ヲ放ツ者アリ城櫓火炎ヲ吹キ敵兵機ニ乘ジ防戰道絶エ哀レ山

京都府立総合資料館所蔵

陸第一要害ハ看ス〳〵崩壞シ了シヌ今ハ前後左右皆敵ナリ何處ニカ処ガルベキトテ一同潔ク忠魂トナリテ命ヲ果タセリトゾ

首塚トテ峠ノ舊道頂上ノ東手ニ杉樹七八株小祠ヲ蔽フアリ賽者酒ヲ携ヘテ行キ其ノ效驗ヲ鳴謝スルアレバ又願意ヲ叙ベ其ノ利益ニ與ラントスルアリ而シテ其ノ祭ラルヽモノハ何ナリヤ之ヲ詳ニセズ只其ノ效驗アルヲ以テ衆人ノ奉賽スル所トナル口碑ニ據レバ正暦元年三月廿四日下野判官源頼國ガ千丈ケ嶽ノ酒顛童子ヲ退治シ首ヲ京都ニ送リ鐵串ニ貫キ都大路ヲ引渡シ六條河原ニ曝シ遂ニソレヲ此所ニ埋メタルナリト或ハ云フ頼光ノヽナリト古史ニ光仁天皇ノ中宮高野崩セラレ大枝山ノ陵ニ葬ルノ條下ニ註釋シテ山枝山陵ハ乙訓郡沓掛村ニ在リ土人ハ酒顛童子ノ首塚ト呼ブトアリ所ハ誤謬ナリ或ハ云フ首塚ノ名ハ首ノ病ヲ祈禱シテ其ノ治癒ヲ求ムルニ靈驗アルヨリ斯クハ塚ニ名付ケタルニテ酒顛童子ノ下トハ関連セズ射場谷アルヨリシテ誤傳セラレタルナラント

射場谷的場ハ首塚ヨリ谷ニ入ル小路ノ處ニアリ候塚トモ想ハルヽ十七八間程ノ址アリ今ハ荒廢シテ首塚ト共ニ認知シ能ハズ口碑ニ曰フ頼光大江山進發ノ際ニコノ所ニテ酒顛童子調伏ノ秘法

京都府立総合資料館所蔵

ヲ行ヒ瀧口右舍人渡邊綱ヲシテ弓絃ヲ鳴ラサシメタル所ト云フ　頼光ノ大江山進発ハ此ノ道ヲ取ラズ其ノ領地攝津多田ヨリ直行シタレバ前説非ナリ　凱旋ノ際菜田船井兩郡ノ鄉士ガ地方人士ノ射術ヲ檢セントテ射的セシメ頼光ノ賞感ニ預カリタル遺址ナリト與州ニテモ此ノ事アリ小國弓ノ如キ是レナリ小國小鍋木侯關川等ニ於テアリタリ　往時ハ此所モ一名所トシテ所司代巡見所ノ中ニアリ前示王子ノ部ヲ參看セヨ

往時此ノ地ニ大澤アリ大蛇住ミ居テ人ヲ呑ム或ル女此ノ澤邊ヲ行キ呑マレタリ其ノ夫大ニ怒リ澤池ニ入ル大蛇又來リ呑ム此ノ男持チ來レル小刀ニテ大蛇ノ五臟六腑ヲ寸斷ス大蛇血ヲ吐ク男生キナガラ吐キ出ダサレタリ澤池川溝血ノ爲ニ赤シ由リテ丹波ト名ヅク　其ノ郎從主人ノ迹ヲ追ヒ來ル主人血ニ染ミ猩々ノ如キ樣ニテ歸リ來ルニ逢フ郎從其ノ由ヲ尋ネケレバ主人一伍一什ヲ叙ブ郎從コレヲ聞キ且ハ驚キ且ハ喜ビ曰フ樣御身生キ給ヒテ別ノ事無シトテ以後此ノ所ヲバ生野トハ名ヅケヌ　天田郡　村生野ノ部參看

絲論國名ノ部參看

國界石標　從是東山城國ト刻セルモノモ亦草萊中ニ埋没ス

明智光秀ノ本能寺ヘ夜襲スル事情ハ亀岡部内ニ

京都府立総合資料館所蔵

モ其他ニモ記載シタルガ何レヨリ進軍シタルヤ判然セズ世間普通ノ説話トシテハ老ノ坂ヲ越エタルニ在レドモ明智ノ新道一名明智越又ハ峰堂越ト云フ方ヨリ一隊ノ兵ヲ夜行セシメタリト云フ大軍ハ本道ヲ取リ樫原ヨリ西行セシメ信長ヲシテ陰謀ヲ曉ラザラシメタルモノト云フ　後醍醐天皇ノ御時千種少將顕經五百騎ニテ丹波路唐戸越ヨリ寄スルト云フハ王子ヨリ山城ノ松尾ニ通ズル間道ニテ足利將軍義教ガ京都ヲ逃ガレ來ル時モ此ノ路ヲ取リタルナリ唐戸ヲ唐櫃トモ書ケリ即チ葛野郡地藏院淨住寺ノ間ヘ出ル一路ニテ大事アル毎ニ洛陽七道ヘ軍兵ヲ派シ非常ヲ警メタルニ此ノ一線ノミハ明ケ置カレタル故コレヲカラト越トハ呼ビタルナリ何時シカ誤リテガヲカトシテ呼ベルナリト攝津有馬郡ニ地名唐櫃アリカラトト讀ム

寛間長者夫婦ノ間ニ子無シ婦歌フテ曰ハク埋没ノ長者ニ二代無シ花咲ケトモ實ハノラズト牛ヲ逐ヒツクヒテニ持テル梨ノ枝ヲ三二五ツ線テ根ヲ生シ

増井ノ清水　峠ヨリ一町餘西　路傍ノ湧水古樹薇ヒ岩石圍ミ夏天旅人ノ煩渇ヲ醫シ牛馬ノ喘苦ヲ療セリ水盤ノ上ニ滴々ス

涼しさを增井乃清水結ぶとも千代の秋　隆博

梨ノ木　同所ニ大木ノ梨アルヲ以テ字トス花ハ咲ケドモ實ハノラズト云フ歌アリテ小說ヲ傳フ遂ニ小字トナレリ此ノ梨周圍四尺以上ニ及ビ維新前後ニ枯死セリ

京都府立総合資料館所蔵

枝ヲ生シ繁茂スレドモ實ノラザリシ

三斬屋　石坂　舟繋芝　三家アリタル所　大石アリ腰ヲ卸シテ通行人ノ言語ヲ聞キ疑フ所ヲ判断スルニ的中ストテ大古泥湖ノ時舟航シタル迹トテフ

龍徳山意仙庵　禪宗　山本如意菴末　本尊観世音菩薩　開山媛城天龍二十四世獨芳曇大禪師

遠磬大師立像　鎮守天滿宮等アリ此ノ天滿宮ハ往時大ニ流行ラセ玉ヘリ

小亀山椿谷寺　如意菴末　本尊観世音菩薩　開山天龍寺常光國師　鎮守稲荷大明神

柘榴山正蓮寺　本尊薬師如來

專修寺　亀山專念寺末小菴　本尊阿彌陀如來

櫻堤　櫻堤數町春期花墜道トナル

大字森　元百六十六石高　文久高二百五十八石六斗九升五合　人家五十

村山大明神　主神素盞雄尊　末社　大國主命

阿遇突智

八幡大明神　末社　天照皇太神　稲荷大明神

生玉大明神　百大夫

式内村山神社ハ往古ノ大社ニシテ神代ニ明神ガ嶽ヨリ此所ニ移ラセ玉ヘル由ナリ應永七年渡邊六郎頼方郷落所々再興シテ舊觀ニ復ス大般若經六郎ノ納ムル所　社宇建立ニ付官女上萬ヘ寄附ノ請願アリ罪障消滅ノ爲冥福祈願ノ爲トテ歌書

京都府立総合資料館所蔵

圓光大師ノ願
池ノ水ゐとの心
に似たりしを
みうつすむこと
さためあれハ

艶書等巨多ヲ送リ來リケレバ之ヲ以テ經文ノ裏
面ニ粘貼シタリ最妙ナル最勝レタル筆迹名文ナ
リシ由ヲ傳フ數度ノ火災ニ煙散風消ス罪業モ亦
煙散風消セシナラン

氏子　森　柏原　廣田　洋法寺　舊暦九月廿八
日祭

大平山國恩寺　京都知恩院末　浄土宗　本尊藥
師如來　坐像一尺五寸春日ノ作ト云フ　阿弥陀
如來坐像四尺　觀世音菩薩　立像五尺　勢至菩
薩立像三尺　孰レモ有數ノ古佛ナリ圓光大師畫
像三日月ノ上ニアリ像丈一尺許其ノ裏書ニ曰ハ
ク丹州桑田郡矢田莊森村國恩寺靈寶

此御影者元祖源空上人真筆之　當寺無双之
靈寶之依之遂三拜焉末代利生令修覆畢
于時寛文三年五月廿五日　知恩寺九世聖運社滿靈光譽　判

國恩寺圓光大師御影添簡

丹州桑田郡矢田莊森村國恩寺所祀在圓光
大師本迹雙顯之尊形拜觀之因審其由來誠
大權一代巧便謹而可爲信仰焉尤於先哲印
手毛頭無疑滯者也

正德四龍集仲冬日　緣峯前大僧正祐天　判

花山院家ノ證文

丹波國八田庄之内國恩寺事爲護法院末寺不離
當家御門流相續不可有子細者也恐惶謹言

京都府立総合資料館所蔵

十二月廿日　　權中納言　判

觀堂和尚侍者御中　　權大納言五定

後鳥羽天皇綸旨

敬白　七月十八日　昌圓光座之禪師

足代義瑞御教書　花山院家雜掌中丹波國八田庄

內國恩寺住持職事爲本所代々進具地處雜籠綱

寺末寺違亂被下可然早其妨可致沙汰居彼寺

於雜掌之申候也仍執達如件

應安七年五月七日　基久　判

基守　判

小林左近將監殿

足利義持御教書　丹波國八田庄國恩寺中退押妨

人如元可被沙汰付之由也仍執達如件

應永十五年十二月十五日　判

遠江入道殿

小林左近將監ヨリ　丹波國八田庄內國恩寺事任

去十二月十五日御違書之旨押妨人爲之可被渡

付之狀如文

應永十六年三月十一日　判

渕石次郎右衛門入道殿

遠江入道ヨリ狀　丹波國八田庄領家分內國恩寺

事任今月十一日御折紙之旨如元所寺家渡付申

之狀如件

應永十六年三月十七日　了琢　判

京都府立総合資料館所蔵

義教將軍ヨリノ狀　護國院末寺丹波國八田庄內
國恩寺事可爲祈願寺之狀如件
應永廿四年　判
義教ヨリノ　禁制　住持
一　山林竹木伐取事
一　甲乙人等亂入事
右堅被禁制者也若於違犯之輩者可處罪科之
狀如件
長正元年十月　日　沙彌常慶　判
後花園天皇宸翰　護法院末寺丹波國八田庄內國
恩寺事可爲祈願寺之狀如件
永享二年二月廿二日　御判　住持
田村將軍像束帶　一尺五寸　矢　短刀　渡邊綱
ノ腰見
當寺創草延曆十七年田村麻呂ガ京都清水寺ト共
ニ造營シ慈鎭和尚開基タリ前文ノ雜掌ハ渡邊六
郎賴方ニテ百十貫文ノ知行主トスフ
一行山稱名寺　淨土宗　大恩寺末　本尊阿彌陀
如來　藥師像　後ニ出ダス
轉法山林巡寺　一向宗　東本願寺末　本尊阿彌
陀如來　永正十七年開基釋道明

京都府立総合資料館所蔵

古書目安

丹波國八田庄領家方事任關東御下知并永仁六年中分状以下之證文等地頭領家相互欲致取務事於當庄者五分二三中分之處去正中二年地頭檢注之時被申取領家方田畠等者也爰今又以餝非之注文産被成所務之違亂之條何樣之次第哉且被披見正中取帳之日可令露顕者也就中領家松山事是豈又中分以來領家御管領無相違凡号高尾山者総名也地頭分領家分隔境之條庄屋無隱者哉而今領家分山縁地頭自御代官違亂之條可被止之哉所詮松山已下田畠新儀違亂事地頭殿無御存知由被申本所之上者正路御沙汰尤本望也早於領家五分二者

上載御沙汰有詮速宜不可存互私曲矣

京都府立総合資料館所蔵

元德二年二月廿一日　預所　公文左兵衛尉出石判

下丹波國八田庄領家御方分山手用途沙汰人職事

補官　左衛門尉行成

右件山手用途事爲沙汰人職有限如負數無懈怠可被致其沙汰之狀如件左家宜承知莫違失故下

正安四年三月十六日　預所

御家領等知行不可有相違之由天氣所候也仍上愈如件

謹上　花山院中納言殿

通宣候也　追上愈　御家領目錄封裏被副下之由同被仰下候也

花山院入道右大臣家御領事停止武士之違亂可令全所務給之狀如件

花山院家領目錄　丹波國八田庄　已上

源朝臣判

諸國之御知行目錄畧之記　建武三年文和三年惣御安堵同前之間略之封裏者也

永正三年丙寅六月晦日　敦直判

前左大臣

注　護法院内大臣家定ナリ

丹波國桑田郡八田庄領家本所之事

右八田庄者御當家代々相傳御知行無相違綸旨并院宣明鏡也仍御曩祖護法院内大臣殿御道歸月浦

京都府立総合資料館所蔵

御建立之御隱居所御料所也雖然護法院應仁亂後
退轉之間如元被召返本家知行無相違者也然而
公儀御大儀御出仕有之間直銭百拾貫文永代渡邊
六郎丶所被賣渡實正也　綸旨并院宣等持院殿御
判等封裏被到遣之萬一御子孫由緒證歸有之違亂
之族有之者任其筋可有御成敗者也仍永代賣券之
狀如件

永正三年丙寅六月廿日　民部大輔敦直　判

渡邊六郎殿

峠ト東掛トノ間違

頃ハ明治二十年ノ秋京都ノ少壮年者七名ノ影伴多クハ中學師範學校生徒ラシキナルガ石田梅岩ノ遺迹ヲ見又其ノ墓ヲモ弔ハントテ亀岡マデ汽車ニテ來リ郵便局負ニトウゲハ何ノ路ヨリスルカヲ尋ネシニ平聲ナルヲ以テ此ノ所ノ峠ノ方ヲ指シ教エタリ若モ上聲ナランニハ東別院ノ方ヲ教エタルナラン其ノ少壮者伴ハ東ヘ東ヘト行キ老ノ坂ヲ秋日和ノ汗ニ沾リツヽ登リツメ扨梅岩先生ノ墓ハト尋ヌレド誰一人知ル者無シ乃チ茫然トシテ東望スレバ京都市眼下ニ展開ス皆啞然トシテ再亀岡ニ入リ之ヲ尋ネテ初メテ言辭ノ訛リ

京都府立総合資料館所蔵

ナルヲ知リ東掛ニ赴カン乎日影業已ニ傾カントス旅亭ニ豪飲シテ問ヲ醫シ出デヽ岐路ニ到レバ石票立フ刻シテ曰ハク石田梅岩先生舊蹟ハ右三里云々顧思スレバ今朝經過シタル路ニテアリシ相顧ミテ苦笑シ東向ノ汽車ニ搭シテ歸ル

運賃　維新前後坂路凸凹加フルニ嶮ニシテ環ナルヲ以テ人脚馬足其ノ行ク〻遲キタリ況ヒテヤ泰而久霖ナランニハ泥土沙石ト共ニ流レ貨物ノ運輸ハ猶更應意ナル能ハズ後フテ雇傭賃錢比較上高率トナリ亀山ヨリ東麓ノ櫻原マデ三里半ノ路程ヲ三十六貫匁ヲ半背ト半追ノ肩トニ分擔シ一日間ニ着荷セシムル賃錢三百二十文九十六匁ヲ百文ニ換ヲ

内ニ鐚錢モアリテ今ノ一至錢モアリテ三百十四個錢今日ノ十一錢四厘ナリ當時ハ銀相場ニテ唱ヒタルヲ錢ニ換算シ知リ易カラシメタルナリ

宿駕　旅人ノ乘ル肩輿ヲ宿籠ト呼ビ宿駕ト書ケリ宿驛毎ニ乘リ換フルモノニテ東海道木曾街道ノ如キハ專業輿丁所謂雲助ナルモノ有レド山陰道ノ如キ往來頻繁ナラザル地方ハ半農半傭者ガ二人一組ニテ亀山櫻原間金壱分ニ朱明治元年米價銀五百匁ノ時ニハ之ニ應ジ二分ニ朱マデ騰貴セリ歸リ駕ハ大抵半賃

車道開鑿　維新以來道路改修ノ事大ニ流行シ府縣競フテ從事シ明治五年ニハ確井ニ二十六個ノ

京都府立総合資料館所蔵

隧道ヲ穿チ八王子甲府間ニ四十三個ノ隧道ヲ穿チ人馬車牛ノ往來ヲ便ニセシカバ遂ニ此所ニモ波及シ一百間ノ隧道ヲ設クルヿトハナレリ起工明治十四年竣工翌十五年費金三萬九千一百六十一圓五十錢三重王子橋ト作道費金壱萬五千八百七十八圓六十錢合計金五萬九千三百二十圓四十八錢九重　王子石橋其ノ他ノ石杖ハ亀山城石ヲ以テ當テ橋ノ欄杆ハ京都ノ白川石ニテ造リ工人ハ白川村ノ内口德左衛門トス請負人柏原ノ田村源次郎コレガ爲ニ破産セリ　隧道神谷長一百間中央十四尺五寸道幅十五尺中隔十八尺　西面額字　遠通之利往來之便　東面ノ額字ハ松風洞

洞内空氣ノ流通松聲ニ彷彿タリ　内裡朝間ハ溫乎後ハ冷春秋ニ於テ然リ

藥師山ハ大平山國恩寺ノ舊地ニシテ藥師如來ヲ祭レリ坐像一尺七寸春日ノ作ト云フ今ハ稱名寺ニアリ此ノ寺檀越ニ十戸住職無シ

大字廣田　元高百六十二石　天保二百四十二石二斗　文久二百四十七石八斗八升二合

氏神　村山大明神字森ニアリ

神摺ノ宮一名祢天社　天滿宮大黒天　鉦紫太宰府ノ本社ヲ模作ス今ヤ亡シ

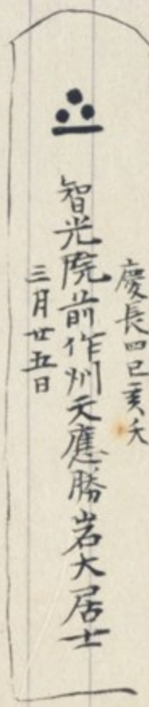
式外ノ小社傳記無シ口碑ニ由レハ神摺ニテ往昔村山神社參行ノ勅使此ノ祠前ヲ乘輿ニテ通行セ

京都府立総合資料館所蔵

シカバ神靈顯出シ給メテ勅使ノ衣袖ヲ掬リ取リタリト云々村山明神ノ母神トモ云フ然ランニハ伊勢冊尊ナラントモ云フ

拜天山安樂寺　淨土宗　當所大恩寺末　本尊地藏菩薩坐像六寸　都司王丸ノ守本尊ト云フ　都司王ハ郎ヶ津塩丸ノ丁余部ノ部ニ出ダス　高五石一斗舊領主松平家寄進　筑紫ニ天拜山安樂寺アリ而シテ此所ニ拜天山安樂寺アリ共ニ天滿宮ヲ祭ル何ノ由緒アリテ然ルヲ古話ノ傳フル所真平曰ハク渡邊美作守成周此ノ城ヲ築キ居守ス其ノ裔孫渡邊六郎賴方應永ノ頃西行シテ戰爭ニ從事シ此ノ本尊ヲ畧奪シテ歸リ天拜ヲ顛用シテ拜天トシテ寺歸ハ元ノ如ク安樂ト名ヅケタルナリトゾ本像柔和ニシテ生色アリ

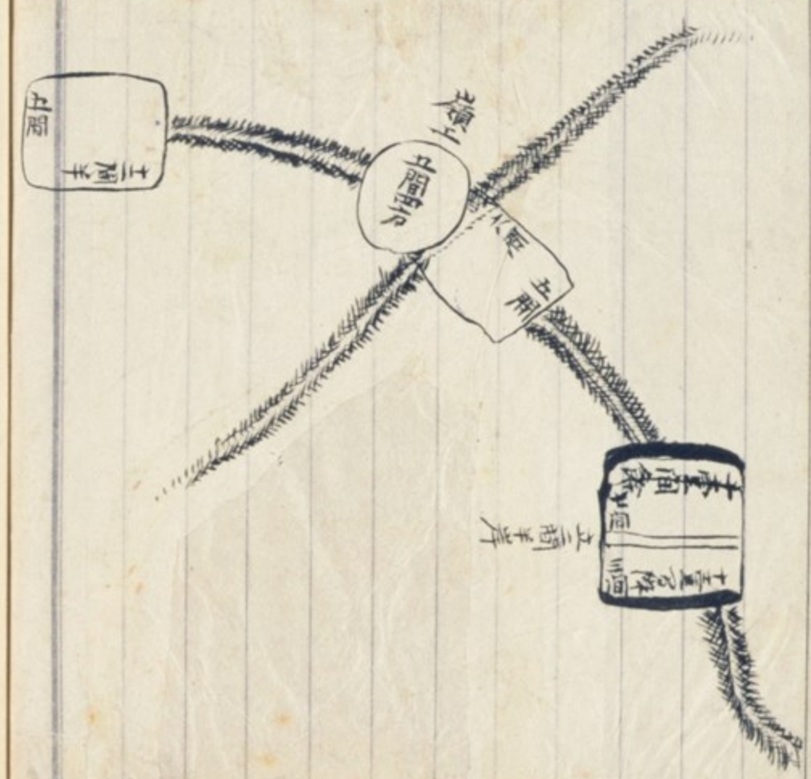
位牌



渡邊六郎墓　高二尺

京都府立総合資料館所蔵

渡邊谷



貴船山大恩寺　浄土宗　京都黒谷光明寺末　本尊阿彌陀如來立像二尺腸立觀音大師勢至菩薩

鎮守　稲荷　八幡社　開山源蓮社性譽洛山上人

松平伊賀守廟所ニ寶樹院殿天譽林屋榮樹大禪定尼ヲ祭リ　渡邊六郎ノ墓アリ　前ニ出ダセル位牌ハ渡邊美作守成道ノ戒名ヲ刻セルモノ八田十一ケ村ノ領主ナリシトゾ其ノ他古廟舊塗ヲカラズ

大字柏原　高四百八十六石四斗四升三合　天保度民家八十五戸　文久五百一石一斗七升九合

村ノ最西ニアリ一橋ヲ間テヽ亀岡アリ舊道ハ今ノ如ク直線ナリシヲ寛永年間領主菅沼左近大夫

京都府立総合資料館所蔵

定昭ノ意見ニテ屬曲セシメタリ开ハ秘密ヲ崇ブ
封建時代ノ風習ト軍略上防禦方策トゾ聞コエシ
番所アリテ往來ヲ檢視セリ松平伊賀守忠晴ハ柳
堤ヲ作レリ是亦軍畧上ノ經營ニ係カル柳馬場ノ
名残レリ

産土神ハ森ノ村山明神　鬼ケ芝ハ古刑場ト云フ

釋迦堂慈福寺　浄土宗　廣田大恩寺末　應時ハ
清龍山慈福寺トテ近鄉有數ノ名刹ナリシガ至德
年中火災ニ罹リ一朝烏有ス名像ノ釋迦佛ハ辛フ
シテ免レタリ僧浄頓明德年間再建奉安ス坐像長
二尺春日ノ作ト傳フ傳記ニ云フ此ノ像左手ニ蝮
蛇刺噛ノ残痕アリ佛慈具ノ苦楚ニ因リ衆生毒螫

ノ害ヲ免レレメントノ誓言アリ故ニ此ノ地ニ在
ルモノ蝮害ハ愚ナフ一切ノ蟲害無シトゾ之レニ
由リ其ノ餘德ニ與ラントテ舊曆二月十五日ノ賽
者ハ陸續道ニ溢レ供物ノ残餘ヲ受ケ之レヲ家ニ
置キ免害ノ符トス　鎮守八幡社アリ　葭池碑ア
リ次文ヲ見ヨ

井内太左衛門ハ道德家ナリ門閥家ナリ勤勉家ナ
リ村正トナリテ施爲人望ニ背カズ聲譽四隣ニ延
ビ來リテ難事ヲ托スルモノ常ニ絶エズ其ノ所爲
能ク弊ヲ救ヒ後ニ利アリ人心ヲ猷カシムルヲ以
テ贈與ヲ受クル斷カラズ一切卻ケテ取ラズ村民
救濟數フルニ遑アラズ其ノ最ナルモノヲ葭池工

京都府立総合資料館所蔵

事トス其ノ事由ハ旱害救濟ニアリ地ハ亀岡ニ屬シ水ハ篠村ヲ潤ス太左衛門實名宣豊碑文ニ詳ナリ

發池碑

柏原髙村地勢阨阸水潦不畜田多旱害村正井内宣豊好策救物相攸於茱萸谷請藩築池塘乃賜役夫萬數寛政壬子既載操稾秬甲寅春夫額盡而宣豊没子宣番以其欠一簣更與村民戮力以歳之終告厥成今茲戊寅孫宣篤請有司立碑需銘於漁銘曰

維民發志　維君賜力　池塘畜潦　永稼乃殖
黎庶安生　永足其食　餘澤所及　彼疆此域
片石勒名　不朽厥德

藩文學中鳩漁銘

文政元年戊寅九月

池塘既竣文政丁亥田村正邦受妻祖宣豊之遺囑糾衆增築數月告成髙若干尺於是水愈潴而田愈利氓德之因勒之石使後人勿廢墜云

孫　正影　勒

慶應丁卯

一家三世其ノ力ヲ池塘ニ竭シ民瘼ヲ濟フニ汲々ス亦得難イ哉

永井文右衛門

文八ノ子ナリ文八ニ至リ先業大ニ衰ヘ加フルニ水災ニ遇ヒ家道將傾倒セントス文右衛門兩親ノ憂慮ヲ看ルニ忍ビズ且慰メ且勤メ晝耕夜作シテ倦マズ傍人ノ休憩スル時間ニハ己ハ家ニ歸リ少時間タリトモ兩親ヲ侍養シテ懈

京都府立総合資料館所蔵

ラズ文八ノ背ニ癰ヲ発シ其ノ命窮マラントス孝子ノ悲嘆言フ可ラズ一心神佛ニ祈願シ外抱ニカヲ竭クシ米銭コレガ為ニ匱シ隣保ノ之ヲ助クルモノ日一日ヨリ多ク幸ニ生計ヲ持續シ又村醫田村某ノ施薬ヲ受ケ日ヲ経テ治癒ス孝子ノ喜何ヲ以テ譬フベキ嗜ム所ノ烟草ヲモ廃シ身ヲ倹ニスレドモ負債ノ償フ能ハザルヲ以テ勤苦勞動益〻勵ム父亦好ム所ノ飲酒ヲ廃シテヨリ顔色憔悴スルヨリ父ノ言ヲ容レ共ニ馬皆ヲ作リ酒銭ヲ得ンヿヲ謀ル暮夜父疲レテ臥ス孝子ハ夜深クル迄作業シ得タル銭ヲ父ノ嚢底ニ入レ買酒ヲ容易ナラシメ曰ハク是レハ生計外ノ餘裕ナレバ用ヒテ吾ム勿レト作業間相語ラフ左ナガラ朋友ノ如シ田野ニ共稼シテ帰レバ父ノ鞋ヲ解キ其ノ足ヲ洗ヒ餘湯ニテ自ラ洗ヒ衣服ニ飲食ニ養志ニ怠ラナシ餘光隣邑ニ及ブ邑長コレヲ上申シ領主ニ達ス大守之ヲ賞シ米五俵ヲ與ヘ儒臣中嶋漁ヲシテ其ノ傳ヲ作ラシメ之ヲ四方ニ傳播セシム其ノ褒状ニ曰ハク

柏原村百姓　文右衛門

其方儀常々両親ヘ致孝行其身貧窶ニシテ他人の為ニも賀義を致しム孰村役人共より申出ル付別達

御褒ノ慶事奇特ニ候旦倉ル仍之為御褒美米五

京都府立総合資料館所蔵

浄法寺

[illegible]
孝婦 [illegible]
時ニ年三十六
滑薑（タケ） 近頃ノ産物
大字 浄法寺 元高二百二十三石 天保三百十一石一斗八升 文久三百十四石七斗九升四合
氏神 村山大明神 字森ニアリ
観喜山浄法寺 浄土宗 京都伏見街道浄雲寺末
本尊阿弥陀佛 坐像三尺 境内栗嶋大明神社
子生山妙樂寺 禪宗 亀岡宗堅寺隠居地 観音
堂本尊坐像二尺五寸

旭塚 由緒不詳 亀岡町聖隣庵所管 土中ヨリ
武器出ツ
野々宮神社 由緒不詳

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵